

こどもの居場所及びその開設等の支援 に関する調査研究

令和 7 年 3 月

熊本市
一般財団法人 地方自治研究機構

こどもの居場所及びその開設等の支援 に関する調査研究

令和 7 年 3 月

熊本市
一般財団法人 地方自治研究機構

はじめに

昨今のわが国の地方行政を取り巻く環境は、少子化に伴う本格的な人口減少・高齢化の進行、社会全体のデジタル化の急速な進展、各種災害の激甚化、働き方やライフスタイルの多様化、インバウンドの急増、脱炭素化やSDGs等の地球規模の潮流など、これまでとは大きく異なる変化が見られます。

こうした中で、地方公共団体は、自治体DXの推進、人材の確保・育成、経営マネジメントの強化等を図りつつ、住民ニーズを的確に捉え、地域の特性を活かしながら、住民福祉の向上、地域産業の振興、まちづくりの推進、防災対策の強化、自然環境の保全、共生社会の実現等に関する諸課題に、自らの判断と責任において取り組んでいくことが求められています。

このため、当機構では、地方公共団体が直面している諸課題を多角的・総合的に解決するため、個々の団体が抱える課題を取り上げ、当該団体と共同して、全国的な視点と地域の実情に即した視点の双方から問題を分析し、その解決方策の研究を実施しています。

本年度は6つのテーマを具体的に設定しており、本報告書は、そのうちの一つの成果を取りまとめたものです。

こどもを取り巻く社会環境が大きく変化する中で、安心して過ごすことができる居場所の存在は、こどもたちが健やかに成長する上で重要な要素とされています。そこで、国や地方公共団体では、こどもたちが家や学校以外の第三の居場所を持つことができるよう、こどもの居場所づくりを目的とした各種取組が進められています。

本調査研究では、熊本市におけるこどもの居場所の現状を把握するため、市内のこどもたちや保護者にアンケート調査を実施したほか、市内のこどもの居場所づくりに関わる方々にヒアリング調査を実施しました。また、熊本市の今後の取組の参考に資するべく、こどもの居場所に関する優れた取組を実施している団体に対してヒアリング調査を実施し、それらの調査結果を踏まえ、今後の熊本市におけるこどもの居場所づくりに向けた方向性を検討しました。

本調査研究の企画及び実施に当たりましては、調査研究委員会の委員長及び委員を始め、関係者の皆様から多くの御指導と御協力をいただきました。

また、本調査研究は、公益財団法人 地域社会振興財団の助成金を受けて、熊本市と当機構とが共同で行ったものであり、ここに謝意を表する次第です。

本報告書が広く地方公共団体の施策展開の一助となれば大変幸いです。

令和7年3月

一般財団法人 地方自治研究機構

理事長 三輪 和夫

目次

序章 調査研究の概要	3
1 調査研究の背景と目的	3
2 調査研究の流れと全体像	4
3 調査研究体制	6
第1章 こども及び保護者アンケート調査結果	9
1 調査概要	9
2 こども向けアンケート調査結果	12
3 保護者向けアンケート調査結果	72
第2章 施設等運営者ヒアリング調査結果	117
1 調査概要	117
2 書面ヒアリングの調査結果	119
3 対面ヒアリングの調査結果	139
第3章 先進事例ヒアリング調査結果	175
1 調査概要	175
2 ヒアリング調査結果	176
3 その他の先進事例について	205
第4章 調査結果のまとめと今後の方向性	215
1 調査結果のまとめ（こども及び保護者）	215
2 調査結果のまとめ（施設等運営者）	224
3 熊本市における「こどもの居場所」のあるべき姿	228
4 調査研究委員会における委員の意見	230
5 現状の課題に対応する方向性	232
調査研究委員会名簿	239
参考1 こども及び保護者アンケート調査票	243
1 こども向けアンケート	243
2 保護者向けアンケート	255
参考2 施設等運営者ヒアリング調査票	263
1 施設等の概況	263
2 施設等運営者が抱える課題について	269
参考3 小中学生の声～市長とドンドン語ろう！（9/28）実施～	273
1 実施概要	273
2 参加したこどもの声	273

序章 調査研究の概要

序章 調査研究の概要

1 調査研究の背景と目的

こどもは、家庭や地域・学校など様々な人間関係の中で学び、成長する存在であるが、少子化や地域のつながりの希薄化に伴い、こどもたちだけでなく大人とのかかわりなど、他者に関わる機会が減少しつつある。

こどもをめぐる社会環境が変化するなかで、常に、こどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を社会の中心に据える「こどもまんなか社会」の実現に向けて、令和5年（2023年）4月にこども家庭庁が設立され、「こどもが安心して過ごすことができる場の整備に関する事務を所掌し、政府の取組を中心的に担う」（こども政策の新たな推進体制に関する基本方針）こととされた。

上記の基本方針を基に、こども家庭庁は令和5年（2023年）12月に、「こどもの居場所づくりに関する指針」を出し、こどもの居場所について「場や対象を居場所と感ずるかどうかは、こども・若者本人が決めること」であることを踏まえ、市町村に対して、「管内の状況把握等を行いつつ、関係者と連携して質と量の両面からこどもの居場所づくりを計画的に推進する」ことを求めている。また、令和5年（2023年）4月施行のこども基本法第10条第2項で、市町村は市町村こども計画を策定することが求められており、同計画にこどもの居場所づくりも位置付け、計画的に推進することとなっている。

熊本市では、これまで「子ども輝き未来プラン」を策定し、こども食堂等への支援を中心とした居場所づくりを行い、市内のこども食堂の数は、市で把握できているだけでも78団体・81か所（令和6年（2024年）12月現在）にその取組の輪が広がっている。

一方で、こどもの居場所は多様であることから、こどもやその保護者、こどもの居場所となっている施設等運営者の現状の把握や課題の分析について、広く検討することが困難な状況であった。

令和6年（2024年）3月に策定した「熊本市第8次総合計画」で、こどもの孤立化を防止するため、地域や関係機関と連携し、こどもの居場所づくりに取り組むこととしているほか、「子ども輝き未来プラン」等を統合・再編し、市町村こども計画である「（仮称）熊本市こども計画」の策定に向けて、こどもの居場所に関する施策の推進のために必要な現状分析等が喫緊の課題となっている。

本調査研究では、そうした背景の下、熊本市におけるこどもの居場所の現状を、こども及び保護者に対するアンケート、また施設等運営者へのヒアリングの双方から把握し、課題を分析するとともに、先進的な取り組みを行っている事例を収集することで、熊本市における新計画の策定に資するこどもの居場所の在り方の方向性を提示することを目的とする。

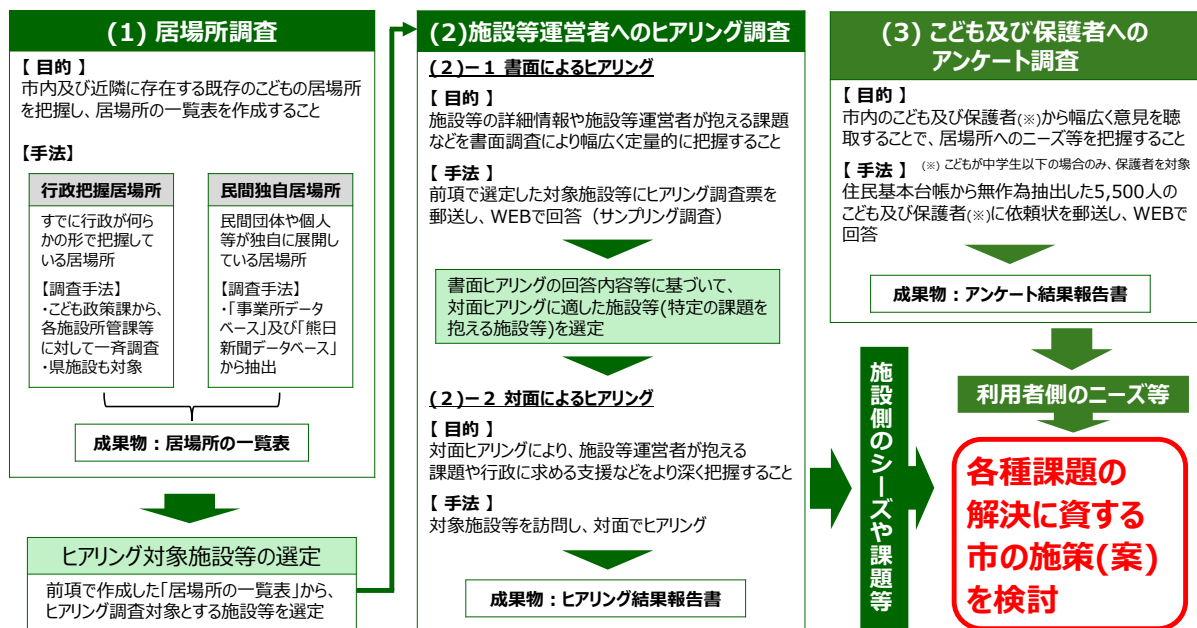
2 調査研究の流れと全体像

調査研究の流れと全体像を、図表 序－2－1 及び図表 序－2－2 に示す。

図表 序－2－1 調査研究の流れと全体像

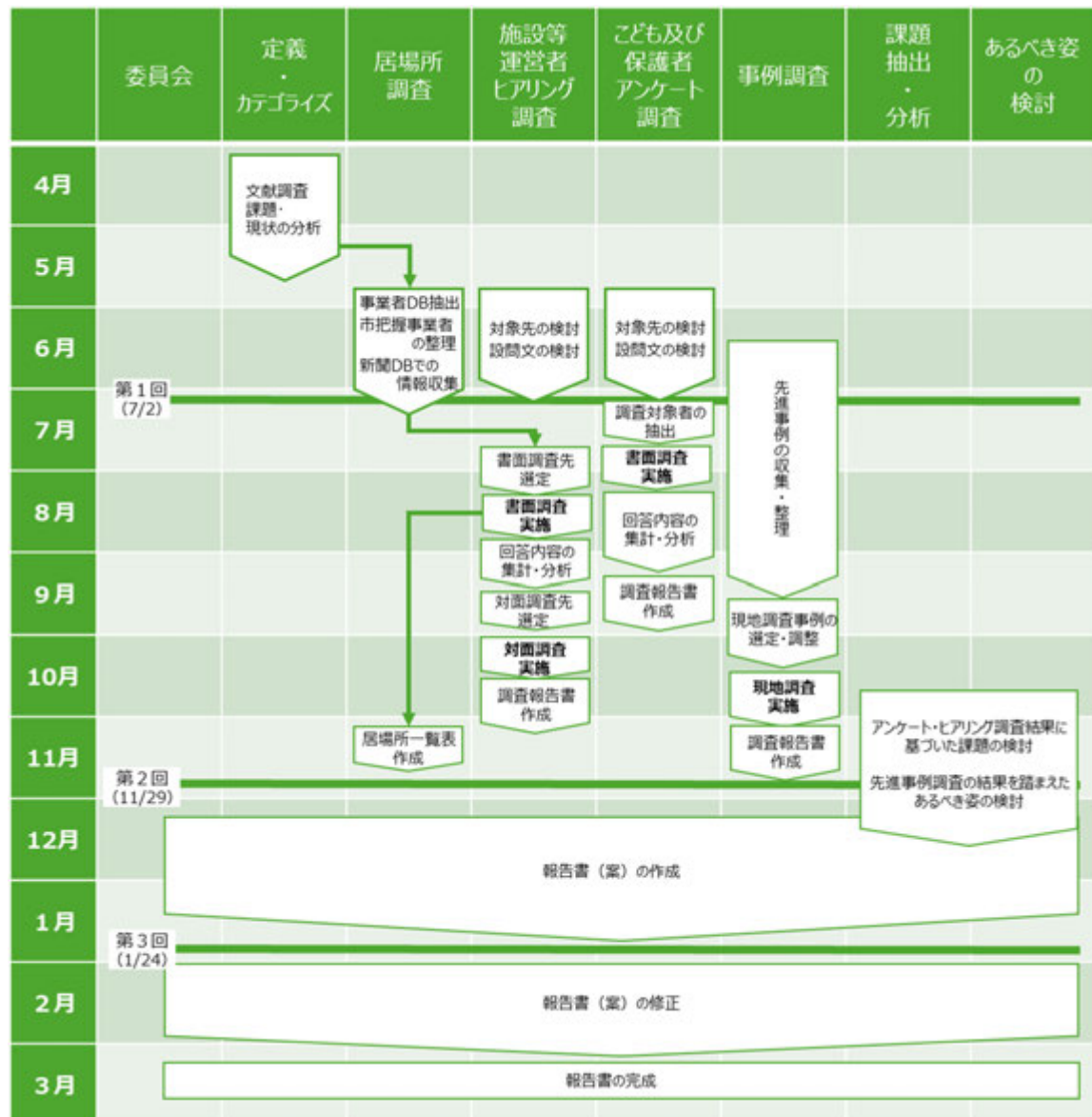


図表 序－2－2 調査の詳細



調査研究全体のスケジュールを、図表 序－２－３に示す。

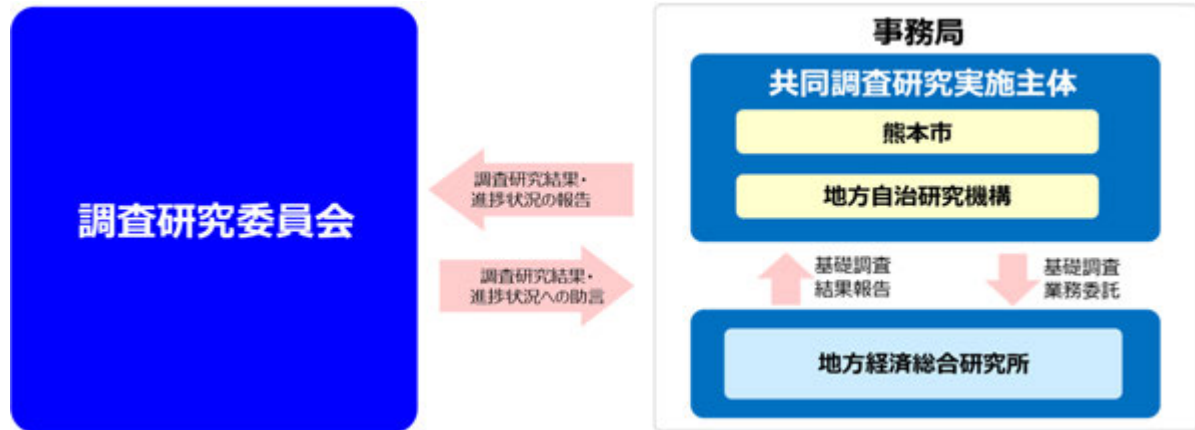
図表 序－２－３ 調査研究全体のスケジュール



3 調査研究体制

本調査研究は、熊本市及び一般財団法人地方自治研究機構を実施主体として、調査研究委員会の助言の下、基礎調査機関として公益財団法人地方経済総合研究所の協力を得て実施した。

図表 序－３－１ 調査研究の実施体制



なお、以下の日程で調査研究委員会を開催した。

[第1回委員会]

日時：令和6年（2024年）7月2日（火）

場所：熊本市役所

内容：調査研究の背景説明及び調査研究企画書（案）の審議

[第2回委員会]

日時：令和6年（2024年）11月29日（金）

場所：熊本市役所及びウェブ会議システム（Zoom）

内容：調査研究結果の報告及び報告内容に関する審議

[第3回委員会]

日時：令和7年（2025年）1月24日（金）

場所：熊本市役所及びウェブ会議システム（Zoom）

内容：調査研究報告書（案）の審議

第 1 章 こども及び保護者アンケート調査結果

第1章 こども及び保護者アンケート調査結果

1 調査概要

(1) こども向けアンケート調査概要

ア 調査の目的

熊本市内のこどもから幅広く意見を聴取することで、こどもの居場所に対するニーズや利用状況等を把握し、熊本市におけるこどもの居場所に関する政策等を検討する際の参考情報とすることを目的とする。

イ 調査対象者

熊本市の住民基本台帳に、令和6年（2024年）7月9日時点で記載された、小学生から29歳までの男女から、年代及び居住区による層化二段抽出により、無作為抽出した5,500人を対象とした。

図表 1-1-1 調査対象者及びその抽出方法

年齢区分	令和6年4月 人口		年齢区分別 人口比	抽出数 (人)	区別 抽出数 (人)
	計 (人)	区別人口 (人)			
小1～3	20,107	中央	4,124	20.5%	226
		東	5,707	28.4%	312
		西	2,237	11.1%	122
		南	4,344	21.6%	238
		北	3,695	18.4%	202
小4～6	20,826	中央	4,343	20.9%	230
		東	6,022	28.9%	318
		西	2,240	10.8%	118
		南	4,359	20.9%	230
		北	3,862	18.5%	204
中学生	21,276	中央	4,433	20.8%	229
		東	6,017	28.3%	311
		西	2,299	10.8%	119
		南	4,488	21.1%	232
		北	4,039	19.0%	209
15歳～18歳	21,237	中央	4,562	21.5%	236
		東	5,938	28.0%	308
		西	2,380	11.2%	123
		南	4,191	19.7%	217
		北	4,166	19.6%	216
19歳～	81,015	中央	23,045	28.4%	313
		東	20,254	25.0%	275
		西	9,367	11.6%	127
		南	13,562	16.7%	184
		北	14,787	18.3%	201
合計	164,461				5,500
				5,500	5,500

ウ 調査方法

依頼状を郵送し、ウェブフォームにより回答

エ 調査日程

令和6年（2024年）7月29日（月）から8月9日（金）まで

オ 有効回収件数

1,250件（回収率 22.7%）

（2）保護者向けアンケート調査概要

ア 調査の目的

熊本市内の中学生以下の子どもを有する保護者から幅広く意見を聴取することで、保護者が考えるこどもの居場所の在り方や保護者からみたこどもの実態等を把握し、熊本市におけるこどもの居場所に関する政策等を検討する際の参考情報とすることを目的とする。

イ 調査対象者

熊本市の住民基本台帳に、令和6年（2024年）7月9日時点で記載された、小学生と中学生の男女から、年代及び居住区による層化二段抽出により3,300人を無作為抽出し、その保護者を対象とした。

図表 1-1-2 調査対象者及びその抽出方法

年齢区分	令和6年4月 人口		年齢区分別 人口比	抽出数 (人)	区別 抽出数 (人)
	計 (人)	区別人口 (人)			
小1～3	20,107	中央	4,124	20.5%	226
		東	5,707	28.4%	312
		西	2,237	11.1%	122
		南	4,344	21.6%	238
		北	3,695	18.4%	202
小4～6	20,826	中央	4,343	20.9%	230
		東	6,022	28.9%	318
		西	2,240	10.8%	118
		南	4,359	20.9%	230
		北	3,862	18.5%	204
中学生	21,276	中央	4,433	20.8%	229
		東	6,017	28.3%	311
		西	2,299	10.8%	119
		南	4,488	21.1%	232
		北	4,039	19.0%	209
合計	62,209				3,300

ウ 調査方法

依頼状を郵送し、ウェブフォームにより回答

エ 調査日程

令和6年（2024年）7月29日（月）から8月9日（金）まで

オ 有効回収件数

910 件（回収率 27.6%）

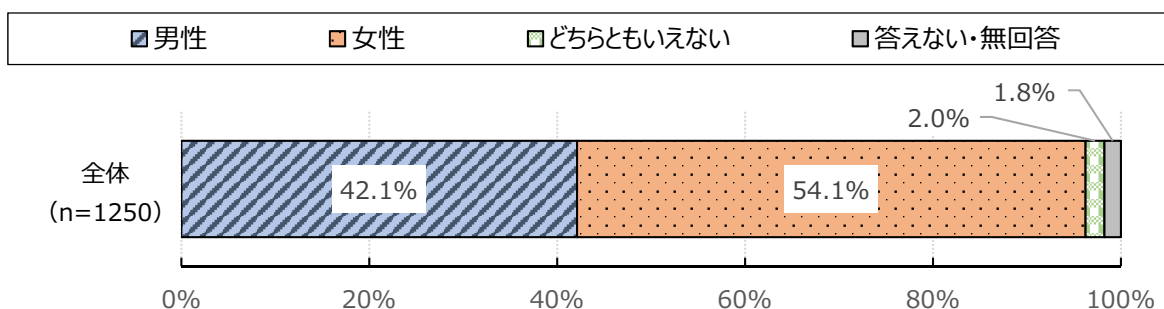
2 こども向けアンケート調査結果

(1) 回答者の属性

ア 性別

回答者の性別は、「男性」が 42.1%、「女性」が 54.1%、「どちらともいえない」が 2.0%であった。

図表 1-2-1 性別

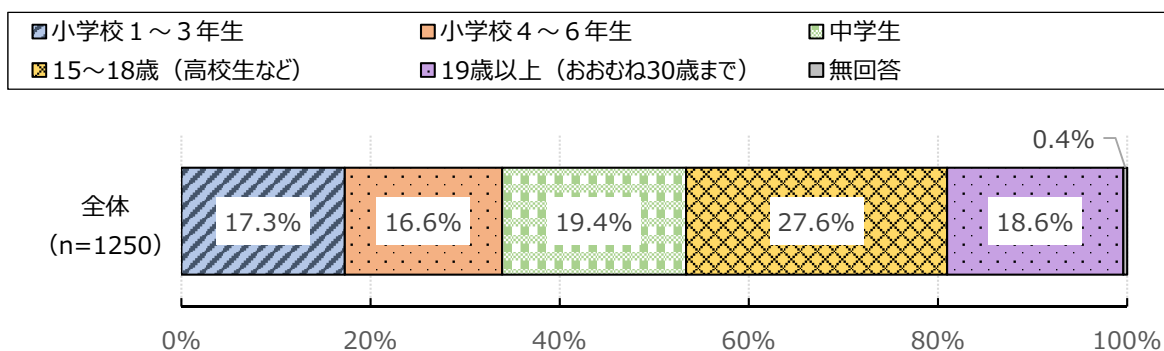


	男性	女性	どちらともいえない	答えない・無回答	計
回答数	526	676	25	23	1,250
割合	42.1%	54.1%	2.0%	1.8%	100.0%

イ 年齢

回答者の年齢は、「小学校 1～3 年生」が 17.3%、「小学校 4～6 年生」が 16.6%、「中学生」が 19.4%、「15～18 歳（高校生など）」が 27.6%、「19 歳以上（おおむね 30 歳まで）」が 18.6%であった。

図表 1-2-2 年齢

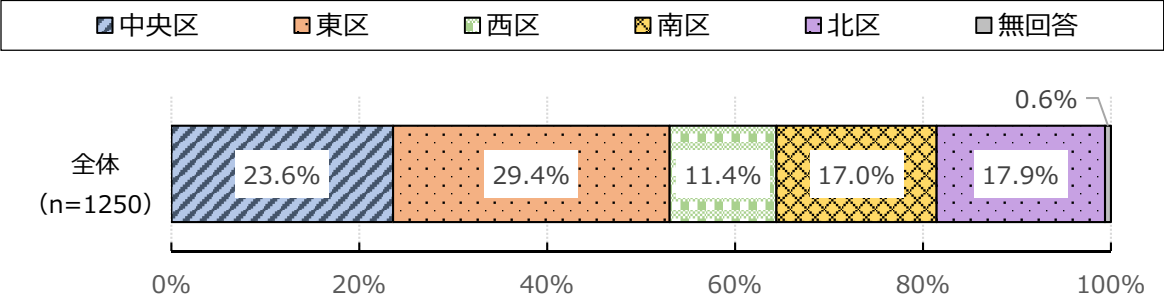


	小学校 1～3 年生	小学校 4～6 年生	中学生	15～18 歳（高校生など）	19 歳以上（おおむね 30 歳まで）	無回答	計
回答数	216	208	243	345	233	5	1,250
割合	17.3%	16.6%	19.4%	27.6%	18.6%	0.4%	100.0%

ウ 居住区

回答者の居住区は、「中央区」が 23.6%、「東区」が 29.4%、「西区」が 11.4%、「南区」が 17.0%、「北区」が 17.9%であった。

図表 1－2－3 居住区



	中央区	東区	西区	南区	北区	無回答	計
回答数	295	368	142	213	224	8	1,250
割合	23.6%	29.4%	11.4%	17.0%	17.9%	0.6%	100.0%

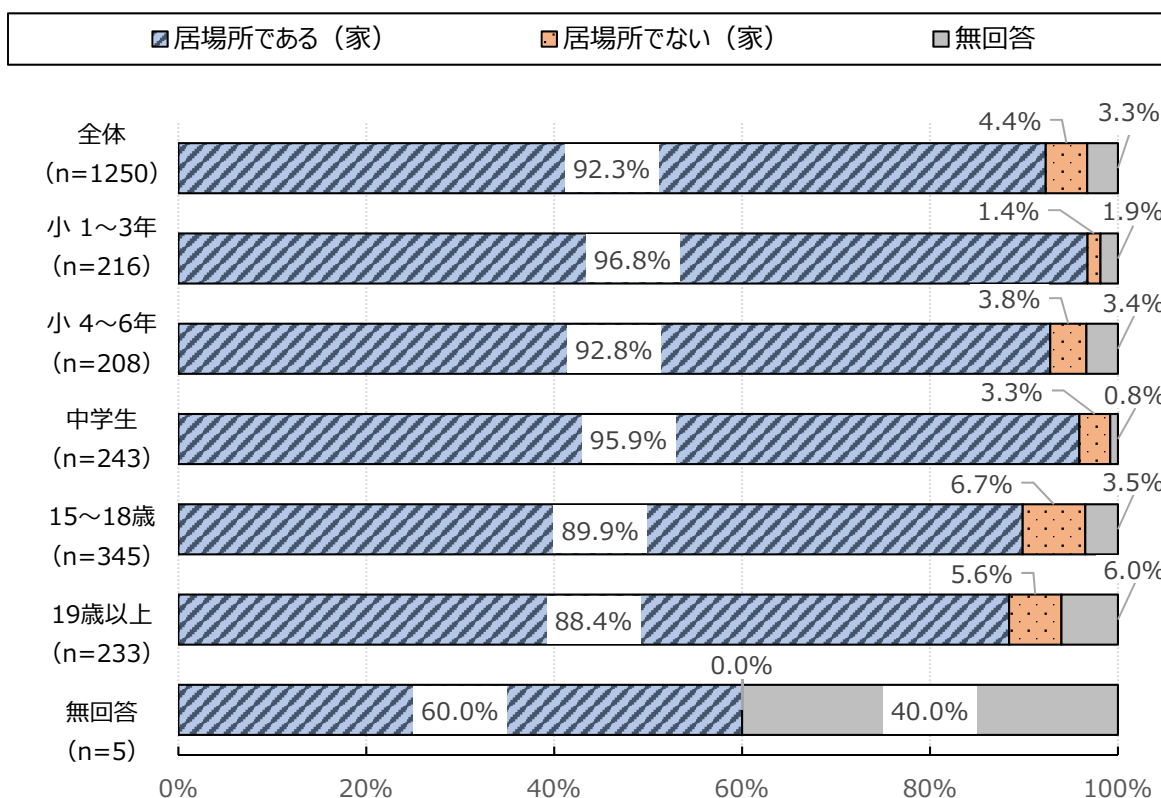
(2) 家・学校・職場について

ア 家が居場所か（単一回答）

普段寝起きをしている家が、回答者にとっての居場所であるか否かを尋ねたところ、全体で92.3%が「居場所である」と回答した。

年齢別でみると、家が「居場所である」と回答した割合は、「小学校1～3年生」が96.8%と最も高く、「19歳以上」が88.4%と最も低い結果となった。

図表 1-2-4 家が居場所か〔年齢別〕

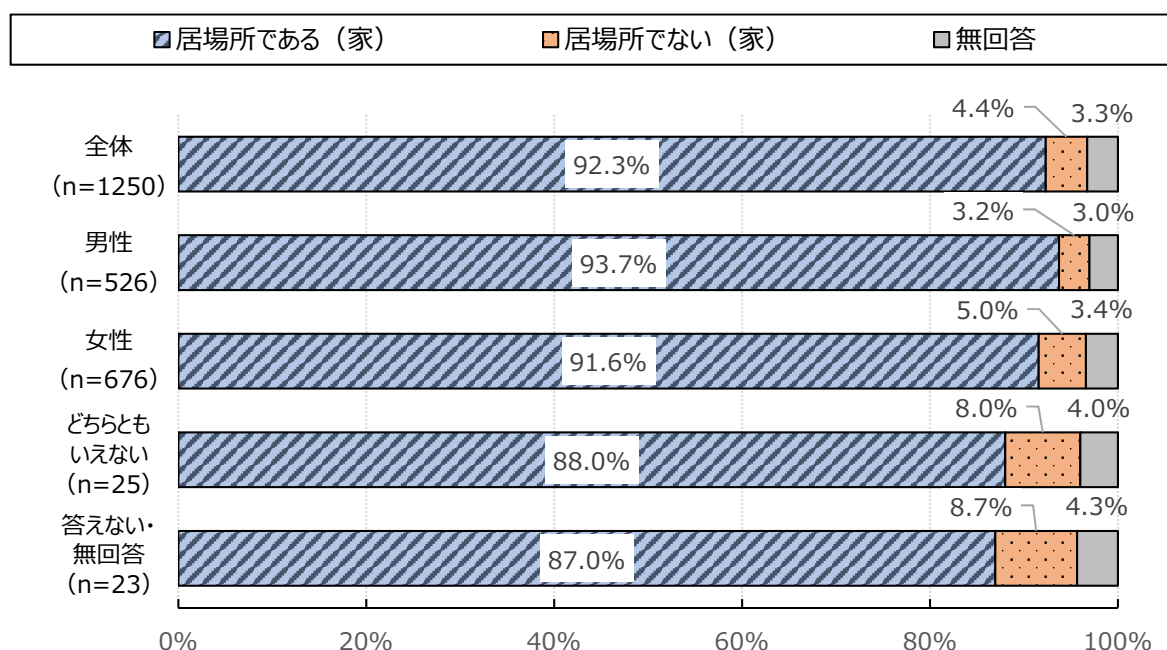


	居場所である	居場所でない	無回答	計
小学校1～3年生	209 96.8%	3 1.4%	4 1.9%	216 100.0%
小学校4～6年生	193 92.8%	8 3.8%	7 3.4%	208 100.0%
中学生	233 95.9%	8 3.3%	2 0.8%	243 100.0%
15～18歳 (高校生など)	310 89.9%	23 6.7%	12 3.5%	345 100.0%
19歳以上 (おおむね30歳まで)	206 88.4%	13 5.6%	14 6.0%	233 100.0%
無回答 ^(※)	3 60.0%	0 0.0%	2 40.0%	5 100.0%
全体	1,154 92.3%	55 4.4%	41 3.3%	1,250 100.0%

(※)「無回答」は参考値

性別でみると、家が「居場所である」と回答した割合は、「男性」が 93.7%、「女性」が 91.6%、「どちらともいえない」が 88.0%であった。

図表 1－2－5 家が居場所か〔性別〕



	居場所である	居場所でない	無回答	計
男性	493 93.7%	17 3.2%	16 3.0%	526 100.0%
女性	619 91.6%	34 5.0%	23 3.4%	676 100.0%
どちらともいえない※)	22 88.0%	2 8.0%	1 4.0%	25 100.0%
答えない・無回答 ※)	20 87.0%	2 8.7%	1 4.3%	23 100.0%
全体	1,154 92.3%	55 4.4%	41 3.3%	1,250 100.0%

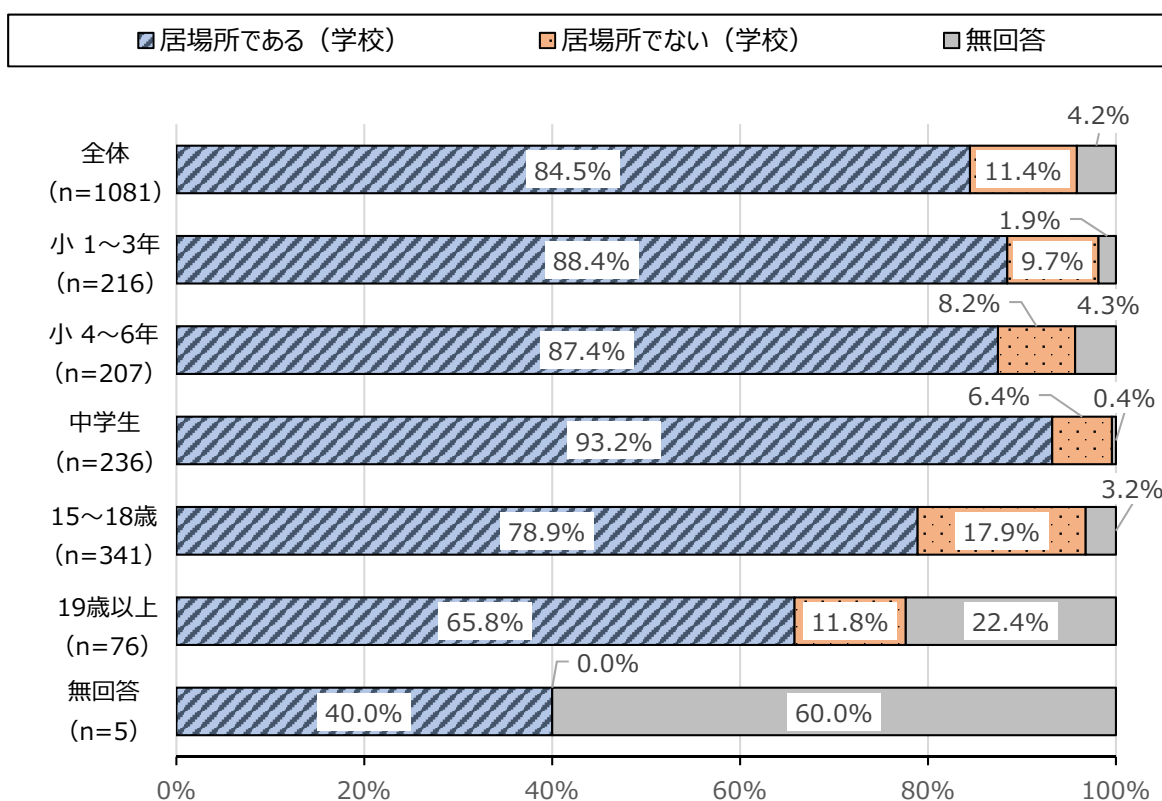
※) 「どちらともいえない」「答えない・無回答」は参考値

イ 学校が居場所か（単一回答）

現在、学校に通っている回答者に対して、学校が居場所であるか否かを尋ねたところ、全体で84.5%が「居場所である」と回答した。

年齢別でみると、学校が「居場所である」と回答した割合は、「中学生」が93.2%と最も高く、「19歳以上」が65.8%と最も低い結果となった。

図表 1-2-6 学校が居場所か〔年齢別〕

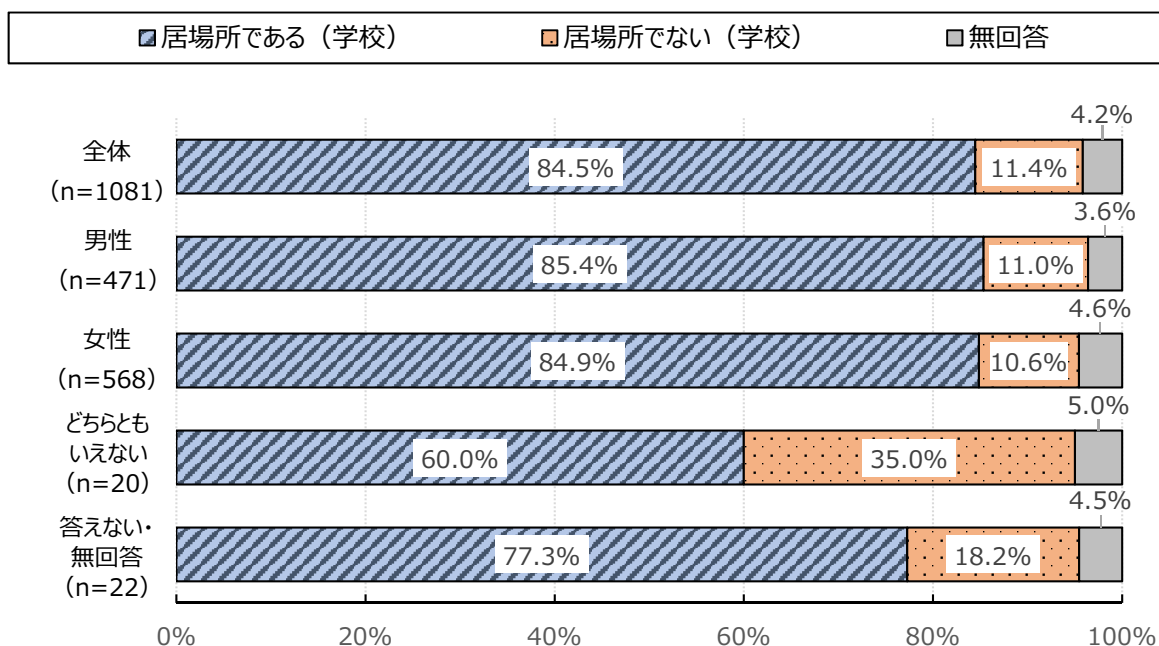


	居場所である	居場所でない	無回答	計
小学校 1 ～ 3 年生	191 88.4%	21 9.7%	4 1.9%	216 100.0%
小学校 4 ～ 6 年生	181 87.4%	17 8.2%	9 4.3%	207 100.0%
中学生	220 93.2%	15 6.4%	1 0.4%	236 100.0%
15～18 歳 （高校生など）	269 78.9%	61 17.9%	11 3.2%	341 100.0%
19 歳 以上 （おおむね 30 歳まで）	50 65.8%	9 11.8%	17 22.4%	76 100.0%
無回答（※）	2 40.0%	0 0.0%	3 60.0%	5 100.0%
全体	913 84.5%	123 11.4%	45 4.2%	1,081 100.0%

（※）「無回答」は参考値

性別でみると、学校が「居場所である」と回答した割合は、「男性」が85.4%、「女性」が84.9%であった。

図表 1－2－7 学校が居場所か〔性別〕



	居場所である	居場所でない	無回答	計
男性	402 85.4%	52 11.0%	17 3.6%	471 100.0%
女性	482 84.9%	60 10.6%	26 4.6%	568 100.0%
どちらともいえない ^(※)	12 60.0%	7 35.0%	1 5.0%	20 100.0%
答えない・無回答 ^(※)	17 77.3%	4 18.2%	1 4.5%	22 100.0%
全体	913 84.5%	123 11.4%	45 4.2%	1,081 100.0%

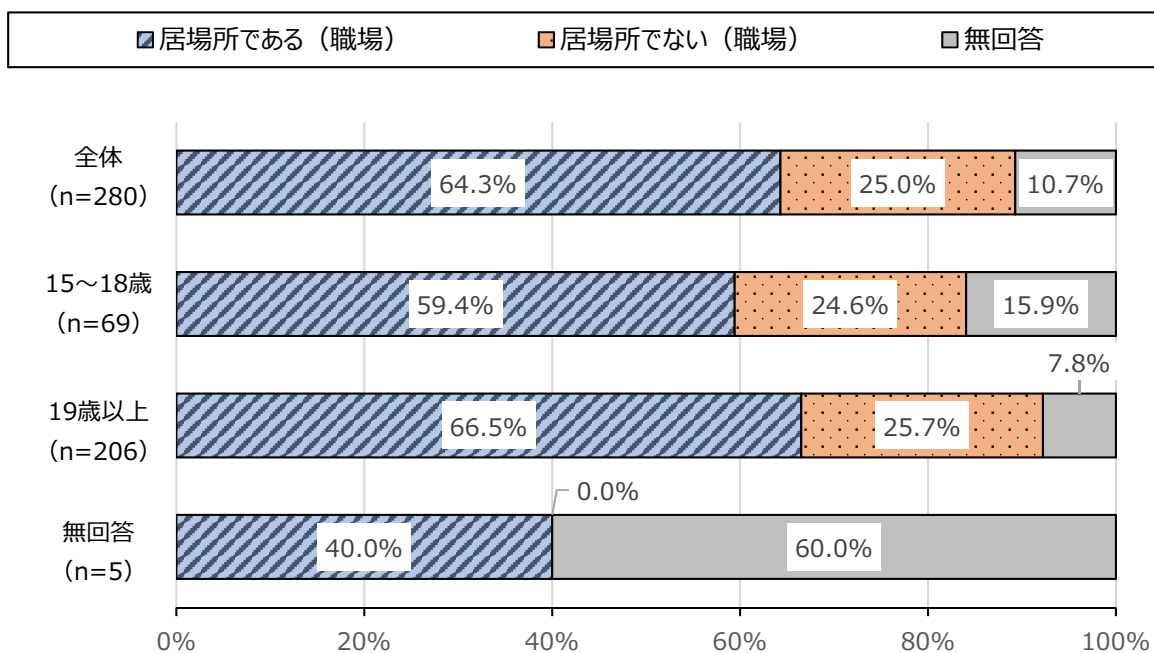
(※) 「どちらともいえない」「答えない・無回答」は参考値

ウ 職場が居場所か（単一回答）

現在、働いている回答者に対して、職場が居場所であるか否かを尋ねたところ、全体で 64.3% が「居場所である」と回答した。

年齢別でみると、職場が「居場所である」と回答した割合は、「15～18 歳」が 59.4%、「19 歳以上」が 66.5%であった。

図表 1－2－8 職場が居場所か〔年齢別〕

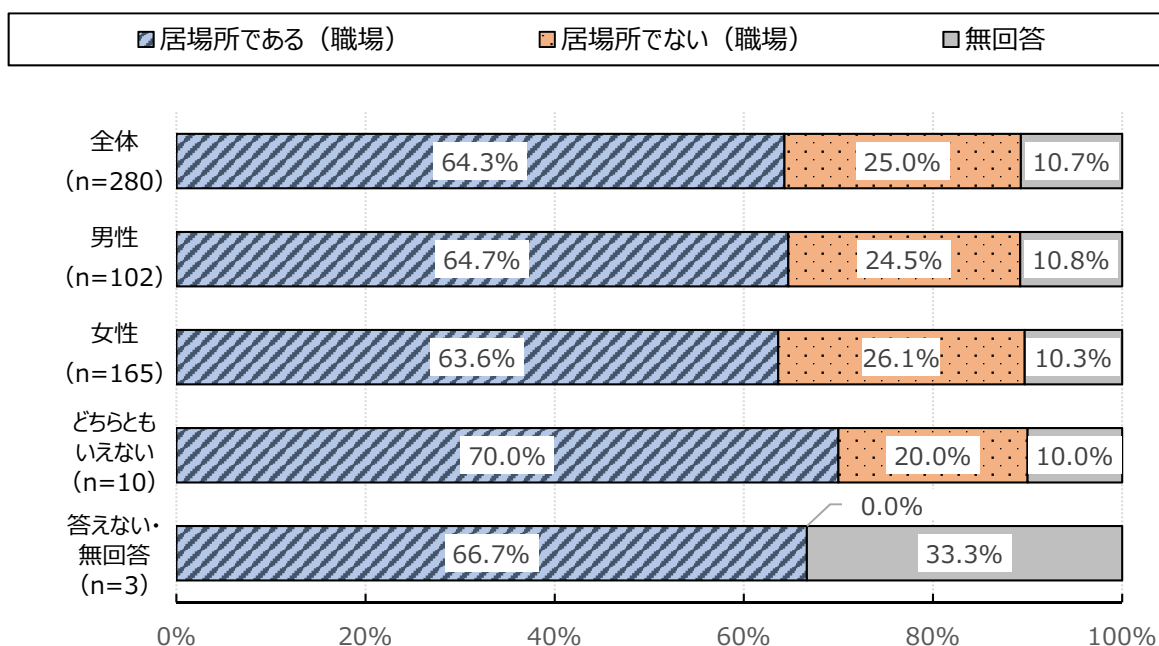


	居場所である	居場所でない	無回答	計
15～18 歳 （高校生など）	41 59.4%	17 24.6%	11 15.9%	69 100.0%
19 歳以上 （おおむね 30 歳まで）	137 66.5%	53 25.7%	16 7.8%	206 100.0%
無回答（※）	2 40.0%	0 0.0%	3 60.0%	5 100.0%
全体	180 64.3%	70 25.0%	30 10.7%	280 100.0%

（※）「無回答」は参考値

性別でみると、職場が「居場所である」と回答した割合は、「男性」が 64.7%、「女性」が 63.6%であった。

図表 1－2－9 職場が居場所か〔性別〕



	居場所である	居場所でない	無回答	計
男性	66 64.7%	25 24.5%	11 10.8%	102 100.0%
女性	105 63.6%	43 26.1%	17 10.3%	165 100.0%
どちらともいえない※)	7 70.0%	2 20.0%	1 10.0%	10 100.0%
答えない・無回答※)	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%
全体	180 64.3%	70 25.0%	30 10.7%	280 100.0%

※)「どちらともいえない」「答えない・無回答」は参考値

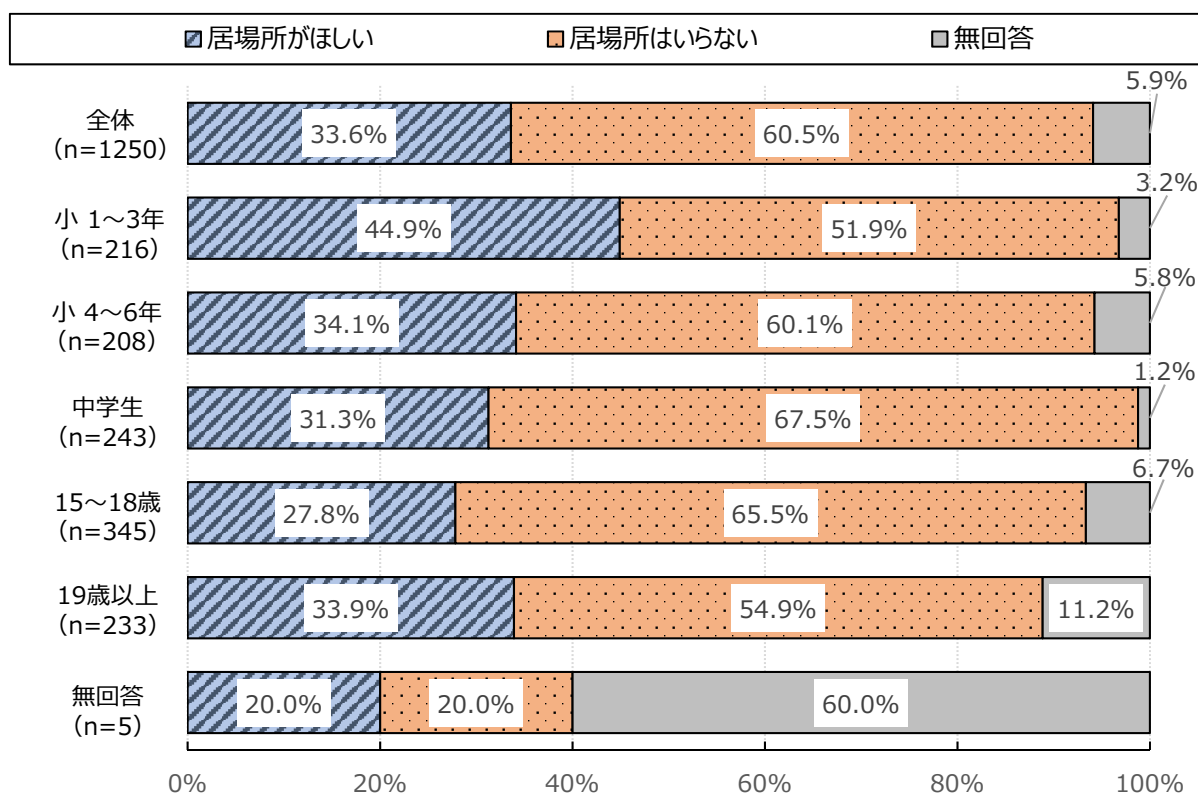
(3) 家・学校・職場以外の居場所について

ア 家・学校・職場以外の居場所に対するニーズ（単一回答）

家・学校・職場以外に居場所がほしいかを尋ねたところ、全体で 33.6%が「居場所がほしい」、60.5%が「居場所はいらない」と回答した。

年齢別でみると、家・学校・職場以外に「居場所がほしい」と回答した割合は、「小学校 1～3 年生」が 44.9%と最多、次いで「小学校 4～6 年生」が 34.1%、「19 歳以上」が 33.9%となった。

図表 1-2-10 家・学校・職場以外の居場所に対するニーズ [年齢別]

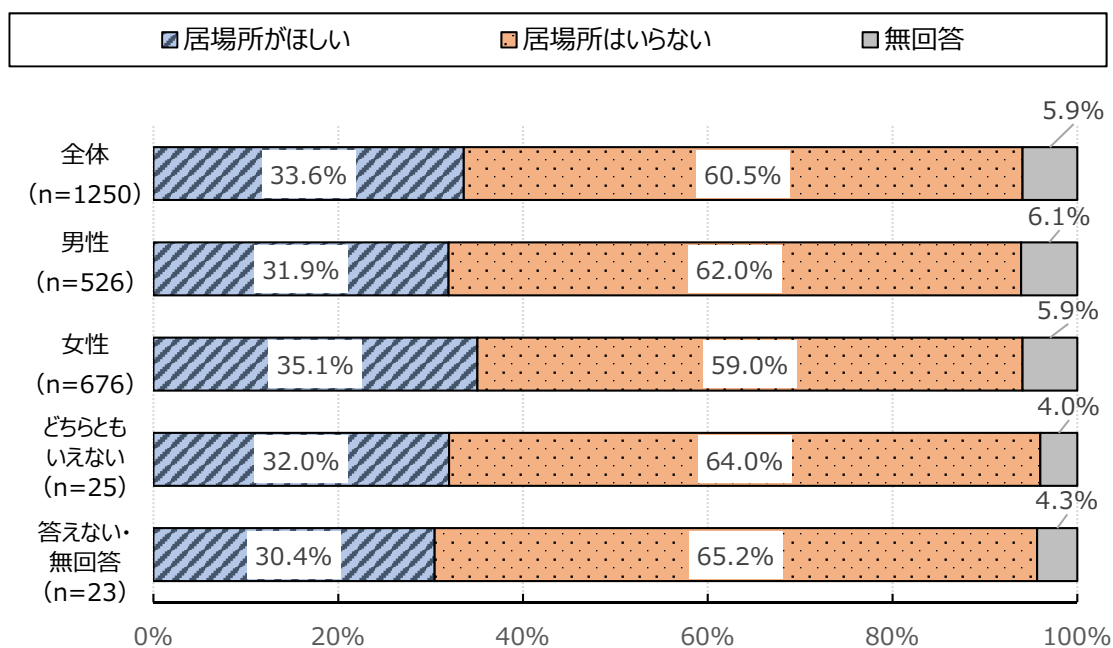


	居場所がほしい	居場所はいらない	無回答	計
小学校 1～3 年生	97 44.9%	112 51.9%	7 3.2%	216 100.0%
小学校 4～6 年生	71 34.1%	125 60.1%	12 5.8%	208 100.0%
中学生	76 31.3%	164 67.5%	3 1.2%	243 100.0%
15～18 歳 (高校生など)	96 27.8%	226 65.5%	23 6.7%	345 100.0%
19 歳以上 (おおむね 30 歳まで)	79 33.9%	128 54.9%	26 11.2%	233 100.0%
無回答 (※)	1 20.0%	1 20.0%	3 60.0%	5 100.0%
全体	420 33.6%	756 60.5%	74 5.9%	1,250 100.0%

(※)「無回答」は参考値

性別でみると、家・学校・職場以外に「居場所がほしい」と回答した割合は、「男性」が 31.9%、「女性」が 35.1%、「どちらともいえない」が 32.0%であった。

図表 1-2-11 家・学校・職場以外の居場所に対するニーズ〔性別〕

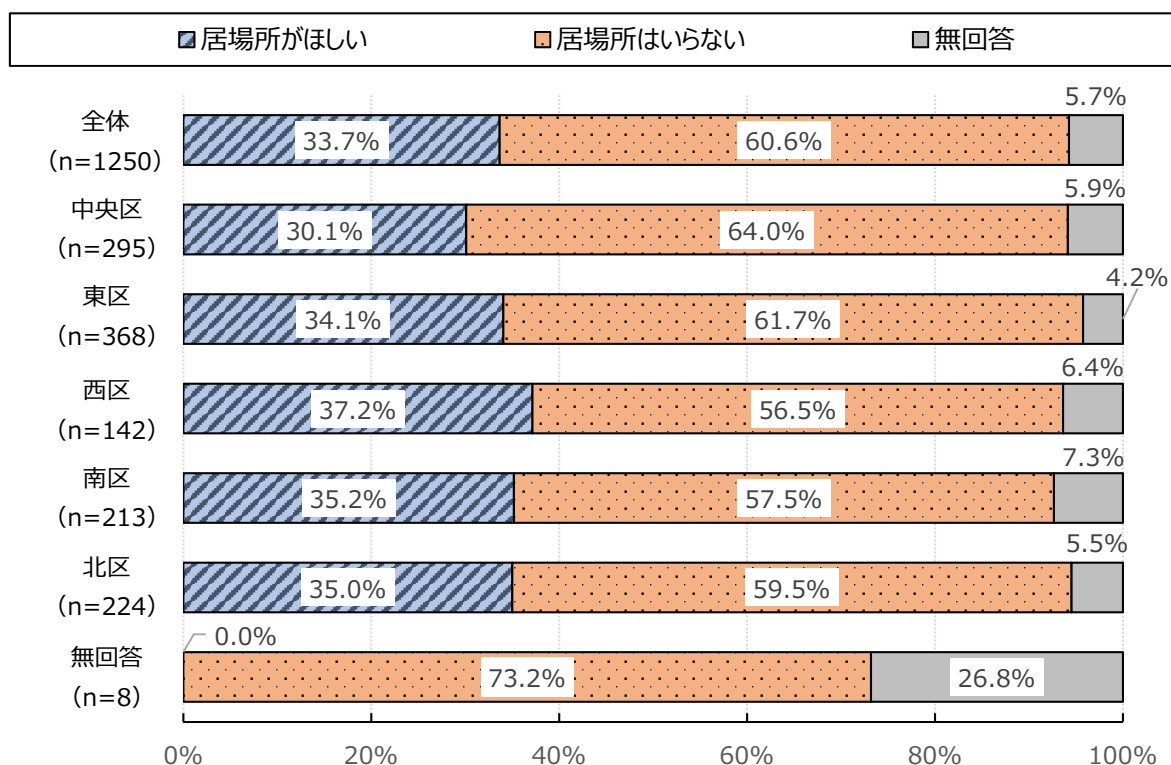


	居場所がほしい	居場所はいらない	無回答	計
男性	168 31.9%	326 62.0%	32 6.1%	526 100.0%
女性	237 35.1%	399 59.0%	40 5.9%	676 100.0%
どちらともいえない(※)	8 32.0%	16 64.0%	1 4.0%	25 100.0%
答えない・無回答 (※)	7 30.4%	15 65.2%	1 4.3%	23 100.0%
全体	420 33.6%	756 60.5%	74 5.9%	1,250 100.0%

(※) 「どちらともいえない」「答えない・無回答」は参考値

居住区別でみると、家・学校・職場以外に「居場所がほしい」と回答した割合は、「中央区」が 30.1%、「東区」が 34.1%、「西区」が 37.2%、「南区」が 35.2%、「北区」が 35.0%であった。

図表 1-2-12 家・学校・職場以外の居場所に対するニーズ〔居住区別〕

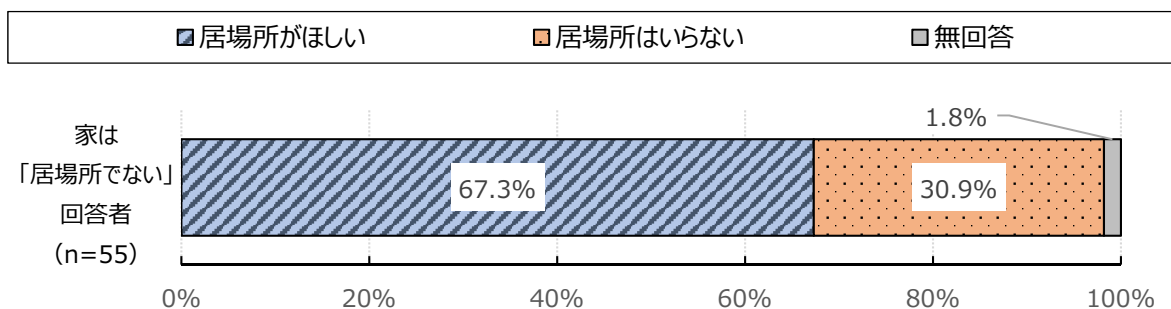


	居場所がほしい	居場所はいらない	無回答	計
中央区	96 30.1%	186 64.0%	13 5.9%	295 100.0%
東区	124 34.1%	224 61.7%	20 4.2%	368 100.0%
西区	51 37.2%	81 56.5%	10 6.4%	142 100.0%
南区	73 35.2%	122 57.5%	18 7.3%	213 100.0%
北区	76 35.0%	138 59.5%	10 5.5%	224 100.0%
無回答 (※)	0 0.0%	5 73.2%	3 26.8%	8 100.0%
全体	420 33.7%	756 60.6%	74 5.7%	1,250 100.0%

(※)「無回答」は参考値

(2)ーアで、家は「居場所でない」と回答した人のうち、家・学校・職場以外に「居場所がほしい」と回答した割合は67.3%であった。

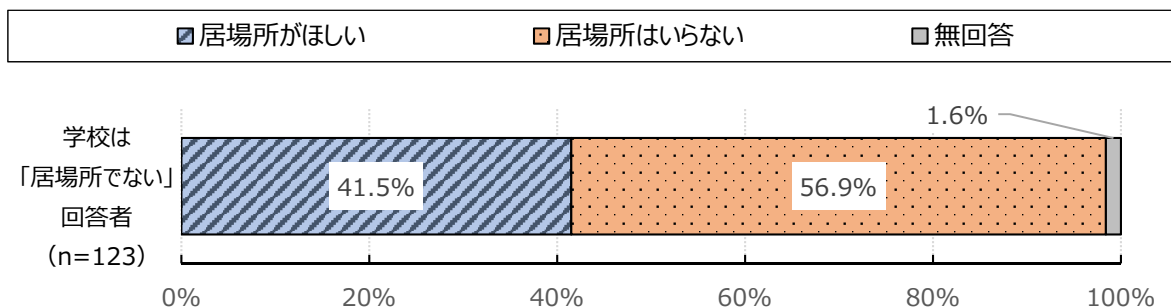
図表 1-2-13 家・学校・職場以外の居場所に対するニーズ【家は「居場所でない」と回答した者】



	居場所がほしい	居場所はいらない	無回答	計
家は「居場所でない」回答者	37 67.3%	17 30.9%	1 1.8%	55 100.0%

(2)ーイで、学校は「居場所でない」と回答した人のうち、家・学校・職場以外に「居場所がほしい」と回答した割合は41.5%であった。

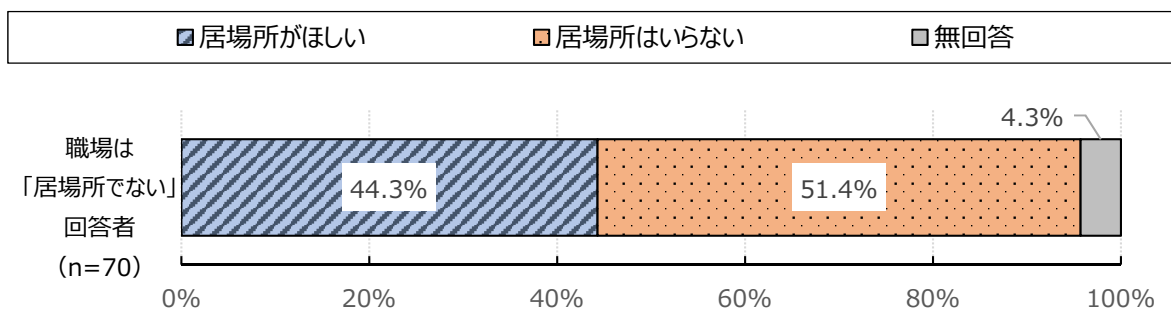
図表 1-2-14 家・学校・職場以外の居場所に対するニーズ【学校は「居場所でない」と回答した者】



	居場所がほしい	居場所はいらない	無回答	計
学校は「居場所でない」回答者	51 41.5%	70 56.9%	2 1.6%	123 100.0%

(2) ウで、職場は「居場所でない」と回答した人のうち、家・学校・職場以外に「居場所がほしい」と回答した割合は44.3%であった。

図表 1-2-15 家・学校・職場以外の居場所に対するニーズ〔「職場は居場所でない」と回答した者〕



	居場所がほしい	居場所はいらない	無回答	計
職場は「居場所でない」回答者	31 44.3%	36 51.4%	3 4.3%	70 100.0%

イ 家・学校・職場以外の居場所がほしい理由（自由回答）

（３）－アで、家・学校・職場以外の「居場所がほしい」と回答した人に対して、その理由を尋ねたところ、以下のような意見が挙げられた。

主な理由	件数
気持ちに関わる理由	239
安全・安心な環境、逃げ場がほしいから （安心できる場所がほしい 等）	29
既存の人間関係の充実を図りたいから （友達と遊んだり、話したりする時間がほしい 等）	36
楽しみが増えると思われるから （好きな場所があると楽しい生活ができると思う 等）	45
リフレッシュ・気分転換を図りたいから （息抜きできる場所が少ない、ストレス発散になる 等）	21
リラックス・落ち着きたいから （疲れない場所がほしい、気持ちを安らげたい 等）	29
ひとりでいたい・自分の時間の確保をしたいから （考える時間を増やしたい、自分と向き合いたい 等）	34
寂しいから、新たな人間関係の構築を図りたいから （同じ趣味を満喫したい、一人暮らしで孤独を感じる 等）	26
多様な環境が必要であるから、複数の場所で心が安定するから （選択肢は多い方がよい、抛り所を増やしたい 等）	15
現在利用している居場所の居心地がよいから （落ち着く場所がすでにある 等）	4
時間の使い方に関わる理由	79
自由に好きな活動をしたいから （好きなことをしたいから 等）	6
余暇時間の充実を図ることができるから （暇、自宅が退屈 等）	5
購買機会の拡充・公共施設の利用等を図りたいから （買い物に行きたい、近くに何もない 等）	16
遊べる場所を充実させたいから （たくさん遊びたい、いつも遊ぶ場所が同じ 等）	26
学習機会を充実させたいから （どこで勉強してよいかわからない、集中したい 等）	10
運動機会を充実させたいから （スポーツクラブに入りたい、運動したい 等）	7
新たな体験機会を充実させたいから （家でできないことがある、可能性を広げたい 等）	9
その他	63
特定の施設についての記載 （図書館、塾、公園 等）	56
わからない・特に理由はない （なんとなく 等）	7

個々の回答内容は、以下のとおりである。

なお、同一の回答内容は、適宜整理しているため、件数と回答内容の数は、必ずしも一致しない。また、一部の回答については、誤記と思われる表記について、補正している。

安全・安心な環境、逃げ場がほしいから

どんな場所でも安心して暮らしたい。

学校に行きたくないから。

ずっと同じ空間にいと逆に居心地が悪くなってくるから。

ここに居たいと感じる場所がいくつかあった方が、家や学校が嫌になることがあった時でも心を休めれるから。

自分には受け入れてくれる場所がいくつかあると思う方が安心するから。

自分が居ていい場所なんてないと思う。

でも、正直に言うとは居場所は欲しい。

こんな自分本位なわがまま誰にも言えないし聞いてもくれないからせめてここだけにかかせてください。すみません。

バイト以外に、外にも居場所を作って安心したいから。

一箇所だけでなく、分散することにより、行き詰まったときに逃げ場になったり、休む場になったり、冷静になれたりするから。

以前から家族や周囲の人との関係が悪くなったりした際に欲しかったから。

どこに居ても安心できないから。

人と一緒にいると安心するから。

好きな場所があればほっとするから。

学校じゃ友達がたくさんいても物を取られたり嫌がらせを受ける。挙句に部活では先生に褒められてうざいと言う嫉妬と妬みでいじめられたから退部したいと顧問に言ったけれど、全部私のせいにされて私が悪いと言われたのに退部させてもらえず好きな場所がなかなかないから。

家に帰りたくないとか何かの事情があって帰れない時とかに気軽に行ける場所があると良いから。

全て嫌なことを話せる場所が欲しいから。

家や学校で嫌なことがあった時に逃げる場所がほしいから。

今の私には自分の居場所もないし自分の生きている理由もないから私を必要としてくれる場

所が欲しい。辛いことを考えなくて済む場所が欲しい。

学校で嫌なことがあったら、そこで休憩したいから。

親が用事がある時に1人で留守番は心配だからです。

現在高校生ですが、学校は毎日行くことが普通とされているので、休みが多いとすぐ「あの子あんま来ないね」ってなってクラスの人々と仲良くなりたくてもどうしても壁を感じてしまいます。

なので、いつ来てもいいし、いつ休んでもいい、みんながもっと自由に「今日休んだら仲間外れにされないかな」とかそう言った心配をしなくてもすむような場所が欲しいからです。

既存の人間関係の充実を図りたいから

友達とか地域の人などと話す機会が増えると思ったから。

心を許せる人は家族以外にも居て、その人との場所が欲しいから。

もっとみんなと喋ったり、遊ぶ場所が欲しいから。

オンラインだと危険もあるかもしれないけど、友達とやったり個人でしたりすると楽しいし、将来的にもオンラインの方に進んで行くから。

友達と待ち合わせたり、合流するため。

友達が増えたり、いろいろな人と話したりすることができるから。

自分の集中できる場所が増えるから。

地域のコミュニティ、異分野交流の場

友達と行けるような休憩できる場所があるといいから。

なかなか学校に行けていない時期があって、その時に、仲がいい人と一緒に遊べる場所があったらな、と思ったからです。

友達と遊びたいから。

友だちの家とじぶんの家がつながっていればすぐ友だちとあそべるから。

家の近くに同じ学校の人がいなくて寂しいから。
みんなとずっとたくさん遊びたいから。
近くに公園やお店がなく遠いところになんか友達と遊べないから。
みんなと仲良くしたいから。
友達との仲を深め、お互いに助け合えるようになるから。
楽しく学校生活を送りたいから。
友達の家に行くと楽しいから。 公園とかも近くにあってすぐに遊べて楽しいから。
友達といると楽しいから。
楽しみが増えると思われるから
ニュースでこども食堂のことを見て楽しそうだったから。
好きな場所がたくさんあると人生が楽しくなるから。
ゆめタウンみたいな場所や、いろいろな体験ができる所があると、たのしめるから。
家の外に好きな場所があるとずっと楽しい生活ができると思うから。
友達と一緒に来たら、楽しくなるから。 ピアノの練習や、習字の練習を頑張って練習したら、いつのまにか楽しくなるから
家にない、楽しい事をしたい
人生を楽しみたい
もっと楽しい場所があればみんなも学校とかが楽しくなると思ったから
家みたいに気軽にいけて楽しい所が増えたら何か失っても、元気でいられそう。
楽しそうだし、面白そうだから。
人生が変わるかなような楽しい場所
好きな場所が増えると楽しいから！
好きな場所がたくさんあったら毎日がもっと楽しくなると思うからです。
リフレッシュ・気分転換を図りたいから
息抜きが足りないかなあと思うから。
気分晴らしになる。
ほかのばしょにすんでみたいから。
家族や友達という以外で、新しい趣味を見つけたり、気分転換したいから。

現在私は家や学校では安心して普段の生活を送っていますが、普段の生活を送る中で自分一人が安心して滞在できる居場所があると、ひとりの時間を作ることができ、もっとリフレッシュすることができたり、自分自身を見つめるような機会もできたりすると感じたからです。
気分転換も含めて、家や職場以外の環境がほしいから。
寮生活だから。
その場所が嫌になった時に気分転換したくなった時に好きな場所に行くと気持ちがスッキリしたりするから。
環境を変えたい時、1人で居たくない時
気分転換ができるような場所があったほうがいいと思うから。
普段の生活してる場所と違うところに行ってリフレッシュしたい時に思う。
気分を入れ替え。
ストレス発散になるから。日常から離れて何も考えなくてよくなる。
リフレッシュするために必要な場所だから。
別荘みたいな特別なプライベート空間があると現実逃避できそうです。
リラックス・落ち着きたいから
家が好きだとしても落ち着けるって訳では無いから落ち着ける場所が欲しい。
塾の宿題に追われてリラックスできないから。
家や学校に居たくない時の逃げ場みたいなのがあった方が気持ちの整理がつくと思うから。
家でゆっくりできない。落ちつけない。
家や学校以外でもリラックス出来る場所が増えるから。
ストレスを感じなければいい。
気軽にごろんとできる場所がほしい。
気楽な場所が欲しいから。
ゆっくり過ごせないときがあるから。
落ち着く所が少ないから。
心を休めるため。
職場のストレスがあるから。
家や学校でストレスを感じる時に逃げる場所が欲しい。
疲れない場所が欲しい。

好きな場所は、あるけど落ち着く場所がないから落ち着く場所が欲しいです。	様々な人と交流し、仲を深めていくことは人生の財産になると思うから。
静かで、落ち着ける場所がほしい。	自然など落ち着くところがあることによって、たくさんの人が好きになれると思ったから。
日頃の疲れを癒せる場所あるいは集中できる場所が必ずしも家だとは限らないから。	家族や同僚以外と繋がる場所が欲しいから。異なるコミュニティに属することで、得られる発見、学び、面白さがあるから。
そういう居場所が沢山ある方が気持ちに余裕ができるため	もっと自分の住んでいる地域をよりよくしたいから。
ひとりでいたい・自分の時間の確保をしたいから	色んな人とコミュニケーションを取りたいから
一人で居れる環境が時々欲しくなるから。	転勤で熊本に来て間もないので、趣味を同じくする人やコミュニティに出会えると嬉しい。
外出先で、1人でリラックスをしたい。1人で入りやすい施設が欲しい。	同じ趣味を満喫できる場所が欲しい
いっぱいかんがえるじかんがおおくなるから	人に見せられる面に関わる人によって違いが出るから
ゆっくり自分の時間が取れる場所が欲しいから。勉強に集中できる空間が欲しいから	熊本に嫁いできて、親族や職場以外の人との交流の場が少ないため、交友関係を広げたいから。
誰とも関わらない空間も欲しいから。	たまに寂しくなる
みんなの輪の中にいるのが疲れるし学校で一人でいたい時があるから	友達を増やしたいから
自分が自分と向き合える場所が欲しいから	自分を心から理解してくれる人がそばにいて欲しいから
1人でゆっくりできるわくわくするような所や遊べる楽しい所がいいなと思うから。	肩書にとらわれず、個人として生きることができると生きやすいと思ったから。
一人になりたい時に気軽に行ける場所があったらいいと思うからです	家以外にも友人や初対面の人でも気軽に話せるような施設が欲しいから。
安全に1人になれるところがほしいから。	1つの意見ではなく様々な人の話や意見を聞きたいから。
誰も声をかけてこないところ。誰とも連絡をつけなくていいところ。	社会人になり、家庭ができると友達と疎遠になってしまったから。
一人で静かに過ごしたりできる場所がほしいから。	学校以外で、よく遊ぶ友だちでもいいけど、ちがう学年の子とも仲良くなれるのは、家、学校以外の習い事の場所や公園がいいと思ったからです。
どこにも誰かは絶対いるから、必ず1人になれる場所がほしい	受動的な生活を送っているとリズムが狂うので、将来のことなど考えながら、自発的に動ける時間をつくりたいから。
家だと勉強しなさいなど言われるので気にせずに1人でゆっくりできる場所が欲しい	多様な環境が必要であるから、複数の場所で心が安定するから
学校などの集団生活の場において、人に気を使ってばかりで疲れるため自分の時間がとれない？から。	好きな場所が多いと嬉しいし、気持ちが楽だから。
寂しいから、新たな人間関係の構築を図りたいから	選択肢はあったほうがよいから
同じ場所でずっと縮こまっているよりもより開放的な空間で外との繋がりを持ちたいから。	いざという時頼れる場所の選択肢が増えるから
他の場所でも友達をつくりたい	
家や学校での人間関係が苦手と覚えることがあるから。	
一人暮らしで寂しいと感じるから	

頼れる場所が多いほど心の安定に繋がると思うから
居場所、依存先がたくさんあると精神の安定が保たれると考えているため
依存先は多くあると心の拠り所も増えるから
居場所はたくさんあったほうが楽しいと思うから。
現在利用している居場所の居心地がよいから
おじいちゃんとおばあちゃんの、いえもすきだから。
授業が大好き
おちつくすきなこうえんがあるから。
自由に活動したいから
自由がもっと欲しいから
自由な行動ができるから
好きなことをしたいから
いっぱいわーわーさけべるから
余暇時間の充実を図ることができるから
休み時間に暇なときに行けるから。
暇だから
通所施設から帰宅すると夕方3時半ごろから在宅となる。 自宅での過ごし方が退屈。
休みの日にいる場所がほしい
購買機会の拡充・ 公共施設の利用等を図りたいから
近くだったらすぐ行けるし、お買い物にも行きたい。
家の近くだったら買い物とか行けるから
お菓子を買いに行きたいから
もっと気軽に集まれる、お金がかからない場所が欲しいと思ったから(小さい図書館、スターバックスなど)
近くに図書館があったら本を借りに行きたいから
いろんな物が買えるから。
図書館が近場ないので欲しいと思う
快適に暮らせる方がよい
近くに行きたい場所があると、行く気持ちになるから。
ちかくになにもない

家のそばに公園がないから、ほしいです。
近くに店がないから近くに欲しい
「図書館。書店。雑貨屋。画材屋。」などの自分の趣味で行ってみたいところなどに、普段行くことができないから。
遊べる場所を充実させたいから
公園以外で小学生でも校区内で遊べる施設があってほしいから。遊ぶ場所が無くなっているから。
室内で涼しくて無料で友達と遊べる場所が近くに欲しい
いっぱいあそべるから。物知りになれる。
たくさん遊べる場所がほしいから
広くて遊べる所がほしい。遊べると楽しいから。
思いっきり遊べる場所が欲しい
友達と遊ぶ時に家の中で遊ぶことが多いので、外で遊べるような所が欲しいからです。
遊んだりする場所や落ち着く場所がほしいから
違う場所で遊びたい
遊ぶ場誰だって欲しい
よく行く公園が一つしかないので別の場所もよく行くようになりたい
友達の家に行ってみたいし、自分のおもちゃではないもので遊びたい。もっと立派な家に行きたい。
組み立てるおもちゃがあるところがほしい。
友だちと自由に遊べるところ
学習機会を充実させたいから
くもんが習ってみたいから
家ではゆっくりするを優先してしまうので、作業に適した場所がほしい
自習室が欲しいから
勉強できる場所がほとんどないので図書館など自習ができる場所が欲しいです。
気軽に行けて勉強出来る場所が近くに欲しいです
市立図書館など、気軽に勉強できる場所が少ない。どこで勉強して良いのか分からない
誰もいなくて勉強ができる無料なところが欲しいからできれば(個室空間があると嬉しい)

家の近くに図書館がないから。勉強する場所として欲しい
運動機会を充実させたいから
近くにあるとスポーツが出来るから。
24 時間空調管理されていてある程度動けて体に負担なく過ごせる空間が欲しい
近くにプールなど“安心して”泳げる場所が欲しいと思ったことがあるから
サッカークラブに入りたい
トリッキングや柔道など護身術を学びたい
サッカーができる場所。ゴールが置いてあるところ。
緑がたくさんある場所がほしい。 スポーツが自由にできる場所がない。
新たな体験機会を充実させたいから
家や学校では感じることの出来ない刺激が欲しい。未体験で好奇心をくすぐるような居場所があればいいなと思います。
家で、できないことができるから
飽きることがあるから、他の場所がほしい
活動の幅が広がるから
通所施設から帰宅するとずっと自宅にいるため介護者である家族がいつも付き添っててはならない。 ショートステイなどもなかなか利用につながらず家族の負担が増えている。欲を言えば、体操教室や音楽教室に通いたい。でも、障害があるため実現が難しい。 今後親も高齢化していくと思うと希望は叶わないままではないかと不安である。
家族でも学校でもない第3の場所があることによって、囚われない考え方・行動をしやすと思うからです。
安心、幸せ、能力、知識、の世界や可能性を広げたい
自分に合う新しい場所をみつけてみたいから。
生物を観察したり、研究したり、家に設計図を書きたいから
特定の施設についての記載（記載された施設）
家（実家・祖父母宅 含む）
庭

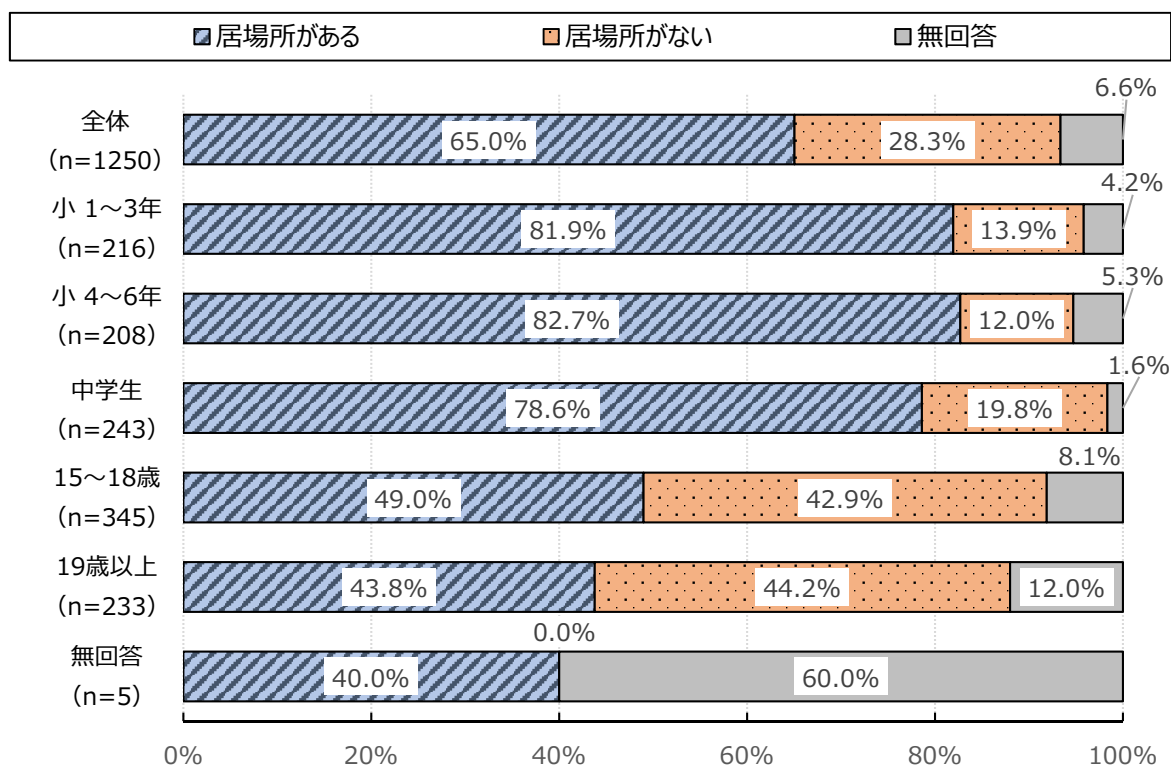
寝室
トイレ
友達の家
塾
習い事
公園（児童公園、自然公園含む）
屋内遊具施設
図書館
森都心プラザ図書館
熊本県立大学図書館
体育館
弓道場
川・河川敷
海
城・神社
駅
お店（全般）
ショッピングモール
デパート
レストラン（食堂・ファミリーレストラン）
書店
CD・DVDショップ
文房具店
衣料品店
映画館
コンビニエンスストア
ラウンドワン
オンライン空間
X（旧 Twitter）
ニコニコ動画
秘密基地
時間を気にせず乳幼児と遊べる場所
わからない・特に理由はない
なんとなく
わからない
理由はない

ウ 家・学校・職場以外の居場所の有無（単一回答）

家・学校・職場以外に居場所があるかを尋ねたところ、全体で 65.0%が「居場所がある」、28.3%が「居場所がない」と回答した。

年齢別でみると、家・学校・職場以外に「居場所がある」と回答した割合は、「小学校 4～6 年生」が 82.7%と最多、次いで「小学校 1～3 年生」が 81.9%、「中学生」が 78.6%となった。

図表 1-2-16 家・学校・職場以外の居場所の有無〔年齢別〕

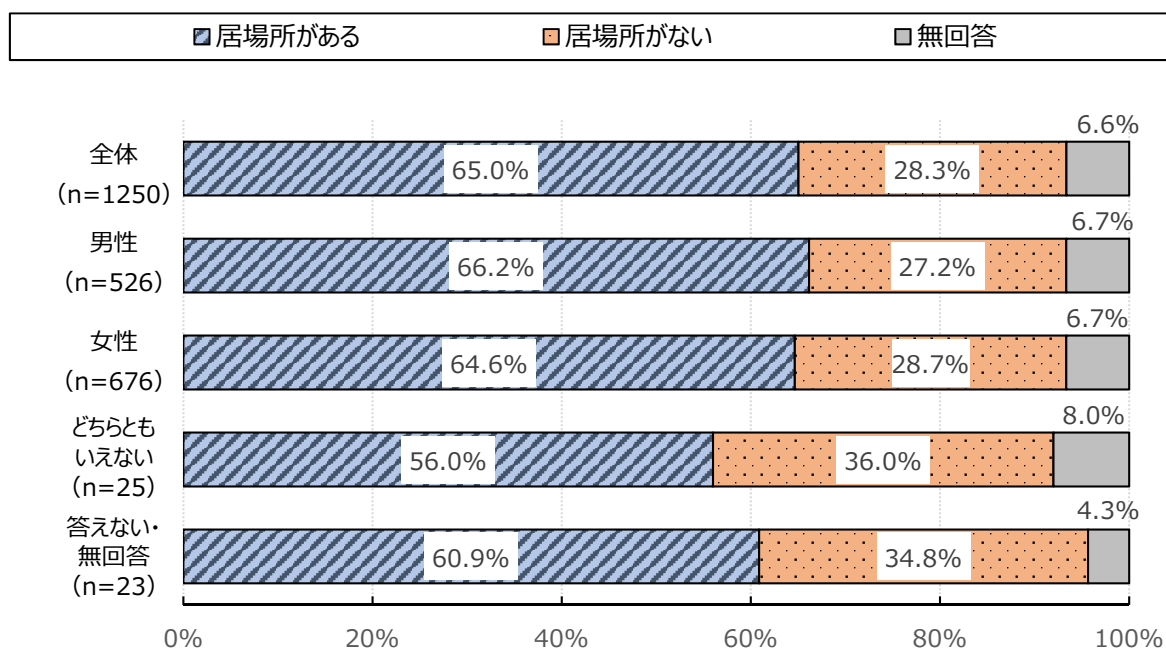


	居場所がある	居場所がない	無回答	計
小学校 1～3 年生	177 81.9%	30 13.9%	9 4.2%	216 100.0%
小学校 4～6 年生	172 82.7%	25 12.0%	11 5.3%	208 100.0%
中学生	191 78.6%	48 19.8%	4 1.6%	243 100.0%
15～18 歳 （高校生など）	169 49.0%	148 42.9%	28 8.1%	345 100.0%
19 歳以上 （おおむね 30 歳まで）	102 43.8%	103 44.2%	28 12.0%	233 100.0%
無回答（※）	2 40.0%	0 0.0%	3 60.0%	5 100.0%
全体	813 65.0%	354 28.3%	83 6.6%	1,250 100.0%

（※）「無回答」は参考値

性別でみると、家・学校・職場以外に「居場所がある」と回答した割合は、「男性」が 66.2%、「女性」が 64.6%であった。

図表 1-2-17 家・学校・職場以外の居場所の有無〔性別〕

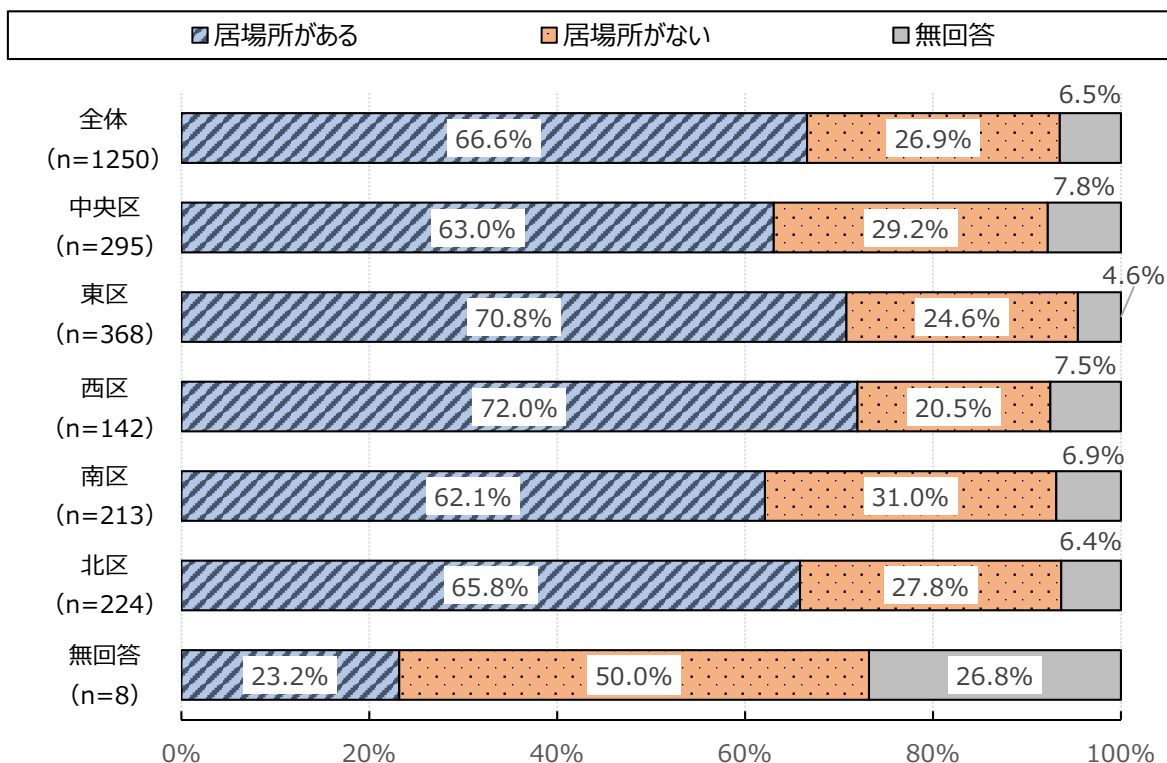


	居場所がある	居場所がない	無回答	計
男性	348 66.2%	143 27.2%	35 6.7%	526 100.0%
女性	437 64.6%	194 28.7%	45 6.7%	676 100.0%
どちらともいえない(※)	14 56.0%	9 36.0%	2 8.0%	25 100.0%
答えない・無回答(※)	14 60.9%	8 34.8%	1 4.3%	23 100.0%
全体	813 65.0%	354 28.3%	83 6.6%	1,250 100.0%

(※)「どちらともいえない」「答えない・無回答」は参考値

居住区別でみると、家・学校・職場以外に「居場所がある」と回答した割合は、「中央区」が 63.0%、「東区」が 70.8%、「西区」が 72.0%、「南区」が 62.1%、「北区」が 65.8%であった。

図表 1-2-18 家・学校・職場以外の居場所の有無【居住区別】

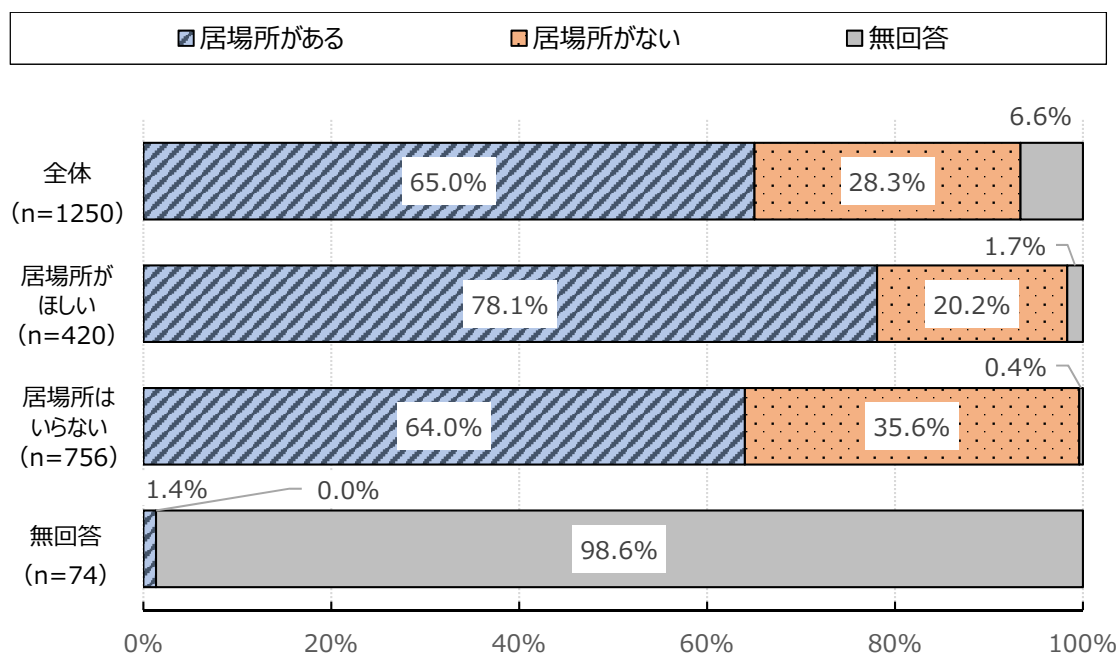


	居場所がある	居場所がない	無回答	計
中央区	189 63.0%	88 29.2%	18 7.8%	295 100.0%
東区	249 70.8%	98 24.6%	21 4.6%	368 100.0%
西区	100 72.0%	31 20.5%	11 7.5%	142 100.0%
南区	134 62.1%	61 31.0%	18 6.9%	213 100.0%
北区	139 65.8%	73 27.8%	12 6.4%	224 100.0%
無回答 (※)	2 23.2%	3 50.0%	3 26.8%	8 100.0%
全体	813 66.6%	354 26.9%	83 6.5%	1,250 100.0%

(※)「無回答」は参考値

(3) アで、家・学校・職場以外に「居場所がほしい」と回答した人のうち、家・学校・職場以外に「居場所がある」は78.1%、「居場所がない」は20.2%であった。

図表 1-2-19 家・学校・職場以外の居場所の有無〔居場所のニーズ別〕



	居場所がある	居場所がない	無回答	計
居場所がほしい	328 78.1%	85 20.2%	7 1.7%	420 100.0%
居場所はいらない	484 64.0%	269 35.6%	3 0.4%	756 100.0%
無回答 (※)	1 1.4%	0 0.0%	73 98.6%	74 100.0%
全体	813 65.0%	354 28.3%	83 6.6%	1,250 100.0%

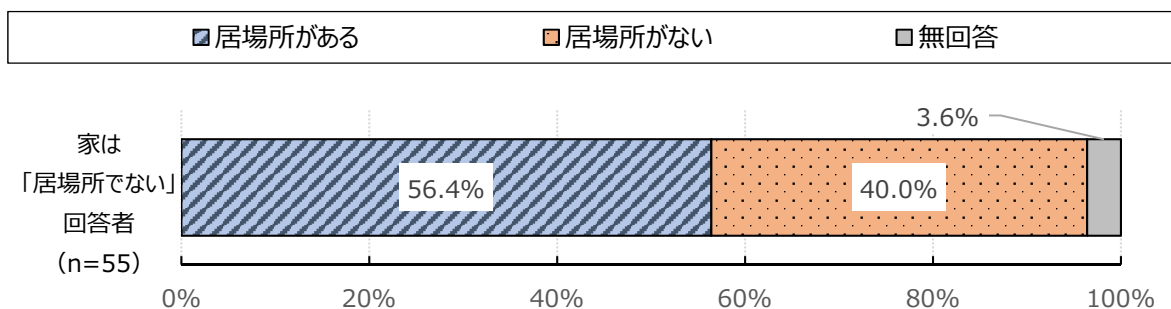
(※)「無回答」は参考値

家・学校・職場以外に「居場所がほしい」が、家・学校・職場以外に「居場所がない」と回答した85人（上表の太枠囲み箇所）の居住区は、以下のとおりであった。

	中央区	東区	西区	南区	北区	無回答	計
回答数	20	27	5	14	19	0	85
割合	23.5%	31.8%	5.9%	16.5%	22.4%	0.0%	100.0%

(2)－アで、家は「居場所でない」と回答した人のうち、家・学校・職場以外に「居場所がある」は56.4%、「居場所がない」は40.0%であった。

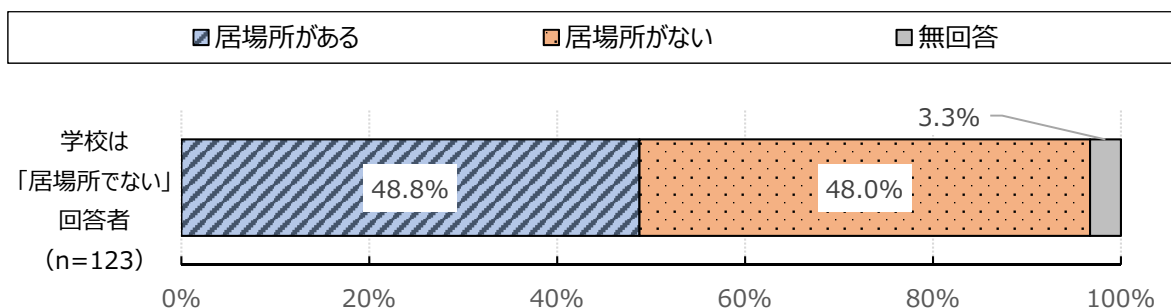
図表 1－2－20 家・学校・職場以外の居場所の有無【家は「居場所でない」と回答した者】



	居場所がある	居場所がない	無回答	計
家は「居場所でない」回答者	31 56.4%	22 40.0%	2 3.6%	55 100.0%

(2)－イで、学校は「居場所でない」と回答した人のうち、家・学校・職場以外に「居場所がある」は48.8%、「居場所がない」は48.0%であった。

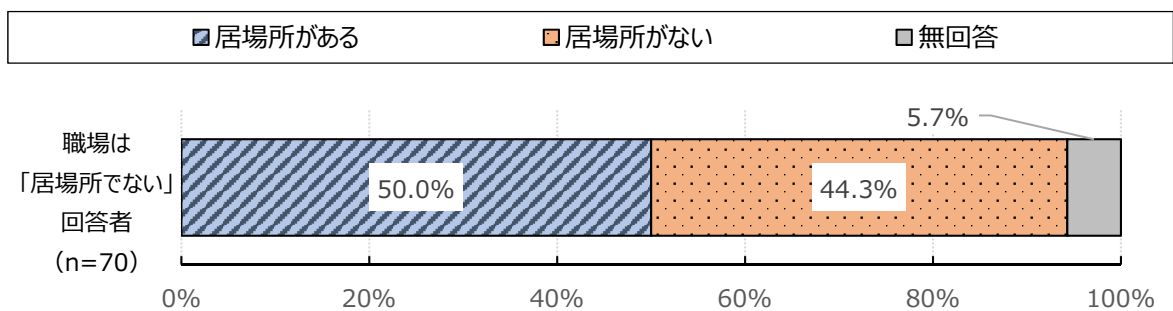
図表 1－2－21 家・学校・職場以外の居場所の有無【学校は「居場所でない」と回答した者】



	居場所がある	居場所がない	無回答	計
学校は「居場所でない」回答者	60 48.8%	59 48.0%	4 3.3%	123 100.0%

(2) ウで、職場は「居場所でない」と回答した人のうち、家・学校・職場以外に「居場所がある」は50.0%、「居場所がない」は44.3%であった。

図表 1-2-2 家・学校・職場以外の居場所の有無〔職場は「居場所でない」と回答した者〕



	居場所がある	居場所がない	無回答	計
職場は「居場所でない」回答者	35 50.0%	31 44.3%	4 5.7%	70 100.0%

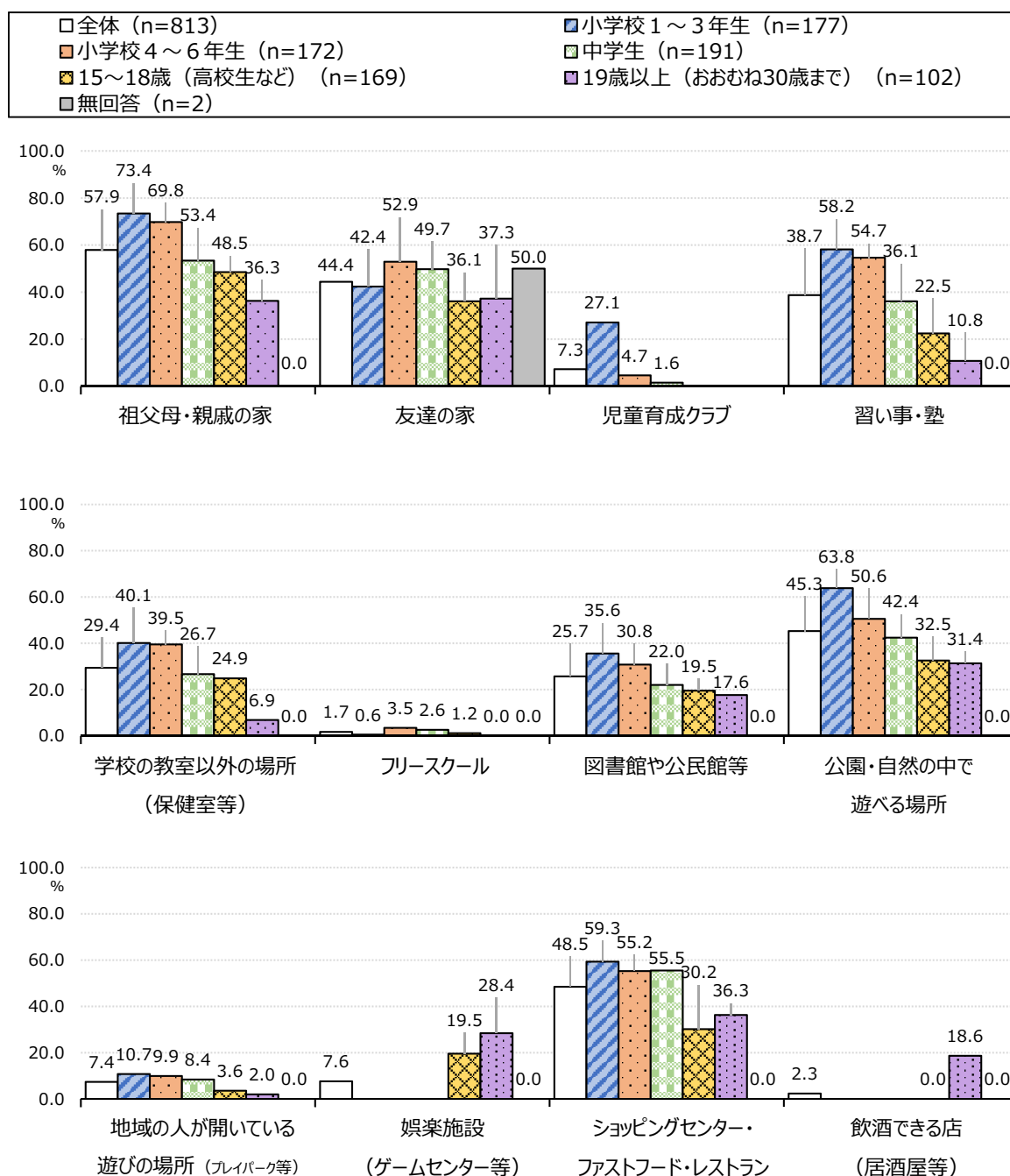
(4) 居場所の実態

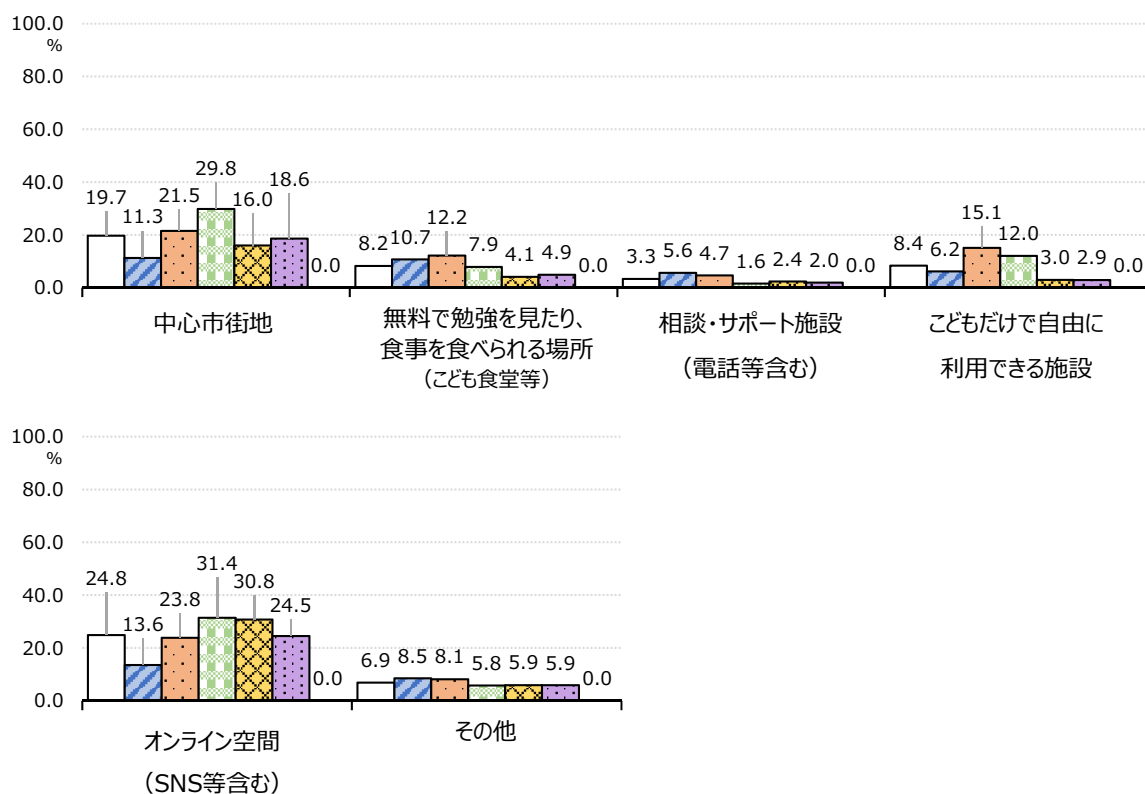
ア どこが居場所となっているか（複数回答）

(3)ーウで、家・学校・職場以外に「居場所がある」と回答した人に対して、その居場所がどこかを尋ねたところ、全体で「祖父母・親戚の家」が57.9%と最多、次いで「ショッピングセンター・レストラン・ファストフード等」が48.5%、「公園・自然の中で遊べる場所」が45.3%、「友達の家」が44.4%となった。

年齢別の状況は、図表 1-2-23 のとおりであった。

図表 1-2-23 どこが居場所となっているか〔年齢別〕





「その他」の主な回答

(参考) その他の主な回答	件数
放課後等デイサービス	11
プールや体育館などの運動施設	9
カードショップや書店などの店舗	9
友人と遊ぶ場所など人との関係性に依拠した場所	6
自然豊かなところ・畑・動物がいっぱいいる場所など自然環境	5

	小学校 1～3年生		小学校 4～6年生		中学生		15～18歳 (高校生など)		19歳以上 (おおむね30歳まで)		無回答 ^(※)		全体	
祖父母・親戚の家	130	73.4%	120	69.8%	102	53.4%	82	48.5%	37	36.3%	0	0.0%	471	57.9%
友達の家	75	42.4%	91	52.9%	95	49.7%	61	36.1%	38	37.3%	1	50.0%	361	44.4%
児童育成クラブ	48	27.1%	8	4.7%	3	1.6%	－	－	－	－	－	－	59	7.3%
習い事・塾	103	58.2%	94	54.7%	69	36.1%	38	22.5%	11	10.8%	0	0.0%	315	38.7%
学校の教室以外の場所（保健室等）	71	40.1%	68	39.5%	51	26.7%	42	24.9%	7	6.9%	0	0.0%	239	29.4%
フリースクール	1	0.6%	6	3.5%	5	2.6%	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	14	1.7%
図書館や公民館等	63	35.6%	53	30.8%	42	22.0%	33	19.5%	18	17.6%	0	0.0%	209	25.7%
公園・自然の中で遊べる場所	113	63.8%	87	50.6%	81	42.4%	55	32.5%	32	31.4%	0	0.0%	368	45.3%
地域の人が開いている遊びの場所 （プレイパーク等）	19	10.7%	17	9.9%	16	8.4%	6	3.6%	2	2.0%	0	0.0%	60	7.4%
娯楽施設（ゲームセンター等）	－	－	－	－	－	－	33	19.5%	29	28.4%	0	0.0%	62	7.6%
ショッピングセンター・ レストラン・ファストフード等	105	59.3%	95	55.2%	106	55.5%	51	30.2%	37	36.3%	0	0.0%	394	48.5%
飲酒できる店（居酒屋等）	－	－	－	－	－	－	0	0.0%	19	18.6%	0	0.0%	19	2.3%
中心市街地	20	11.3%	37	21.5%	57	29.8%	27	16.0%	19	18.6%	0	0.0%	160	19.7%
無料で勉強を見たり、食事を 食べられる場所（こども食堂等）	19	10.7%	21	12.2%	15	7.9%	7	4.1%	5	4.9%	0	0.0%	67	8.2%
相談・サポート施設（電話等含む）	10	5.6%	8	4.7%	3	1.6%	4	2.4%	2	2.0%	0	0.0%	27	3.3%
こどもだけで自由に利用できる施設	11	6.2%	26	15.1%	23	12.0%	5	3.0%	3	2.9%	0	0.0%	68	8.4%
オンライン空間（SNS等）	24	13.6%	41	23.8%	60	31.4%	52	30.8%	25	24.5%	0	0.0%	202	24.8%
その他	15	8.5%	14	8.1%	11	5.8%	10	5.9%	6	5.9%	0	0.0%	56	6.9%

↑年齢別の上位3つに網掛け

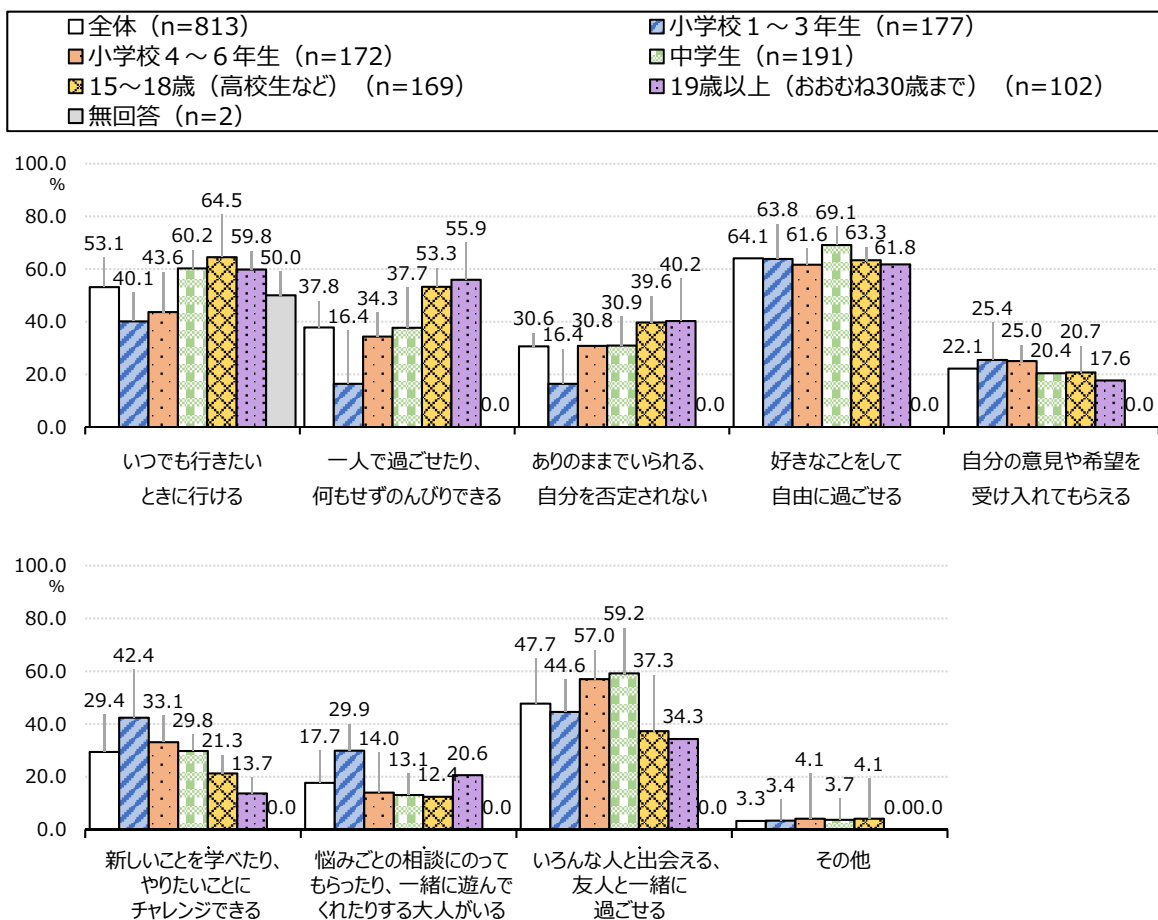
^(※)「無回答」は参考値

イ 機能的にどのような居場所か（複数回答）

（３）－ウで、家・学校・職場以外に「居場所がある」と回答した人に対して、その居場所が機能的にどのようなところかを尋ねたところ、全体で「好きなことをして自由に過ごせる」が64.1%と最多、次いで「いつでも行きたいときに行ける」が53.1%、「いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる」が47.7%となった。

年齢別の状況は、図表 1－2－24 のとおりであった。

図表 1－2－24 機能的にどのような居場所か〔年齢別〕



「その他」の主な回答

(参考) その他の主な回答	件数
楽しむことができる	6
夢や希望を与えてくれる	3
落ち着くことができる	2

	小学校 1～3年生		小学校 4～6年生		中学生		15～18歳 (高校生など)	
いつでも行きたいときに行ける	71	40.1%	75	43.6%	115	60.2%	109	64.5%
一人で過ごせたり、 何もせずのんびりできる	29	16.4%	59	34.3%	72	37.7%	90	53.3%
ありのままでいられる、 自分を否定されない	29	16.4%	53	30.8%	59	30.9%	67	39.6%
好きなことをして自由に過ごせる	113	63.8%	106	61.6%	132	69.1%	107	63.3%
自分の意見や希望を受け入れてもらえる	45	25.4%	43	25.0%	39	20.4%	35	20.7%
新しいことを学べたり、 やりたいことにチャレンジできる	75	42.4%	57	33.1%	57	29.8%	36	21.3%
悩みごとの相談にのってもらったり、 一緒に遊んでくれたりする大人がいる	53	29.9%	24	14.0%	25	13.1%	21	12.4%
いろんな人と出会える、 友人と一緒に過ごせる	79	44.6%	98	57.0%	113	59.2%	63	37.3%
その他	6	3.4%	7	4.1%	7	3.7%	7	4.1%

	19歳以上 (おおむね30歳まで)		無回答(※)		全体	
いつでも行きたいときに行ける	61	59.8%	1	50.0%	432	53.1%
一人で過ごせたり、 何もせずのんびりできる	57	55.9%	0	0.0%	307	37.8%
ありのままでいられる、 自分を否定されない	41	40.2%	0	0.0%	249	30.6%
好きなことをして自由に過ごせる	63	61.8%	0	0.0%	521	64.1%
自分の意見や希望を受け入れてもらえる	18	17.6%	0	0.0%	180	22.1%
新しいことを学べたり、 やりたいことにチャレンジできる	14	13.7%	0	0.0%	239	29.4%
悩みごとの相談にのってもらったり、 一緒に遊んでくれたりする大人がいる	21	20.6%	0	0.0%	144	17.7%
いろんな人と出会える、 友人と一緒に過ごせる	35	34.3%	0	0.0%	388	47.7%
その他	0	0.0%	0	0.0%	27	3.3%

↑年齢別の上位3つに網掛け

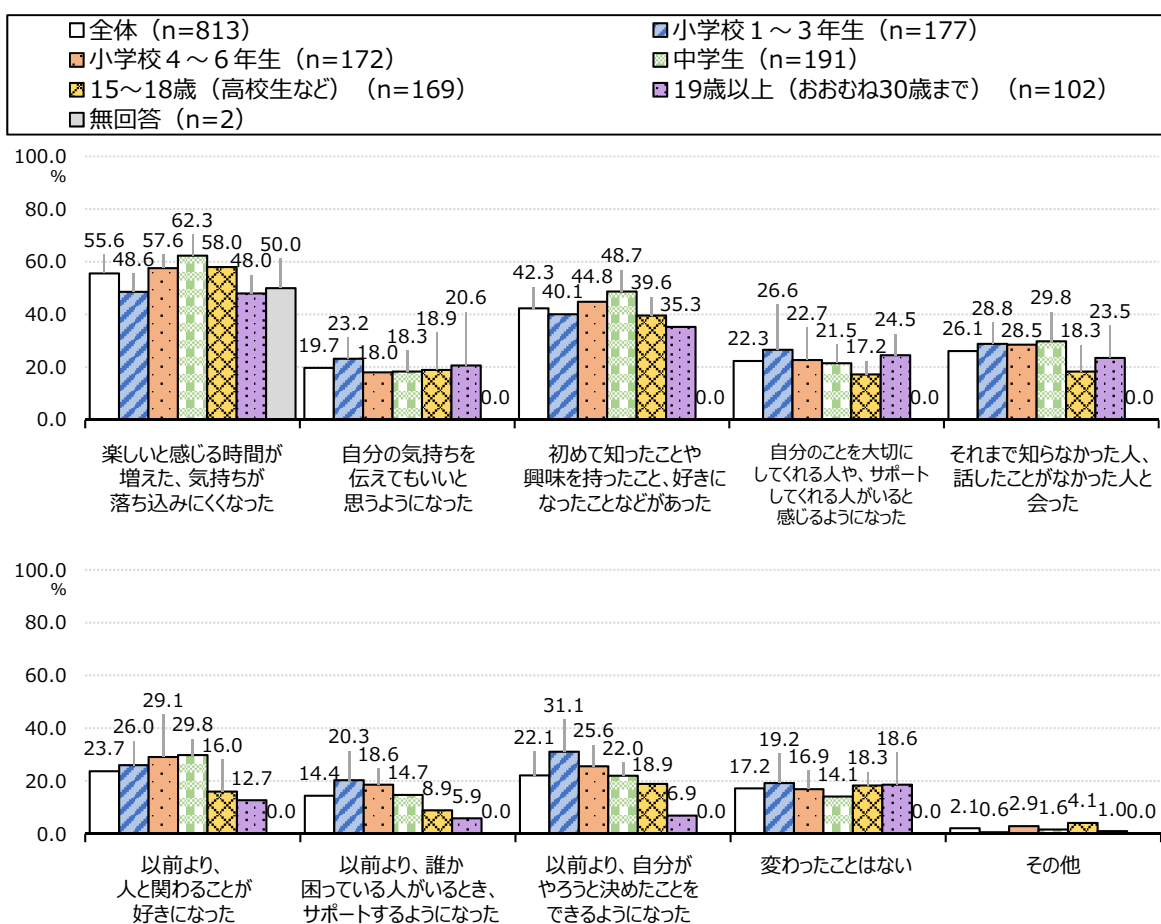
(※)「無回答」は参考値

ウ 居場所利用による変化（複数回答）

（３）－ウで、家・学校・職場以外に「居場所がある」と回答した人に対して、その居場所を利用するようになって変わったことを尋ねたところ、全体で「楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった」が55.6%と最多、次いで「初めて知ったことや、興味を持ったこと、好きになったことなどがあった」が42.3%、「それまで知らなかった人、話したことがなかった人と会った」が26.1%となった。

年齢別でも、全ての年齢において、「楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった」と回答した割合が最多、次いで「初めて知ったことや、興味を持ったこと、好きになったことなどがあった」という順位であった。

図表 1-2-25 居場所を利用したことによる変化【年齢別】



「その他」の主な回答

(参考) その他の主な回答	件数
技能・技術・知識が向上した	5
活動が好きになった・楽しくなった	3
学習時間などの生活習慣が変わった	2
思索を深められるようになった	2

	小学校 1～3年生	小学校 4～6年生	中学生	15～18歳 (高校生など)
楽しいと感じる時間が増えた、 気持ちが落ち込みにくくなった	86 48.6%	99 57.6%	119 62.3%	98 58.0%
自分の気持ちを 伝えてもいいと思うようになった	41 23.2%	31 18.0%	35 18.3%	32 18.9%
初めて知ったことや、興味を持ったこと、 好きになったことなどがあった	71 40.1%	77 44.8%	93 48.7%	67 39.6%
自分のことを大切にしてくれる人やサポート してくれる人がいると感じるようになった	47 26.6%	39 22.7%	41 21.5%	29 17.2%
それまで知らなかった人、 話したことがなかった人と会った	51 28.8%	49 28.5%	57 29.8%	31 18.3%
以前より、人と関わることが 好きになった	46 26.0%	50 29.1%	57 29.8%	27 16.0%
以前より、誰か困っている人が いるとき、サポートするようになった	36 20.3%	32 18.6%	28 14.7%	15 8.9%
以前より、自分がやろうと決めたことを できるようになった	55 31.1%	44 25.6%	42 22.0%	32 18.9%
変わったことはない	34 19.2%	29 16.9%	27 14.1%	31 18.3%
その他	1 0.6%	5 2.9%	3 1.6%	7 4.1%

	19歳以上 (おおむね30歳まで)	無回答 ^(※)	全体
楽しいと感じる時間が増えた、 気持ちが落ち込みにくくなった	49 48.0%	1 50.0%	452 55.6%
自分の気持ちを 伝えてもいいと思うようになった	21 20.6%	0 0.0%	160 19.7%
初めて知ったことや、興味を持ったこ と、好きになったことなどがあった	36 35.3%	0 0.0%	344 42.3%
自分のことを大切にしてくれる人やサポート してくれる人がいると感じるようになった	25 24.5%	0 0.0%	181 22.3%
それまで知らなかった人、 話したことがなかった人と会った	24 23.5%	0 0.0%	212 26.1%
以前より、人と関わることが 好きになった	13 12.7%	0 0.0%	193 23.7%
以前より、誰か困っている人が いるとき、サポートするようになった	6 5.9%	0 0.0%	117 14.4%
以前より、自分がやろうと決めたことを できるようになった	7 6.9%	0 0.0%	180 22.1%
変わったことはない	19 18.6%	0 0.0%	140 17.2%
その他	1 1.0%	0 0.0%	17 2.1%

↑年齢別の上位3つに網掛け

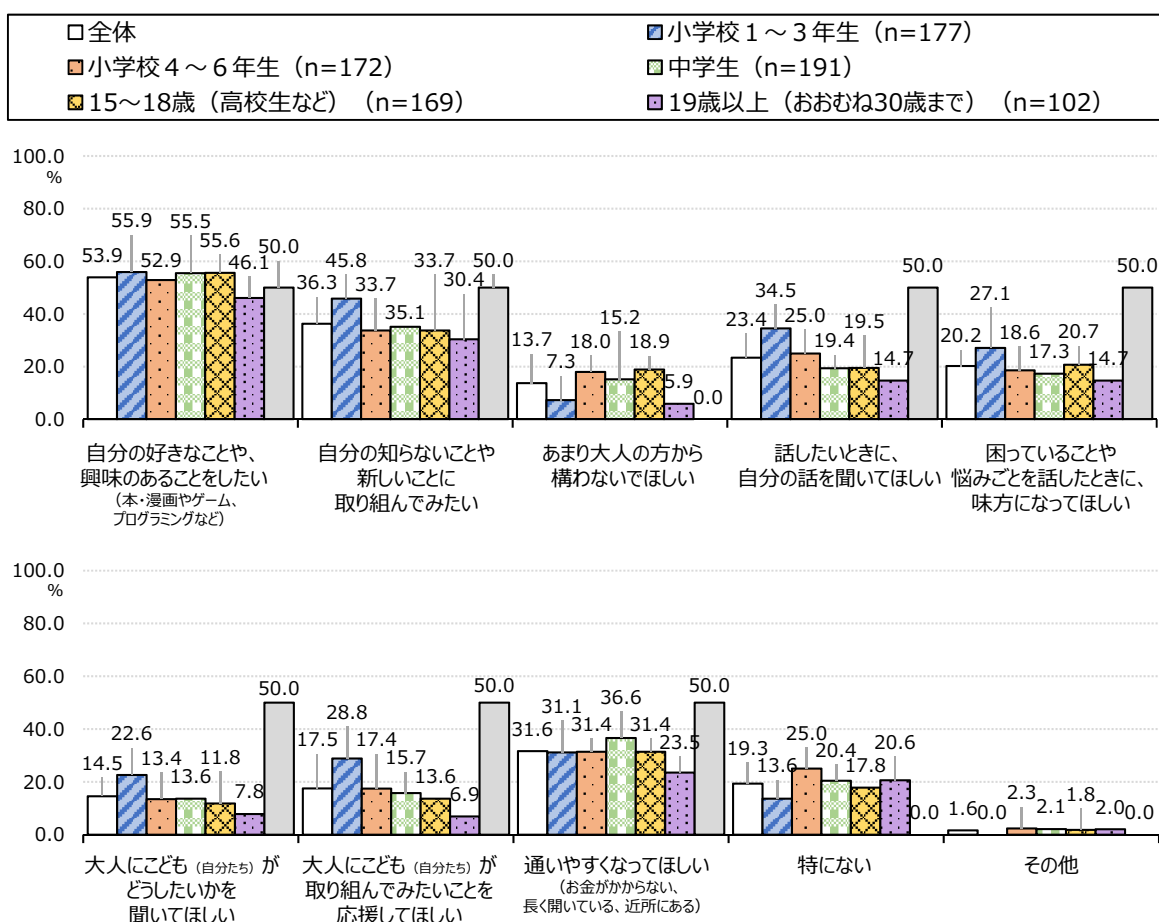
^(※)「無回答」は参考値

エ 居場所に望むこと（複数回答）

（３）－ウで、家・学校・職場以外に「居場所がある」と回答した人に対して、居場所でやってみたいことや居場所に対する要望を尋ねたところ、全体で「自分の好きなことや、興味があることをしたい（本・漫画やゲーム、プログラミングなど）」が 53.9%と最多、次いで「自分が知らないことや新しいことに取り組んでみたい」が 36.3%、「通いやすくなってほしい（お金がかからない、長く開いている、近所にある）」が 31.6%となった。

年齢別でも、全ての年齢において、「自分の好きなことや、興味があることをしたい（本・漫画やゲーム、プログラミングなど）」が最多であった。

図表 １－２－２６ 居場所でやりたいことや居場所に対する要望〔年齢別〕



「その他」の主な回答

(参考) その他の主な回答	件数
個室などの施設面の充実	2
保護者の理解	1

	小学校 1～3年生		小学校 4～6年生		中学生		15～18歳 (高校生など)	
自分の好きなことや、 興味があることをしたい (本・漫画やゲーム、プログラミングなど)	99	55.9%	91	52.9%	106	55.5%	94	55.6%
自分が知らないことや 新しいことに取り組んでみたい	81	45.8%	58	33.7%	67	35.1%	57	33.7%
あまり大人の方から構わないでほしい	13	7.3%	31	18.0%	29	15.2%	32	18.9%
話したいときに、 自分の話を聞いてほしい	61	34.5%	43	25.0%	37	19.4%	33	19.5%
困っていることや悩みごとを 話したときに、味方になってほしい	48	27.1%	32	18.6%	33	17.3%	35	20.7%
大人に、こども（自分たち）が どうしたいかを聞いてほしい	40	22.6%	23	13.4%	26	13.6%	20	11.8%
大人に、こども（自分たち）が 取り組んでみたいことを応援してほしい	51	28.8%	30	17.4%	30	15.7%	23	13.6%
通いやすくなってほしい (お金がかからない、長く開いている、近所にある)	55	31.1%	54	31.4%	70	36.6%	53	31.4%
特になし	24	13.6%	43	25.0%	39	20.4%	30	17.8%
その他	0	0.0%	4	2.3%	4	2.1%	3	1.8%

	19歳以上 (おおむね30歳まで)		無回答(※)		全体	
自分の好きなことや、 興味があることをしたい (本・漫画やゲーム、プログラミングなど)	47	46.1%	1	50.0%	438	53.9%
自分が知らないことや 新しいことに取り組んでみたい	31	30.4%	1	50.0%	295	36.3%
あまり大人の方から構わないでほしい	6	5.9%	0	0.0%	111	13.7%
話したいときに、 自分の話を聞いてほしい	15	14.7%	1	50.0%	190	23.4%
困っていることや悩みごとを 話したときに、味方になってほしい	15	14.7%	1	50.0%	164	20.2%
大人に、こども（自分たち）が どうしたいかを聞いてほしい	8	7.8%	1	50.0%	118	14.5%
大人に、こども（自分たち）が 取り組んでみたいことを応援してほしい	7	6.9%	1	50.0%	142	17.5%
通いやすくなってほしい (お金がかからない、長く開いている、近所にある)	24	23.5%	1	50.0%	257	31.6%
特になし	21	20.6%	0	0.0%	157	19.3%
その他	2	2.0%	0	0.0%	13	1.6%

↑ 年齢別の上位3つに網掛け

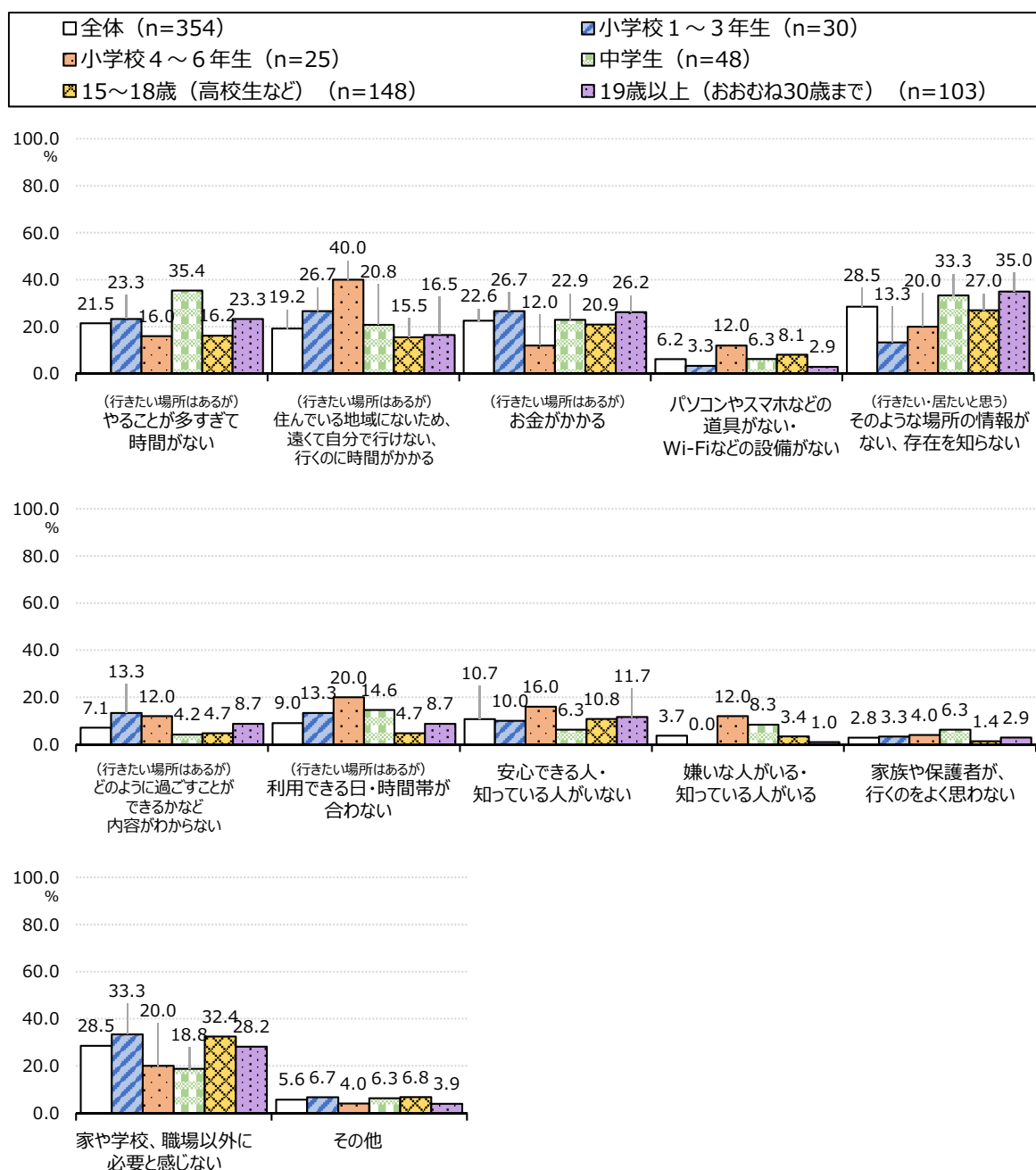
(※)「無回答」は参考値

オ 家・学校・職場以外の居場所がない理由（複数回答）

（３）－ウで、家・学校・職場以外に「居場所がない」と回答した人に対して、その理由を尋ねたところ、全体で「(行きたい・居たいと思う) そのような場所の情報がない、存在を知らない」及び「家や学校、職場以外に必要と感じない」が 28.5%と最多、次いで「(行きたい場所はあるが) お金がかかる」が 22.6%、「(行きたい場所はあるが) やることが多すぎて時間がない」が 21.5%となった。

年齢別の状況は図表 1－2－27 のとおりであった。

図表 1－2－27 家・学校・職場以外の居場所がない理由〔年齢別〕



	小学校 1～3年生		小学校 4～6年生		中学生		15～18歳 (高校生など)	
(行きたい場所はあるが) やるが多すぎて時間がない	7	23.3%	4	16.0%	17	35.4%	24	16.2%
(行きたい場所はあるが)住んでいる地域にないため、 遠くて自分で行けない・行くのに時間がかかる	8	26.7%	10	40.0%	10	20.8%	23	15.5%
(行きたい場所はあるが) お金がかかる	8	26.7%	3	12.0%	11	22.9%	31	20.9%
パソコンやスマホなどの道具がない、 Wi-Fiなどの設備がない	1	3.3%	3	12.0%	3	6.3%	12	8.1%
(行きたい・居たいと思う) そのような場所の 情報がない、存在を知らない	4	13.3%	5	20.0%	16	33.3%	40	27.0%
(行きたい場所はあるが) どのように 過ごすことができるのかなど内容がわからない	4	13.3%	3	12.0%	2	4.2%	7	4.7%
(行きたい場所はあるが) 利用できる日・時間帯が合わない	4	13.3%	5	20.0%	7	14.6%	7	4.7%
安心できる人、知っている人がいない	3	10.0%	4	16.0%	3	6.3%	16	10.8%
嫌いな人がいる・知っている人がいる	0	0.0%	3	12.0%	4	8.3%	5	3.4%
家族や保護者が、行くのをよく思わない	1	3.3%	1	4.0%	3	6.3%	2	1.4%
家や学校、職場以外に必要と感じない	10	33.3%	5	20.0%	9	18.8%	48	32.4%
その他	2	6.7%	1	4.0%	3	6.3%	10	6.8%

	19歳以上 (おおむね30歳まで)		全体	
(行きたい場所はあるが) やるが多すぎて時間がない	24	23.3%	76	21.5%
(行きたい場所はあるが)住んでいる地域にないため、 遠くて自分で行けない・行くのに時間がかかる	17	16.5%	68	19.2%
(行きたい場所はあるが) お金がかかる	27	26.2%	80	22.6%
パソコンやスマホなどの道具がない、 Wi-Fiなどの設備がない	3	2.9%	22	6.2%
(行きたい・居たいと思う) そのような場所の 情報がない、存在を知らない	36	35.0%	101	28.5%
(行きたい場所はあるが) どのように 過ごすことができるのかなど内容がわからない	9	8.7%	25	7.1%
(行きたい場所はあるが) 利用できる日・時間帯が合わない	9	8.7%	32	9.0%
安心できる人、知っている人がいない	12	11.7%	38	10.7%
嫌いな人がいる・知っている人がいる	1	1.0%	13	3.7%
家族や保護者が、行くのをよく思わない	3	2.9%	10	2.8%
家や学校、職場以外に必要と感じない	29	28.2%	101	28.5%
その他	4	3.9%	20	5.6%

↑年齢別の上位3つに網掛け

「その他」の主な回答

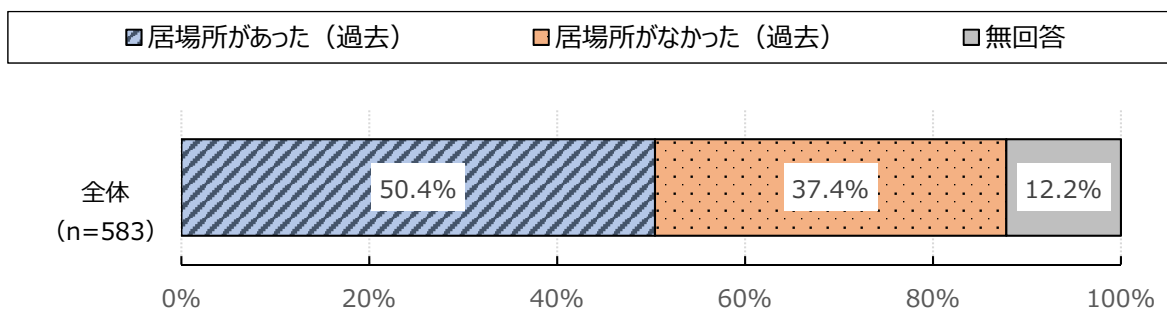
(参考) その他の主な回答	件数
ニーズや条件に合った居場所がない	3
居場所を探すまでの行動に移せない・億劫である	3
落ち着かない	1

（５）過去の居場所について

ア 小・中学生の頃の居場所の有無（単一回答）

15 歳以上の回答者に対して、自身が小学生から中学生の頃に、家・学校以外に居場所があったかを尋ねたところ、「居場所があった」が 50.4%、「居場所がなかった」が 37.4%であった。

図表 1－2－28 小・中学生の頃：家・学校以外の居場所の有無

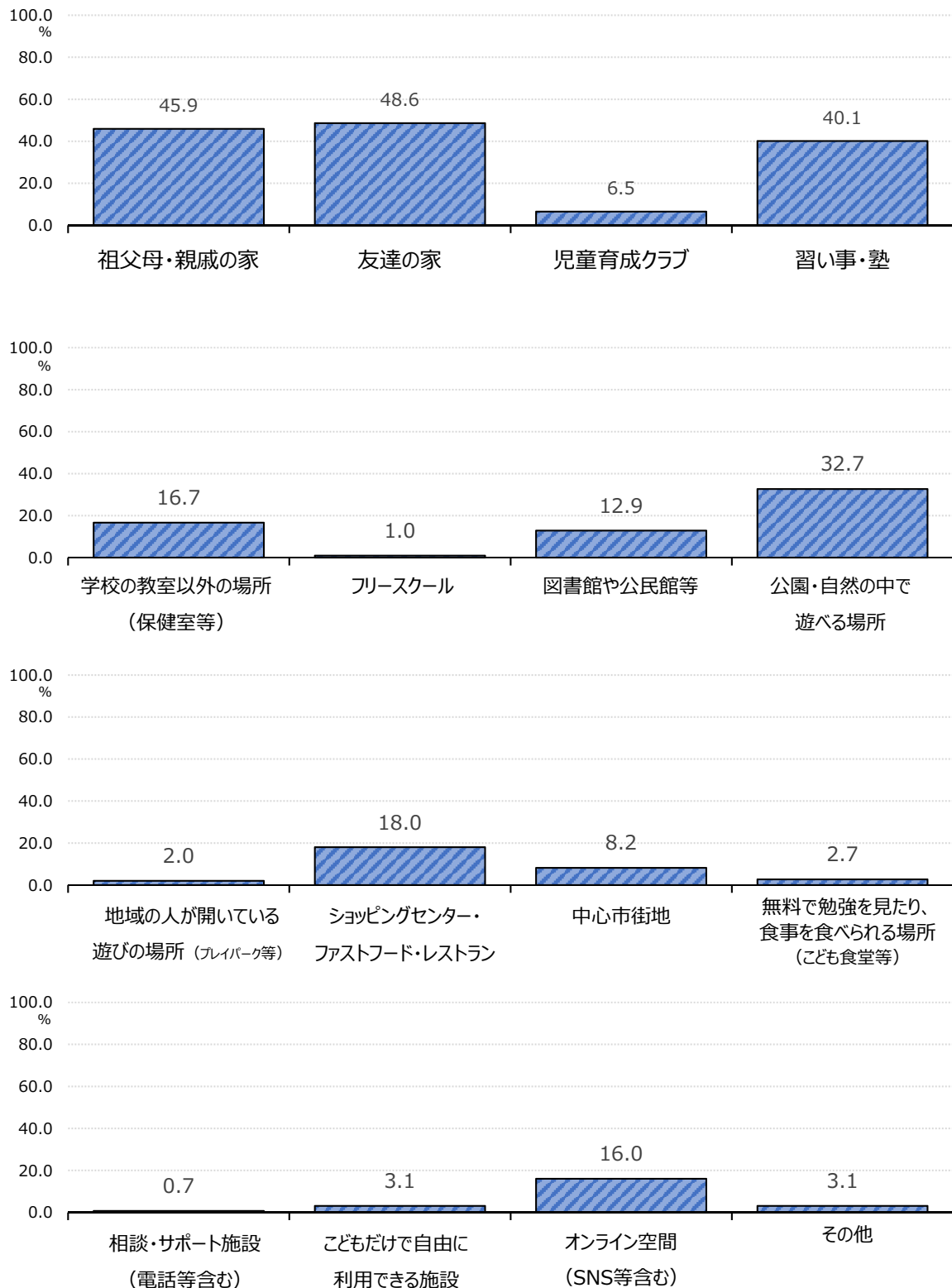


	居場所があった （過去）	居場所がなかった （過去）	無回答	計
回答数	294	218	71	583
割合	50.4%	37.4%	12.2%	100.0%

イ どこが居場所となっていたか（複数回答）

（５）－アで、「居場所があった」と回答した人に対して、その居場所がどこであったかを尋ねたところ、「友達の家」が48.6%と最多、次いで「祖父母・親戚の家」が45.9%、「習い事・塾」が40.1%となった。

図表 1－2－29 小・中学生の頃：どこが居場所となっていたか



	全体	
祖父母・親戚の家	135	45.9%
友達の家	143	48.6%
児童育成クラブ	19	6.5%
習い事・塾	118	40.1%
学校の教室以外の場所（保健室等）	49	16.7%
フリースクール	3	1.0%
図書館や公民館等	38	12.9%
公園・自然の中で遊べる場所	96	32.7%
地域の人が開いている遊びの場所（プレイパーク等）	6	2.0%
ショッピングセンター・レストラン・ファストフード等	53	18.0%
中心市街地	24	8.2%
無料で勉強を見たり、食事を食べられる場所（こども食堂等）	8	2.7%
相談・サポート施設（電話等含む）	2	0.7%
こどもだけで自由に利用できる施設	9	3.1%
オンライン空間（SNS 等）	47	16.0%
その他	9	3.1%

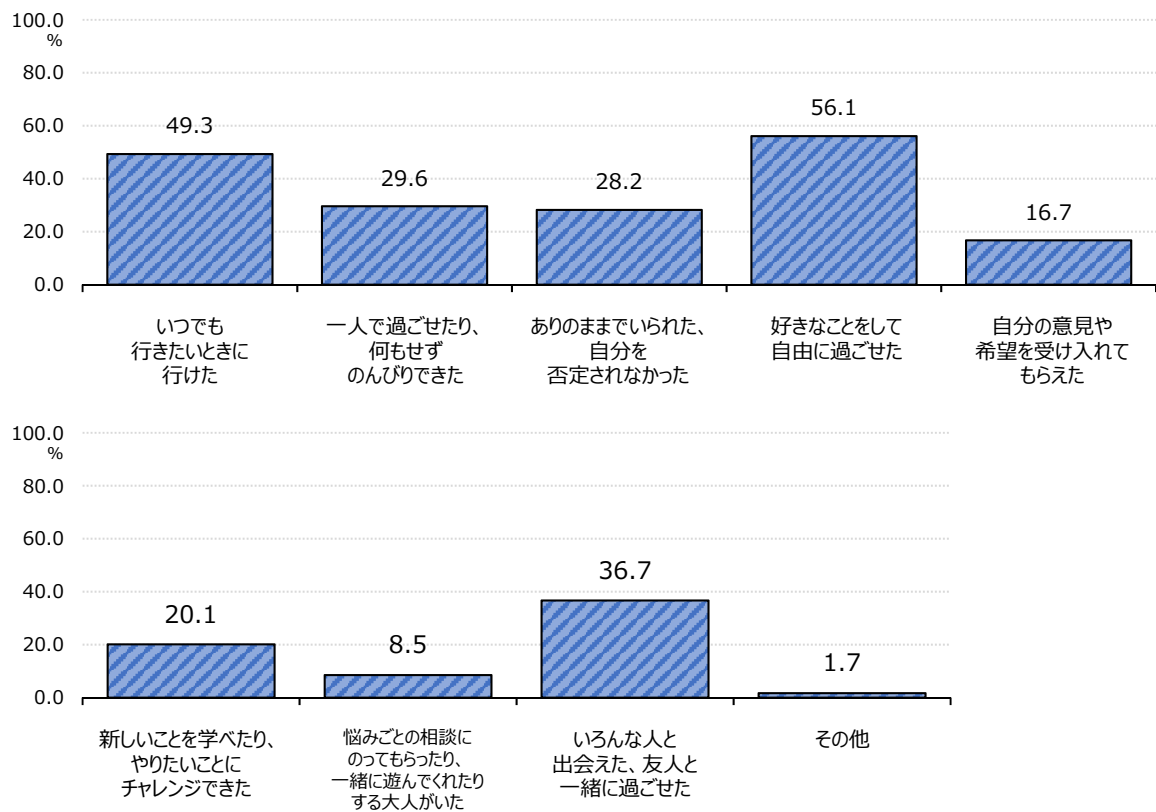
「その他」の主な回答

（参考）その他の主な回答	件数
放課後等デイサービス	3
駄菓子店などの店舗	2
自然環境	1

ウ 機能的にどのような居場所であったか（複数回答）

（５）－アで、「居場所があった」と回答した人に対して、その居場所が機能的にどのようなところであったかを尋ねたところ、「好きなことをして自由に過ごせた」が 56.1%と最多、次いで「いつでも行きたいときに行けた」が 49.3%、「いろいろな人と出会えた、友人と一緒に過ごせた」が 36.7%となった。

図表 １－２－３０ 小・中学生の頃：機能的にどのような居場所であったか



	全体	
いつでも行きたいときに行けた	145	49.3%
一人で過ごせたり、何もせずのんびりできた	87	29.6%
ありのままでいられた、自分を否定されなかった	83	28.2%
好きなことをして自由に過ごせた	165	56.1%
自分の意見や希望を受け入れてもらえた	49	16.7%
新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできた	59	20.1%
悩みごとの相談にのってもらったり、一緒に遊んでくれたりする大人がいた	25	8.5%
いろいろな人と出会えた、友人と一緒に過ごせた	108	36.7%
その他	5	1.7%

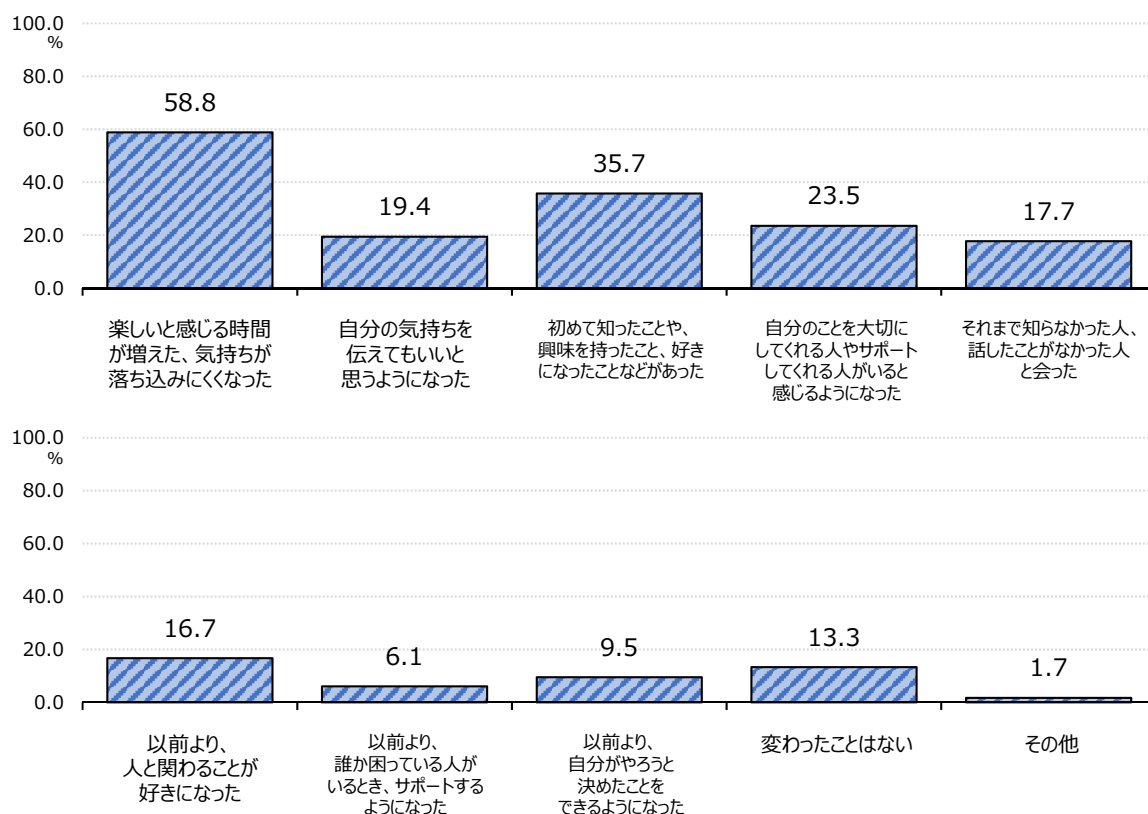
「その他」の主な回答

(参考) その他の主な回答	件数
楽しい場所であった	2
落ち着くことができる	1

エ 居場所利用による変化（複数回答）

（５）－アで、「居場所があった」と回答した人に対して、その居場所を利用するようになって変わったことを尋ねたところ、「楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった」が 58.8%と最多、次いで「初めて知ったことや、興味を持ったこと、好きになったことなどがあった」が 35.7%、「自分のことを大切にしてくれる人やサポートしてくれる人がいると感じるようになった」が 23.5%となった。

図表 １－２－３ １ 小・中学生の頃：居場所を利用したことによる変化



	全体	
楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった	173	58.8%
自分の気持ちを伝えてもいいと思うようになった	57	19.4%
初めて知ったことや、興味を持ったこと、好きになったことなどがあった	105	35.7%
自分のことを大切にしてくれる人やサポートしてくれる人がいると感じるようになった	69	23.5%
それまで知らなかった人、話したことがなかった人と会った	52	17.7%
以前より、人と関わるのが好きになった	49	16.7%
以前より、誰か困っている人がいるとき、サポートするようになった	18	6.1%
以前より、自分がやろうと決めたことをできるようになった	28	9.5%
変わったことはない	39	13.3%
その他	5	1.7%

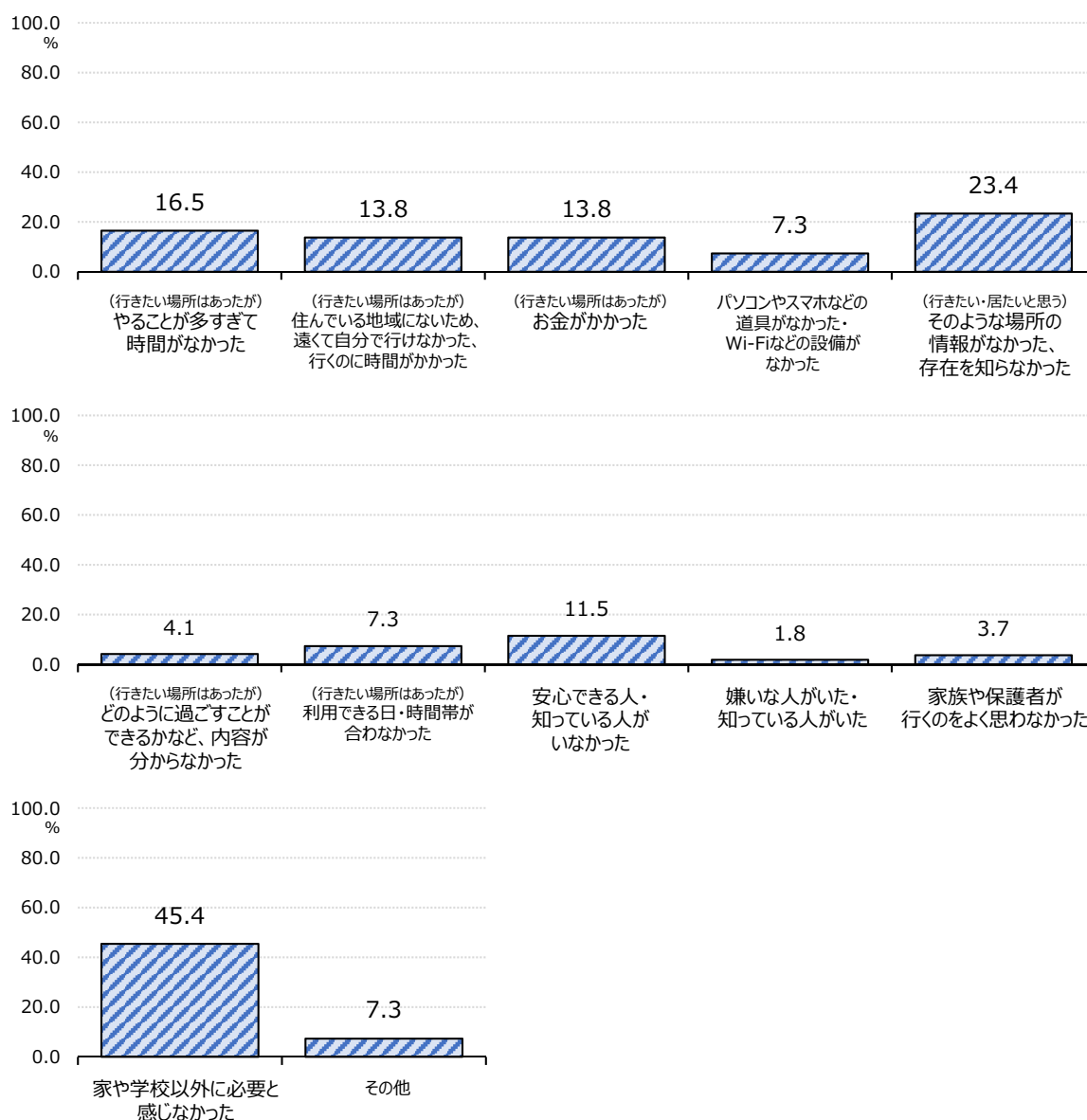
「その他」の主な回答

(参考) その他の主な回答	件数
社会参加ができた	1

オ 家・学校以外の居場所がなかった理由（複数回答）

（５）－アで、「居場所がなかった」と回答した人に対して、その理由を尋ねたところ、「家や学校以外に必要と感じなかった」が45.4%と最多、次いで「(行きたい・居たいと思う) そのような場所の情報がない、存在を知らなかった」が23.4%、「(行きたい場所はあったが) やることが多すぎて時間がなかった」が16.5%となった。

図表 1－2－3 2 小・中学生の頃：家・学校以外の居場所がなかった理由



	全体	
（行きたい場所があったが）やるが多すぎて時間がなかった	36	16.5%
（行きたい場所があったが）住んでいる地域にないため、遠くて自分で行けなかった・行くのに時間がかかった	30	13.8%
（行きたい場所があったが）お金がかかった	30	13.8%
パソコンやスマホなどの道具がなかった、Wi-Fi などの設備がなかった	16	7.3%
（行きたい・居たいと思う）そのような場所の情報がなかった、存在を知らなかった	51	23.4%
（行きたい場所があったが）どのように過ごすことができるのかなど内容がわからなかった	9	4.1%
（行きたい場所があったが）利用できる日・時間帯が合わなかった	16	7.3%
安心できる人、知っている人がいなかった	25	11.5%
嫌いな人がいた・知っている人がいたから行きたくなかった	4	1.8%
家族や保護者が、行くのをよく思わなかった	8	3.7%
家や学校以外に必要と感じなかった	99	45.4%
その他	16	7.3%

「その他」の主な回答

（参考）その他の主な回答	件数
家や学校以外の居場所のことを考えたことがなかった	3
居場所のことに関心がなかった	1

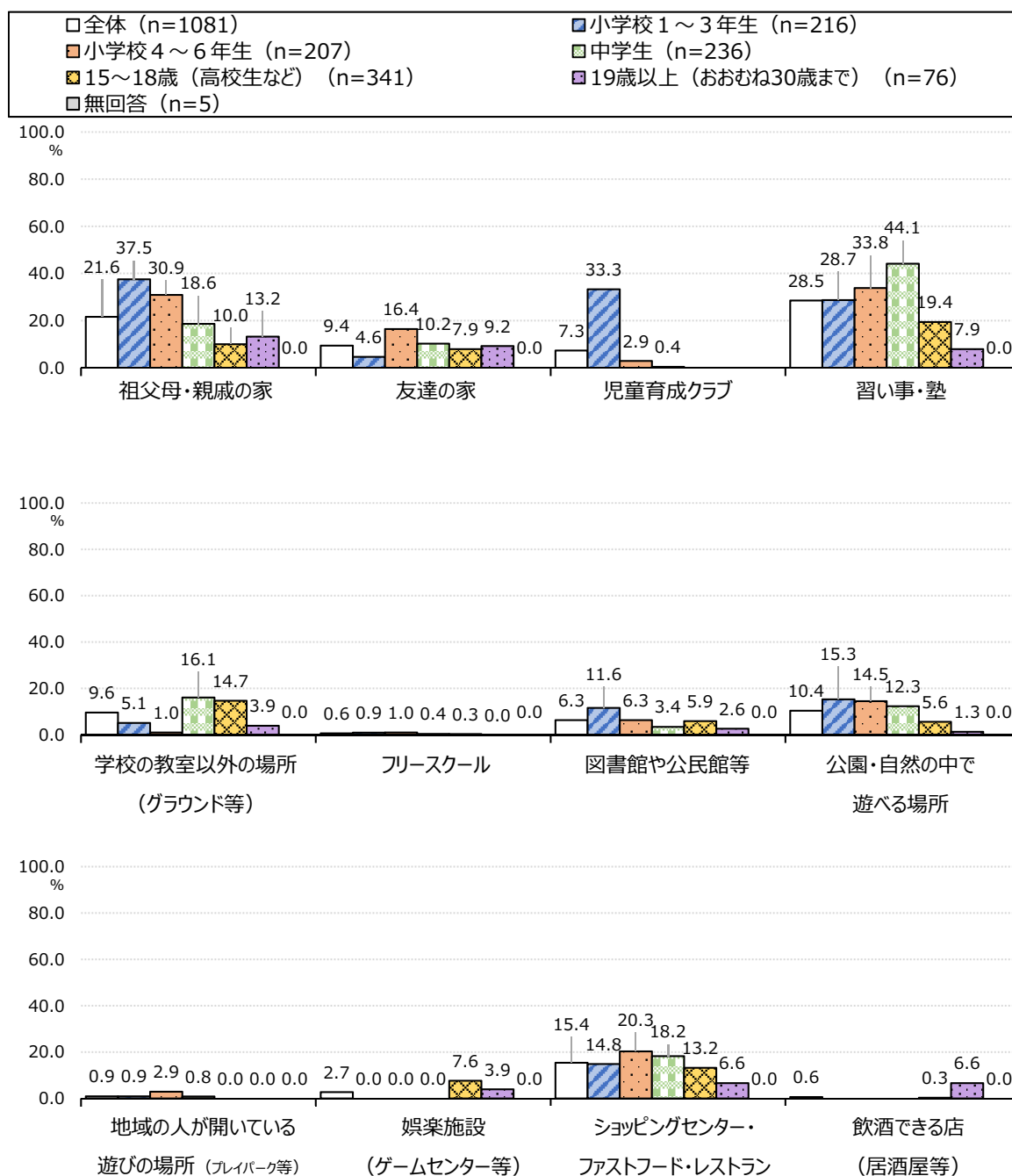
(6) 夏休み等の長期休暇中の居場所

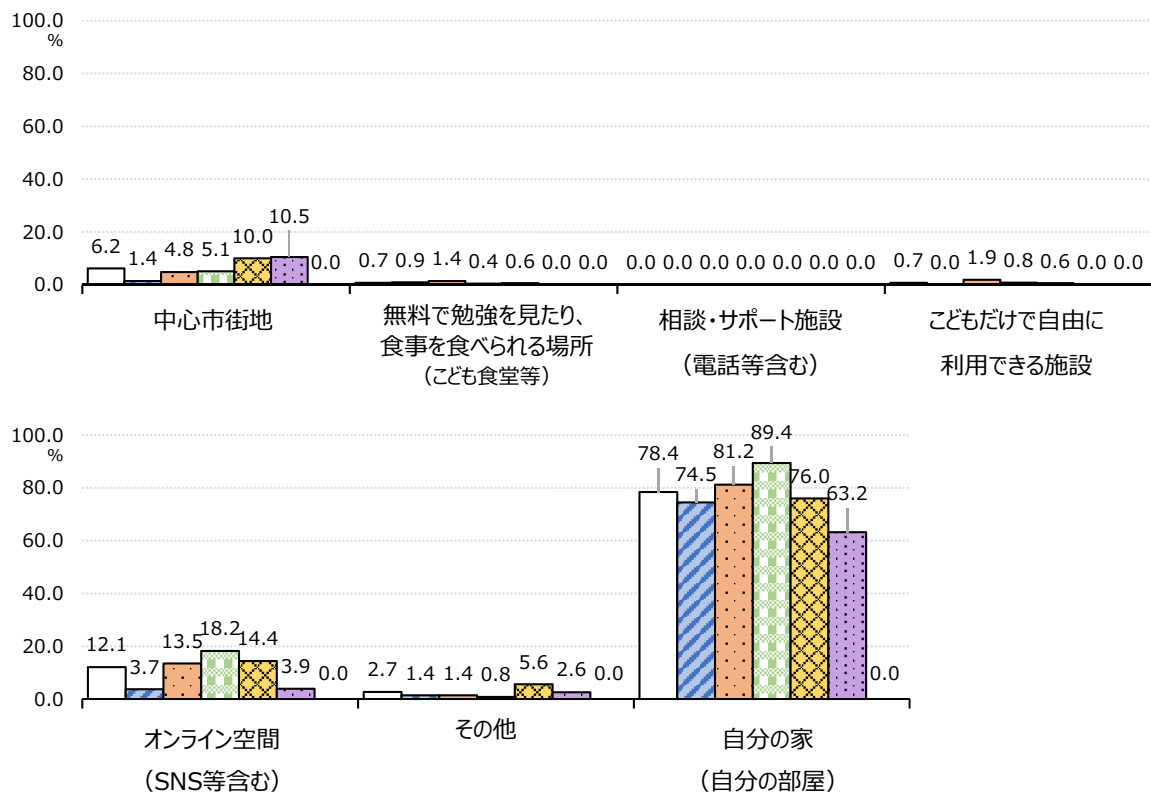
ア 夏休み等の長期休暇中の居場所（複数回答）

夏休み等の長期休暇中に、どのような居場所で過ごすことが多いかを尋ねたところ、全体で「自分の家」が78.4%と最多、次いで「習い事・塾」が28.5%、「祖父母・親戚の家」が21.6%となった。

年齢別の状況は、図表 1-2-33 のとおりであった。

図表 1-2-33 夏休み等の長期休暇中の居場所 [年齢別]





「その他」の主な回答

(参考) その他の主な回答	件数
放課後等デイサービス	8
アルバイト先	3

	小学校 1～3年生		小学校 4～6年生		中学生		15～18歳 (高校生など)		19歳以上 (おおむね30歳まで)		無回答 ^(※)		全体	
祖父母・親戚の家	81	37.5%	64	30.9%	44	18.6%	34	10.0%	10	13.2%	0	0.0%	233	21.6%
友達の家	10	4.6%	34	16.4%	24	10.2%	27	7.9%	7	9.2%	0	0.0%	102	9.4%
児童育成クラブ	72	33.3%	6	2.9%	1	0.4%	－	－	－	－	－	－	79	7.3%
習い事・塾	62	28.7%	70	33.8%	104	44.1%	66	19.4%	6	7.9%	0	0.0%	308	28.5%
学校の教室以外の場所（グラウンド等）	11	5.1%	2	1.0%	38	16.1%	50	14.7%	3	3.9%	0	0.0%	104	9.6%
フリースクール	2	0.9%	2	1.0%	1	0.4%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	6	0.6%
図書館や公民館等	25	11.6%	13	6.3%	8	3.4%	20	5.9%	2	2.6%	0	0.0%	68	6.3%
公園・自然の中で遊べる場所	33	15.3%	30	14.5%	29	12.3%	19	5.6%	1	1.3%	0	0.0%	112	10.4%
地域の人が開いている遊びの場所 （プレイパーク等）	2	0.9%	6	2.9%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	0.9%
娯楽施設（ゲームセンター等）	－	－	－	－	－	－	26	7.6%	3	3.9%	0	0.0%	29	2.7%
ショッピングセンター・レストラン・ ファストフード等	32	14.8%	42	20.3%	43	18.2%	45	13.2%	5	6.6%	0	0.0%	167	15.4%
飲酒できる店（居酒屋等）	－	－	－	－	－	－	1	0.3%	5	6.6%	0	0.0%	6	0.6%
中心市街地	3	1.4%	10	4.8%	12	5.1%	34	10.0%	8	10.5%	0	0.0%	67	6.2%
無料で勉強を見たり、食事を 食べられる場所（こども食堂等）	2	0.9%	3	1.4%	1	0.4%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	8	0.7%
相談・サポート施設（電話等含む）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
こどもだけで自由に利用できる施設	0	0.0%	4	1.9%	2	0.8%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	8	0.7%
オンライン空間（SNS等）	8	3.7%	28	13.5%	43	18.2%	49	14.4%	3	3.9%	0	0.0%	131	12.1%
その他	3	1.4%	3	1.4%	2	0.8%	19	5.6%	2	2.6%	0	0.0%	29	2.7%
自分の家（自分の部屋）	161	74.5%	168	81.2%	211	89.4%	259	76.0%	48	63.2%	0	0.0%	847	78.4%

↑年齢別の上位3つに網掛け

(※)「無回答」は参考値

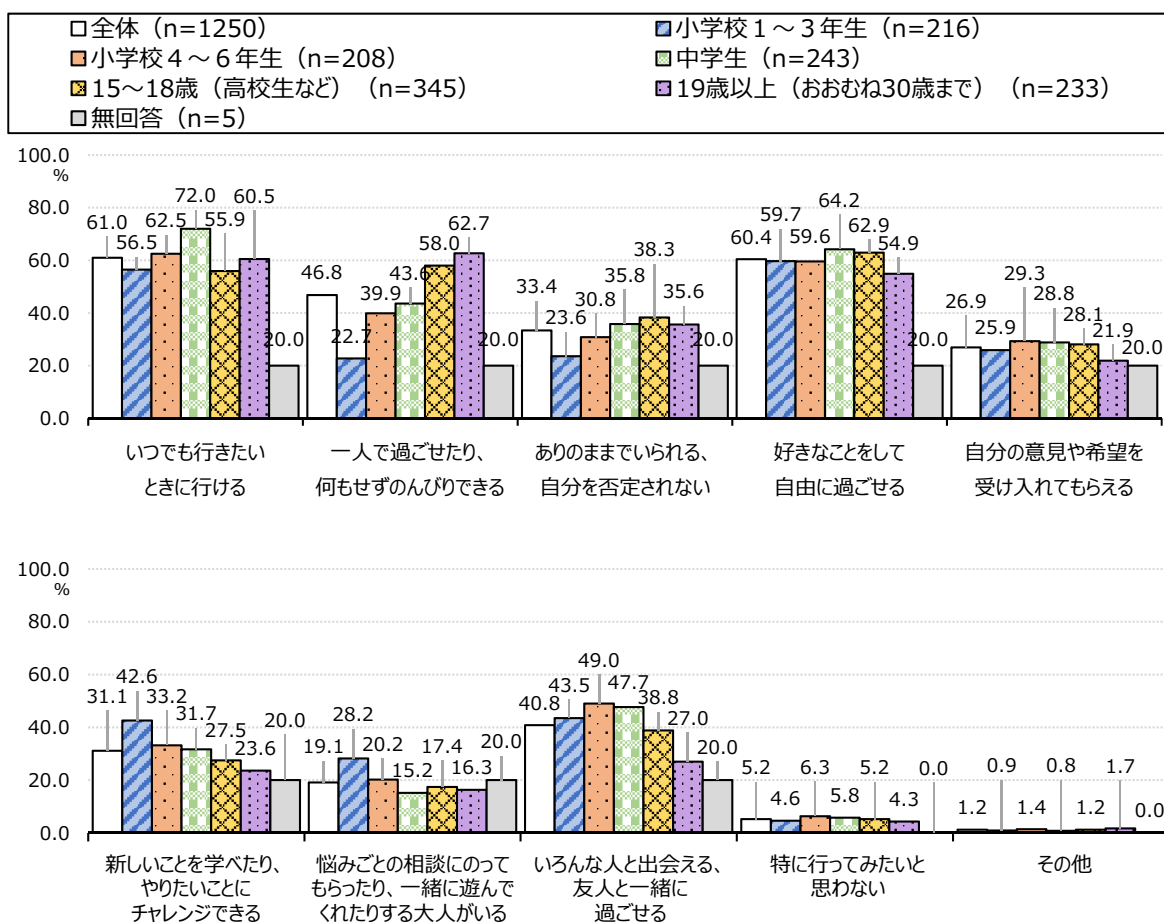
(7) 今後の居場所づくりに対する要望等

ア 今後の居場所に望むこと（複数回答）

どのような機能を有した居場所があれば行ってみたいかを尋ねたところ、全体で「いつでも行きたいときに行ける」が 61.0%と最多、次いで「好きなことをして自由に過ごせる」が 60.4%、「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」が 46.8%となった。

年齢別の状況は、図表 1-2-34 のとおりであった。

図表 1-2-34 居場所の機能として望むこと〔年齢別〕



「その他」の主な回答

(参考) その他の主な回答	件数
家族で過ごせる場所	1
気分によって合わせられること	1

	小学校 1～3年生		小学校 4～6年生		中学生		15～18歳 (高校生など)	
いつでも行きたいときに行ける	122	56.5%	130	62.5%	175	72.0%	193	55.9%
一人で過ごせたり、 何もせずのんびりできる	49	22.7%	83	39.9%	106	43.6%	200	58.0%
ありのままでいられる、 自分を否定されない	51	23.6%	64	30.8%	87	35.8%	132	38.3%
好きなことをして自由に過ごせる	129	59.7%	124	59.6%	156	64.2%	217	62.9%
自分の意見や希望を受け入れてもらえる	56	25.9%	61	29.3%	70	28.8%	97	28.1%
新しいことを学べたり、 やりたいことにチャレンジできる	92	42.6%	69	33.2%	77	31.7%	95	27.5%
悩みごとの相談にのってもらったり、 一緒に遊んでくれたりする大人がいる	61	28.2%	42	20.2%	37	15.2%	60	17.4%
いろんな人と出会える、 友人と一緒に過ごせる	94	43.5%	102	49.0%	116	47.7%	134	38.8%
特に行ってみたいとは思わない	10	4.6%	13	6.3%	14	5.8%	18	5.2%
その他	2	0.9%	3	1.4%	2	0.8%	4	1.2%

	19歳以上 (おおむね30歳まで)		無回答(※)		全体	
いつでも行きたいときに行ける	141	60.5%	1	20.0%	762	61.0%
一人で過ごせたり、 何もせずのんびりできる	146	62.7%	1	20.0%	585	46.8%
ありのままでいられる、 自分を否定されない	83	35.6%	1	20.0%	418	33.4%
好きなことをして自由に過ごせる	128	54.9%	1	20.0%	755	60.4%
自分の意見や希望を受け入れてもらえる	51	21.9%	1	20.0%	336	26.9%
新しいことを学べたり、 やりたいことにチャレンジできる	55	23.6%	1	20.0%	389	31.1%
悩みごとの相談にのってもらったり、 一緒に遊んでくれたりする大人がいる	38	16.3%	1	20.0%	239	19.1%
いろんな人と出会える、 友人と一緒に過ごせる	63	27.0%	1	20.0%	510	40.8%
特に行ってみたいとは思わない	10	4.3%	0	0.0%	65	5.2%
その他	4	1.7%	0	0.0%	15	1.2%

↑年齢別の上位3つに網掛け

(※)「無回答」は参考値

イ 自由意見（自由記述）

居場所に関する意見や要望等を求めたところ、以下のような意見が寄せられた。

主な内容	件数
施設の増設や改修などについての意見・要望	72
運動施設（プールや体育館等）	21
図書館	10
公園	10
店舗等の民間施設	11
その他の施設全般	20
居場所での活動内容についての意見・要望	58
遊びができる	25
自習など学習ができる	22
好きなことができる	7
日頃できない体験ができる	3
飲食物が提供される	1
居場所での過ごし方についての意見・要望	29
他の人と交流ができる	11
ひとりで過ごすことができる	6
落ち着いて過ごすことができる	5
自由に過ごすことができる	4
楽しく過ごすことができる	3
居場所の運営についての意見・要望	19
運営体制・安全の確保	1
実施時間・アクセス	11
利用料金	3
使用上のルール	3
提供されるサービス	1
学校・児童育成クラブ等についての意見・要望	8
学校施設の利活用に関する意見	3
部活動の運営に関する意見	0
その他学校教育に関する意見	0
児童育成クラブの利用に関する意見	5
フリースクールなど外部機関の利用に関する意見	0
こどもの居場所についての全般的意見・要望	8
こどもの預かりに関する意見	0
こどもの居場所づくりに関する意見	8

小学生：近くの公園・プール・図書館などの広い遊び場・施設で、のびのびと自由に遊びたいというような意見が見られた。

[illegible]

年代	テキストマイニングの結果
中学生	出所：ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析 (https://textmining.userlocal.jp/)

64

「自習室」「図書館」等で「勉強」「自習」をしたいという意見や、「無料」で利用できる「空間」「スペース」を望む声、また、「静か」「集中」「伸ばす」「辛い」「気持ち」「寄り添う」なども、小中学生ではあまり見られなかった高校生ならではのワードである。

19 歳以上：勉強や遊び等に関するワードが目立たなくなり、明確な目的をもって居場所を利用するというよりも、「考える」「過ごす」など、自分の時間を過ごすために居場所を利用するというような意見が目立っていた。

また、「すみません」「きつい」「ひきこもる」「沈む」などのネガティブなワードも、19 歳以上の特徴として挙げられる。

(※) 「19 歳以上」は参考 (n=15)

個々の回答内容は、以下のとおりである。

なお、同一の回答内容は、適宜整理しているため、件数と回答内容の数は、必ずしも一致しない。また、誤記と思われる表記について、補正している。

施設の増設や改修などについての意見・要望

■運動施設（プールや体育館等）

無料で使うことが出来るバスケットコートがある公園などがあったらいいなと思う

公共交通機関で行きやすい場所(中心市街地等)に、こどもや大人の行きやすい居場所があれば、市民の満足度も高まると考えています。個人的には、中心市街地に、スポーツのできる施設(室内の体育館や屋外のコート)が必要だと思っています。

集中して過ごせる場所、楽しくスポーツなどの活動ができる場所。

近くにバスケの練習が出来る所があればいいな。

ひろくておもいっきりボールであそべる巨大な体育館みたいなところ

プールで泳げたり遊べたりできる所

行きやすいプールを、増やしてほしい。

サッカーができる芝生のところがほしい

地方中枢都市(福岡)などには市民プールなどがあるけど熊本市中心にはあまりないこと。旧市民病院跡地が今の子供などが使いやすい、訪れやすい場所があったら嬉しいな。あと公共交通機関の普及が遅れていて渋滞が政令指定都市の中でひどいこと。

フリーバスケットコート
みんな使えるジム

スポーツ施設やカフェ、本を読んだり一人でも、みんなでも過ごせる場所

僕が住んでいる地域ではボール遊びを公園でできないので学校ですようになっています。

でも、僕の家から学校までかなり遠くてあまり行く気になれないのでなかなか自主練習が簡単にはできないので家から近くて、サッカーがしっかりできる施設みたいなのが欲しいです。

ボールを蹴れたり、自転車に乗れる場所

広い野球ができる公園

ダンスの練習するところがもう少し大きかったらいいです。

嘉島の天然プールにウォータースライダーがあったらいいなと思います。

体育館にクーラーをつけて欲しい

■図書館

歩いて行けるとところにいつでも行ける図書館があってほしい

子ども達がもっと自由に出入りできる施設(図書館など)が増えると良い

クーラーがよく効く、勉強ができる図書館が増えて欲しい

図書館が近くにあったらいいなあ。
海が近くにあったらいいなあ。

お金がかからず、静かにのんびり過ごすことのできる、図書館やカフェ（ドリンクやフードなど無償もしくは低額）など身近なところに増えるといいなと思います。

本がいっぱいあって、秘密基地のような感じで、自分の好きなことができる場所

■公園

近くの公園の遊具が増えて欲しい

公園の整備が整ってなく、遊びにくくなったり遊具が撤去されていたりするので新しい遊具を設置してほしい

もっと元気のいい中高生が遊べる自然や公園を増やして欲しいです。普通の公園だと小学生や小さい子もいるため元気いっぱい遊べないからです。

公園に屋根があってほしい

もっとたくさんの公園を広くしたりしてもっとたくさんの人が遊べるようになったらいいと思いました。

■店舗等の民間施設

立田山に店がほしい。

コンビニがあった時、そこで話したりして楽しかったし、地域の人とも関わる機会が多かった。

交通費を安くして欲しい（特にバス）
駅で室内で待機できる場所がほしい（寒かったり暑すぎるから）
サクラマチとかアミュプラザみたいに大きめの施設をもっと増やして欲しい
子供だけで行っていような所を増やして欲しい
室内で涼しく楽しめる施設が欲しい
値段が安く美味しいご飯屋さんやスイーツ店がほしい
安い洋服屋がほしい
メイク道具が安い店がほしい
近場とかで祭りができたり花火大会をするだけの広場がほしい
友達との思い出を作るために写真を撮るだけのスポットがほしい
サクラマチがもっと涼しくなって欲しい
プリクラだけある施設を増やして欲しい
子供が熱中症にならず遊べる施設がほしい
大人も全力で楽しめる施設が欲しい
小学生が楽しめる校区内の場所を増やして欲しい
放課後等デイサービスがもっといろんな人がこれるような場所になってほしい。弟たちや友達と通えるといいとおもう
近所や校区にスーパーなどもう少し人が集まる場所を作って欲しいです。
もう少しショッピングモールやスポーツ施設を充実させてほしい
子供も行けるようなお店
もっといろんなものが買える店がもっと近くにあるといいです。
K-POP ショップを増やして欲しい
駄菓子屋が増えて欲しい
友達と一緒に遊べる温泉付きの広い部屋がほしい。
キャラクターショップ
■その他の施設全般
自分1人でのびのびと過ごすことができるバイクで行くことができる過ごしやすい景色のいいところに行きたいです。
自分たちしか知らない場所があったら便利だろうし楽しそう！
安いフィギュアがいっぱいある所があったらいいなと思う

家の周りが緑になったらいい
めあての物が全部ある
暑すぎるので扇風機がほしい
中世ヨーロッパみたいな町並みがあったら嬉しい
公共施設
ベンチを増やして欲しい
都市開発をお願いしたい
もっと自然に囲まれた公園
ロアッソの新スタジアム
ライブなどを開催できる大きなホールを用意して欲しい
公共交通機関の本数の不備
小・中学生でも気軽に利用できるように、できるだけお金をかけずに、かつ楽しめるような環境を整えてあげてください。
どちらを叶えることは難しいですが、そのような環境や素敵な大人に出会うことは、その子たちにとって、とても良い大きな影響を与えます。
トイレが綺麗
サイクリングロードをつくってください。（ゆうかファミリーロード以外）
近くにじどうかんがほしい
漫画ミュージアム
居場所での活動内容についての意見・要望
■遊びができる
無料でできるクレーンゲーム
おもちゃがあるルールがない自由なところ
色んなゲーム機やその中にあるゲームが自由にできる場所が欲しい
もっといろいろなあそびをやってほしい
みんなと一緒にゲームができる場所が欲しいです
色々遊べる道具があって、いっぱい友達ができる場所
室内で安心して遊べる場所
公民館など室内でいつでも遊べる場所を増やしてほしい。
ゲームができて、お菓子が食べられる場所
自転車などで行ける距離で、リラックススペースで、芝生の寝転べる、友達とも長い時

間遊べる、ルールはあるけど、自由に楽しめる場所があったらいいなと思う。
家の近くに広くて遊べる所がほしい
秘密基地 友達と遊べる場所
ゲームがたくさんあるばしょ
雨の時でも友達と遊べる施設が欲しい
少し成長した子供も気軽に遊べる施設が欲しい。
夏休みは暑くて公園に行けないからかわりに遊べる場所があったらいいな
すきなおもちゃやゲームがいつでもできる ケンカがなくて、自由に遊べる場所。
誰でも無料で遊べる室内の遊び場
お金を使わないでできるゲームの機械がある場所があったら楽しい。 仕事やスポーツの無料体験ができる場所があったら楽しい。
■自習など学習ができる
公的な自習スペースを増やしてください。 それが私の心の拠り所です。
無料で勉強したり、のんびり過ごしたりできる空間が欲しい。
静かに勉強をできるスペースを市内にもっと増やしてほしい。
勉強ができるような場所や信頼できるような人たちや自分と似た人たちがいるような場所
気軽に行けて勉強出来る場所があったらいいです。
長期休みの際など近くの公民館などすぐに行ける場所で、勉強ができるようになればいいなと思います。
高校生のための自習室をサクラマチなどの中心部に作ってほしい 図書館が中心部に無いため、小規模でもいいので作ってほしい
自由に無料で勉強できる場所を各区に設置してほしい
部活帰り(20時～)でも勉強ができる場所が欲しいです。 ちょっとした個室とかがあれば着替えに使える。

勉強を教えてくれる。歴史のことや理科の実験とか。
コンビニと隣接する広い公園、友達と教え合える学習スペース（多少話せる、図書館は教えにくい）
子供だけで手軽に行けるとところにリラックスできる空間や塾に行っていない人などが集中して勉強できる場所があったらいいと思いました
■好きなことができる
自由に絵を描ける場所
やりたいことをみんなでやれるところ
私は工作が好きなのでよく自分の部屋ですることがあるのですが、親[お父さん]が何してるの?とかクーラー代がかかるだろとか言ってきて自分の時間が作れなくて、楽しくないです自分の親が厳しいので勉強しなさいとか、私は英語を一歳九ヶ月から習っているので英検五級持っていて次4級を受けるのですがその勉強などで忙しいです。 なので百均などなかなかいけなないので行きたいです。 自分一人でゆっくり工作がしたいと思っています♪
自分が好きな事を好きなだけできるといいな（絵を書くなど）
自分のやりたいことにチャレンジできる場所があったらいい。
自分の夢を叶える事をサポートしてくれる場所があればと思いました。
■日頃できない体験ができる
貴重な経験ができる場所
地域のイベントや、お友だちとのお泊まり会ができるところがあったら楽しいと思う
変わった遊具のあるところ ケーキ屋さんの体験ができるところ とのことです。
■飲食物が提供される
お菓子がいっぱいあったらいいな
居場所での過ごし方についての意見・要望
■他の人と交流ができる
色んな人と交流できるところ

誰とでも話せて、だれとでも友達になれる場所
好きな空間で自分を見せつけて、自分に共感してくれる人と好きなことを追い求められる場所があればいいなと思います。
もっと人と関わりたいから、自分と趣味が似ている人や、人と自由なことを話せるような SNS と現実のところにあった方がいいな甘いものがもっとあるところを知りたい
友達の名前を覚えたからいつでも遊べるようになりたい 家族の仕事を減らして一緒に過ごしたい
今日休んだら、のような考えに至ることなく気軽にいけるような温かい人が集まる場所があったらいいと思う
進路の相談や悩み事に乗ってくれるような場所が欲しいです
悩みとかがあったら話を聞いてくれたり、そのことを秘密にしてくれるところが学校の近くにあったらいいなと思う。
みんなの話を聞いてくれる場所。
大学生の頃、ひきこもりの方の支援ボランティアをしていました。 熊本でもそういうボランティアがあれば参加したいです。
じゆうでいつでも行けるばしょでだれかがたすけてくれるばしょ
私のことを受け入れてくれて辛いときに親身に寄り添ってくれる場所が欲しい。それがネットでもいいので。自ら命を絶つことだけはしたくない気がするから。難しければ大丈夫です。自分の気持ちに寄り添ってもらえた気がして嬉しかった。ありがとうございました。
■ひとりで過ごすことができる
1 人部屋があったらいいなと思う。
1 人で行きやすい空間 静かな時間が欲しい
個室でのんびりしたい 人がいる空間が苦手
■落ち着いた過ごすことができる
のんびりと過ごせるところ、居ていてストレスが解消されるところ
誰でも安らげたり癒される空間が欲しい。

気軽に立ち寄ることができる、いると落ち着く場所があったらいいと思います。
■自由に過ごすことができる
素の自分でいられて、不自由がないところ。
自由になれる場所 楽になれる場所
■楽しく過ごすことができる
楽しい場所になったらいいです。
大人も子どもも一緒に楽しく居れる場所
居場所の運営についての意見・要望
■運営体制・安全の確保
いじめがないところ、なにをしてもおこられないところ、(だれかがおこられるとじぶんもおこられる気持ちになるから)
■実施時間・アクセス
24 時間楽しめる場所をください
子供だけで行ける場所
いつでも気軽に行ける場所
学校や塾への移動がとても快適になるので市民病院前くらいまで市電を伸ばして欲しい
少し遠いところへ 1 人でバスや電車などに乗っておばあちゃんの家へ行けたらいいな。 いつも、行っている場所が自由に遊べるようになってほしい。
地域の小さな公園や江津湖の広木公園のような大きい公園も夜中開けといっても良いと思う。 最近は日が出てから落ちるまでは簡単に外で遊べない暑さになっていると思う。そうになったら日の沈んだあとに遊べる場所を作ったがいいと思うからだ。
夜の道が暗いので、明るくして 1 人でも行きやすくしてほしい
気楽に行けるようになってほしい
図書館の開館時間を伸ばしてほしい
学校がお休みの日にいつでも行けていつでもひとがいるばしょ。
■使用上のルール
公園をただ単に作り子供の遊び場が無くなっていると思う。また、ボールを使ってはいけないや花火をしてはいけないなどの禁止があり子供は家にいることが多くなったと感じ

ていた。

父から昔は虫取りなどに遠くまで皆で行ってたと聞いた。しかし、私は虫を触ることすらできない。なにが良くてなにが悪いのかはわからないが子どもの楽しみを奪っているのは大人の与える環境なのかもしれないと私は考える。まあ、ゲームは楽しい。

あまり細かいルールがないところがあっていいなと思います。

習い事の場所などの場所は、休憩時間を増やしてほしい

もっと公園でボール遊びができるようにしてほしい。

■利用料金

お金がかからなくても、楽しい事ができるところが欲しい。

いろんな人が無料で使える施設があると思う

■提供されるサービス

いつも行ってるお店にサービスが欲しい

利用する（その場に行く、その場で過ごす、その場から帰る）ことへのハードルが低い、誰もが安心して（心身ともにリラックスした状態で）利用できる居場所を整備してほしいです。

税金を利用する以上、性別や年齢層等によって利用者の棲み分けは必要になるかもしれませんが、一部の人が恩恵を受けられるような政策にはしないでもらいたいです。

学校・児童育成クラブ等への要望

■学校施設の利活用に関する意見

学校に一人で入れる誰でも入れる静かで誰もいない場所があると嬉しいな

夏休みも、学校の図書館に行きたい

（美里町の友人の小学校が夏休み期間中、図書館を開放されている話を聞いて羨ましいと言っていました）

いつも学校で嫌なことがあったりした時は保健室に行っているが、保健室に行ったことが友達に知られて「〇〇保健室行ってたよ笑」などと言われるのがいや。（陰で言われてそれで怖い）

↓

保健室だけでなく他の空き教室など、人目を気にせずに相談する場がほしい。

■児童育成クラブの利用に関する意見

育成にいきたー——————
——————
——————い

いくせいがもっとたのしくなったらいいな。

学童の先生が、もう少し遊んでほしい

いくせいがひろくなったらうれしい。

育成クラブでもう少し遊び道具があればいいと思う。

高学年だけで博物館とかに行けたらいいなと思う。

こどもの居場所についての全般的意見

■こどもの居場所づくりに関する意見

公園の設備をもっと整えて欲しい

飲食店で、長居しても良いのかどうかを各店ごとに明記して欲しい

誰かと一切関わりたくない時間がある人間もいることを理解して欲しいと感じる

両親はとても良い親なのですが、親同士での価値観の違いなどで自分の気持ちが左右されるのが少し辛い。

親同士で言い合いをする事は無いが、自分が顔色を伺いすぎてしまう癖があり、家にいるのが嫌な時が少しある。

同じ趣味嗜好を持つ子供のコミュニティを市などが作り、自分の趣味嗜好を肯定してもらえる場所があれば、救われる子どももいるのではないかな。

また、なるべく大人の監視や制御がない方が、のびのびできると考える。もちろんいじめが起こらないように、大人の介入が必要だとは思う。

両親が忙しさが減り、疲れていなくて、休みがあり、お金があり、大人が私のやりたい事や好きな事や頑張ったら上手になれることを、嬉しい、知りたい、と思い話を聞いたり応援して欲しい。

贅沢言わない、こっちは何もできない、疲れ果てた、お金が無い、感謝が足りない、我慢して、と親や身近な大人が言わなくていいように、お金や時間をサポートして欲しい

「親の現代に合っていない（古くさい）考え方のせいで自分らしく生きれない」という意見を持つ友達がいたので、親と離れられる居場所を作ったり、親の考え方そのものを変

えるような取り組みをしたりしていただけると幸いです。

家での居場所を作るために親に向けた子育てセミナーみたいなものを開いて欲しい。スキルのものではなくて、心構えや子供の気持ちなど子供目線のセミナーができると良い。

自分は今社会人として働いている 20 代前半男です。

男のくせに。や、自分のキャラクターなど

周りの事を意識してしまうため、周りには本当のことを打ち明けられずにこれまでずっと溜め込んできました。

相談していいよという人はいるものの、その人の方がきつかったり、自分よりきつい人なんて幾多もいると考えるため誰にも相談できていません。

すみません、ここに書くべきことではないですね。またこれも、誰も読んでくれないので時間の無駄でしたね。すみません。すみません。

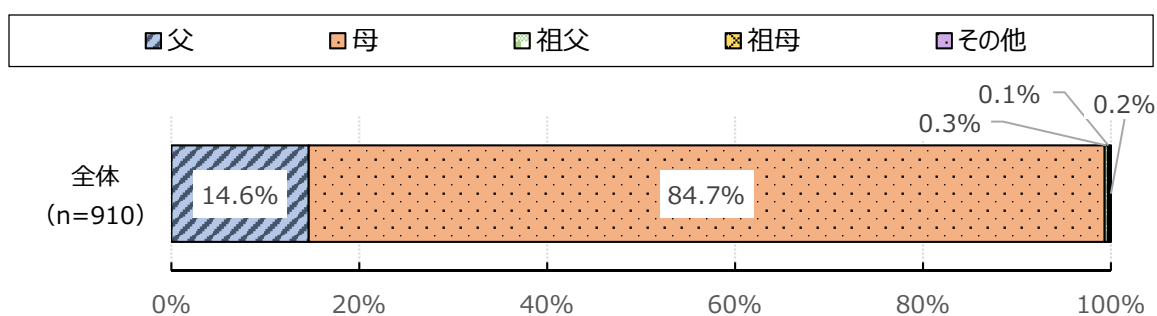
3 保護者向けアンケート調査結果

(1) 回答者の属性

ア 続柄

調査対象である子どもからみた回答者の続柄は、「父」が 14.6%、「母」が 84.7%、「祖父」が 0.3%、「祖母」が 0.1%、「その他」が 0.2%であった。

図表 1-3-1 調査対象者から見た回答者の続柄

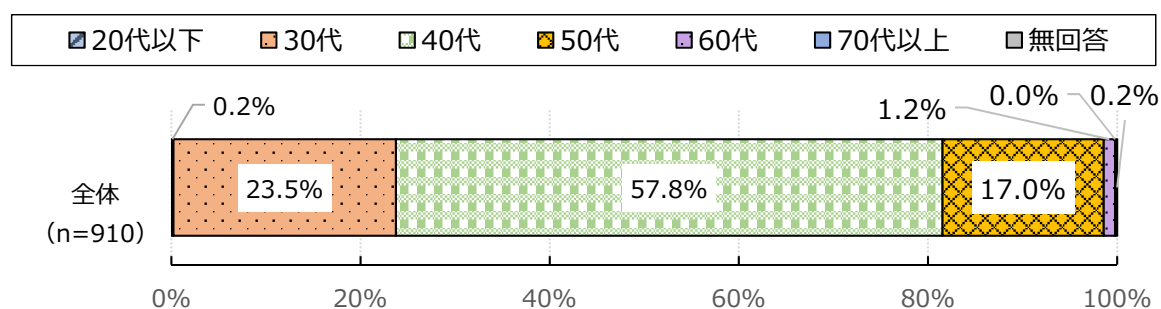


	父	母	祖父	祖母	その他	計
回答数	133	771	3	1	2	910
割合	14.6%	84.7%	0.3%	0.1%	0.2%	100.0%

イ 年齢

回答者の年齢は、「20 代以下」が 0.2%、「30 代」が 23.5%、「40 代」が 57.8%、「50 代」が 17.0%、「60 代」が 1.2%であった。

図表 1-3-2 回答者の年齢

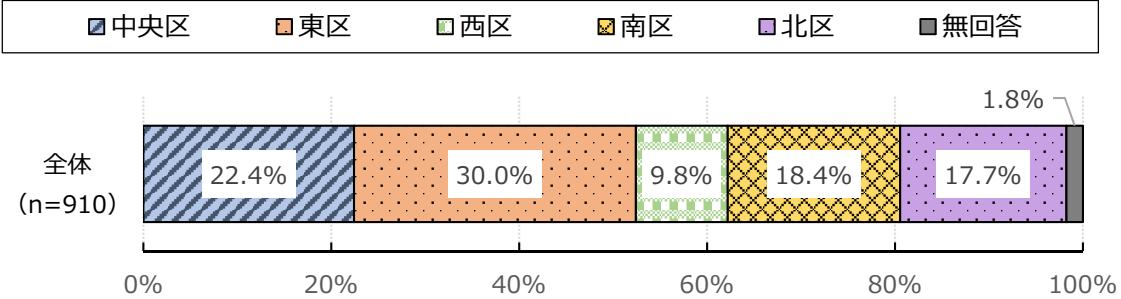


	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	無回答	計
回答数	2	214	526	155	11	0	2	910
割合	0.2%	23.5%	57.8%	17.0%	1.2%	0.0%	0.2%	100.0%

ウ 居住区

回答者の居住区は、「中央区」が 22.4%、「東区」が 30.0%、「西区」が 9.8%、「南区」が 18.4%、「北区」が 17.7%であった。

図表 1－3－3 居住区

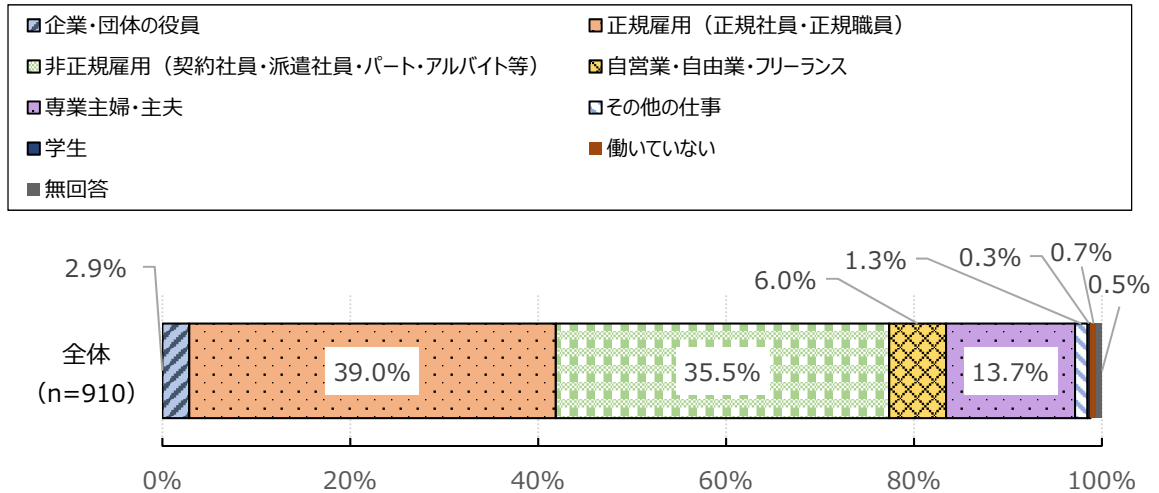


	中央区	東区	西区	南区	北区	無回答	計
回答数	204	273	89	167	161	16	910
割合	22.4%	30.0%	9.8%	18.4%	17.7%	1.8%	100%

エ 就業形態

回答者の就業形態は、「正規雇用（正規社員・正規職員）」が 39.0%と最多、次いで「非正規雇用（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）」が 35.5%、「専業主婦・主夫」が 13.7%であった。

図表 1－3－4 回答者の就業形態

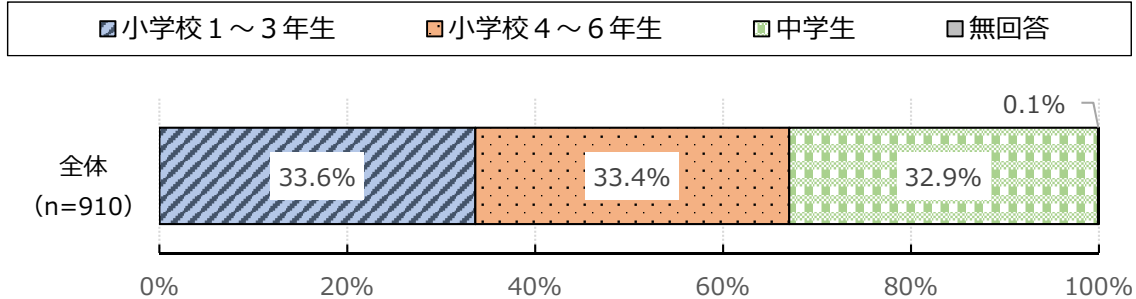


	企業等の役員	正規雇用	非正規雇用	自営業等	専業主婦・主夫
回答数	26	355	323	55	125
割合	2.9%	39.0%	35.5%	6.0%	13.7%
	その他の仕事	学生	働いていない	無回答	計
回答数	12	3	6	5	910
割合	1.3%	0.3%	0.7%	0.5%	100.0%

オ 子（調査対象者）の年齢

調査対象であるこどもの年齢は、「小学校 1 ～ 3 年生」が 33.6%、「小学校 4 ～ 6 年生」が 33.4%、「中学生」が 32.9%であった。

図表 1－3－5 子（調査対象者）の年齢

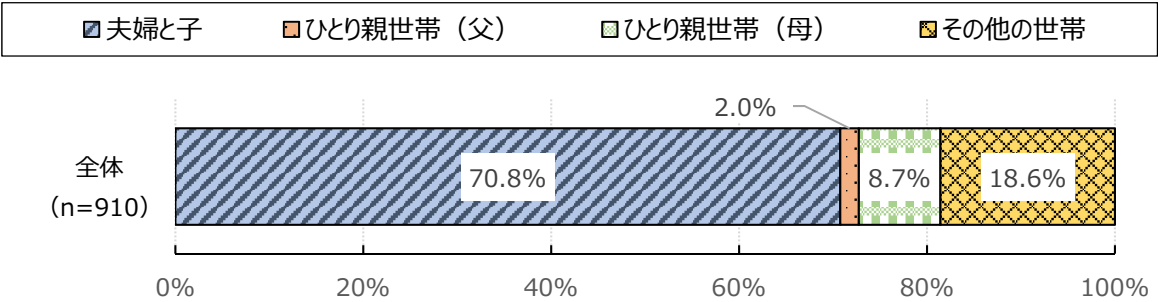


	小学校 1 ～ 3 年生	小学校 4 ～ 6 年生	中学生	無回答	計
回答数	306	304	299	1	910
割合	33.6%	33.4%	32.9%	0.1%	100.0%

カ 世帯状況

回答者の世帯状況は、「夫婦と子」が 70.8%、「ひとり親世帯（父）」が 2.0%、「ひとり親世帯（母）」が 8.7%、「その他の世帯」が 18.6%であった。

図表 1－3－6 世帯状況

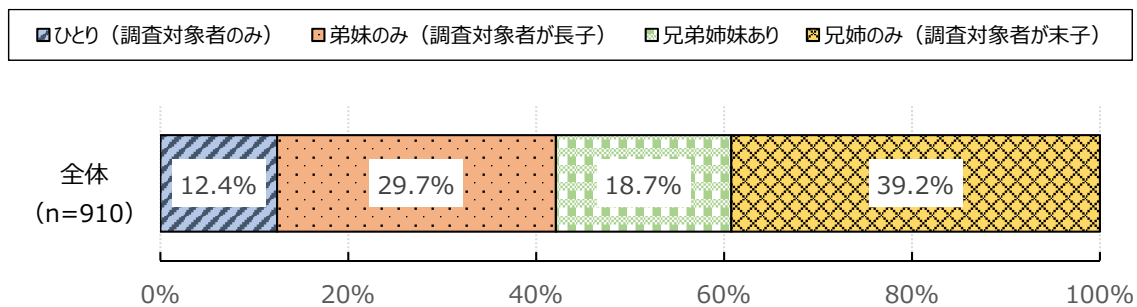


	夫婦と子	ひとり親世帯 （父）	ひとり親世帯 （母）	その他の世帯	計
回答数	644	18	79	169	910
割合	70.8%	2.0%	8.7%	18.6%	100.0%

キ きょうだいの状況

調査対象であるこどもからみたきょうだいの状況は、「ひとり（調査対象者のみ）」が 12.4%、「弟妹のみ（調査対象者が長子）」が 29.7%、「兄弟姉妹あり」が 18.7%、「兄姉のみ（調査対象者が末子）」が 39.2%であった。

図表 1－3－7 きょうだいの状況



	ひとり (調査対象者のみ)	弟妹のみ (調査対象者が長子)	兄弟姉妹あり	兄姉のみ (調査対象者が末子)	計
回答数	113	270	170	357	910
割合	12.4%	29.7%	18.7%	39.2%	100.0%

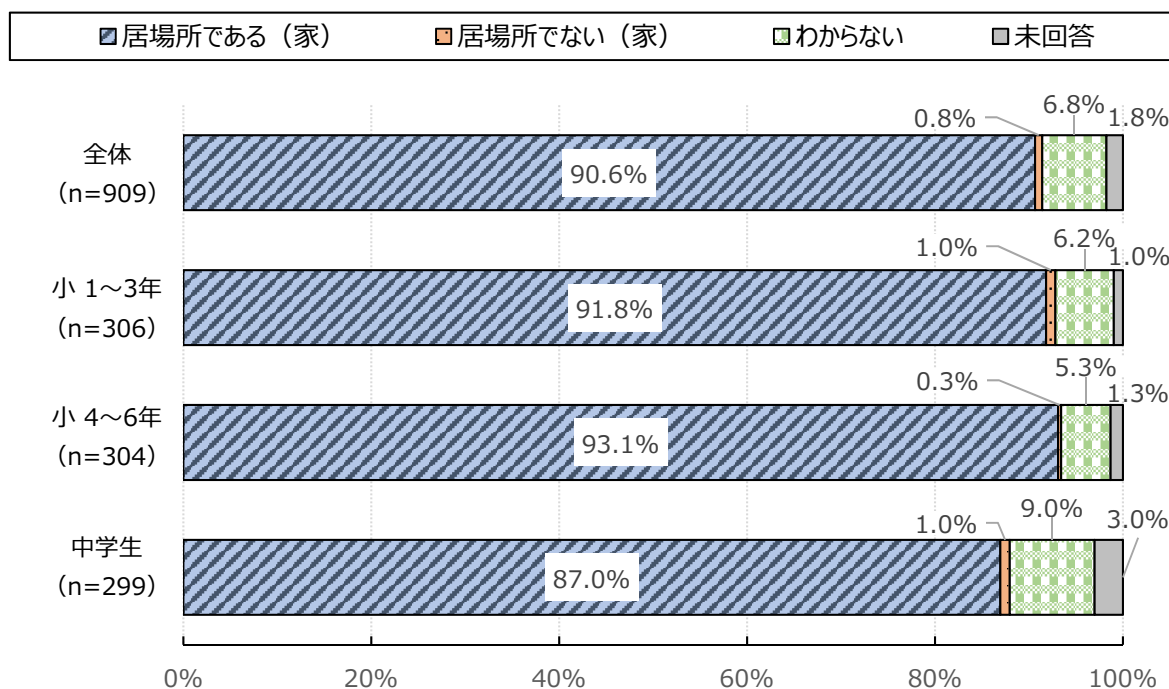
(2) 家・学校について

ア 家がこどもの居場所か（単一回答）

調査対象であるこども（以下、「こども」という。）にとって、普段寝起きをしている家が居場所となっていると思うかを尋ねたところ、全体で90.6%が「居場所である」と回答した。

こどもの年齢別でみると、家が「居場所である」と回答した割合は、「小学校1～3年生」が91.8%、「小学校4～6年生」が93.1%、「中学生」が87.0%であった。

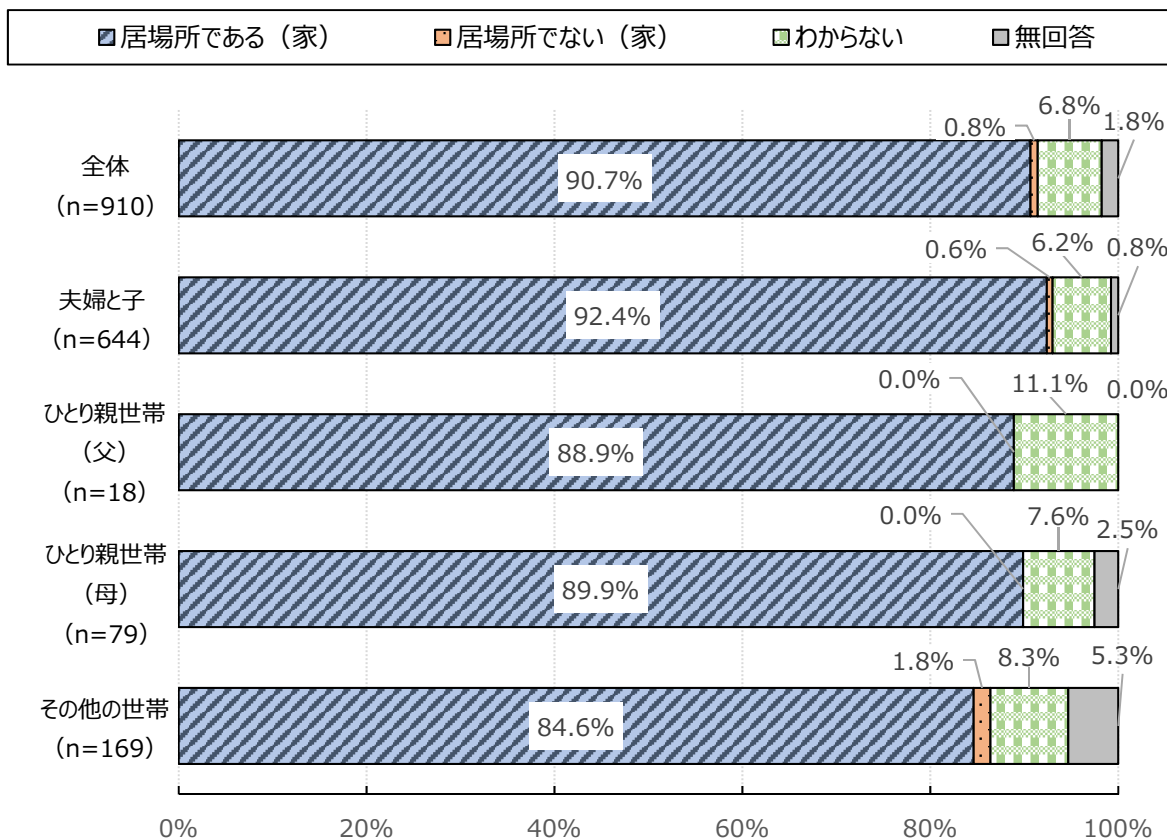
図表 1-3-8 家が居場所か〔こどもの年齢別〕



	居場所である	居場所でない	わからない	無回答	計
小学校 1～3年生	281 91.8%	3 1.0%	19 6.2%	3 1.0%	306 100.0%
小学校 4～6年生	283 93.1%	1 0.3%	16 5.3%	4 1.3%	304 100.0%
中学生	260 87.0%	3 1.0%	27 9.0%	9 3.0%	299 100.0%
全体	824 90.6%	7 0.8%	62 6.8%	16 1.8%	909 100.0%

世帯状況別でみると、家が「居場所である」と回答した割合は、「夫婦と子」が92.4%、「ひとり親世帯（父）」が88.9%、「ひとり親世帯（母）」が89.9%、「その他の世帯」が84.6%であった。

図表 1-3-9 家が居場所か〔世帯状況別〕

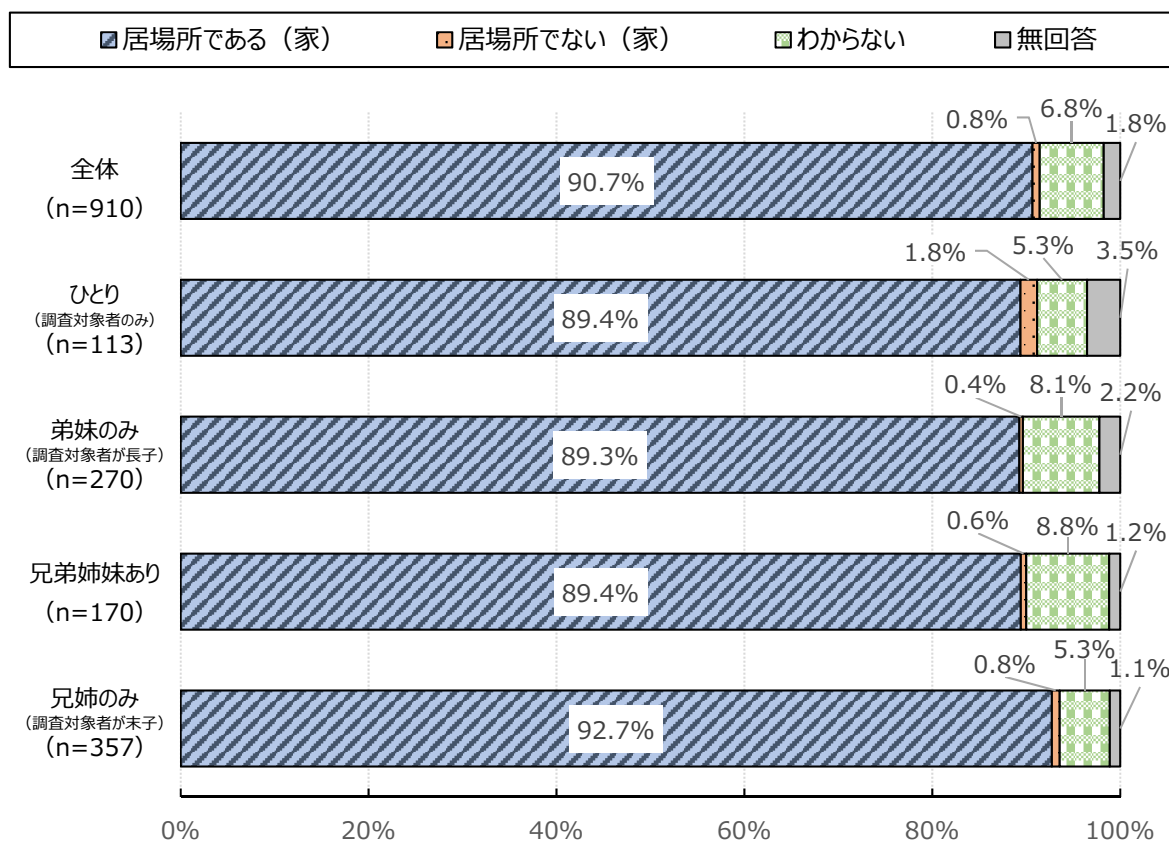


	居場所である	居場所でない	わからない	無回答	計
夫婦と子	595	4	40	5	644
	92.4%	0.6%	6.2%	0.8%	100.0%
ひとり親世帯 （父） ^{（※）}	16	0	2	0	18
	88.9%	0.0%	11.1%	0.0%	100.0%
ひとり親世帯 （母）	71	0	6	2	79
	89.9%	0.0%	7.6%	2.5%	100.0%
その他の世帯	143	3	14	9	169
	84.6%	1.8%	8.3%	5.3%	100.0%
全体	825	7	62	16	910
	90.7%	0.8%	6.8%	1.8%	100.0%

（※）「ひとり親世帯（父）」は参考値

きょうだいの状況別でみると、家が「居場所である」と回答した割合に、有意差は見られなかった。

図表 1-3-10 家が居場所か〔きょうだい状況別〕



	居場所である	居場所でない	わからない	無回答	計
ひとり (調査対象者のみ)	101 89.4%	2 1.8%	6 5.3%	4 3.5%	113 100.0%
弟妹のみ (調査対象者が長子)	241 89.3%	1 0.4%	22 8.1%	6 2.2%	270 100.0%
兄弟姉妹あり	152 89.4%	1 0.6%	15 8.8%	2 1.2%	170 100.0%
兄姉のみ (調査対象者が末子)	331 92.7%	3 0.8%	19 5.3%	4 1.1%	357 100.0%
全体	825 90.7%	7 0.8%	62 6.8%	16 1.8%	910 100.0%

イ 家がこどもの居場所でない理由（自由記述）

（２）－アで、家が「居場所でない」と回答した人に対して、その理由を尋ねたところ、以下のような意見が挙げられた。

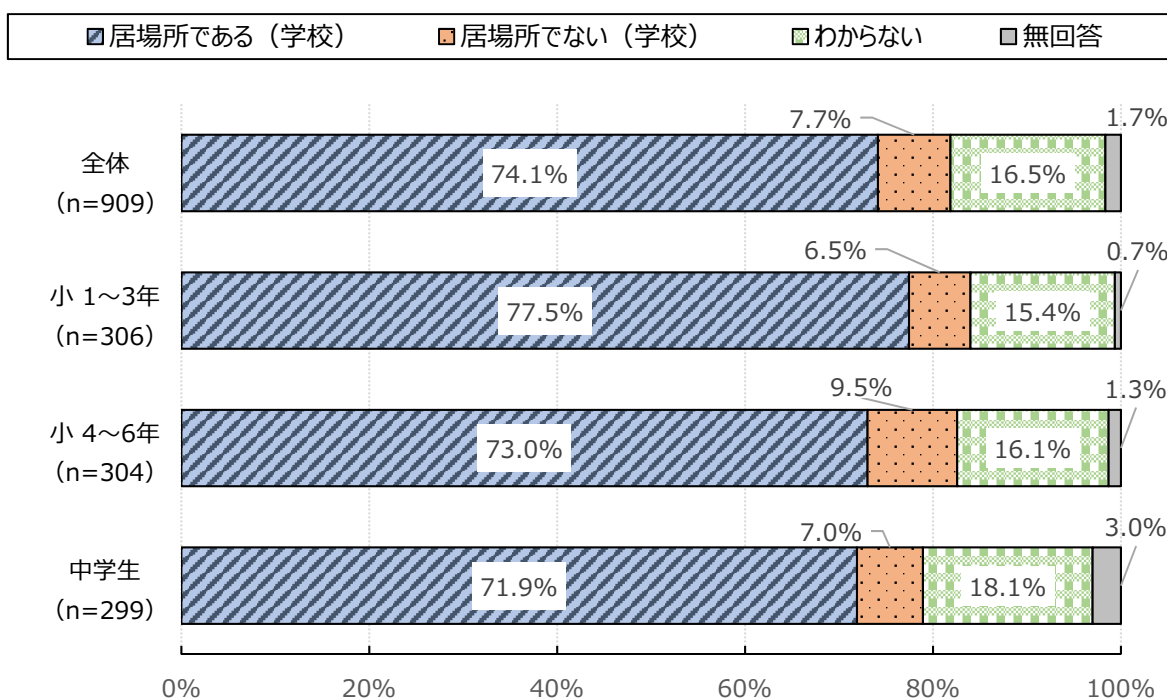
意見（６件）	件数
同居人との関係性や状況が良くないため （親族との同居を始めたばかり、同居人がこどもに嫌がらせをする）	３
住居の環境が整っていないため （家が狭い、虫が入ってくる）	２
転入直後で人づきあいがないため	１

ウ 学校がこどもの居場所か（単一回答）

こどもにとって、学校が居場所となっていると思うかを尋ねたところ、全体で74.1%が「居場所である」と回答した。

こどもの年齢別でみると、学校が「居場所である」と回答した割合は、「小学校1～3年生」が77.5%、「小学校4～6年生」が73.0%、「中学生」が71.9%であった。

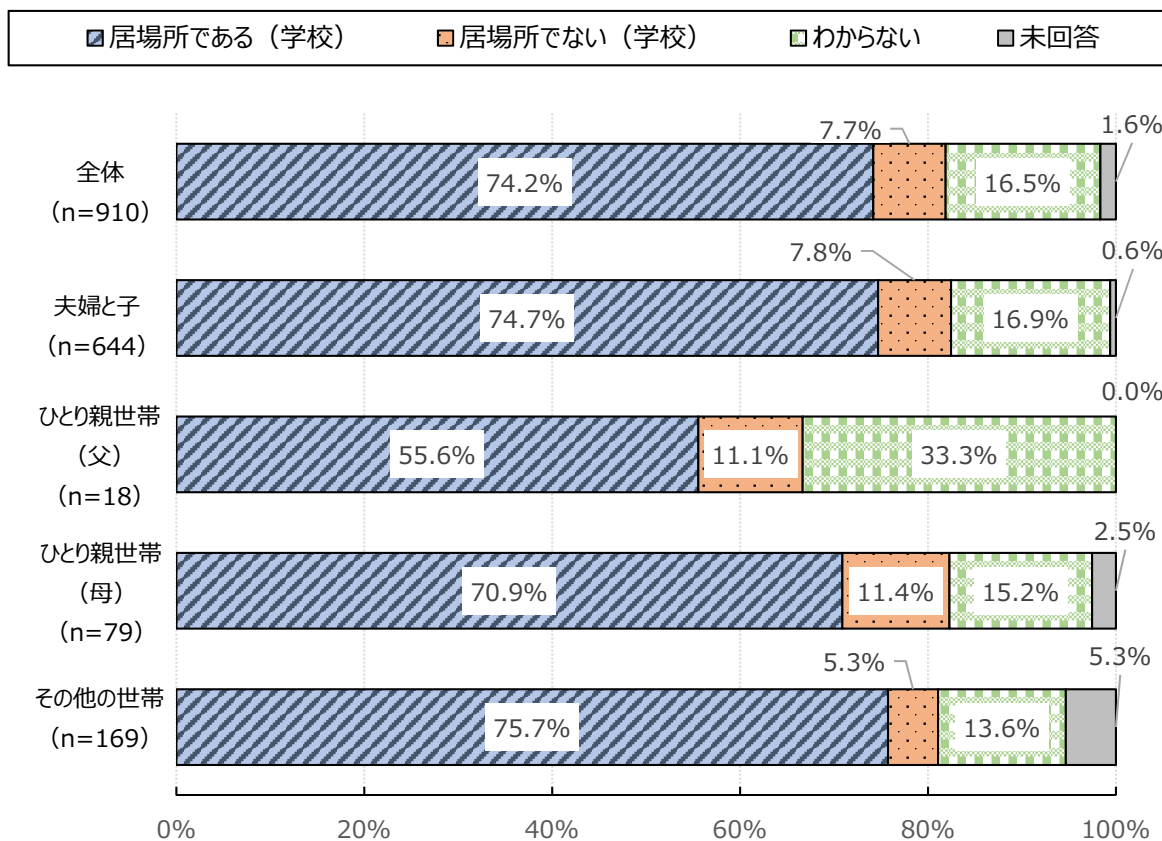
図表 1-3-11 学校が居場所か〔こどもの年齢別〕



	居場所である	居場所でない	わからない	無回答	計
小学校 1～3年生	237 77.5%	20 6.5%	47 15.4%	2 0.7%	306 100.0%
小学校 4～6年生	222 73.0%	29 9.5%	49 16.1%	4 1.3%	304 100.0%
中学生	215 71.9%	21 7.0%	54 18.1%	9 3.0%	299 100.0%
全体	674 74.1%	70 7.7%	150 16.5%	15 1.7%	909 100.0%

世帯状況別でみると、学校が「居場所である」と回答した割合は、「夫婦と子」が 74.7%、「ひとり親世帯（父）」が 55.6%、「ひとり親世帯（母）」が 70.9%、「その他の世帯」が 75.7%となった。

図表 1-3-12 学校が居場所か〔世帯状況別〕

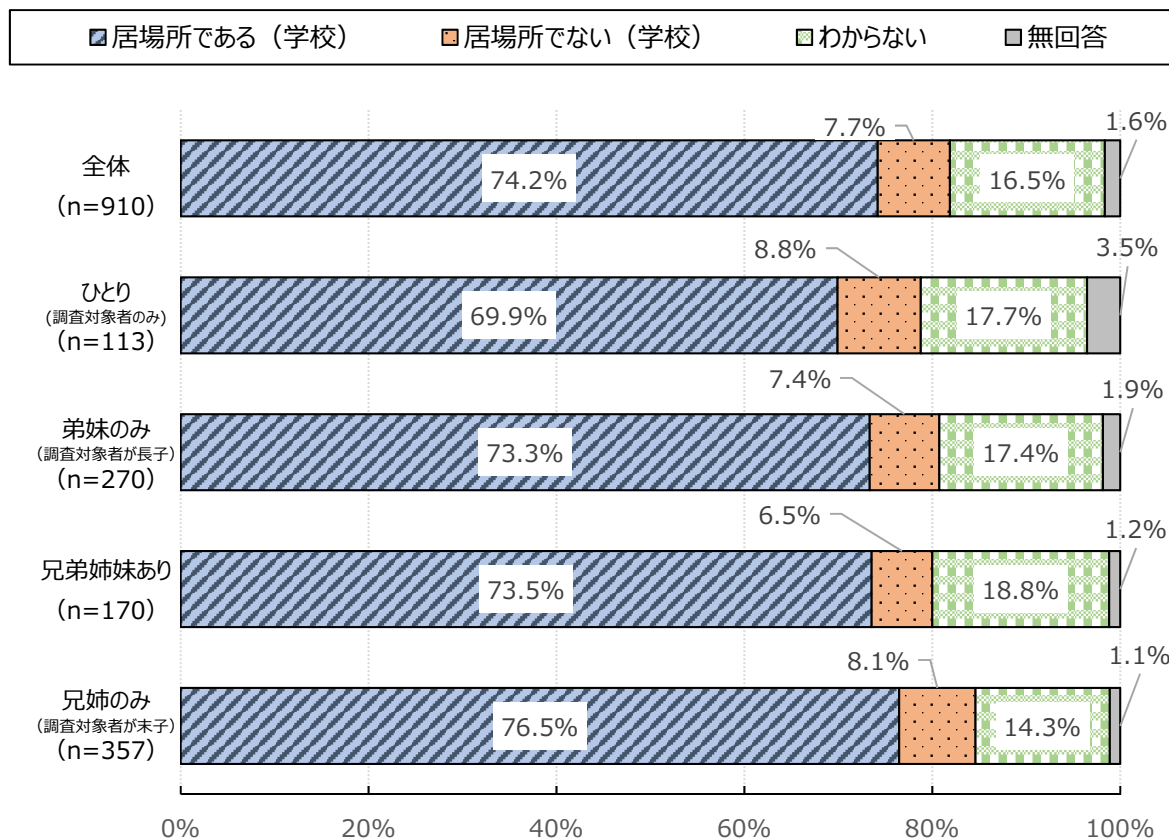


	居場所である	居場所でない	わからない	無回答	計
夫婦と子	481	50	109	4	644
	74.7%	7.8%	16.9%	0.6%	100.0%
ひとり親世帯 (父) (※)	10	2	6	0	18
	55.6%	11.1%	33.3%	0.0%	100.0%
ひとり親世帯 (母)	56	9	12	2	79
	70.9%	11.4%	15.2%	2.5%	100.0%
その他の世帯	128	9	23	9	169
	75.7%	5.3%	13.6%	5.3%	100.0%
全体	675	70	150	15	910
	74.2%	7.7%	16.5%	1.6%	100.0%

(※)「ひとり親世帯（父）」は参考値

きょうだいの状況別でみると、学校が「居場所である」と回答した割合は、「ひとり（調査対象者のみ）」が 69.9%、「弟妹のみ（調査対象者が長子）」が 73.3%、「兄弟姉妹あり」が 73.5%、「兄姉のみ（調査対象者が末子）」が 76.5%であった。

図表 1-3-13 学校が居場所か〔きょうだい状況別〕



	居場所である	居場所でない	わからない	無回答	計
ひとり (調査対象者のみ)	79 69.9%	10 8.8%	20 17.7%	4 3.5%	113 100.0%
弟妹のみ (調査対象者が長子)	198 73.3%	20 7.4%	47 17.4%	5 1.9%	270 100.0%
兄弟姉妹あり	125 73.5%	11 6.5%	32 18.8%	2 1.2%	170 100.0%
兄姉のみ (調査対象者が末子)	273 76.5%	29 8.1%	51 14.3%	4 1.1%	357 100.0%
全体	675 74.2%	70 7.7%	150 16.5%	15 1.6%	910 100.0%

エ 学校がこどもの居場所でない理由（自由記述）

（２）－ウで、学校が「居場所でない」と回答した人に対して、その理由を尋ねたところ、以下のような意見が挙げられた。

意見（63 件）	件数
集団生活への適応が難しいため （大勢の人がいるのが苦手、学校のルールになじめない 等）	29
学校に通う意欲がないため （「学校に行きたくない」と言う 等）	13
教員との関係が悪いため （教員の発言で傷ついた、理不尽な指導を受けた 等）	9
こども間でのトラブルのため （同級生から暴言を受けた、いじめられた 等）	8
その他 （授業が面白くない、施設が古い 等）	4

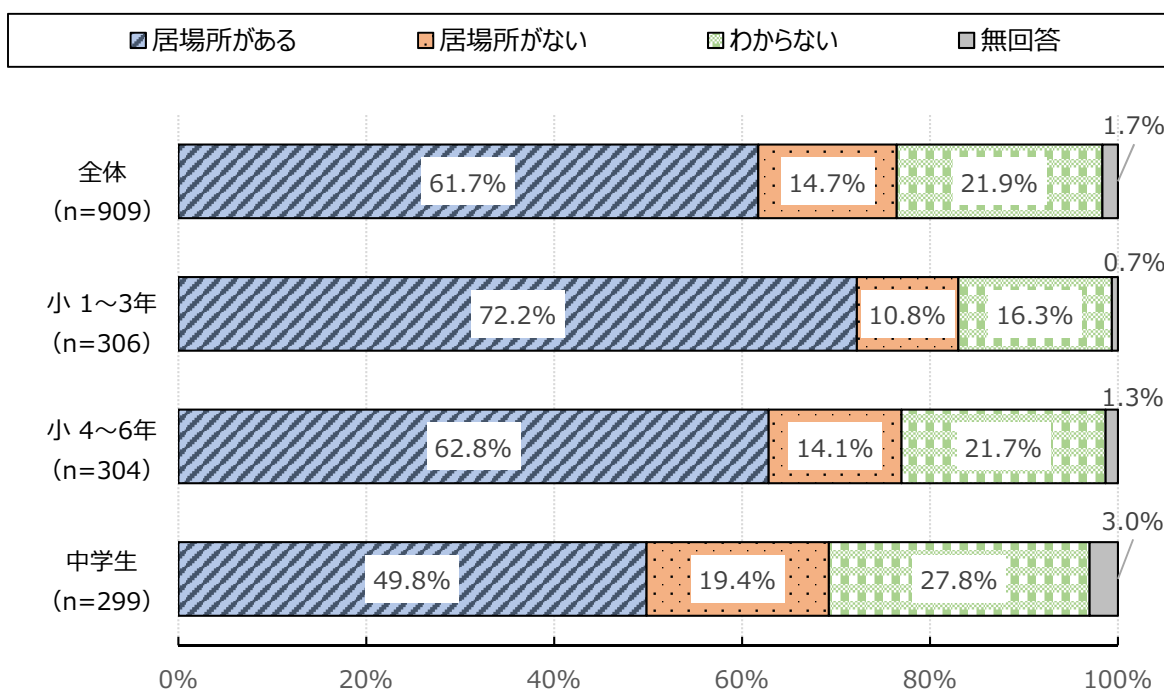
(3) 家・学校以外のこどもの居場所について

ア 家・学校以外のこどもの居場所の有無（単一回答）

子どもにとって、家・学校以外の居場所があると思うかを尋ねたところ、全体で61.7%が「居場所がある」、14.7%が「居場所がない」、21.9%が「わからない」と回答した。

こどもの年齢別でみると、「居場所がある」と回答した割合は、年齢が上がるほど逡減する一方で、「居場所がない」「わからない」と回答した割合は、年齢が上がるほど逡増する傾向が見られた。

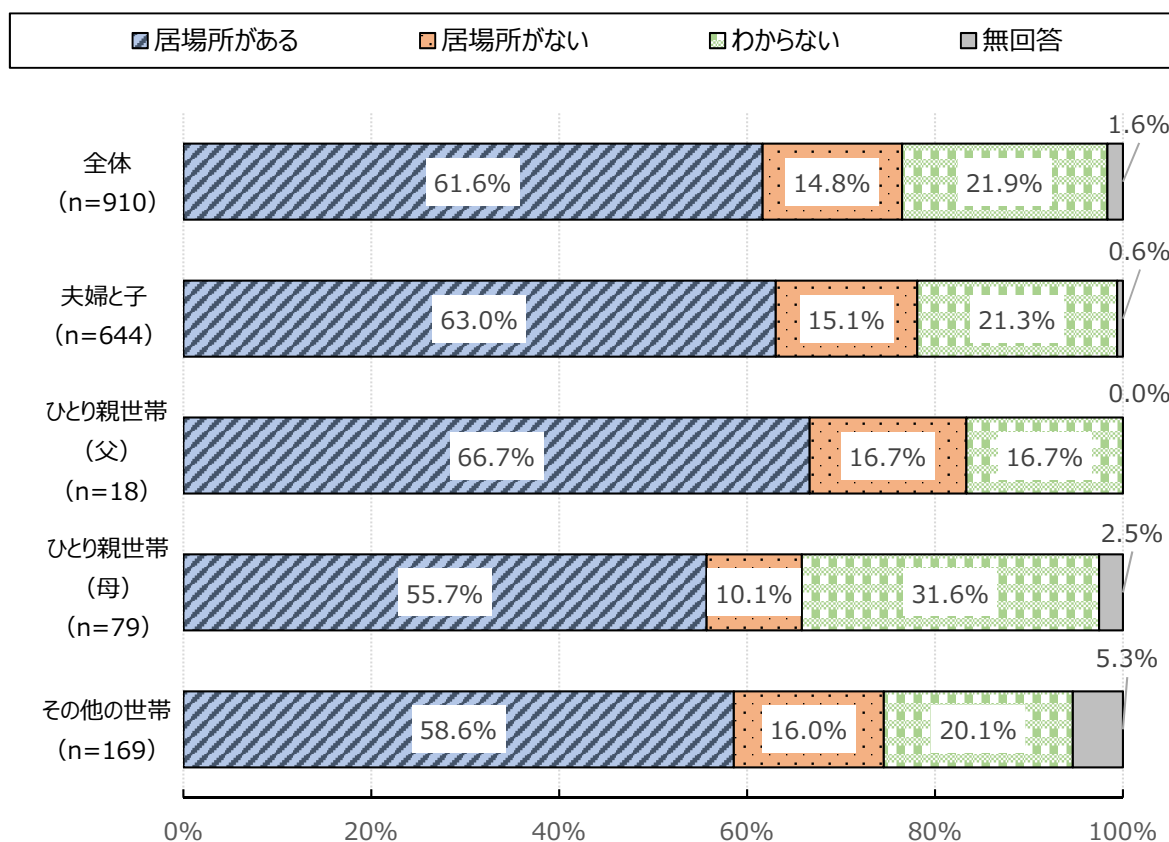
図表 1-3-14 家・学校以外の居場所の有無〔こどもの年齢別〕



	居場所がある	居場所がない	わからない	無回答	計
小学校 1～3年生	221 72.2%	33 10.8%	50 16.3%	2 0.7%	306 100.0%
小学校 4～6年生	191 62.8%	43 14.1%	66 21.7%	4 1.3%	304 100.0%
中学生	149 49.8%	58 19.4%	83 27.8%	9 3.0%	299 100.0%
全体	561 61.7%	134 14.7%	199 21.9%	15 1.7%	909 100.0%

世帯状況別でみると、「居場所がある」と回答した割合は、「夫婦と子」が63.0%、「ひとり親世帯（父）」が66.7%、「ひとり親世帯（母）」が55.7%、「その他の世帯」が58.6%となった。

図表 1-3-15 家・学校以外の居場所の有無〔世帯状況別〕

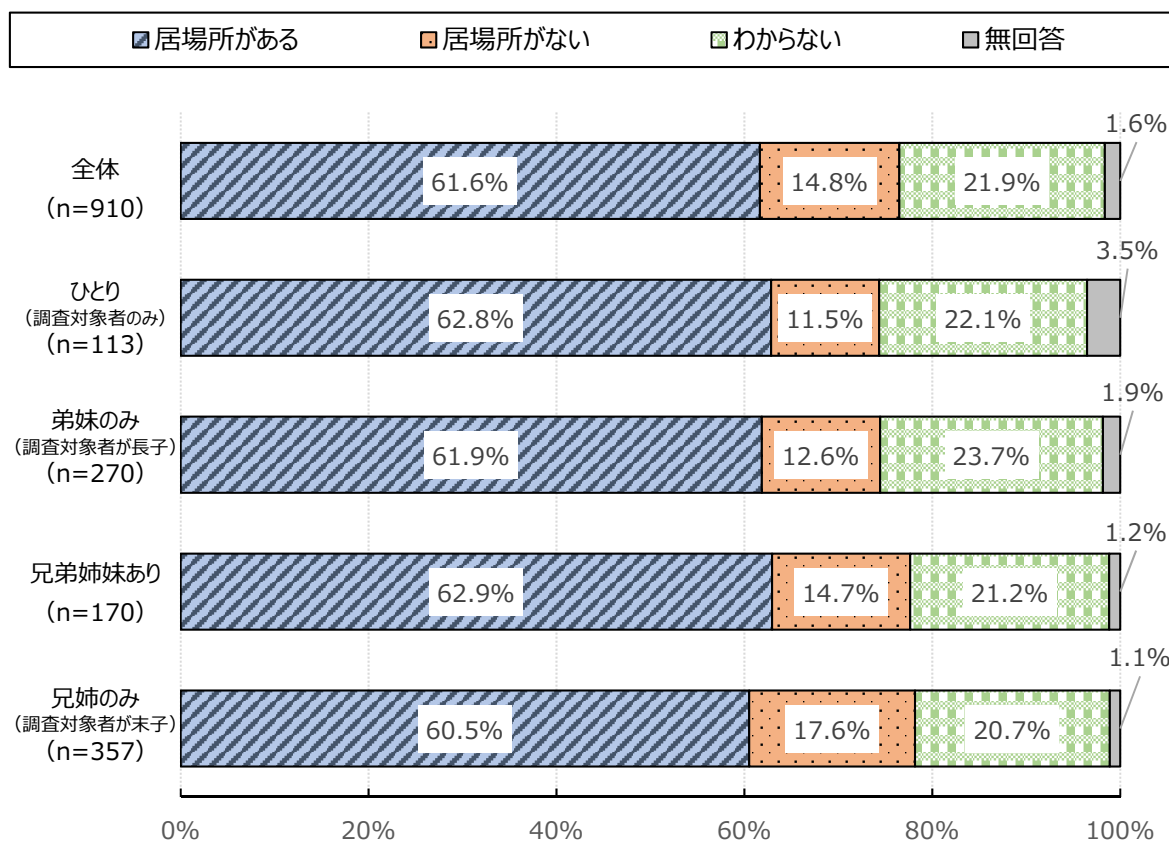


	居場所がある	居場所がない	わからない	無回答	計
夫婦と子	406 63.0%	97 15.1%	137 21.3%	4 0.6%	644 100.0%
ひとり親世帯 (父) (※)	12 66.7%	3 16.7%	3 16.7%	0 0.0%	18 100.0%
ひとり親世帯 (母)	44 55.7%	8 10.1%	25 31.6%	2 2.5%	79 100.0%
その他の世帯	99 58.6%	27 16.0%	34 20.1%	9 5.3%	169 100.0%
全体	561 61.6%	135 14.8%	199 21.9%	15 1.6%	910 100.0%

(※)「ひとり親世帯（父）」は参考値

きょうだいの状況別でみると、「居場所がある」と回答した割合に、有意差は見られなかった。

図表 1-3-16 家・学校以外の居場所の有無 [きょうだい状況別]



	居場所がある	居場所がない	わからない	無回答	計
ひとり (調査対象者のみ)	71 62.8%	13 11.5%	25 22.1%	4 3.5%	113 100.0%
弟妹のみ (調査対象者が長子)	167 61.9%	34 12.6%	64 23.7%	5 1.9%	270 100.0%
兄弟姉妹あり	107 62.9%	25 14.7%	36 21.2%	2 1.2%	170 100.0%
兄姉のみ (調査対象者が末子)	216 60.5%	63 17.6%	74 20.7%	4 1.1%	357 100.0%
全体	561 61.6%	135 14.8%	199 21.9%	15 1.6%	910 100.0%

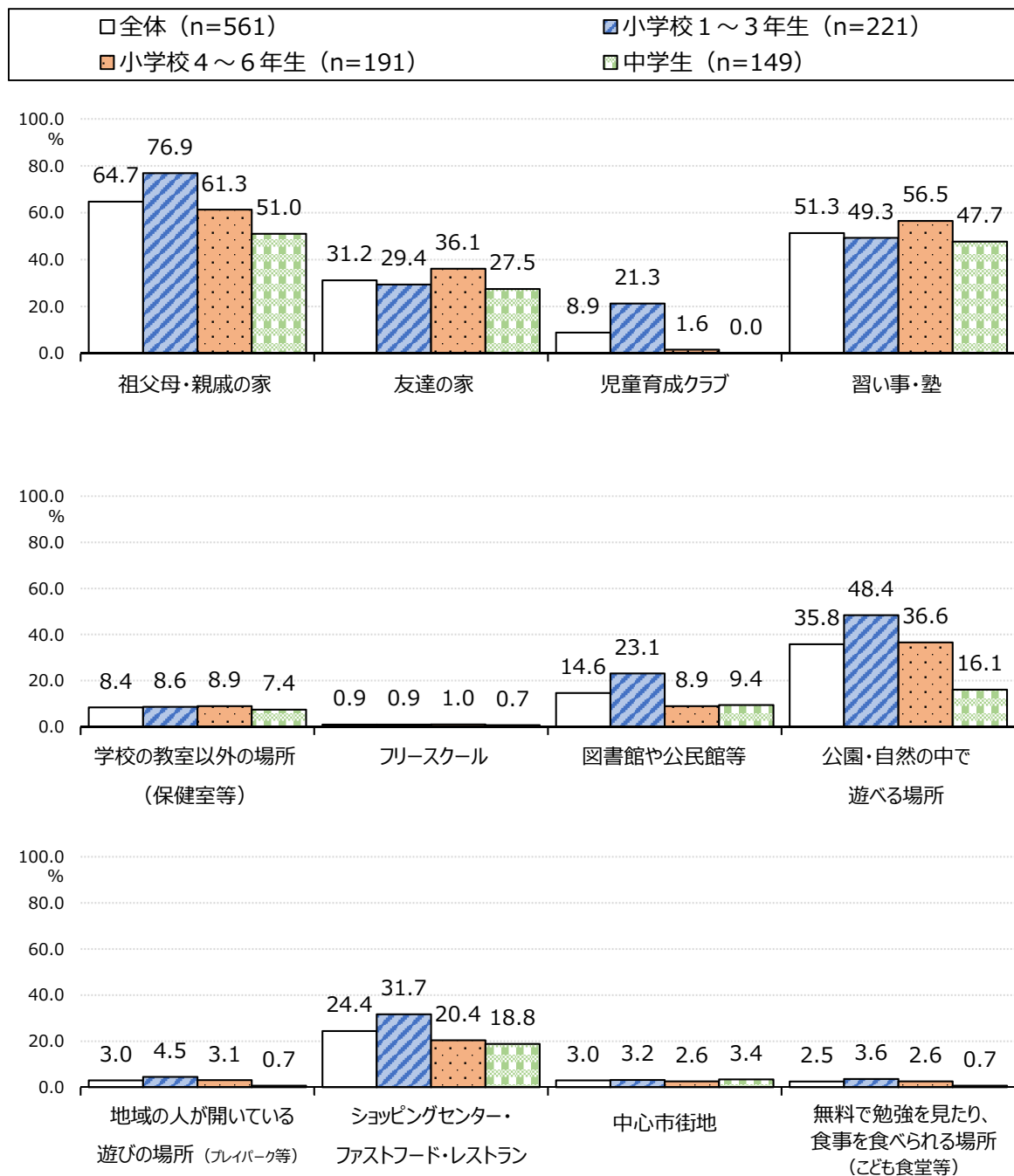
(4) こどもの居場所の実態

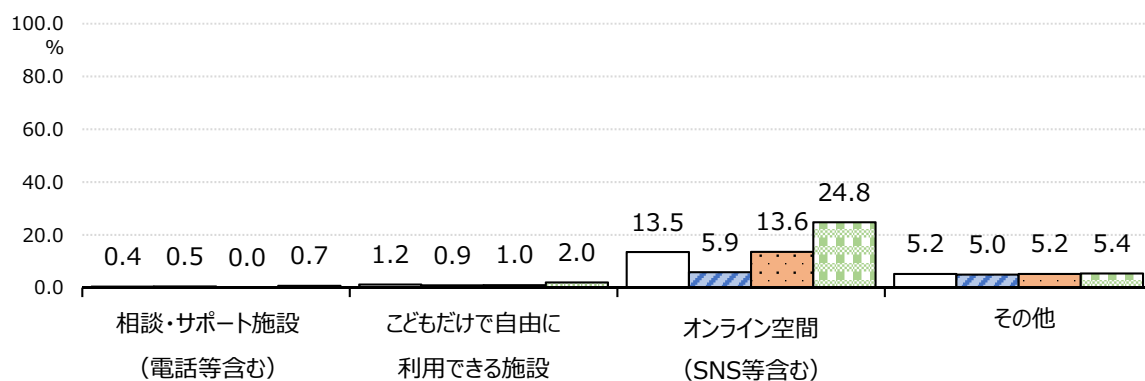
ア どこがこどもの居場所となっているか（複数回答）

(3) アで、家・学校以外に「居場所がある」と回答した人に対して、その居場所がどこだと思うかを尋ねたところ、全体で「祖父母・親戚の家」が64.7%と最多、次いで「習い事・塾」が51.3%、「公園・自然の中で遊べる場所」が35.8%となった。

こどもの年齢別でも、全ての年齢において、「祖父母・親戚」と回答した割合が最多、次いで「習い事・塾」という結果であった。

図表 1-3-17 どこが居場所となっているか〔こどもの年齢別〕





	小学校 1～3年生		小学校 4～6年生		中学生		全体	
祖父母・親戚の家	170	76.9%	117	61.3%	76	51.0%	363	64.7%
友達の家	65	29.4%	69	36.1%	41	27.5%	175	31.2%
児童育成クラブ	47	21.3%	3	1.6%	0	0.0%	50	8.9%
習い事・塾	109	49.3%	108	56.5%	71	47.7%	288	51.3%
学校の教室以外の場所（保健室等）	19	8.6%	17	8.9%	11	7.4%	47	8.4%
フリースクール	2	0.9%	2	1.0%	1	0.7%	5	0.9%
図書館や公民館等	51	23.1%	17	8.9%	14	9.4%	82	14.6%
公園・自然の中で遊べる場所	107	48.4%	70	36.6%	24	16.1%	201	35.8%
地域の人が開いている遊びの場所 （プレイパーク等）	10	4.5%	6	3.1%	1	0.7%	17	3.0%
ショッピングセンター・ レストラン・ファストフード等	70	31.7%	39	20.4%	28	18.8%	137	24.4%
中心市街地	7	3.2%	5	2.6%	5	3.4%	17	3.0%
無料で勉強を見たり、食事を 食べられる場所（こども食堂等）	8	3.6%	5	2.6%	1	0.7%	14	2.5%
相談・サポート施設（電話等含む）	1	0.5%	0	0.0%	1	0.7%	2	0.4%
こどもだけで自由に利用できる施設	2	0.9%	2	1.0%	3	2.0%	7	1.2%
オンライン空間（SNS等）	13	5.9%	26	13.6%	37	24.8%	76	13.5%
その他	11	5.0%	10	5.2%	8	5.4%	29	5.2%

↑年齢別の上位3つに網掛け

「その他」の主な回答

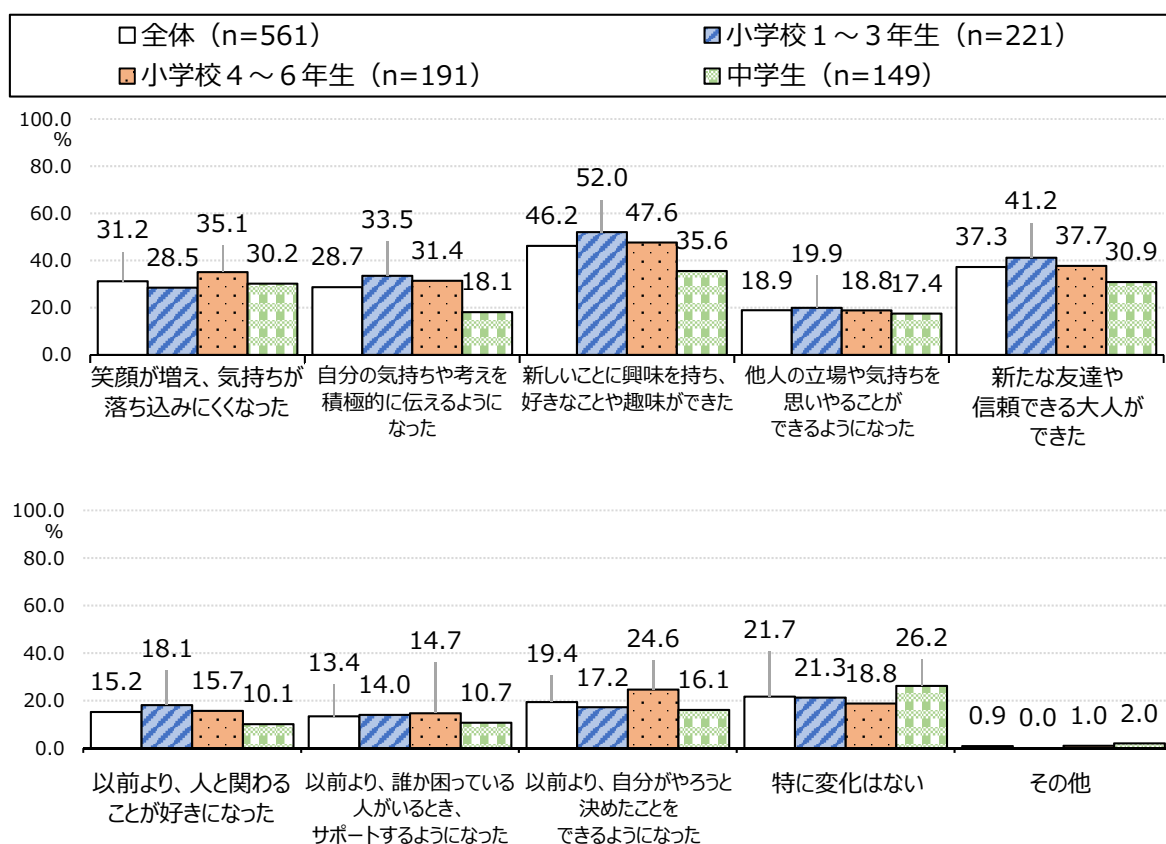
(参考) その他の主な回答	件数
放課後等デイサービス	15
その他商店（カードショップ）	2

イ 居場所利用によるこどもの変化（複数回答）

（３）－アで、家・学校以外に「居場所がある」と回答した人に対して、その居場所を利用するようになってこどもに起きた変化を尋ねたところ、全体で「新しいことに興味を持ち、好きなことや趣味ができた」が 46.2%と最多、次いで「新たな友達や信頼できる大人ができた」が 37.3%、「笑顔が増え、気持ちが落ち込みにくくなった」が 31.2%となった。

こどもの年齢別でも、全ての年齢において、「新しいことに興味を持ち、好きなことや趣味ができた」と回答した割合が最多、次いで「新たな友達や信頼できる大人ができた」という結果であった。

図表 １－３－１８ 居場所を利用したことによる変化〔こどもの年齢別〕



	小学校 1～3年生		小学校 4～6年生		中学生		全体	
笑顔が増え、 気持ちが落ち込みにくくなった	63	28.5%	67	35.1%	45	30.2%	175	31.2%
自分の気持ちや考えを 積極的に伝えるようになった	74	33.5%	60	31.4%	27	18.1%	161	28.7%
新しいことに興味を持ち、 好きなことや趣味ができた	115	52.0%	91	47.6%	53	35.6%	259	46.2%
他人の立場や気持ちを 思いやることができるようになった	44	19.9%	36	18.8%	26	17.4%	106	18.9%
新たな友達や信頼できる 大人ができた	91	41.2%	72	37.7%	46	30.9%	209	37.3%
以前より、 人と関わるのが好きになった	40	18.1%	30	15.7%	15	10.1%	85	15.2%
以前より、誰か困っている人がいると き、サポートするようになった	31	14.0%	28	14.7%	16	10.7%	75	13.4%
以前より、自分がやろうと決めたこと をできるようになった	38	17.2%	47	24.6%	24	16.1%	109	19.4%
特に変化はない	47	21.3%	36	18.8%	39	26.2%	122	21.7%
その他	0	0.0%	2	1.0%	3	2.0%	5	0.9%

↑年齢別の上位3つに網掛け

「その他」の主な回答

(参考) その他の主な回答	件数
不安が軽減された	1
学校に登校してみようとする気持ちが出てきた	1
その世界から自分で抜け出せないようになった	1
家で話す機会が減った	1

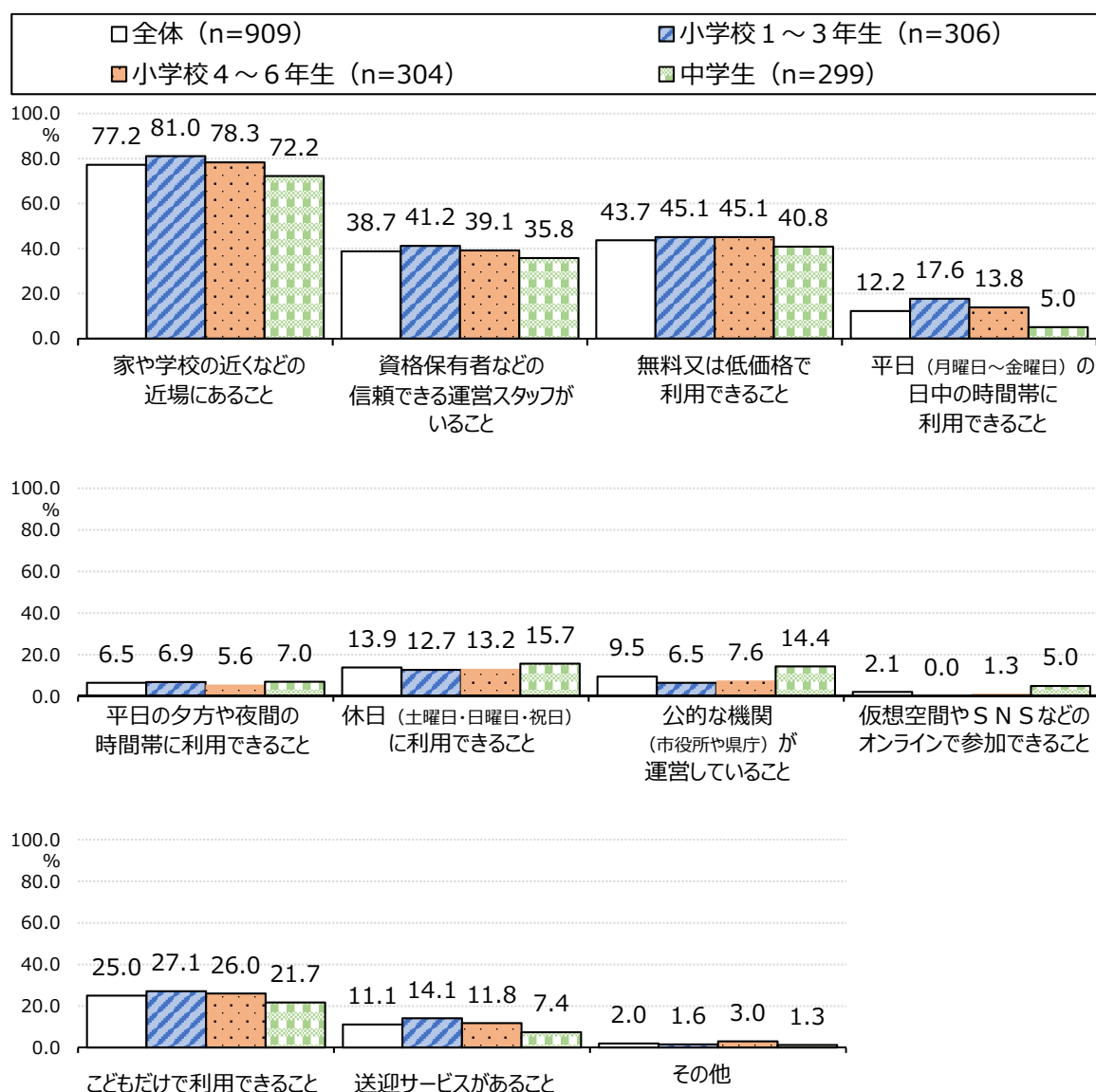
(5) こどもの居場所に求めたいもの

ア こどもの居場所に求めたい要件（複数回答（3つまで））

保護者として、こどもが利用する居場所に対して求めたい要件を尋ねたところ、全体で「家や学校の近くなどの近場にあること」が77.2%と最多、次いで「無料又は低価格で利用できること」が43.7%、「資格保有者などの信頼できる運営スタッフがいること」が38.7%となった。

こどもの年齢別でも、①「家や学校の近くなどの近場にあること」、②「無料又は低価格で利用できること」、③「資格保有者などの信頼できる運営スタッフがいること」の順位は不変であった。

図表 1-3-19 居場所に求めたい要件【こどもの年齢別】

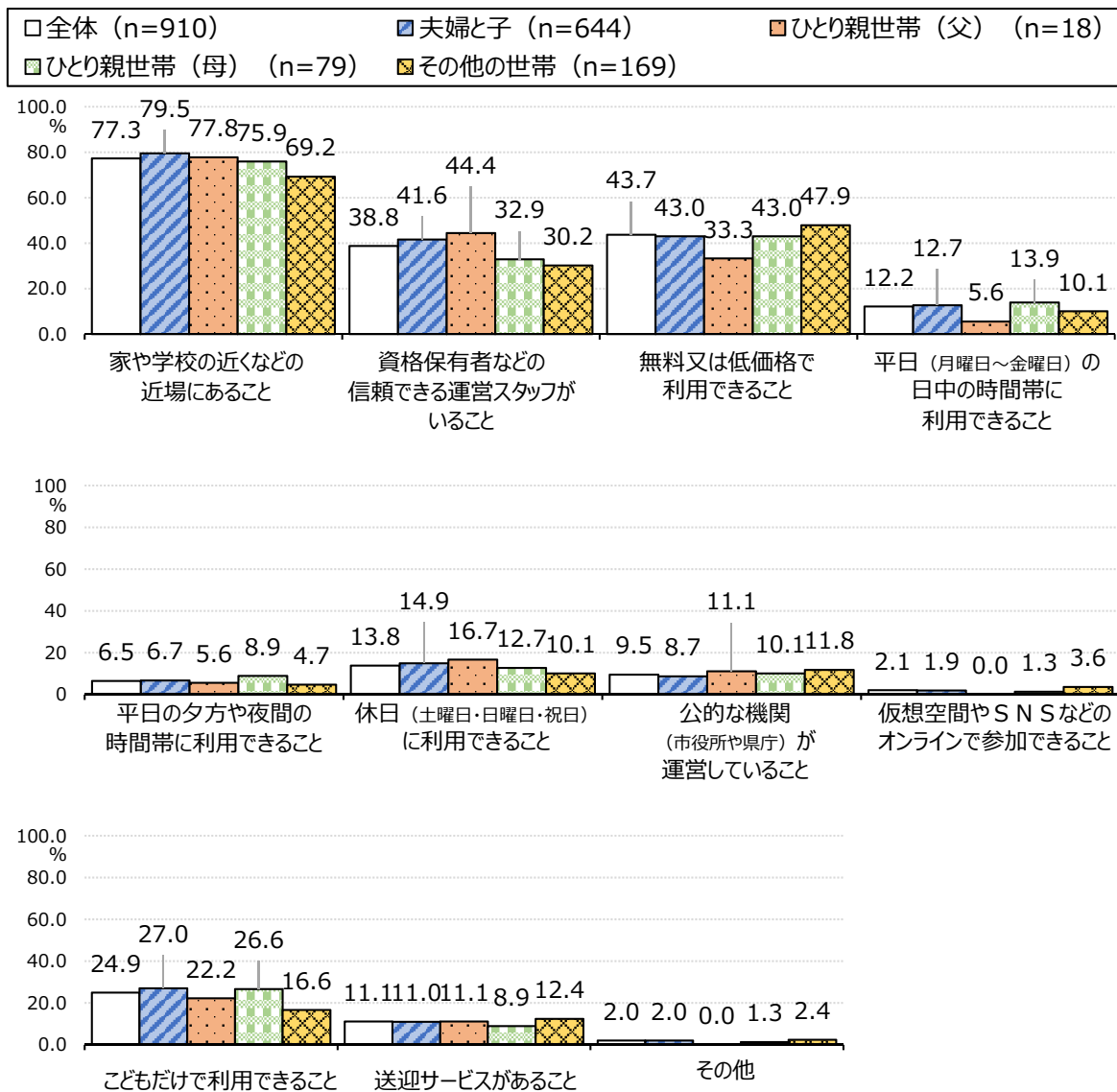


	小学校 1～3年生		小学校 4～6年生		中学生		全体	
家や学校の近くなどの 近場にあること	248	81.0%	238	78.3%	216	72.2%	702	77.2%
資格保有者などの信頼できる 運営スタッフがいること	126	41.2%	119	39.1%	107	35.8%	352	38.7%
無料又は低価格で 利用できること	138	45.1%	137	45.1%	122	40.8%	397	43.7%
平日（月曜日～金曜日）の 日中の時間帯に利用できること	54	17.6%	42	13.8%	15	5.0%	111	12.2%
平日の夕方や夜間の時間帯に 利用できること	21	6.9%	17	5.6%	21	7.0%	59	6.5%
休日（土曜日・日曜日・祝日）に 利用できること	39	12.7%	40	13.2%	47	15.7%	126	13.9%
公的な機関（市役所や県庁）が 運営していること	20	6.5%	23	7.6%	43	14.4%	86	9.5%
仮想空間やSNSなどの オンラインで参加できること	0	0.0%	4	1.3%	15	5.0%	19	2.1%
こどもだけで利用できること	83	27.1%	79	26.0%	65	21.7%	227	25.0%
送迎サービスがあること	43	14.1%	36	11.8%	22	7.4%	101	11.1%
その他	5	1.6%	9	3.0%	4	1.3%	18	2.0%

↑年齢別の上位3つに網掛け

世帯状況別でも、「家や学校の近くなどの近場にあること」、「無料又は低価格で利用できること」、「資格保有者などの信頼できる運営スタッフがいること」が上位を占める結果となった。

図表 1-3-20 居場所に求めたい要件〔世帯状況別〕



	夫婦と子		ひとり親世帯 (父) (※)		ひとり親世帯 (母)		その他の世帯		全体	
家や学校の近くなどの近場にあること	512	79.5%	14	77.8%	60	75.9%	117	69.2%	703	77.3%
資格保有者などの信頼できる運営スタッフがいること	268	41.6%	8	44.4%	26	32.9%	51	30.2%	353	38.8%
無料又は低価格で利用できること	277	43.0%	6	33.3%	34	43.0%	81	47.9%	398	43.7%
平日（月曜日～金曜日）の日中の時間帯に利用できること	82	12.7%	1	5.6%	11	13.9%	17	10.1%	111	12.2%
平日の夕方や夜間の時間帯に利用できること	43	6.7%	1	5.6%	7	8.9%	8	4.7%	59	6.5%
休日（土曜日・日曜日・祝日）に利用できること	96	14.9%	3	16.7%	10	12.7%	17	10.1%	126	13.8%
公的な機関（市役所や県庁）が運営していること	56	8.7%	2	11.1%	8	10.1%	20	11.8%	86	9.5%
仮想空間やSNSなどのオンラインで参加できること	12	1.9%	0	0.0%	1	1.3%	6	3.6%	19	2.1%
こどもだけで利用できること	174	27.0%	4	22.2%	21	26.6%	28	16.6%	227	24.9%
送迎サービスがあること	71	11.0%	2	11.1%	7	8.9%	21	12.4%	101	11.1%
その他	13	2.0%	0	0.0%	1	1.3%	4	2.4%	18	2.0%

↑ 世帯状況別の上位3つに網掛け (※) 「ひとり親世帯（父）」は参考値

「その他」の主な回答

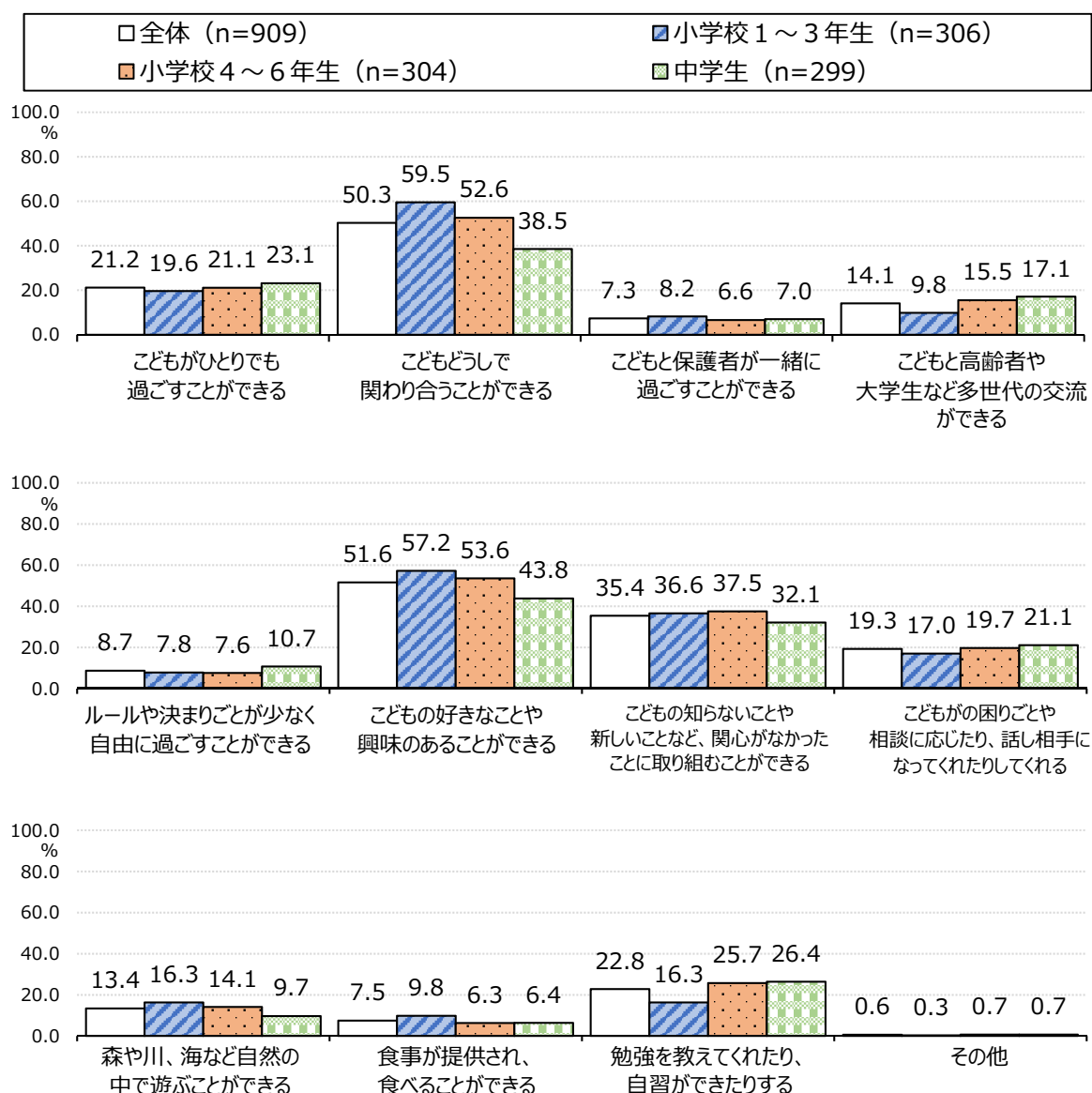
(参考) その他の主な回答	件数
安全であること	7
障がいがあっても利用しやすいこと	1

イ こどもの居場所に有してほしい機能（複数回答（3つまで））

保護者として、こどもが利用する居場所に有してほしい機能を尋ねたところ、全体で「こどもの好きなことや興味のあることができる」が51.6%と最多、次いで「こどもどうして関わり合うことができる」が50.3%、「こどもが知らないことや新しいことなど、関心がなかったことに取り組むことができる」が35.4%となった。

年齢別でも、同様に、「こどもの好きなことや興味のあることができる」、「こどもどうして関わり合うことができる」、「こどもが知らないことや新しいことなど、関心がなかったことに取り組むことができる」が上位を占める結果となった。

図表 1-3-21 居場所に有してほしい機能〔こどもの年齢別〕

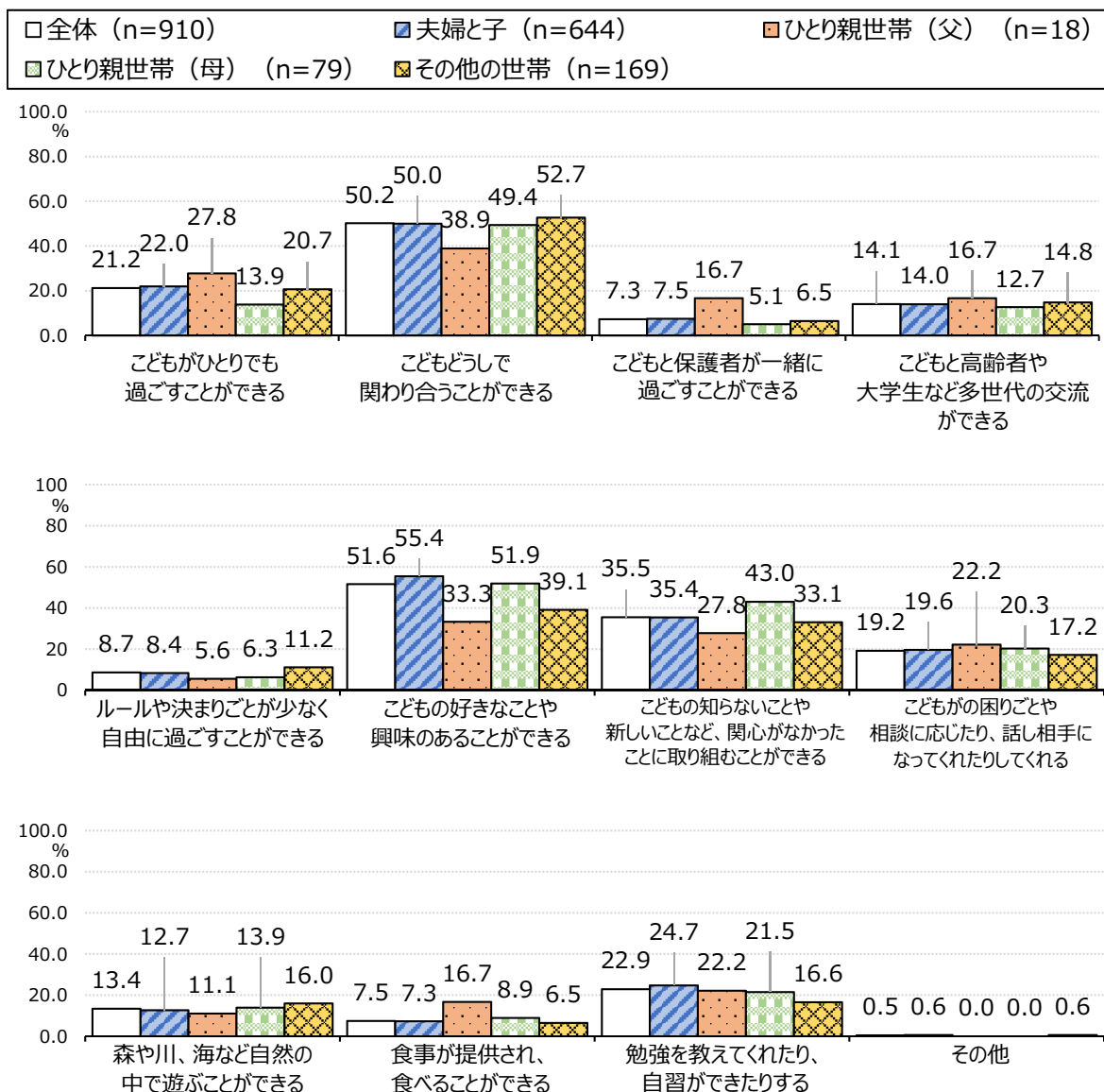


	小学校 1～3年生		小学校 4～6年生		中学生		全体	
こどもが一人でも過ごすことができる	60	19.6%	64	21.1%	69	23.1%	193	21.2%
こどもどうして 関わり合うことができる	182	59.5%	160	52.6%	115	38.5%	457	50.3%
こどもと保護者が 一緒に過ごすことができる	25	8.2%	20	6.6%	21	7.0%	66	7.3%
こどもと高齢者や大学生など 多世代の交流ができる	30	9.8%	47	15.5%	51	17.1%	128	14.1%
ルールや決まりごとが少なく 自由に過ごすことができる	24	7.8%	23	7.6%	32	10.7%	79	8.7%
こどもの好きなことや 興味のあることができる	175	57.2%	163	53.6%	131	43.8%	469	51.6%
こどもが知らないことや 新しいことなど、関心がなかった ことに取り組むことができる	112	36.6%	114	37.5%	96	32.1%	322	35.4%
こどもの困りごとや相談に応じたり、 話し相手になってくれたりしてくれる	52	17.0%	60	19.7%	63	21.1%	175	19.3%
森や川、海など、 自然の中で遊ぶことができる	50	16.3%	43	14.1%	29	9.7%	122	13.4%
食事が提供され、食べることができる	30	9.8%	19	6.3%	19	6.4%	68	7.5%
勉強を教えてくれたり、 自習ができたりする	50	16.3%	78	25.7%	79	26.4%	207	22.8%
その他	1	0.3%	2	0.7%	2	0.7%	5	0.6%

↑年齢別の上位3つに網掛け

世帯状況別でも、同様に、「こどもの好きなことや興味のあることができる」。「こどもどうして関わり合うことができる」、「こどもが知らないことや新しいことなど、関心がなかったことに取り組むことができる」が上位を占める結果となった。

図表 1-3-2 2 居場所に有してほしい機能〔世帯状況別〕



	夫婦と子		ひとり親世帯 (父) (※)		ひとり親世帯 (母)		その他の世帯		全体	
こどもが一人でも過ごすことができる	142	22.0%	5	27.8%	11	13.9%	35	20.7%	193	21.2%
こどもどうして関わり合うことができる	322	50.0%	7	38.9%	39	49.4%	89	52.7%	457	50.2%
こどもと保護者が一緒に過ごすことができる	48	7.5%	3	16.7%	4	5.1%	11	6.5%	66	7.3%
こどもと高齢者や大学生など多世代の交流ができる	90	14.0%	3	16.7%	10	12.7%	25	14.8%	128	14.1%
ルールや決まりごとが少なく自由に過ごすことができる	54	8.4%	1	5.6%	5	6.3%	19	11.2%	79	8.7%
こどもの好きなことや興味のあることができる	357	55.4%	6	33.3%	41	51.9%	66	39.1%	470	51.6%
こどもが知らないことや新しいことなど、関心がなかったことに取り組むことができる	228	35.4%	5	27.8%	34	43.0%	56	33.1%	323	35.5%
こどもの困りごとや相談に応じたり、話し相手になってくれたりしてくれる	126	19.6%	4	22.2%	16	20.3%	29	17.2%	175	19.2%
森や川、海など、自然の中で遊ぶことができる	82	12.7%	2	11.1%	11	13.9%	27	16.0%	122	13.4%
食事が提供され、食べることができる	47	7.3%	3	16.7%	7	8.9%	11	6.5%	68	7.5%
勉強を教えてくれたり、自習ができたたりする	159	24.7%	4	22.2%	17	21.5%	28	16.6%	208	22.9%
その他	4	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	5	0.5%

↑ 年齢別の上位 3 つに網掛け

(※) 「ひとり親世帯 (父)」は参考値

「その他」の主な回答

(参考) その他の主な回答	件数
こどもを理解し、尊重してくれること	3
送迎しやすい駐車場が整備されていること	1

(6) 夏休み等の長期休暇中のこどもの居場所の現状と希望

ア 夏休み等の長期休暇中のこどもの居場所の現状と希望（複数回答）

夏休み等の長期休暇中に、こどもがどのような居場所で過ごすことが多いか（こどもの現状）と、保護者としてこどもにどのような居場所で過ごしてほしいか（保護者としての希望）を尋ねた。

「保護者としての希望」と「こどもの現状」のそれぞれの回答割合を対比したところ、以下のような居場所において、希望と現状の間に乖離が見られた。

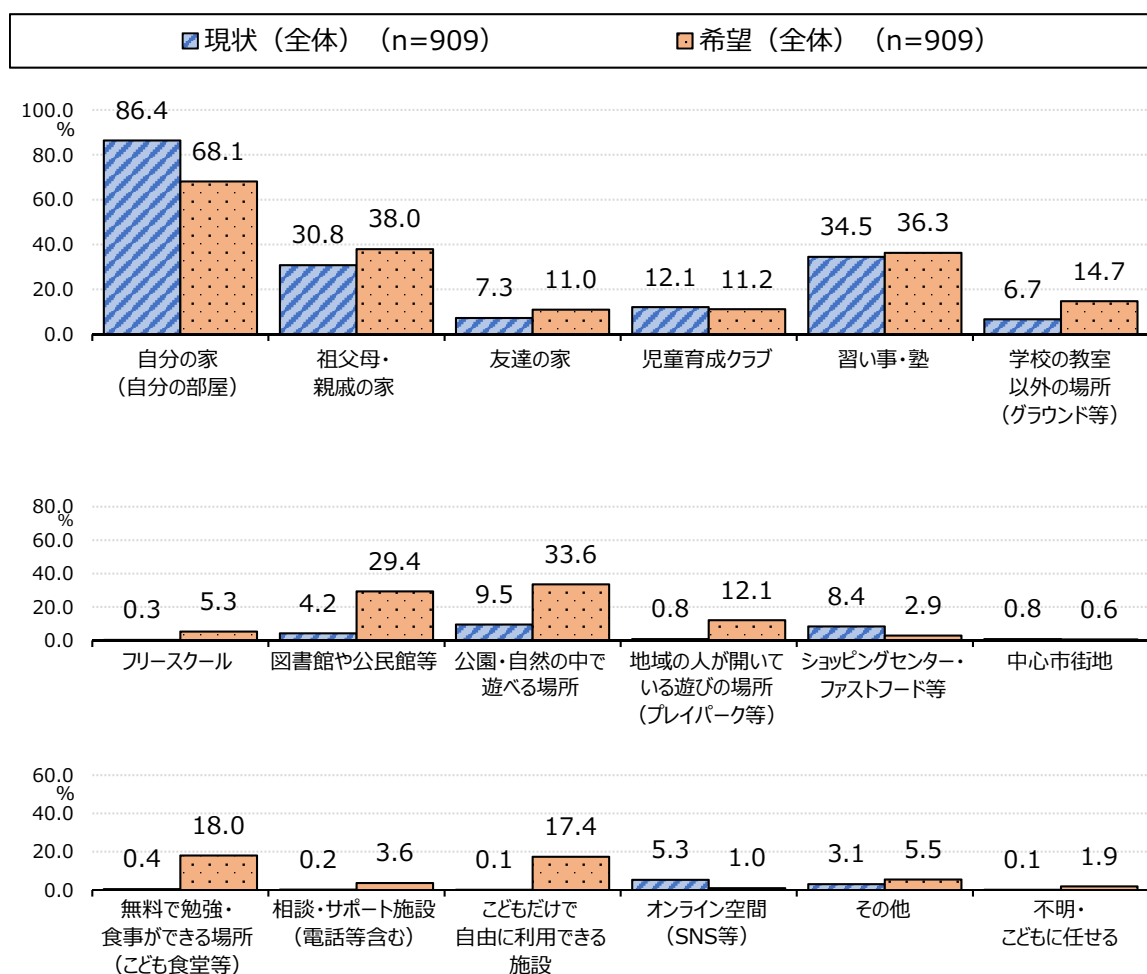
◆「保護者としての希望 > こどもの現状」で、その乖離が大きい居場所

- ①図書館や公民館等：25.2pt
- ②公園・自然の中で遊べる場所：24.1pt
- ③無料で勉強・食事ができる場所（こども食堂等）：17.6pt

◆「保護者としての希望 < こどもの現状」で、その乖離が大きい居場所

- ①自分の家（自分の部屋）：-18.3pt
- ②ショッピングセンター・ファストフード等：-5.5pt
- ③オンライン空間（SNS等）：-4.3pt

図表 1-3-23 夏休み等の長期休暇中の居場所の現状と希望



凡例

現状回答数 (人)	希望回答数 (人)	現状回答率 (%)	希望回答率 (%)
希望－現状 (人)		希望－現状 (pt)	

	小学生 1～3年				小学生 4～6年				中学生				全体			
自分の家 (自分の部屋)	248	198	81.0	64.7	269	217	88.5	71.4	268	204	89.6	68.2	785	619	86.4	68.1
	-50		-16.3		-52		-17.1		-64		-21.4		-166		-18.3	
祖父母・ 親戚の家	127	158	41.5	51.6	99	112	32.6	36.8	54	75	18.1	25.1	280	345	30.8	38.0
	31		10.1		13		4.3		21		7.0		65		7.2	
友達の家	9	25	2.9	8.2	26	36	8.6	11.8	31	39	10.4	13.0	66	100	7.3	11.0
	16		5.2		10		3.3		8		2.7		34		3.7	
児童育成クラブ	96	82	31.4	26.8	13	17	4.3	5.6	1	3	0.3	1.0	110	102	12.1	11.2
	-14		-4.6		4		1.3		2		0.7		-8		-0.9	
習い事・塾	82	96	26.8	31.4	94	103	30.9	33.9	138	131	46.2	43.8	314	330	34.5	36.3
	14		4.6		9		3.0		-7		-2.3		16		1.8	
学校の教室以外の 場所(グラウンド等)	8	48	2.6	15.7	13	40	4.3	13.2	40	46	13.4	15.4	61	134	6.7	14.7
	40		13.1		27		8.9		6		2.0		73		8.0	
フリースクール	1	22	0.3	7.2	1	18	0.3	5.9	1	8	0.3	2.7	3	48	0.3	5.3
	21		6.9		17		5.6		7		2.3		45		5.0	
図書館や公民館等	24	97	7.8	31.7	8	91	2.6	29.9	6	79	2.0	26.4	38	267	4.2	29.4
	73		23.9		83		27.3		73		24.4		229		25.2	
公園・自然の中で 遊べる場所	40	128	13.1	41.8	29	111	9.5	36.5	17	66	5.7	22.1	86	305	9.5	33.6
	88		28.8		82		27.0		49		16.4		219		24.1	
地域の人が開いて いる遊びの場所 (プレイパーク等)	2	49	0.7	16.0	4	44	1.3	14.5	1	17	0.3	5.7	7	110	0.8	12.1
	47		15.4		40		13.2		16		5.4		103		11.3	
ショッピングセンタ ー・ファストフード等	33	8	10.8	2.6	20	10	6.6	3.3	23	8	7.7	2.7	76	26	8.4	2.9
	-25		-8.2		-10		-3.3		-15		-5.0		-50		-5.5	
中心市街地	1	2	0.3	0.7	1	0	0.3	0.0	5	3	1.7	1.0	7	5	0.8	0.6
	1		0.3		-1		-0.3		-2		-0.7		-2		-0.2	
無料で勉強・食事が できる場所 (こども食堂等)	2	57	0.7	18.6	2	63	0.7	20.7	0	44	0.0	14.7	4	164	0.4	18.0
	55		18.0		61		20.1		44		14.7		160		17.6	
相談・サポート 施設(電話等含む)	1	5	0.3	1.6	0	15	0.0	4.9	1	13	0.3	4.3	2	33	0.2	3.6
	4		1.3		15		4.9		12		4.0		31		3.4	
こどもだけで自由 に利用できる施設	0	48	0.0	15.7	1	69	0.3	22.7	0	41	0.0	13.7	1	158	0.1	17.4
	48		15.7		68		22.4		41		13.7		157		17.3	
オンライン空間 (SNS等)	6	0	2.0	0.0	15	4	4.9	1.3	27	5	9.0	1.7	48	9	5.3	1.0
	-6		-2.0		-11		-3.6		-22		-7.4		-39		-4.3	
その他	15	14	4.9	4.6	8	9	2.6	3.0	5	27	1.7	9.0	28	50	3.1	5.5
	-1		-0.3		1		0.3		22		7.4		22		2.4	
不明・ こどもに任せる	0	6	0.0	2.0	1	5	0.3	1.6	0	6	0.0	2.0	1	17	0.1	1.9

※ 「希望>現状」で「希望－現状 (pt)」の乖離が大きい箇所は、 で表記。
「希望<現状」で「希望－現状 (pt)」の乖離が大きい箇所は、 で表記。

「その他」の主な回答

(参考) 長期休暇中の居場所の現状 (その他) に記載された主な内容	件数
放課後等デイサービス	17
親の就業場所	3

(参考) 長期休暇中の居場所の希望 (その他) に記載された主な内容	件数
放課後等デイサービス	7
親の就業場所	1

(7) 今後のこどもの居場所づくりに対する要望等

ア 自由意見

居場所に関する意見や要望等を求めたところ、以下のような意見が寄せられた。

主な内容	件数
施設の増設や改修などについての意見・要望	29
運動施設（プールや体育館等）	7
図書館	1
公園	7
店舗等の民間施設	1
その他の施設全般	13
居場所での活動内容についての意見・要望	59
遊びができる	21
自習など学習ができる	18
好きなことができる	3
日頃できない体験ができる	10
飲食物が提供される	7
居場所での過ごし方についての意見・要望	30
他の人と交流ができる	17
ひとりで過ごすことができる	4
落ち着いて過ごすことができる	2
自由に過ごすことができる	7
楽しく過ごすことができる	0
居場所の運営についての意見・要望	36
運営体制・安全の確保	22
実施時間・アクセス	6
利用料金	2
使用上のルール	5
提供されるサービス	1
学校・児童育成クラブ等についての意見・要望	48
学校施設の利活用に関する意見	14
部活動の運営に関する意見	5
その他学校教育に関する意見	4
児童育成クラブの利用に関する意見	22
フリースクールなど外部機関の利用に関する意見	3
こどもの居場所についての全般的意見・要望	43
こどもの預かりに関する意見	9
こどもの居場所づくりに関する意見	34

個々の回答内容は以下のとおりである。

なお、同一の回答内容は、適宜整理しているため、件数と回答内容の数は、必ずしも一致しない。また、誤記と思われる表記について、補正している。

施設の増設や改修などについての意見・要望

■運動施設（プールや体育館等）

身体を動かすことができ、安全な環境が確保できる所。

日中、外は暑くて運動できないので、屋内での涼しい環境下で軽運動ができる施設が近くにあればいいなと思います。

公園にバスケットとか、ボールで遊べる場所を作ってほしい。

夏休みプール開放がないので1日の子供の楽しみがなくタブレットばかり触っています。

公共の室内プール開放など、安心して同じクラスや小学校などで交代で夏休み中も週1とかでも行ける場所があればと年々思います。

一学期に10回くらいしかない水泳の授業のために毎年水着を買い替えるのも、もったいないなあと思えます。

小学生中・高学年でも楽しく遊べる屋内運動施設が近くにあってうれしいです。滑り台やブランコ等は小さい子がいたら譲らないといけないし、広場は中高生、大人が使って遊ばせようと思っても嫌な顔されるし、見ててかわいそうに思います。

■図書館

学校の図書館を、充実した空間にしていっても利用できるようにしてほしい。本を新しくして、空調設備を整える。

■公園

夏場の暑いときに遊べる水場？浅い川みたいな安全（おぼれない）な水遊びができる大きめの公園が近くに欲しい！

公園があっても五月に草刈りしても夏休みには草が生えていて、あそべません。また狭いのであそべない公園がちらほらあります。

運動ができるように遊具を設置してもらったり休憩所を設けるなどして日陰をつくってほしいです。

自習ができる所も欲しいです。

人通りのある場所、人目が多くつく場所に公園等を作ってほしい。

また、学年混合で子供同士で遊べるような施設や、昔遊びを教えてくれるような場所があればいいな、と思います。

ゲームやYouTubeの時間が増え、私たちが子供の頃に遊んでいたような昔遊び等を知らない子供が増えているように思うので。

学校の下校後、子どもたちが安心して子ども同士で遊べる公園があったら親も安心、子どもたちもうれしい！

それには誰かが見守る必要がある。できれば有資格者がいればなお良い！

今の子どもたちに他者との関わり、コミュニケーションを学ぶ場として不足している。

遊ぶ空間、仲間、時間を提供してあげたい。

子供だけが利用できる、あるいは子供が優先的に利用できる公園をもっと身近に置いて欲しい。運動公園などにこども広場があっても、子供は連れて行ってくれるかどうか大人に依存せざるを得ず。現状の学区の公園は、大人の都合で制約が多く、子供が全くのびのびと遊べない。

木陰やベンチ、遊具がある公園を作ってほしいです。

のびのびと遊べて、取りあえずそこに集合して多くの子が体を動かして遊べたり木陰で本を読んだりできる子どもが主体の広場が理想です。

■店舗等の民間施設

兄弟が多く、成人しても自立できない子がいるため、経済的に負担が大きいのが現状で、習い事や塾にも行かせられません。

自宅から買物に行くのも離れているため、なかなか帰ってこないなど心配もたくさんあります。

ちょっとした駄菓子屋さんでも大丈夫です。コンビニだとありがたいですが…子供たちがお腹すいたときに自分で買いに行けるように学校近くにお店を作ってもらいたいです。もちろん、困らないように準備はしても衛生面等限度があります。

よろしくお願いします

■その他の施設全般

最近は暑くて、外では過ごしにくくなってきました。友達同士で涼しくて、安全な少し騒いでも大丈夫な場所を作ってほしいです。

子供が遊ぶ場所も全くないです。ボール遊びも公園は禁止で、熱中症の危険もあり外遊びも18時以降しか難しく一日中家の日が多いです。

うちの子は重度の乳アレルギーがあり、学童やこども食堂は誤食や接触が怖くて行かせたことがありません。

飲食はしなくても子供が集まって何かできるような安全な屋内施設が出来たらとても助かります。

図書館で勉強したり昔はしていましたが新しい本が余らないのか、今は図書館も行く機会がないです。

暑いときでも身体を動かして遊べる、公園の代わりになる室内の遊び場（お金がかからない場所）があると有り難いです。

児童館が近くにないので、児童館を増やしてくれると、学校帰りに遊びに行けたりできるし、真夏の暑い時などもお外遊びはできないので、児童館へ行けたりするのではと思います。家だけではなくお友達と一緒に児童館で遊べると遊ぶ視野が広がるのではと思います。家だとテレビやYouTubeばかりで、時間決めていてもついつい観たくなります。

リモコンを隠さないと、ついつい観てしまいます。

安く借りられる体育館と図書館が近いと遊べるし勉強もしに行ける。(菊陽図書館は体育館、公園が近くていいなと思います)

現在夏休み中ではありますが、特別支援学校のづくりがとても古く、安全性に関してとても不安に感じています。

県へはPTA等から要望し続けていると聞いておりますが、その返答がこれまでどうだったか、はっきりと耳にしたことがありません。

子供が過ごす場所先に新古の差を感じる、古い校舎に安全性を含め要望していることに関して見て見ぬふりをされているのではないかと、不安に思うと言うのはあってはいけないと個人的に思います。

コミュニティセンターなども週2くらいで自由な空間として開放してほしい。

居場所での活動内容についての意見・要望

■遊びができる

屋内で公園のように遊べる場所

体を動かして遊んでほしいのですが、熱中症等の危険があり、公園で遊ばせることはむずかしいので、そのような施設があるといいなと思います。

学校の近くに雨天関係なく子供が集まれる遊び場が欲しい。

長期休みに低価格で昼食をとれる施設があれば嬉しい、保護者同士の交流の場としても利用したい。

この暑さで公園で遊ぶのも厳しいので、快適な室内で、友達と遊んだり安全に過ごせる場所があって欲しいです。

五福公民館のホールなどで自由に遊べる時間があると助かると思いました。

暑いので外で遊ばせられないのと、自分が仕事をしているけど低学年のため一緒についていないといけないため、子供だけでも遊ばせられる場所がほしい

決まった場所で、子供たちだけで、集まり遊べる場所

遊びを通じて学ぶことが出来、集団性や行動力を身につけることが出来る施設

ひとりでも気軽に遊びに行ける場所

安全がある程度確保されていて、子供達が自由に遊べる場所を提供してほしい。夏は暑さ対策と水分摂取ができる環境を作ってほしい。

友達の家にお邪魔すると保護者が不在であったり、気を使われると思うので、自由に出入りができて、友達と待ち合わせて自由に遊べたり勉強ができる場所が、家の近くにあるといいと思います。

犯罪被害や事故に巻き込まれない安全に遊べる場所で過ごしてほしいです。

こども文化会館は小さい子が多く小学生が遊んでいると迷惑になることが多い。小学生が元気に遊べて、ある程度監視してくれる場所が欲しい。

地域に雨の日子どもたちが気軽に集まれ遊べる場所があると助かります。

■自習など学習ができる

自習の勉強ができる場所がありません。

涼しい環境で集中でき勉強ができたなら夏休みの宿題もすごくはかどるはずです。

市役所の出張所や公民館で空いている部屋を勉強部屋として使わせていただきたいです。

高学年になると、自由を覚えているので、決まりやルールが厳しいところでは過ごすのが難しい。学童クラブが利用できるようになっても行きたがらない。

長期休暇はこどもにとってはパラダイスで、お留守番してくれることは、こどもに感謝ですが、親は、毎日家族5人分のお昼を作り、宿題の管理もして、夏休みをストレスに感じます。いろいろな方と話しても同じような感じです。お昼ご飯の提供と宿題の管理（一日〇ページ）の居場所があればと思います。2時間くらいでも過ごせるところがあるとありがたいです。小学校くらいの近さでないと、自分たちで行けないので、場所も重要です。また、人も選ぶようになってきているので、一緒に会話しても楽しい大学生くらいのほうがこどもは楽しいのかな。

家の近くで自習できる場所があればいい。
(図書館が遠いので)

子どもが自由に出入りでき、冷暖房完備で学習に適した場所。勉強を教えてくれる方がいればとてもいい！

特に長期休みの時は助かる。

自宅では、なかなか学習が進まないところもあるので、ふざけない程度にルールがあり友達と会話をしながら、自習できる自習室が夏休み、春休み、冬休みにあつたらいいなあと思います。

受験生なので、今年は学習ができる居場所を必要とします。

図書館の学習ルームを利用することも有りますが時期的にはもっと広いスペースが欲しいです。(満席になっているため)

託麻市民センターの図書館を利用しています。静かに自習できるスペースがあると良いなと思います。

学校の教室を開放して、保護者が協力して交替で勉強を見てあげるなどできると良いなと思います。

無料で使える自習室などが沢山あれば親も安心だし宿題や勉強もはかどるのでそんな施設があればよいと思います。

塾などすごく高額なので格安で気軽に行ける勉強を教えてくれるところがあればよいと思います。

日中とても暑く外に長く出すのは怖いですが、家に籠もりきりも良くないと思うので、通学程度の距離で涼みながら読書や勉強できる場所があると良いと思います。自宅から市の図書館は少し離れていて、学校の教室や図書室の開放があると良いなと思います。運営の難しさはわかるので、期待はしていませんが…。

好きな教科だけを学習していい時間がある学校のような施設。

スタンディングデスクなどあるとなお良い

図書館みたいところで、入室と退室は確認できて、図書館で自由に勉強や本を読んだりできるところ。

■好きなことができる

夏休みなどの長期休みの際などにそれぞれ個人の興味関心に合わせて自ら調べたり実験したりすることが出来る探究型の施設(サポートスタッフなども常駐している)、将来的にはそこでの活動を機に進路選択などの相談も出来たらより嬉しいです。

普段仕事をしているので、夏休みなど長期休みなどのときは、家だけで過ごすゲームやYouTubeなどを見て過ごす時間が増えます。なので、夏休みの宿題をしたりお昼ごはんを食べたり普通の学校ではできない経験をしたり、時間に追われている親に代わって子どもたちに学ばせてあげられるような環境で過ごせれば良いなと思います。泊りがけで行くようなものではなくいつもの生活のリズムを崩さない程度に、子どもたちが楽しそう行きたいなと思ってくれるような内容で。収入の差で学びや経験をあきらめなくていいような環境を希望します。

■日頃できない体験ができる

どうしても仕事で側にいられない。その間、子どもが苦しくなく、さみしくなく、安心して過ごせるならそれが一番大事。自分で選択してスケジュール管理ができることもあるといい。でもやっぱり本当は一緒に過ごしたいので、休日の親子イベント(年の差兄弟OK)の選択肢がたくさんあると嬉しいです。安価だと尚嬉しいです。

仕事をしているので、その間にこどもも有意義に過ごせる場所があるといいなと思いま

す。しかし習い事となるとお金も送迎の負担もあるので、ボランティアや安価でなにかを教えてくれる場所などが地域にあるといいなと思います。

公民館等で、1ヶ月500円位で通える習字やダンス教室など、子ども向けの趣味の教室があると嬉しいです。

仕事やスポーツなど、色々な体験ができる場所を作ってほしい。

小4以降、育成クラブに行けなくなるため、夏休みに自宅で1人留守番させることに對して、安全が不安で仕方ない。4年以上でも仕事の時間帯に通える居場所を早急で作ってほしい。

育成クラブがすごしやすくあってほしい。あれはダメ、これはダメ、じっと座ってDVDをみてなど子どもが窮屈な環境は行きたくないと言い、泣くため、働きやすくない。

■飲食物が提供される

長期休みのときに、子どもだけで利用できる低価格の子ども食堂。共働き世帯の保護者が楽になると思う。

夏休みなど長期休みに食事を提供してくれる施設が欲しい

仕事に出る前に夏休み中など、昼ご飯を準備するのが大変なので、頼れる親戚等は近くにいないので

就労証明とがなく、高学年、誰でも行ける施設。お昼ごはんが提供できる。

子ども食堂みたいな感じの場所を増やしてほしい。近くの子ども食堂は子供が多すぎて人見知りの子は入りにくいみたいなので。

長期休暇中、後ろ髪をひかれながら、留守番をさせている理由の一つが、お昼ご飯を1人で食べさせていることです。

お昼の時間帯だけでもいいので、学校やコミュニティセンター等を解放していただき、友だちなど誰かと一緒に食べてほしいと思います。

また、アレルギー対応等が難しいと思うので、個人的にはお弁当と水分持参（お菓子なし）で、場所だけの提供でよいと思います。昔は、プール開放で友だちと会い、遊ぶ約束もできていましたし、登校日もありました。それもないので、そのような取り組みが地域であれば、遊ぶ約束もでき、新学期もスムーズにスタートできるのではないかと思います。

今は核家族がほとんどで、おじいちゃんおばあちゃんと過ごす事で心の拠り所となる事もあると思います。安くお昼ご飯が食べれてゆっくり出来るスペースのある施設があればいいです。それと、おじいちゃんおばあちゃんに時給が発生するとよりいいです。

居場所での過ごし方についての意見・要望

■他の人と交流ができる

夏はかなり暑いので、今までのように公園等の外でお友達と会って自由に身体を動かして遊べないので、子供たちだけで集まるにも親は仕事で居ないし、どこで集まって交流させていいか悩みます。校区内で少しでも涼しい場所であれば安心して行かせられるし、そのような場があれば教えて欲しいです。

夏休みなどは特に猛暑のため、なかなか外遊びができず、子供同士で集う場所の確保が難しい。公民館の解放や室内での集い場所（児童館のような）がもっと沢山あると有難いと思う。そこには、大人の存在（高齢者の方など）があり異世代交流に繋がると更に有難いと思う。

自由に出入りが出来て、友達と一緒に過ごせる空間。親が留守な場合、子供達だけが集まって遊べるのが難しくなるため。

家から歩いて、もしくは自転車で行ける距離に図書館や市民プールなどがほしい。高学年になると、友達だけで行くという経験ができる場所があるとよいと思います。

小中学生の子供がいますが、暑すぎて外で遊ぶ事ができません。そうすると、学校や公園も無理なのでずっと家にいて、留守番しています。

川上小校区には北部まちづくりセンターがありますが、児童館等の子供の居場所はゼロです。

夏休み期間中や放課後に、広場として今すぐにも解放してほしいです。そうすれば、暑くても、友達と会う事ができます。図書館はありますが、勉強スペースがないので、中高生には勉強できるスペースを、小学生は高学年、低学年でわけてお友達と夏休み会える場所がほしいです。

学校でもプール解放も無いので、本当に困っています。

低学年だが育成クラブには入っておらず兄は塾でいない時間帯も多く、どうしても家でテレビを見てひとりで過ごす時間が多いのが

少しだけ気になっています。低学年だとお友達と約束するのも難しいので公民館などが解放してあり自由に出入りができお友達と自然に会える場所があれば嬉しいなと感じます。

家にいるとゲーム、YouTubeなどに偏ってしまい、体を動かさないし、勉強も思うほどできていない。

気軽に集まれるところがあれば最適だが、そこに保護者が関わることは仕事などの関係上なかなか難しい。

親や先生に言えない悩み事も聞いてくれる居場所。祖父母の家は遠いため、第二の祖父母のような存在があればいざという時、心の拠り所になると思う。

もし学校で何かあり不登校などになった時に、悩み事を聞いてくれたら相談できたり寄り添ってくれる人がいる場所を作って欲しい。色々な手続きで時間がかかるのではなく、「今、すぐに利用できる場所」が欲しい。手続きなどで時間がかかると、支援などがタイムリーでなくなる。

地域の人と交流ができたり、子供が自由に遊びに行ける公民館や集会所などあれば良いなと思う。いつでも誰でも気軽に行ける場所があると子供も親も安心

育成クラブとは別に、子供達が自由に遊びや、宿題などができるような場所が欲しい。児童館のような施設。

そこへ行けば、友達に会えるような場所。

学校にかかわらず、子ども同士で交流ができたり、会話はなくてもその空間にいて安心して過ごせるような、安価で解放された場所があると良いなと思います。我が子は携帯を持っていないため、お友達と遊ぶことも難しく、昼間は1人で家で過ごすことが多いです。長期休みを乗り切るのは親子共々しんどくなってきています。

学校にはスクールカウンセラーが常駐してたり、月に数回学校にこられたりありますが、学校ではやっぱりどんなに極秘で日程決めていても周りを気にしたりがあるとおもいます。そしてその時に不安がとれたら安心して次の日を迎えることができる子もいると思います。(病院とか電話相談、オンライン等のそういう場所はたくさんあります)

でも対面で日程決めずにふらっと行ける場所に臨床心理士さんがいてくださる環境は今の子供達には必要なかなとも思いました。

不登校でも色々な生き方がある事を教えて、前向きな心を育ててくれるような人達が居る場所。(ふらっと立ち寄れる感じ)

相談などはもちろんですが、道しるべを親以外からも沢山教えて欲しいです。

元々警戒心が強く、自宅や学校以外で、安全だと思える場所がないと感じているようです。また知らない人がいると安心できないようなので、予約制の貸切スペースなどがあれば利用するかもしれません。

■ひとりで過ごすことができる

近所に友達が少ないため、一人でも利用できる場所でサポートしてくださる方がいてくださると安心です。

自分でいれる場所

子ども達が、管理する大人がいなくても自分たちでルールを守って過ごせる場所。

居場所の運営についての意見・要望

■運営体制・安全の確保

安全な環境で安心できる大人（性犯罪や暴力などを絶対にしない）が近くで見守ってくれること。

成長過程で色々な人と関わって欲しいと思う反面、こども食堂などはある特定の信仰などを持った人が勧誘のために開いているとのニュースを見かけたことがある。素性のわからない方がいる場所は怖いとも思う。

ちゃんとした保育士等の資格を持った人達しか育成クラブの運営はするべきじゃないと思います。支援員の言動や子供に対する接し方など色々と見たり話を聞いたりしてきましたが、子供に愛情を持って接してるようには一切感じません。他に預けれるところが無いので我が子を預けていますが、他のところがあれば育成クラブには通わせたくありません。障害を持っていない子にも放課後等デイサービスのようにちゃんと資格をもっていて、子供に愛情がある接し方をしてくれる場所が利用出来ると親としては信頼して預けるので作って欲しいです。

できるだけ事故が起きない環境であるといいと思います。

また、できるとならデジタルデトックスができる場があるといいと思います。

全てにおいて安心できる場所。
教養の場であること。

友達の家に集まる感覚で、気軽に集える安全な空間。

子供にとっては安心、安全な場所がいいです。犯罪に巻き込まれたり、危険な人がいない場所です。

周りの目が届く、家から近く、お金がかからないところがあればいいと思います。

図書館にもどんな人が出入りしているかわからないので、親も本を選びたいが怖くて子どもから離れられない。カウンターだけではなく、カウンターから死角になる場所にも人を常時配置してほしい。

子どもの性犯罪被害などが心配なので、そういった心配の要らない信頼できる大人が運営する場所であって欲しい。

今の世の中は子供にとって危険が多過ぎて中々子供だけでお友達と遊びに行くことにOKを出す勇気ができません。放課後学校の運動場や図書館などを開放し、見守ってくれる方がいるとありがたいなと感じます。

こども本人も保護者も安心して預けられる施設とスタッフがあるといいな、と思います

■実施時間・アクセス

暑すぎて公園で遊べないので家族みんなでプールに遊びに行ってます！

プールの施設一覧今日空いてるのかどうかわかれば便利だなと思います。

あと、母1人で息子を連れて行くとなると男子更衣室が1人になるので心配しています。

児童館や図書館など画図校区からだと、車を使えば行ける距離には何ヶ所もあるんですけど子どもが一人で行ける距離にはないのでもっと近くにあったらなあと思います

低価格、安全、ある程度の利用時間、密集しない、近場

18時以降も預かっていただけると有難いです

学習塾が居場所になっているが、送迎できる者がいないのでタクシーを利用せざるを得ない状況であり費用負担がかなりきつい。

収入格差で学力に差がでるのはいかなものかだと思います。補助を出すか、安価な送迎システムを検討してください。

今回博物館が夜も開いておりました。(夏休み期間) 仕事しているので終わり次第子供との時間ができてとてもよかった。

たとえばどこかに子供にとっていい場所があったとしても、道路が狭く、子どもが徒歩や自転車で移動するには危ない箇所が多すぎる。子ども1人(または兄弟や友達と一緒に子ども同士)で移動させるのが不安が大きい。安心して子どもが近所を移動できる道路環境にしてほしい。また、送り迎えを必要とする場合、日頃の渋滞がひどいので、居心地のいい魅力のある場所であったとしても、行こうという親側の気力がなくなる。渋滞で浪費される時間がもったいない。渋滞による熊本市民の意欲の減退、エネルギーの消耗は甚大と感じる。熊本市民が不憫である。

■利用料金

今、いくことはありませんが、保育園時、子供文化会館を利用していました。

駐車場代が有料であったことは、ネックでした。

その点は、子育てしやすい環境に整備していただきたいと思います。熊本は、パチンコ店など他県より多くあるかと思います。そのような遊技場よりも、もっと、子供達が遊び、学べる施設を、より多く作っていただきたいと思います。

そうしますと、パチンコ店などへ、保護者がお金を使い込むことなく、子供や、家族と過ごせる時間へ作るきっかけになると思います。

隣県に福岡というお手本になる都市があるのに、なぜ熊本は、いつまで経っても、このようなアンケートばかりで実際には、実行しないのか、疑問でしかありません。

何事にもお金がかかる。

いろいろな体験をさせてあげたいのだが、お金がないので、他の子よりも体験させられなくて、申し訳ないと思う事が多々ある。

なので、低価格で、子供だけで安心して預けられる、ワークショップや、単発なスポーツ体験など作って欲しい。下の子がいるし、足がないので、送迎ができない。

■使用上のルール

公園の禁止事項を緩和する。

学校を休んだら部活に参加出来ないというルールをやめてほしい。クラスには行けないけど部活には行きたいと言っている。

公園でもサッカーの練習を自分で自由にできるようになればいいと思います。ボール遊びは道路への飛び出しが危なくて禁止の場合はネットをはるなど。トレーニングできる場所が習い事の場所しかなく、もっと練習がしたくても、できる場所がないようです。

近場にアクアドームがあるのですが2〜3年前から子どもだけでのプールの利用が出来なくなりました。子ども達のマナーの問題だったようですがそれは一部の子ども達できちんとマナーを守って利用する子ども達は不憫だと思います。施設側は何か対策されたのでしょうか。なんでもかんでも禁止にするようになれば子ども達の居場所もおのずとなくなっていくと思います。もちろん公共の施設を利用する場合はまずは保護者がきちんと子ども達にマナー等、注意を促すことが前提での意見です。

公園など、規制が多く、自由に遊べないため、不満があるように感じる。

ボールを使った遊びなどが出来る場所を増やして欲しい。

■提供されるサービス

学校がわりになる、規則正しい生活が送れるような居場所がいい

学校・児童育成クラブ等についての意見・要望

■学校施設の利活用に関する意見

夏休みも学校に行けるようにして欲しいです。

普段より遅めにスタートして、お勉強は少しだけにして、お友達との関わりを持てる自由時間を多く取って、給食が提供してもらえて、いつもより少し早めに帰ってくる、のが理想です。

夏休みは特に家にいてもメディア漬けだし、お昼ご飯の順調も大変だし…！ 贅沢すぎる希望ですかね…。

学校を開放して欲しい。退職した先生などを雇って課外授業をして欲しい。

夏休みの学校プール開放の停止は全く納得出来ない。

家から近くで子供たちが安心して勉強などが出来る場所を作ってほしい。外は猛暑で遊べないので、1週間に一回でいいので2時間〜3時間、学校を開放してほしい。

学校プールなどを開放して欲しい。仕事がフルタイムでどこかに連れて行ったりするこ

とも難しく、連れて行けたとしても兄妹で遊ぶ年齢ではなくなっている。

友だちと気軽に会える場所を提供して欲しい。

学校で、出勤されている先生が見守りしていただける日や時間があると嬉しいです。

小学校内で自由研究ができて、指導等してくれる指導員さんがいるフリースクールがあるといいと思います。

■部活動の運営に関する意見

部活動のように集団で同じ目標のことを過ごす場所があるといいと思います

小学校の部活動の代替となるような居場所を作って欲しいです。

子供が放課後そのまま学校に残って興味のある活動に取り組み、夕方自分で帰宅する、というのは、送迎が不要な点においてもとても理想的です。

教職員の方の負担なく、外部委託のような形で実現できたら利用したいです。

■その他学校教育に関する意見

学校のあり方を改善してほしい。

公共で安価または無料のフリースクールを増やしてほしい。

夏休みなどの長期休みを廃止してほしいです。

長期休みに一人になる為、安心して過ごせる場所がない。

■児童育成クラブの利用に関する意見

育成クラブが6年まで利用できると安心して長期休暇も仕事出来るのになと思います。校区では3年までの利用となっており、4年からは社会に放たれますがまだ未熟なため安心して休みを過ごさせることができません。

このご時世、子供だけで過ごすことが危険な場合がほとんどで、昔のように自宅で1人で留守番させるのは簡単ではありません。

高学年も夏休みだけでも学童を利用可能にしてほしい。

家の近所または学校周辺に、子供が好きなときに行けるような児童育成クラブがたくさんあってほしい。何時〜何時までの間は、事前予約無しでも利用可能というような場所。放課後も子供が「今日行こうかな」と思った

ら立ち寄れる場所。事前登録は必要だと思いますが。

小学校によって育成クラブの利用できる年齢が違うと思います。託麻東小学校の育成は3年生までですが、もう少し上の学年まで利用できると助かります。生徒数が多くて大変だとは思いますが…。

両親共働きで祖父母にも頼れないので、夏休みなど長期休みはずっと家に1人でお留守番させる事になるので心配です。

職場の同僚の話を聞くと、小学4年までだったり、小学6年まで利用できたりバラバラでした。住んでいる校区が違うだけでこんなに違うのかと…正直羨ましいなと思いました。

仕事をしているので、育成クラブに入りたいのですが、人数が多すぎて環境がよくないので、もっと学童クラブの現状を見て対策を講じてほしいと思います。

長期の夏休みに郊外活動があったりすると楽しめると思う。また習い事兼育成クラブという形が理想的。育成ではあまり宿題の時間がなく自由に過ごしているので溜まった夏休みの宿題で土日が潰れる。

昨年まで学童に行っていたが、学童に行くことが嫌だ(昼寝したくないのに昼寝の時間があったり、外であそべなかったり、楽しくない)学童行かないといけないなら学校行きたくないとなってしまう学童の利用をやめた。

家で一人で過ごすより学童に行ってもらったほうが安心する。

学童が楽しくて利用しやすい場にしていただきたい。

夏休みの平日は育成クラブでお世話になっています。先生方の見守りのおかげもあって楽しく通っており、安心して預けられる環境に感謝しています。

育成クラブの利用も考えていましたが、利用人数が多く利用をしていません。民間の学童を利用しています。市からの補助などないため、価格は高めですが、子どもの安全を確保するための値段だと思っております。

旧植木町では学童が土曜日は週1回しか空きません。私達親は仕事の為親戚にあずけたらなどどうにかやりくりしてこなしていますが、限界があります。子育てしにくい熊本市とみんな言ってます。魅力あふれる熊本市を

目指しませんか？予算の関係？税金めちゃくちゃ納めてますが一向によくなりません。宜しくお願いします。

長期休みなどに、誰でも無料で利用できる育成クラブみたいな場所があれば、友達同士で勉強したり、遊べるのにとおもいます。

■フリースクールなど外部機関の利用に関する意見

友達や兄弟がおらず、学校でいじめられて学校を休む事があるので、平日朝から夕方まで居られる居場所(フリースクールの様な場所)が、今以上にたくさん出来て選択肢が増えて、家から近い所にあればと思います。

フリースクールに通う補助が欲しい

子どもだけで気楽に行ける、または送迎がある子どもそれぞれが楽しめて勉強ができる場所が欲しい

こどもの居場所についての全般的意見・要望

■こどもの預かりに関する意見

現在、ファミリーサポートのサービスを利用することが時々あります。

そんなに遠くではないものの、協力会員さんの自宅への送迎に時間を取られることもあります。

自宅の近くで、子供一人で安全に歩いていける場所に預かり施設などがあり、届出（もしくは予約）で利用できると助かります。

中学生になると部活や塾である程度親が日中いなくてもいいが、学童終了後の4年生以降は、学習塾も午前だけのことが多いし、毎日ではないため、ずっと家で過ごすことになる。この暑さで親がいない状態での外遊びも心配なので控えてもらうため家でゲームの時間になってしまう。

低価格で夕方まで安心して預けられる場所が欲しい。

大人の目が届くところ。

今は共働きで、家の中にお留守番することしかできない

4月から放課後等児童デイサービスを探していますが、とにかく空きがありません。東区、は特に無いそうで来年度の空きも無いそうです。現在はキャンセル待ちや保護者送迎で数日利用してますが、仕事ができず大変困っております。子どもに障害があっても安心して預ける事ができ、保護者も仕事に行き金

銭的な心配が無くなれば日々の暮らしも楽しくなれると願います

夏休みも安心して働けるように子どもたちと出勤して、子どもたちが過ごせる場所を職場に作ってほしい。

育成クラブは自由に出来ない事を理由にすぐに辞めてしまい、長期休暇の際の預かり場所に困る。塾も嫌がる為仕事をセーブせざるを得ない。勉強に捕らわれず、自然や子供達だけで過ごせる安全な施設が欲しい。

■こどもの居場所づくりに関する意見

是非とも群馬県前橋市へ行って来て欲しい。子供の施設、公園たくさんあります。

リサイクル、自然、環境、全て子供向けでわかりやすい！

夏休みはこの暑さで、家でゲームなどをして過ごすしかありません。子どもにとってゲームよりも魅力的な場所を見つけられたらと思います。色々なイベントのチラシも学校からいただけるとありがたいです。

無料または低価格で遊んだり勉強したり食事までできる場所が欲しい。既存する場合はどこにどういうものがあるのか情報を知りたい。

そういう事の情報の取り方がわからない。

公園が少ない。

集まって遊ぶ場所がないので結局我が家に集まってる状況。

川尻校区は社会福祉協議会が運営されている学習支援やたまりばなど子供達が勉強したり集える場所がありありがたいです！！

引き続き利用させて頂きたいです！

保育園の延長のような馴染みの場所や人の中で安心して過ごせる場があれば、親も子育てする中で心強く感じられます。

わが子は赤ちゃんのころから、保育園にお世話になり、一緒に育ててもらったという思いです。卒園時の喪失感は何とも言えない寂しさと不安がありました。保育園の横に学童保育があればどんなにいいかと思いました。子育てこそ、シームレスなサポート体制が大切ではないでしょうか。保育園→小学校→中学校とステージが変わるごとに新しい関係を作らねばならないのはプレッシャーでもあります。自分の状況が変わっても、変わらない場所が安心の居場所になるのではないのでしょうか。

調査ありがとうございます！

こどもにとっての安全で安心な場所であればいいわけで、こどもの居場所、に対して、保護者の立場から・・・、という内容に違和感を覚えます。

中学生の子供はあまり干渉されたくないもので、このような居場所を提供しても居付かないように思う。

むしろより小さい子供とあそぶなどの役割を与えて、ボランティア活動等のスタッフとして必要とされるほうが面白がって行くと思う。

友達と過ごしたい気持ちはあるものの、友達の家に遊びに行くとなると、親に気を使う。自分の家に呼ぶ時も、親がいと気を使うから、結局遊べない。今、外遊びはあまりしないし家の中で過ごすことが多いため、お互いの家に行ったりする機会が主流だとも思うが、親がいない中で家で過ごすのも、ちょっと不安。

姉が不登校の時に過ごせる場所を探すのに難渋したため、こどもの居場所が出来ることを強く望みます。

様々な形態の居場所があるとよいと思います。NPOが運営するものも含め、子どもが安心して過ごすことができる場所が多くあってほしいです。そして、それは長期休暇だけでなく、常に必要だと思います。

親が子どもと一緒にいられるような勤労体型（子どもがいない大人には蹴寄せがこない、または働きたい人は報酬が増える）

発達障がいがあり一人で過ごす事が楽なようで、家が好きなようだが、親としては家以外に好きな場所ややりたい事を見つけて欲しいとも思います。

子どもにとって、親が1番です。

それぞれの親が子どもと関わる事が1番なのではないかと考えます。

子どもたちが、一人でも、友だちとも過ごせるようなスペースが、どこにあるのか疑問に思うことはあります。

例えば「ドラえもん」では、のび太たちがよく空き地に集まって遊んでいますが、自分たちが子どもだった時代と比べると、あのような自由な空間が、現代には少ないなあと感じます。

「居場所」というのであれば、長期休暇くらい自宅でのんびり過ごさせてあげたい。子どもが行きたい所があれば連れて行ってあげたい。

しかし、1人で留守番させるのは可哀想と思いつつも、出勤しなければ職を維持できないし収入を得られないので、留守番させている。外に居場所を作るというよりは、両親のどちらかが家にいられるような制度を整えれば解決する。

中3なのでこどもの居場所の必要性がなく、どんなイメージか、市が何を作ろうとしているのかがわかりません。

わが子は基本的に家で過ごすことが多いです

近場に遊べるところが少ない、というのがあります

コロナ禍で友人の家にも気軽に遊びに行けない時期が続きましたので、これからは行けると良いなと思います

外は暑すぎるので、どうしても家ばかりになってしまう。

親が仕事でお留守番の時はYouTubeやゲームばかりになってしまうが、仕方ないと思っている。

家の近くに開放されている公民館などがあればいいが、ない場合はいくところがない。

経済的な面も含め、安心して子育てできる環境を整えて頂きたいです。

子どもだけでも安全に利用できる施設。
地域的に子どもたちだけで行けるところが無いように思います。

公園ありません。遊ぶところが無い！

うちは自営業をしています。子どもたちだけで留守番をする事もありますし、土日祝日に来客がある時は子どもを祖母宅へあずけますが、その場合、祖母の負担も大きく心苦しく思っています。

平日は学校へ行っているのであまり困りませんが、学校が休みの日でもこどもが過ごせる場所が欲しいです。

低学年でも1人で行けるところがあると、親としても助かりますし、本人の自立心につながると思います。

第 2 章 施設等運営者ヒアリング調査結果

第2章 施設等運営者ヒアリング調査結果

1 調査概要

(1) 調査の目的

こどもの居場所となっている可能性がある熊本市内の施設等の運営者から、書面及び対面により意見を聴取することで、施設等運営者が抱えている課題や行政に対する要望等を把握し、熊本市における、こどもの居場所に関する政策等を検討する際の参考情報とすることを目的とする。

(2) 調査概要

ア 書面ヒアリング

① 調査対象者

「熊本市が把握している公共施設・運営者」及び「総務省統計局が管理している事業所母集団データベース（令和4年次フレーム）に掲載されている事業所」のうち、こどもの居場所となっている可能性がある熊本市内の1,267の施設等を対象とした。

② 調査方法

対象施設等に依頼状をメール又は郵送し、ウェブフォームにより回答

③ 調査日程

令和6年（2024年）8月13日（火）から8月30日（金）まで

④ 有効回収件数

518件（回収率 40.9%）

イ 対面ヒアリング

① 調査対象者

8月に実施した書面ヒアリングにおいて、対面でのヒアリングが可能と回答があった施設等から、施設形態・所在地域等を考慮の上、以下の9つの施設等を選定した。

図表 2-1-1 対面ヒアリング対象先一覧

名 称	設置者	施設等の形態
A 児童育成クラブ	市	児童育成クラブ
B 児童館	民間	児童館・児童室
C 地域コミュニティセンター	市	地域コミュニティセンター
D フリースクール	民間	フリースクール
E こども食堂	民間	こども食堂
F プレイパーク	民間	プレイパーク
G 学習塾	民間	学習塾（小・中学生向け）
H パソコン教室	民間	習い事（文化系）
I 通信制高等学校サポート校	民間	その他

② 調査方法

書面ヒアリング調査の回答内容を基に、各施設等につき1時間程度、対面によるヒアリングを実施

③ 調査日程

令和6年（2024年）10月8日（火）から10月10日（木）まで

2 書面ヒアリングの調査結果

(1) 施設等の概況

ア 施設等の形態

本調査に回答した施設等の形態と、それぞれの回答数は、以下のとおりである。

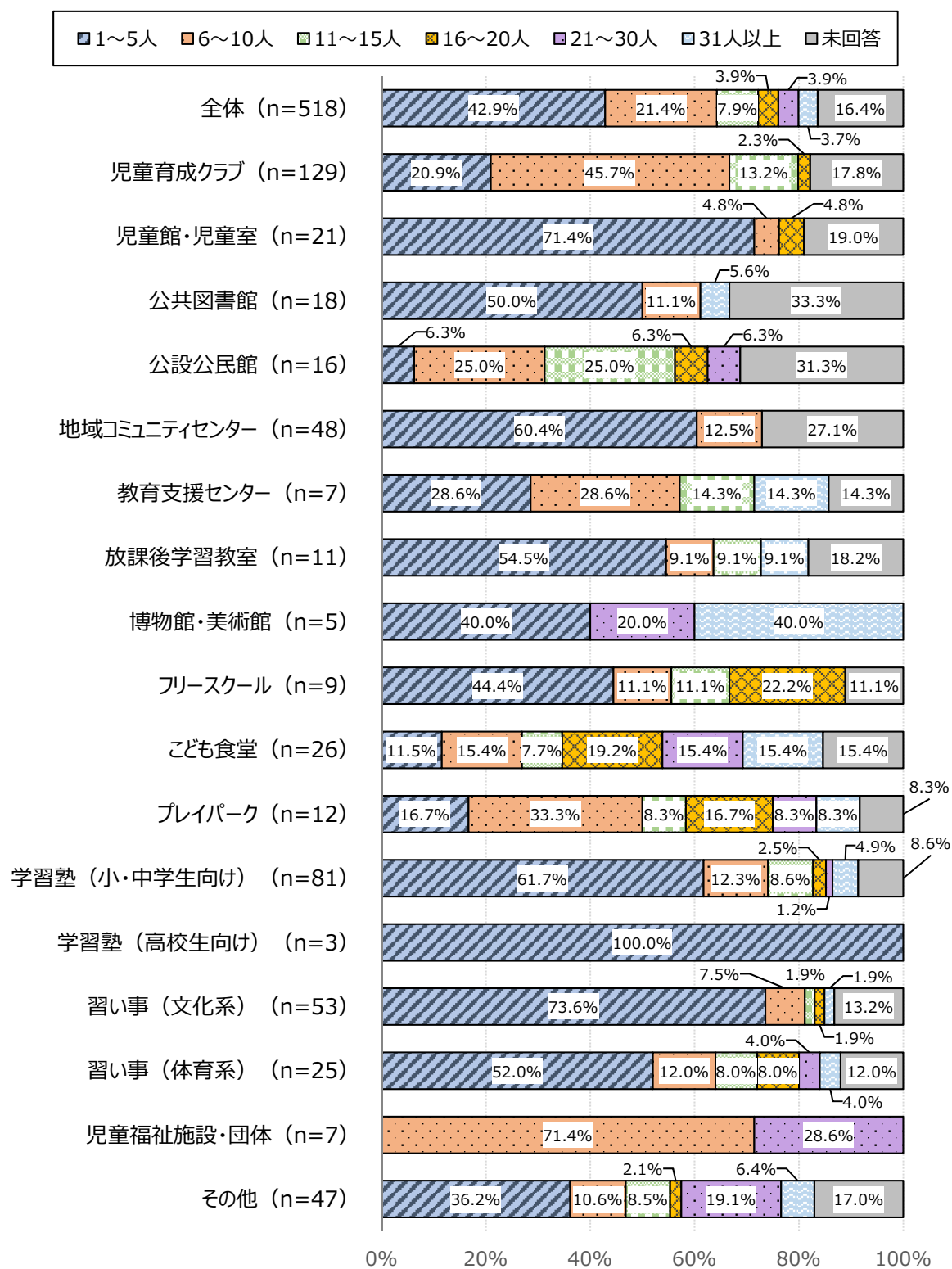
図表 2-2-1 施設等の形態

施設等の形態	回答数	割合
児童育成クラブ	129	24.9%
児童館・児童室	21	4.1%
こども文化会館	0	0.0%
公共図書館（図書室含む）	18	3.5%
公設公民館（分館含む）	16	3.1%
地域コミュニティセンター	48	9.3%
教育支援センター	7	1.4%
放課後学習教室（放課後子供教室）	11	2.1%
博物館・美術館	5	1.0%
フリースクール	9	1.7%
こども食堂	26	5.0%
プレイパーク	12	2.3%
学習塾（小・中学生向け）	81	15.6%
学習塾（高校生向け）	3	0.6%
習い事（文化系）	53	10.2%
習い事（体育系）	25	4.8%
児童福祉施設・団体	7	1.4%
その他	47	9.1%
計	518	100.0%

イ 従事者数

各施設等における従事者数（常勤・非常勤・ボランティア含む）は、以下のとおりである。

図表 2-2-2 従事者数〔施設等の形態別〕



施設等の形態	1～5人		6～10人		11～15人		16～20人	
児童育成クラブ	27	20.9%	59	45.7%	17	13.2%	3	2.3%
児童館・児童室	15	71.4%	1	4.8%	0	0.0%	1	4.8%
公共図書館（図書室含む）	9	50.0%	2	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
公設公民館（分館含む）	1	6.3%	4	25.0%	4	25.0%	1	6.3%
地域コミュニティセンター	29	60.4%	6	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
教育支援センター	2	28.6%	2	28.6%	1	14.3%	0	0.0%
放課後学習教室（放課後子供教室）	6	54.5%	1	9.1%	1	9.1%	0	0.0%
博物館・美術館	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
フリースクール	4	44.4%	1	11.1%	1	11.1%	2	22.2%
こども食堂	3	11.5%	4	15.4%	2	7.7%	5	19.2%
プレイパーク	2	16.7%	4	33.3%	1	8.3%	2	16.7%
学習塾（小・中学生向け）	50	61.7%	10	12.3%	7	8.6%	2	2.5%
学習塾（高校生向け）	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
習い事（文化系）	39	73.6%	4	7.5%	1	1.9%	1	1.9%
習い事（体育系）	13	52.0%	3	12.0%	2	8.0%	2	8.0%
児童福祉施設・団体	0	0.0%	5	71.4%	0	0.0%	0	0.0%
その他	17	36.2%	5	10.6%	4	8.5%	1	2.1%
全体	222	42.9%	111	21.4%	41	7.9%	20	3.9%

施設等の形態	21～30人		31人以上		未回答		計	
児童育成クラブ	0	0.0%	0	0.0%	23	17.8%	129	100.0%
児童館・児童室	0	0.0%	0	0.0%	4	19.0%	21	100.0%
公共図書館（図書室含む）	0	0.0%	1	5.6%	6	33.3%	18	100.0%
公設公民館（分館含む）	1	6.3%	0	0.0%	5	31.3%	16	100.0%
地域コミュニティセンター	0	0.0%	0	0.0%	13	27.1%	48	100.0%
教育支援センター	0	0.0%	1	14.3%	1	14.3%	7	100.0%
放課後学習教室（放課後子供教室）	0	0.0%	1	9.1%	2	18.2%	11	100.0%
博物館・美術館	1	20.0%	2	40.0%	0	0.0%	5	100.0%
フリースクール	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%	9	100.0%
こども食堂	4	15.4%	4	15.4%	4	15.4%	26	100.0%
プレイパーク	1	8.3%	1	8.3%	1	8.3%	12	100.0%
学習塾（小・中学生向け）	1	1.2%	4	4.9%	7	8.6%	81	100.0%
学習塾（高校生向け）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%
習い事（文化系）	0	0.0%	1	1.9%	7	13.2%	53	100.0%
習い事（体育系）	1	4.0%	1	4.0%	3	12.0%	25	100.0%
児童福祉施設・団体	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%
その他	9	19.1%	3	6.4%	8	17.0%	47	100.0%
全体	20	3.9%	19	3.7%	85	16.4%	518	100.0%

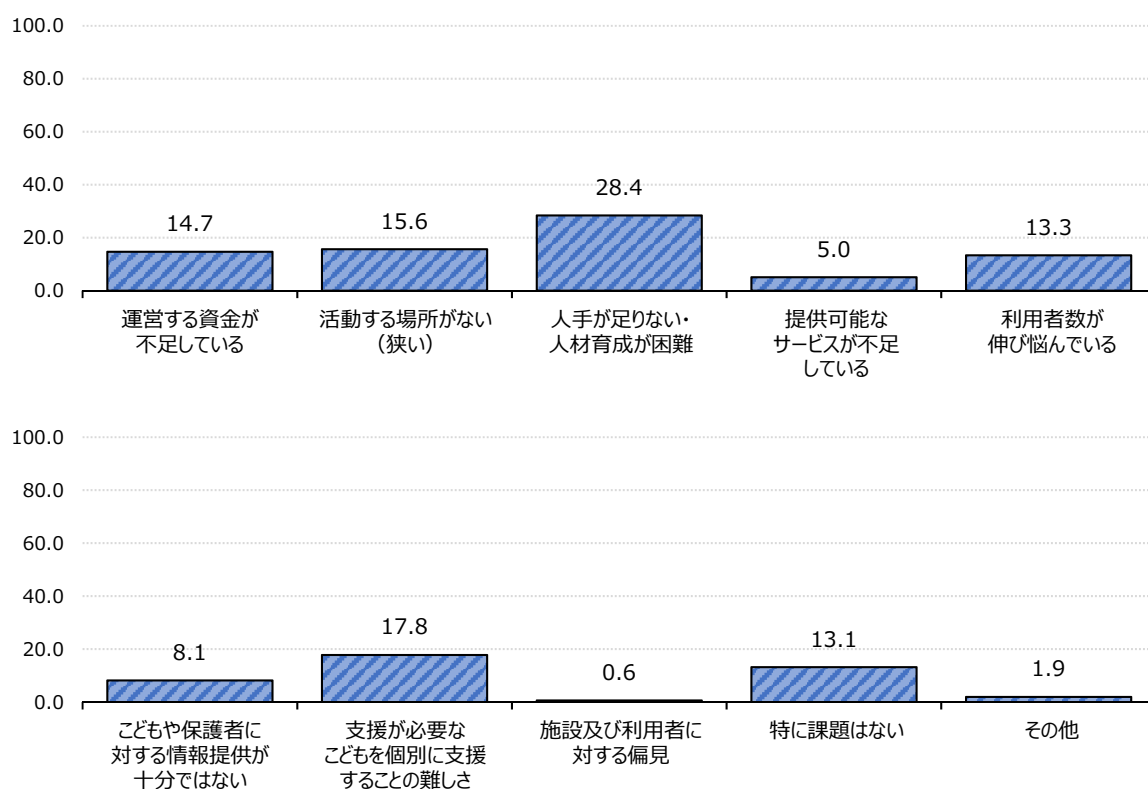
（２）施設等運営者が抱える課題について

ア 施設等を運営する上での課題（複数回答）

各施設等における運営上の課題を尋ねたところ、「人手が足りない・人材育成が困難」が28.4%と最多、次いで「支援が必要なこどもを個別に支援することの難しさ」が17.8%、「活動する場所がない（狭い）」が15.6%、「運営する資金が不足している」が14.7%となった。

「特に課題はない」は13.1%にとどまり、大半の施設等が何らかの課題を抱えていることが判明した。

図表 2－2－3 施設等運営上の課題



施設等の形態別でみると、多くの施設等運営者から「人材不足・育成が困難」が挙げられたことに加え、児童育成クラブや児童館・児童室等の特定の建物・設備の中で多くの子どもたちが活動しているような運営者から「活動場所が狭い・ない」、こども食堂などの民間団体から「運営資金の不足」が挙げられた。また、児童育成クラブやこども食堂などからは、「(支援が必要な子どもを) 個別に支援することの難しさ」が挙げられた。

施設等の形態	運営する資金が 不足している	活動する場所が ない(狭い)	人手が足りない 人材育成が困難	提供可能な サービスが 不足している	利用者が 伸び悩んでいる	子どもや保護者に 対する情報提供が 十分ではない	支援が必要な子どもを 個別に支援することの 難しさ	施設及び 利用者に対する 偏見	特に 課題はない	その他	施設数
児童育成クラブ	6: 4.7%	42: 32.6%	72: 55.8%	3: 2.3%	1: 0.8%	2: 1.6%	51: 39.5%	0: 0.0%	6: 4.7%	1: 0.8%	129
児童館・児童室	6: 28.6%	3: 14.3%	7: 33.3%	0: 0.0%	3: 14.3%	1: 4.8%	2: 9.5%	0: 0.0%	2: 9.5%	0: 0.0%	21
公共図書館(図書室含む)	1: 5.6%	3: 16.7%	5: 27.8%	1: 5.6%	3: 16.7%	2: 11.1%	0: 0.0%	0: 0.0%	2: 11.1%	0: 0.0%	18
公設公民館(分館含む)	0: 0.0%	1: 6.3%	2: 12.5%	1: 6.3%	0: 0.0%	2: 12.5%	0: 0.0%	0: 0.0%	3: 18.8%	0: 0.0%	16
地域コミュニティセンター	6: 12.5%	1: 2.1%	3: 6.3%	2: 4.2%	8: 16.7%	3: 6.3%	2: 4.2%	0: 0.0%	8: 16.7%	2: 4.2%	48
教育支援センター	4: 57.1%	2: 28.6%	2: 28.6%	1: 14.3%	0: 0.0%	0: 0.0%	2: 28.6%	0: 0.0%	1: 14.3%	0: 0.0%	7
放課後学習教室 (放課後子供教室)	0: 0.0%	1: 9.1%	2: 18.2%	0: 0.0%	1: 9.1%	0: 0.0%	2: 18.2%	0: 0.0%	2: 18.2%	0: 0.0%	11
博物館・美術館	1: 20.0%	1: 20.0%	2: 40.0%	1: 20.0%	2: 40.0%	0: 0.0%	0: 0.0%	0: 0.0%	2: 40.0%	0: 0.0%	5
フリースクール	5: 55.6%	1: 11.1%	3: 33.3%	2: 22.2%	2: 22.2%	5: 55.6%	2: 22.2%	1: 11.1%	1: 11.1%	1: 11.1%	9
こども食堂	14: 53.8%	4: 15.4%	9: 34.6%	6: 23.1%	3: 11.5%	6: 23.1%	9: 34.6%	2: 7.7%	1: 3.8%	3: 11.5%	26
プレイパーク	2: 16.7%	1: 8.3%	7: 58.3%	0: 0.0%	2: 16.7%	2: 16.7%	1: 8.3%	0: 0.0%	1: 8.3%	0: 0.0%	12
学習塾(小・中学生向け)	12: 14.8%	10: 12.3%	16: 19.8%	2: 2.5%	25: 30.9%	6: 7.4%	10: 12.3%	0: 0.0%	13: 16.0%	1: 1.2%	81
学習塾(高校生向け)	0: 0.0%	2: 66.7%	0: 0.0%	0: 0.0%	0: 0.0%	0: 0.0%	0: 0.0%	0: 0.0%	1: 33.3%	0: 0.0%	3
習い事(文化系)	5: 9.4%	3: 5.7%	5: 9.4%	3: 5.7%	8: 15.1%	5: 9.4%	3: 5.7%	0: 0.0%	14: 26.4%	0: 0.0%	53
習い事(体育系)	4: 16.0%	1: 4.0%	4: 16.0%	2: 8.0%	3: 12.0%	0: 0.0%	1: 4.0%	0: 0.0%	6: 24.0%	0: 0.0%	25
児童福祉施設・団体	1: 14.3%	0: 0.0%	0: 0.0%	0: 0.0%	1: 14.3%	1: 14.3%	1: 14.3%	0: 0.0%	1: 14.3%	1: 14.3%	7
その他	9: 19.1%	5: 10.6%	8: 17.0%	2: 4.3%	7: 14.9%	7: 14.9%	6: 12.8%	0: 0.0%	4: 8.5%	1: 2.1%	47
計	76: 14.7%	81: 15.6%	147: 28.4%	26: 5.0%	69: 13.3%	42: 8.1%	92: 17.8%	3: 0.6%	68: 13.1%	10: 1.9%	518

↑施設等の形態別に上位3つを網掛け

イ 課題解決に向けた行政機関等への要望等（自由記述）

（２）－アで回答した課題を解決するために必要なことや、行政機関等に対する要望等を尋ねたところ、以下のような意見が挙げられた。

主な内容	件数
経済的支援に関する意見	23
こどもに向けた経済的支援（通塾補助の実施 等）	5
施設等運営者に向けた経済的支援（事業運営補助金の実施 等）	14
市予算におけるこども向け予算の拡充	4
施設の設備に関する意見	8
施設設備の更新・修繕・拡張	8
運営の効率化に関する意見	5
児童育成クラブにおける受入れ上限の設定	3
書類作成等の効率化	2
人材の確保・育成に関する意見	22
支援員等の人材の確保	15
待遇の改善・研修の充実	7
広報活動に関する意見	9
団体等が実施する広報活動への協力	5
児童・生徒が求めるものの情報発信	4
こどもの居場所関係団体との連携に関する意見	5
他団体との連携	3
事業をする上での相談対応	2
こども政策全般の強化を求める意見	5

個々の回答内容は以下のとおりである。

なお、同一の回答内容は、適宜整理しているため、件数と回答内容の数は、必ずしも一致しない。また、誤記と思われる表記について、補正している。

経済的支援に関する意見

■こどもに向けた経済的支援

低所得世帯の子どもは、子どもがやる気があってもスクールに通う回数が限られてしまう。又大会に参加する場合、開催場所が遠方で費用がかかる場合は行くことができないことがある。行政に対しては、「習い事」に対する支援（毎月の補助と全国大会に参加した時の交通費、滞在費など）をしてほしい。

お金の問題でスクールに通えない子どもたちがたくさんおり、才能のある子どもたちがたくさん埋もれている。子どもたちに必要なことは「学習と運動」であると考え。

学習は学校でできるとして、運動はお金がないとできない時代となっている（学校に部活動がない）体育の授業をきっかけに好きなスポーツを専門的に学べる仕組みがほしい。好きなことを一生懸命行うことで良い効果が得られると考える。

■施設等運営者に向けた経済的支援

補助金や助成金を立ち上げの時にあるとより多くの居場所が出来ると思う。

運営資金の援助

公的機関の使用料の援助

継続できるだけの資金援助をしてほしい。熊本市の未来基金では食材費すら賄えない。全てをボランティアでまかなうのが普通という考えは「奉仕の搾取」だと感じています。

継続可能な支援体制を本気で考えていただきたい。志のある人は増えても、これでは続けられません。

地方で、芸術、文化を仕事とする団体への助成制度が少ないので、もっと作ってほしい。

最低賃金のアップに応じた指定管理料の設定

教育資金の拡充など。

給付費と助成金の充実

■市予算におけるこども向け予算の拡充

公民館予算の充実

施設の設備に関する意見

■施設設備の更新・修繕・拡張

設備の援助

施設をこどもの特性に合わせてつくる。

施設の立て替え

専用施設の増設、支援員の育成、または申込人数の制限など

施設が古く、危険な状態だが建て直してくれない。

駐車スペースが限られているため、敬遠される場合がある。一応地区のコミュニティセンターなので、初めからないと説明している。駐車場横の使用していない学校のスペースがあるので、少し改善していただきたい。

運営の効率化に関する意見

■児童育成クラブにおける受入れ上限の設定

利用の必要ないこども、上級生など、誰でも受け入れるように、だんだんとなってきて人数だけが増え続けて、かなり無理な状況になっているのを見直してほしい。

■書類作成等の効率化

事務処理が多すぎる。もっと簡素化してほしい。

事務作業等をお願いできるアルバイトや外注費の補助があったら助かる

人材の確保・育成に関する意見

■支援員等の人材の確保

支援員が足りないので、早急に増やしてほしい。

子どもの見守り以外の仕事場も多いので、もう少し負担を減らしてほしい。

若い支援員の雇用とそれを可能とするような賃金体系の構築。

人手を増やしてほしい。

施設が狭いし大人数利用するのにトイレが一つしかないのはとても困る

支援員募集、誰でもよいわけではない。建物が老朽化しているが、リースで借りてあり修理等のメンテナンスが足りない。

人員配置の増員をお願いしたい。

慢性的な人材不足

人手不足解消と、人材育成のための研修を増やしていただきたい。

■待遇の改善・研修の充実

支援員の人数を増やし、また、研修などを行って支援員の質の向上をお願いします。

給料を高くする。休みを取りやすくする。

常勤職員配置の処遇改善

従事する職員に対する処遇改善

ICT化の推進による業務負担軽減

職員の質の向上の為の研修の充実

人手不足解消と、人材育成のための研修を増やしていただきたい。

広報活動に関する意見

■団体等が実施する広報活動への協力

まだ児童館（室）の存在を知らない方がいる。

広報はいろいろとしているが、もう少し幅広く親子が集まる場所やネットなどで情報公開していく必要がある。

利用者の増加のために、宣伝を増やす。

必要に応じて事業内容や形態の見直し。

■児童・生徒が求めるものの情報発信

支援が必要な状況を教えて欲しい

・運営支援金

・困りごとがある人へ、こども食堂が各地で開催している情報提供をして欲しい。

学校側の情報がないから中高大の求めている人物像を提供してほしい

こどもの居場所関係団体との連携に関する意見

■他団体との連携

勉強会や、研修会の実施。

子育て支援サポートの一面としても、なるべく柔軟に対応して行きたいが、運営する側としても、経営的にはボランティアなので家族の反対もありながら活動をしている現状がある。この先の継続性が難しいと感じることがある。

民間、行政、校区、地域の連携が出来て、相談ができるコーディネーターが存在すると、繋がって共有できるものが多くなり、一人で背負う事でなく、助け合いながら継続性につながっていくのではないかなと思う。

・有償ボランティア活動

・近隣の子ども食堂での保管場所の共有スペース

・書類担当やアドバイザー

他の団体がされている子ども食堂の、様子が知りたい。うまく運用している所の情報が欲しい。

■事業をする上での相談対応

行政機関で、相談できる場所を広く

こども政策全般の強化を求める意見

子供達の居場所作りに必要なことは、学校教育・社会教育両方ともに応分の負担は必要ではないかと考える。

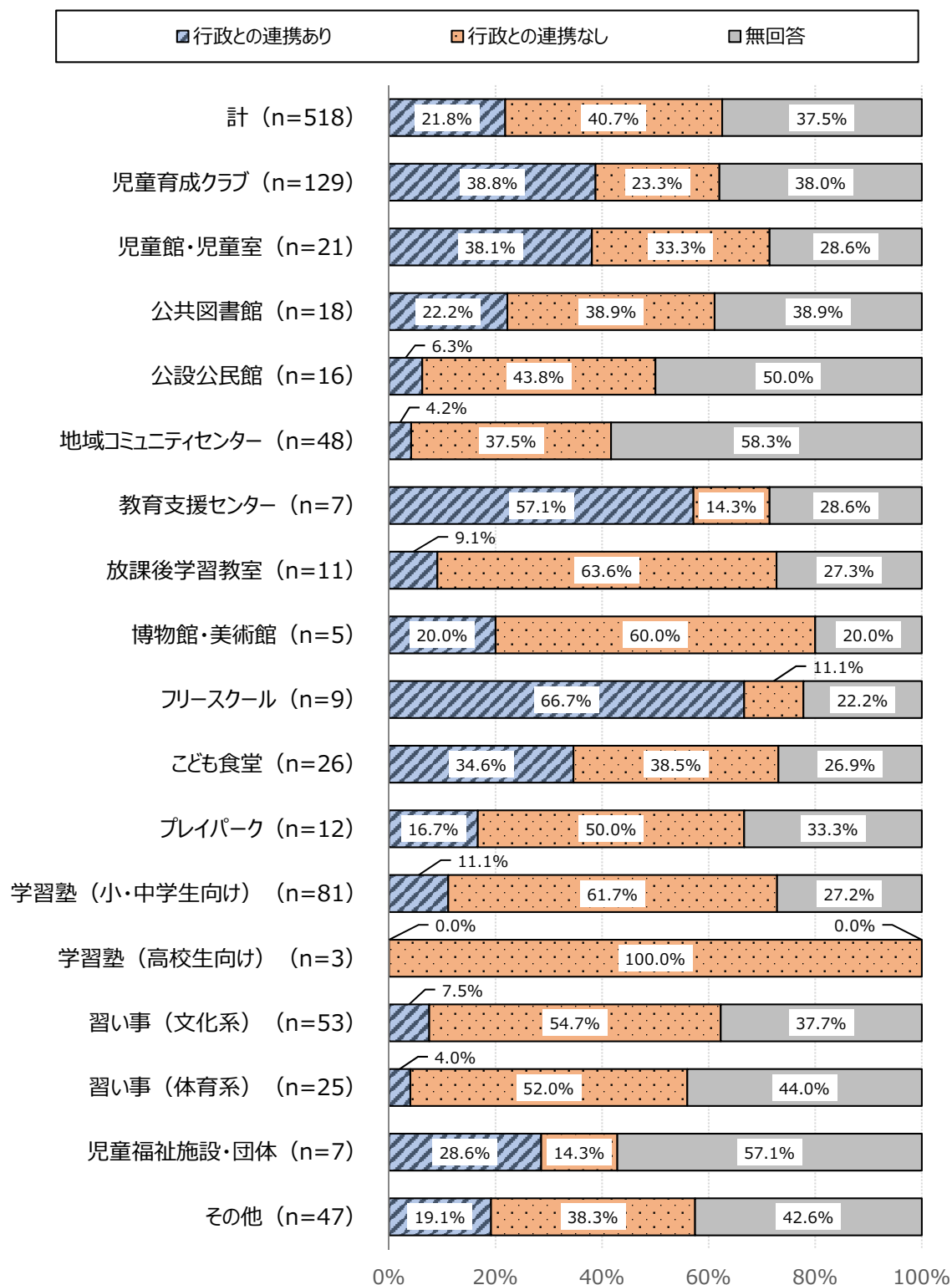
子どもたちのために国の予算をまわしていただきたいと思います。

(3) 行政機関との連携について

ア 行政機関との連携の有無・必要性について（単一回答）

児童相談所をはじめとした行政機関との連携の有無や連携の必要性を感じたことがあるかを尋ねたところ、以下のような結果となった。

図表 2-2-4 行政機関との連携状況〔施設等の形態別〕



	行政との 連携あり		行政との 連携なし		無回答		計	
児童育成クラブ	50	38.8%	30	23.3%	49	38.0%	129	100.0%
児童館・児童室	8	38.1%	7	33.3%	6	28.6%	21	100.0%
公共図書館（図書室含む）	4	22.2%	7	38.9%	7	38.9%	18	100.0%
公設公民館（分館含む）	1	6.3%	7	43.8%	8	50.0%	16	100.0%
地域コミュニティセンター	2	4.2%	18	37.5%	28	58.3%	48	100.0%
教育支援センター	4	57.1%	1	14.3%	2	28.6%	7	100.0%
放課後学習教室（放課後子供教室）	1	9.1%	7	63.6%	3	27.3%	11	100.0%
博物館・美術館	1	20.0%	3	60.0%	1	20.0%	5	100.0%
フリースクール	6	66.7%	1	11.1%	2	22.2%	9	100.0%
こども食堂	9	34.6%	10	38.5%	7	26.9%	26	100.0%
プレイパーク	2	16.7%	6	50.0%	4	33.3%	12	100.0%
学習塾（小・中学生向け）	9	11.1%	50	61.7%	22	27.2%	81	100.0%
学習塾（高校生向け）	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	3	100.0%
習い事（文化系）	4	7.5%	29	54.7%	20	37.7%	53	100.0%
習い事（体育系）	1	4.0%	13	52.0%	11	44.0%	25	100.0%
児童福祉施設・団体	2	28.6%	1	14.3%	4	57.1%	7	100.0%
その他	9	19.1%	18	38.3%	20	42.6%	47	100.0%
全体	113	21.8%	211	40.7%	194	37.5%	518	100.0%

イ 行政機関との連携の内容（自由記述）

（３）－アで「行政との連携あり」と回答した施設等運営者に対して、その具体的な内容を尋ねたところ、以下のような意見が挙げられた。

主な連携の状況	件数
緊急的な対応を要した事例	41
児童・生徒による問題行動 （こども間のトラブル、いじめ、非行 等） 対象先：学校・警察・児童相談所等	16
虐待・ネグレクト （家庭内での虐待の疑い 等） 対象先：学校・警察・児童相談所等	9
生活困窮 （食糧支援、金銭的支援 等） 対象先：自立支援センター・スクールソーシャルワーカー・児童相談所等	6
犯罪被害 （盗難・不審者の声かけ・性被害 等） 対象先：学校・警察等	4
その他児童相談所等との連携 対象先：児童相談所	6
日常的な連携に関する事例	54
利用するこどもの情報共有 （こどもの特性、障害などの支援情報等） 対象先：学校・スクールソーシャルワーカー・福祉関係部署	33
「こどもの居場所」運営団体の事業協力 （チラシの配布など広報支援・事業運営補助元 等） 対象先：学校・市関係部署	15
行政機関の事業協力 （職業体験「ナイストライ」への協力 等） 対象先：学校・市関係部署・警察等	4
防犯・災害対応の取組への協力 （チラシの配布 等） 対象先：警察等	2

個々の回答内容は、以下のとおりである。

なお、同一の回答内容は、適宜整理しているため、件数と回答内容の数は、必ずしも一致しない。また、誤記と思われる表記について、補正している。

緊急的な対応を要した事例

■児童・生徒による問題行動

以前高校生が教室の帰りに、家に帰らずに夜遊びして、非行をしていたことがあって、少年課の方からお尋ねがありました。

子ども一人で利用の案件で、小学1年から放課後や土曜日の利用が有るが、子ども同士でのトラブルが多く、情緒面や生活面等も気になる子どもで、昨年、熊本市の子どもの権利サポートセンターに相談。学校と連携し見守りとなっている。

情報交換会を行う事も行っている。

子どもにリストカットの跡をみつけたので、行政に連絡し、学校へ伝えてもらった。

学校とは相談しやすい環境を持てるように努力しているし今のところ問題はない。

児童相談所は、問題行動があつて私たちの手に負えないときには学校と一緒に相談にのってもらっている

子どもが言うことを聞かないとき、学校へ応援を求めた。

施設で過ごす中でのトラブルなどがあり、支援の仕方について担任と相談した。

傍若無人な振る舞いをして周囲の子どもたちに危害を加えとか、迷惑行為をすとかのケース。

私は、非常勤ですので、常勤の先輩支援員に報告し、主任支援員が、学校に報告、連絡、相談をした。

子どもたちの家庭内やSNSに関するトラブルなどの指導等について。

■虐待・ネグレクト

家庭内における虐待を感じ行政、児相、学校と連携し改善へと繋げた。

学校とは違う顔を見せるため、学校での様子を共有したり、トラブル解決のため学校教諭に協力を得たりする。

ネグレクトや虐待を疑うような児童がいた場合や、過保護(過干渉)で一時も留守番をさせず子どもの成長を妨げているのでは、と感じるが、親への支援機関がないと思う。

保健所や児相へ相談する前にまずは学校へ連絡している。

■生活困窮

家庭環境の厳しい子がいるが、必要な機関があるのではないかと懸念があり、必要性を感じている。

困窮されている世帯への食糧支援。

家庭での状況が気になるお子さんのことで区役所やスクールソーシャルワーカーさんに相談した。

金銭面で困りの家庭の方に、くまもと生活再生相談室をお伝えした。

介護で、オムツ代で困りの方に障害者向けサービス&支援組織の方にお聞きし行政のサービスをお伝えした。

お子さんの不登校から引越しをしたいが、社宅の掃除にハウスクリーニング代が高く困っている方に、別の支援している方がハウスクリーニング業をされていたので相談をして作業していただくことができた。

お母さんが鬱で調理が出来ない家庭があると聞き、食育体験でご飯の炊き方をお伝えしたり、食支援を行った。

■犯罪被害

子どもが、通って来る途中で不審な人から写真を撮られそうになったと、泣きながら入って来たため、すぐに警察、当該児童のPTAに連絡。夜だったため、学校ではなくPTA会長に連絡しました。

こどもの行き帰り途中、声かけ事案があり、警察とのやり取りがありましたが、特に問題はありませんでした。

しかし、何かあった時の駆け込み場所として、子どもたちの登下校の際の緊急避難先として、何かできないかとは思っています。通ってきている子たち対象ですが、学習面

だけでなく精神面でもサポートしていきたいと思います。	子どもの特徴や行動に関する共有。
学生の自転車が盗まれた。	学校に毎月連携シートをお送りして、毎日の出欠状況や学習内容をお伝えしています。
子どもから性被害の訴えがあったので学校、警察に連絡	継続して通所している生徒についての情報共有のため、在籍校へ毎月、登校状況についての報告書を提出しています。
■その他児童相談所等との連携	また、夏休みなどの機会を利用して、在籍校の担任の先生を訪問し連携を図っています。
保護者からの相談で児相に相談、通報	■「こどもの居場所」運営団体の事業協力
ファミリーホームなのでよくやりとりさせてもらってます。	東区役所や東部まちづくりセンターとの日常的な意志疎通あり。
通所を希望されている方の中に、児童相談所に関わりを持って相談されることもある。学校との連携は重要と考える。	熊本市地域活動推進課管轄 あいぼーと熊本より令和6年度熊本市市民公益活動基金支援基金助成
日常的な連携に関する事例	交通課の方と、通塾用のマイクロバスの運営について。
■利用するこどもの情報共有	当館の子どもの対象にした講座のチラシを子ども達に配布してもらいたいと学校に依頼したが断られた。
学校での状況、出席状況、スクールでの状況確認。	小学校で、開催チラシを配布してもらっている。
学校と来館したこどもに関する事でのやりとり。	熊本市立図書館、生涯学習課と図書室運営についての相談等連携をとっている。
子どもが健やかに成長するためには学校と情報共有できればよいのだが、互いに守秘義務があるので、オブラートに包むような表現でしか、話し合えない。	イベント開催日の案内チラシ配布協力。
特別な児童の対応について、担任、教頭先生との意見交換。	プレイパークイベントにはまちづくりセンターが協力してくれている。
定期的に学校と情報交換の場を設けている。	近隣校区の小学校4校へ毎月おたよりを配布している。
特に小学校。校長と密に連絡している。子ども達の様子や反応を気にしている。	■行政機関の事業協力
楽しい時間を過ごしてもらう上で、対応の難しい児童について、学校の先生に御相談をさせていただく。	市役所、区役所、福祉社会協議会、などの行政の依頼に対応。
児童の下校時刻、児童のケガなど。	小学生の地域探検、中学生のナイストライ
ある子どもに関して悩んでいる時に学校に相談することがある。学校に付属する施設なので、学校が相談に乗ってくれることは子どもにとってもとても大切だと思う。	支援学校で利用者の実習及び利用者の受け入れ等。
学期に一度学校と情報交換会を行っている。個別に担任に話を聞く事もある。	■防犯・災害対応の取組への協力
子どもが落ち着かない時など、学校長や担任、保健室の先生などと共通理解が出来る。	今春、県警交通課の方が、交通安全等のチラシを持って来られた。子ども達の下校時など、とても重要な事だと思います。
子どもの情報共有のため、学校との連携を大事にしている。	災害時対応
	防犯対策

(4) 自由意見（自由記述）

こどもの居場所に関する意見や要望等を求めたところ、以下のような意見が挙げられた。

主な内容	件数
行政による経済的支援の拡充に関する意見	6
施設に関する意見	16
施設の拡張・改修等設備の充実	10
「こどもの居場所」の数の増加	4
施設周辺の環境整備	1
施設におけるサービスの充実	1
人材の確保・育成に関する意見	9
人材の確保	7
スタッフ数に応じた受入れ上限の設定	2
広報活動の充実に関する意見	7
支援体制に関する意見	47
望ましい支援の在り方・方向性に関する意見	23
こどもたちとのかかわり方に関する意見	14
他団体との連携に関する意見	4
要支援者への対応に関する意見	3
スタッフの研修や意識向上に関する意見	3
社会環境に関する意見	42
保護者の就労環境の向上を求める意見	5
家庭教育の支援に関する意見	13
学校での取組に関する意見	6
地域社会での取組に関する意見	7
地域・家庭・学校の連携に関する意見	9
その他教育全般に関する意見	2
「こどもの居場所」運営時のエピソード	5

こどもをとりまく関係者や関係機関等が連携した上で、こどもを支援し、温かく見守りながら、こどもの健やかな成育を願う施設等運営者の思いが現れた結果となった。

[illegible]

なお、同一の回答内容は、適宜整理しているため、件数と回答内容の数は、必ずしも一致しない。また、誤記と思われる表記について、補正している。

児童館という場所がありもっと利用して欲しいが、近隣小学校で一番近い所でも児童が歩いてくるのに 30 分くらいかかる。平日放課後は殆ど利用者なし。交通量の多い場所なのでとても危ない。土日は親子で車での来館。市 HP や近隣小学校へは月のおたよりで啓発は行っている。児童クラブの参加者は多い。図工集会室を夏休み中は開放するように計画したが、小学生が殆ど来ない。もう少し集いの場のような部屋が

あったりボードゲームや PC などがあると利用が増えるのでは。都心のこども児童家庭支援センターは、参考になった所があったが、建物自体と区での取り組みが違う。できることからだと児童に魅力ある環境設定と場所の問題ではないかと思う。

使用できる部屋が限られているので、勉強している隣の部屋には、静かな団体しか入れられないので、利用が限られて子供の利用も減ってきている。少し騒いでも利用できるような状況ができれば子供も楽しく利用できるような気がします。

場所の広さ、屋内でドッジボール等ができる施設が必要。

学校の空き教室の活用は、子ども達全体を見守れる地域の拠点になる。元気なお年寄りの活用にもつながると思います。

■施設周辺の環境整備

ここから帰る途中で、車と接触事故にあった児童がいます。横断歩道やハタも置いてますが、習い事などで多くの子どもたちが通って来るので、コミセン前の道路には何かドライバーに注意喚起をする必要があると思う。

前面道路は、東バイパスに繋がってるので交通量が多くて、危険だと思う。

■「こどもの居場所」の数の増加

小学校校区に一カ所、子ども食堂設置
そこで、寄附物資の管理(災害時には物資提供の拠点ともなる)、登録団体の活動の場とする。

こどもたちにとって居心地の良い選択肢をどれだけ提供できるか。

新しいクラブ施設の建設など。

■施設におけるサービスの充実

習い事がクラブ内でもできるようにしてほしい。働く人の待遇を良くしてほしい。

人材の確保・育成に関する意見

■人材の確保

ボランティアを期待するにも限界があると感じる。専門員の確保、配置など自治体による取組みの強化に期待したい。

子どもに対する優しさや熱意をもつスタッフが一人でも増えていくこと、それを見守る周りの理解がより良い環境を作っていくのだと思います。

環境を整えることも大事だが、何をするにしても継続という問題が出てくる。結局人につくと思う。

■スタッフ数に応じた受入れ上限の設定

施設に対して子どもの受け入れ人数を制限してもらいたい。

また、支援員の人数不足も解消できたらと思います。

定員制ではない為、利用児童が増える一方で、利用施設が追いついていない。

また、支援員不足も続いている。

この2点を改善してもらいたい。

広報活動の充実に関する意見

子どもや、親がひとりで悩まず、気軽に相談できる場所があることを知ってもらうこと。

子どもの居場所が必要な人ほど、情報弱者になっているケースがあると考えています。必要な人に必要なサービスを届けるむずかしさを感じています。

教室に来ているひとり親家庭の子供たちは、生活保護を受けている家庭、親が病気など厳しい状況の子供もいれば、ある程度余裕のある生活をしている子供もいます。それぞれ状況は違いますが、教室でパソコンに向かっているときは、皆素直な顔を見せてくれます。

学ぼうとする子供たちに格差はありません。サポートできる環境があることを「もっと知ってほしい」と思います。

それぞれの居場所自体に特徴があると思うが、子どもに必要な場所の区別がわかりにくい。

本来は、その居場所の特徴を活かして、必要なスキルを向上させる場所として学校などの集団生活の練習の場となりうるはずなのに、結局子どもが集まる場所というだけにとどまっている感じがする。

こどもひなんの家としての受け入れと周知の徹底。

いろんな施設があるんだと、認識してもらえることが一人でも多くの子供を助けることにつながると思います。

支援体制に関する意見

■望ましい支援の在り方・方向性に関する意見

年齢別、家庭環境毎、こども一人一人の置かれた状況に寄りますので、状況別に簡単には回答できませんが、こども一人でもふらっと立ち寄ることができる心の安らぎの場所があればよいのではと思います。

保護者以外の多くの大人の目で見守るネットワークが必要だと感じる。

幼児期からの切れ目のない育ちの支援の為の受け皿整備と共に地域も連携した居場所づくりの推進。

子どもたちが安心して過ごせる環境、学びが保障出来る環境整備、安心して働ける人材の雇用が必要です。

時間を問わず子ども同志で遊んだりコミュニケーションがとれる自由で安全な空間をしっかりと地域に整備する必要がある。

子どもを主体にした施設作り、人材の教育、他機関との連携がスムーズにいく関係づくり。

居場所を求めているこどもへどのようにアプローチすればいいかわからない。

子どものためには、負担軽減が叫ばれる中でも、大人の幾分かの負担は我慢するべきだと思う。

「責任」がかかってくるので、慎重に進めなくてはいけないと感じている。

こどもが気楽に遊びに来てほっとできるような施設の環境作り。図工集会室などあるので、そこにパソコンやボードゲームなど設置できれば良いのだが、まずは子どもに足を運んでもらって次第にスタッフと仲良くなる中で（信頼関係ができる）もしかしたら個々の悩みや問題、課題が見つかり何らかの支援につながるかもしれない。

お金と挑戦（ナイストライのような社会と関わること）

こどもが、児童館に行くと話せる先生や友達がいる。

児童館に行く事でほっと安心できる、遊べる玩具や場所がある。

地域の公的な場所、例えば公民館、コミュニティセンター等にこどもが通い、学習や遊びができる場所を提供していただけるといい。そのための人材確保等もお願いしたい。

昔と違って、公園などで誰でもが子どもを見守るという感覚は無くなってきているが、親だけに全てを任せるのも子どもにとって必ずしもいいことであるとも思わない。

学童保育や放課後デイサービスだけではなく、いろいろな大人が関われる場所づくりを考えてほしい。

家庭に問題を抱えている児童がいるが、我々は立ち入れない。育成クラブに来たこどもの見守りをして 帰すだけ。

環境的にも心の面でも安心、安全であること。

困ったときに話をしたり、手助けができる大人や機関があることをこどもたちに知ってもらい、遠慮せずに活用してほしいと思う。

子どもたちにとって居心地の良い場所であるとともに、異年齢集団の中で遊び集団生活をとおして豊かな生活体験をし、生きる力や人を大切にする心を育む場にする。

子どもの気持ちになって、行動できる姿勢づくりにしたい。

■こどもたちとのかわり方に関する意見

どんな時も子供達の味方であると言う安心感を与えたい。生徒間の会話の中から悩みの状況を察知する事は多いが、踏み込んで聞いたりせず、希望を持たせるような会話に持って行くようにしている。

学校や家で嫌なことがあったり、学習面で悩みがある生徒さんに少しでも肯定的な存在価値を認めて、感じられるように包みこんであげられる場所になったら良いなあと思っています。

みんなが集まれる場所を作っていきたい。

子どもを温かく見守る大人が少しでも多くなること。

何でも聞いてあげられる場所。

禁止事項ばかりの公園よりも、自由に好きなことが何でもできる遊び場（プレイパーク）が、あちこちにあり、そこに行けば、あたたかく見守ってくれる大人（プレイワーカー）や仲間がいて、楽しく遊びながら、困ったことがあれば、いつでもなんでも相談ができるような場所が必要だと考えています。

川崎市には公設の「子ども夢パーク」というものがあり、ぜひ、そうした場所が熊本にもあればと願っています。

個性があればあるほど、つぶされる日本の学校教育に合わない子供達が、たくさんいると思う。自分のペースに合った成長が出来る環境を提供したいと思っている。

子どもの言語行動に目と耳を傾ける。子どもとのコミュニケーションを、大切にします。

子どもたちがいつでも児童館で遊びたいなあと思えるような雰囲気づくりを心がけています。

「こどもの居場所」とは、個々の存在を受け入れ、子どもがあらのままの姿でいられること、くつろげる場所であることが大事だと思うので、大人が環境を整えていかなければと感じています。

学校、家庭につぐ第三の居場所として、先生や親以外の大人と関りを通して日ごろからコミュニケーションをはかり、なんでも話せる関係を作れることを意識している。

■他団体との連携に関する意見

支援が必要な家庭との話し合いを、学校、市と足並み揃えて出来ることが必要。児相案件で通報後の子ども・保護者の生活状況をスムーズに支援することが必要と感じる。

講師の方々や関係機関と連携しこどもの実態を把握しながら、丁寧に取組を推進していきたい。

専門スタッフとの連携網を知りたい。何処に相談すれば良いか等です。

できれば、こども食堂の回数を増やしたい。他団体と提携して機会を増やしたいと思う

■スタッフの研修や意識向上に関する意見

子どもの立場を尊重できる大人たちが必要。子どもの権利条約などをしっかり学び、子どもの育ちに沿って関わり合える環境が大事だと思います。

子供に対するサービスの提供は、教育的配慮が必須であり、管理、運営にあたり資格を有した管理者、指導者が在籍することが重要な要件であると思います。

居場所に関わる大人の信頼力上げることが不可欠。

今はお役所仕事のなワーカーが多いと感じる。

■要支援者への対応に関する意見

支援を要する児童を受け入れるにあたり、専門資格を有する支援員がいない為、対応が難しい。小学生全学年受け入れにあたり異年齢、支援を要する児童も一部屋で過ごすにあたり、環境スペースが狭く良い環境とは言えない。

障害環境等の理解と関連機関との情報共有。

社会環境に関する意見

■保護者の就労環境の向上を求める意見

育成クラブは働いている親の為に預かっている施設だが、預けられている時間が長くて子供たちもとても疲れているのが原因での喧嘩やトラブルが多いと思う。

特に長期休みの長時間預かりは考える必要があると思う。

放課後児童育成も大切だが、子育て世代が働く環境整備のほうがより大切と感じる。

育成クラブは就労支援です。子育て支援ではありません。

保護者が都合の良いように利用されています。子どもは家庭で保護者と過ごす事が心と体の成長に最も大切なものです。

■家庭教育の支援に関する意見

本来こどもの居場所は家であるべきと考えている。近年その家が安心して居る場

所でなくなっていることが問題。親の経済的問題か、心の問題か。

親の支援をする機関が少ないな、と感じる。こどもが小さい時にもっと子育てに関わる人を多くして、親も子どもも、助けて～と言える社会にできたら、こどもの居場所が増えると思う。

親子のコミュニケーションの質と量の向上。

子どもが課題を抱えているかどうかについて、親が関心を持ち、受け入れ、積極的にサポートしようと思える環境。

こどもの居場所を作るには親次第なので、親御さんとどう関わり理解しあえるかが大事と思っています。工作中なので短くてすみません。

健全な家庭環境・保護者のネットワーク・こどもどうしのつながり・第三者の力添え。

子どもはなるべく家族と過ごすことが良いと思う。出来れば親、兄弟、祖父母、に見守られ愛情たっぷりに過ごす事が良いと思う。

まずは家庭で子どもとのかかわりをゆっくり持てる世の中に、それから子どもが安心、安全で過ごせる場所を考える必要がある。

家庭以外に子どもの居場所をつくる以前に、家庭が居場所になれるように支援ができる関わりが必要だと考えます。また、学校が居場所になれるような福祉の支援がほしいです。

子どもの居場所は、まず家庭です。

家族がゆとりを持って過ごせる環境作りの援助が必要と思います。

■学校での取組に関する意見

学校関係者との懇談会。

学校やPTAなどの理解と協力も必要だと思います。

学校での教育完全が急務です。年々子供たちの学力が低くなっています。本当に理解できていない子が多いです。このままでは日本の未来はないのではないかと思います。学校の先生の負担も相当なものだと思いますので、民間が教育現場に入ってもいいのではないかと思います。真剣に考えないと我々がもらえる年金はない

と思っています。塾に通える生徒ですら、学力が低いのですから通えない子達が社会に出て仕事ができる程の能力があると思えません。

先生の働き方、改革に、少し問題があると思われる。

■地域社会での取組に関する意見

今、登校時下校時など日常の挨拶をすると思えば怪しい人になりそうだがどうしてだろうと思っています。

登校時困った子どもが居れば助けたいし怪しまれるのは何だか不思議です

幼児期からの切れ目のない育ちの支援とともに、地域と連携した見守り。

核家族化が昔に比べて、非常に多くなり家庭だけでは、無理な時もあるので、地域ごとで助け合いを行っていくべきです。

近所付き合いや、子ども会は必要と思います。

チョイソコキッズがもっと認知され、充実すると思う。

協力をしたい気持ちはあるが、放課後の運動場という最高の環境から子供たちを締め出した上で、外部に居場所作りや環境を良くしたいと言う姿勢に矛盾を感じる。

このようなアンケートは良い機会だと思うし、恒常的に状況報告や意見などを受け付けてくれる仕組みや機関や場があると良いと思う。保護者はモヤモヤを抱えているが、結局どこに話したら良いのかわからない。最終的には子どもが直接口に出して言えるような仕組みが出来るように願っている。

こどもの状況をよく理解されてるスクールソーシャルワーカーさんの関わりがあるといいと思います

核家族化が進み、昔と比べ祖父母との関わりが減り、地域ごとの行事等も減り人間関係が希薄になり危惧します。

地域で子育てをするという、行政も関わり居場所作りをしていかないといけないと思います。

■地域・家庭・学校の連携に関する意見

地域と学校がしっかり連携をとること。

子ども食堂、子どもの居場所が地域の中で第三の居場所として認知がまだまだ学校や子どもたちの中、家庭の中で薄いと感じる。こんな居場所が地域にはあるんだよ！という事さえも知らない子ども達が居ると感じる。

学校や地域の中で社会福祉として知る学ぶ機会が増えることを希望する。来て欲しい！利用して欲しい！子どもに繋がらないことが何年経っても課題と感じるから、第三の居場所に当たり前に行ける環境に地域の理解と地域福祉の協力が必須と考える。

学校、行政、地域の連携を、理想論ではなく、できる体制作りをしてほしい。行政はそれらを繋ぐ役割があると考えている。

子どもを支援する立場での率直な情報交換が大切ではないか。子どもたちのためにも親御さんや学校等と垣根を作らず話し合える関係性が求められる。それには時間と場を提供するシステム作りが必要ではないかと思う。

■その他教育全般に関する意見

子を持つ親、ひいては世の大人と言われる人への教育。

「こどもの居場所」運営時のエピソード

一人っ子が多く、初めは、人間関係をうまく結べない子どもたちが、遊びや集団活動を通じて異学年生とも上手く交流できていく姿を見ると放課後育成クラブのもう一つの役割を実感します。

地域の祭で各校区から出演するステージで、小学校の校長先生から音楽部が廃部になったので代わりに、子ども邦楽体験教室で出演して欲しいと頼まれた事があった。小学校の生徒が一人いたので、代わり出演したが、部活動がなくなり改革がなされている現在、地域での子どもの文化活動の場が必要とされていることを実感した。

学校の裏門の前に位置するが、学校に協力して頂き、子どもの送迎時に駐車させて頂いている。校長先生にはなかなか遠慮があって、お忙しい中訪問もしにくいと思ってしまいがちだが、今後はもっと学校とも情報共有して協力して行ければ良いと思う。

以前、明らかに不登校と思われる児童生徒さんが、弊館に通って読書したり自習し

たりしていました。安心して過ごせる居場所としてもらえるよう、特別な声掛けなどせず、静かに見守っていました。「何もしなくていい」「好きに過ごしていい」場を提供できれば、と考えています。

3 対面ヒアリングの調査結果

(1) A 児童育成クラブ

ア 調査先の概要

設置年月	平成 2 年（1990 年） 3 月			
人員体制（人）	常勤	非常勤	ボランティア	計
	4	5	0	9
スタッフの資格保有状況	放課後児童支援員			
開設時間	・通常期の平日：授業終了後～午後 6 時（延長預かり時は午後 7 時） ・通常期の土曜日：午前 8 時～午後 6 時（延長預かり時は午後 7 時） ・長期休業日：午前 8 時～午後 6 時（延長預かり時は午後 7 時） ・休業日：日曜日・祝日・年末年始			
利用者の状況	・対象年齢：小学校 1 年生～小学校 6 年生まで （小学校 6 年生まで受入可能だが、調査時点においては、小学校 5 年生以上の利用者は 0 名であった） ・利用者数：平日 66 人程度／土曜日 10 人程度 ・利用条件：当該小学校に通学し、仕事等で保護者が家に不在の児童			
利用料金等	1 か月あたり 5,000 円～			
施設設備	2 室（児童育成クラブ専用室 1 室＋学校から借用する図工室 1 室） ※学校の運動場も借用			

イ ヒアリング詳細

① 事業の実施体制・人員の状況

- 児童育成クラブ専用室では利用者を全て受け入れることができず、学校の図工室を借りて対応している。現在は、専用室に 1・4 年生を、図工室に 2 年生・3 年生を受け入れている。
- 平日は 6 人程度で対応し、専用室に 2 人、図工室に 4 人配置している。
- 支援員が、こどもたちと一人一人関わる余裕は限られている。加配職員もいるが、実際の人数は少ない状況にある。

② こどもたちの状況

- 学年を問わず、おやつを食べて、外遊び、宿題をやるという流れで、残りの時間は、各自、自由な時間（友達とカードゲームやボードゲームをすることも多い。）を過ごすのが一般的な過ごし方。
- 延長預かりも含めると午後 7 時まで対応しているが、午後 5 時 30 分頃までに保護者による迎えのピークがきて、大半は午後 6 時 30 分頃までに帰宅する。
- 保護者が事前に申請すれば、こども同士が集団で下校する「集団下校」も選択できるが、本クラブでは、保護者の迎えが多い印象がある。

- 外遊びもしているが、運動場の利用時間が、クラブ活動の関係で、平日は午後4時までと限られているほか、この夏の猛暑の影響もあり、十分には、できていない状況にある。
- こどもたちが、児童育成クラブを退所する理由としては、友達もやめるからというパターンが多い。高学年になるほど、退所するこどもが増え、現在は、小学校4年生が最も上である。(制度上は小学校6年生まで受入可能。)
- 児童育成クラブに通っていないこどもたちは、放課後は、近くの公園で遊んだり、家でゲームをしたり、塾に通ったりしているようである。学校の決まりで、近くの商業施設にこどもだけで行けなかったり、(友達の)保護者不在時は、友達の家に行くことができないため、そのような過ごし方をしているこどもが多いと思われる。

③ こどもたちとのかかわり方

- 運営側としては、児童育成クラブで楽しい時間を過ごして、笑って帰ってほしいと願っている。
- こどもがひとりですまらなさそうにしていたら、支援員がそのこどもに意向を聞いて、対応することがある。
- 児童育成クラブでは、宿題をすることを強制したり、学習指導はできないため、「お母さんと約束したよね。」というなど、こどもの自発的な取組を後押しするための声掛けを工夫している。

④ 他の組織等とのかかわり

- 地域の方と特定のかかわりがあるわけではないが、苦情等はなく、理解を得られているように思える。
- 学校とは、教頭先生等とコミュニケーションを取ったりすることもあるが、トラブルを全て伝えるのではなく、取捨選択をして、必要な情報を伝えて、相談することが多い。
- 他の児童育成クラブとは、1学期に1回程度、研修会の場で情報交換している。
- 一般的な流れとして、児童育成クラブの教室が不足する場合には、学校の教室を借りることがある。その際は、クラブから放課後児童育成課に申し出て、放課後児童育成課と学校で協議がなされる流れであるが、その調整が難しく、学校の教室を借りることができなかった事例も見聞きした。

⑤ こどもたちの声・変化

- 上級生のこどもたちが、下級生の勉強を教えるということはないが、遊びを教えるという様子は見られる。
- 保育園も含めて保護者による送迎が日常化しているため、友達と一緒に学校から帰る経験がないというこどももいる。以前、保護者の都合により友達との「集団下校」を初めて経験したこどもが、友達と一緒に下校すると、わざわざ児童育成クラブに行かなくても、下校の道すがら友達と遊ぶことができるという事実気づき、以降、あまり来なくなったという事例があった。

- 加配対象の児童以外にも、支援員のサポートを必要とするこどもたちも多い。大人たちの言葉を十分に理解するのが難しいこどもも多いなか、気がかりなこどもが増えている印象である。

⑥ 運営上の課題・行政への意見

- 楽しいクラブにしたいと考えているが、活動するための場所や人手の確保が十分ではないことが課題である。
- 設備面では、一人になりたいこどもが、一人になって落ち着けるような部屋がないため、仕切りなどがあるとよいのではないかと考えている。
- 現在の人員体制では、こどもたち一人一人に向き合うことが難しいほか、保護者の方と会話できる機会が限られている状況である。
- こどもの定員が明確になく、受入を断っていない状況である。そのため、利用できて良かったという保護者の声もあるが、一方で、6年生まで受入可能なこともあり、こどもの数は増加している。
- 長期休業中などは、開館時間及び支援員の勤務開始は、午前8時からであるが、開館を待つこどももいるため、準備をできる限り前日に前倒ししている。日中も、児童とのかかわりが多いため、事務作業に充てられる時間が限られている。
- 放課後の児童預かり先は、児童育成クラブを前提に考えられている。しかし、(祖父母等の支援が受けられる人は)祖父母等に預けるほか、放課後子供教室のような仕組みで地域の方の協力を得るなど、全員が児童育成クラブを利用しなくともよいような状況になることが望ましい。

(2) B児童館

ア 調査先の概要

設置年月	平成 15 年（2003 年） 8 月			
人員体制（人）	常勤	非常勤	ボランティア	計
	2	13	1	16
スタッフの資格保有状況	教員免許、保育士、放課後児童支援員、子育て支援員、救命救急講習受講者			
開設時間	・ 午前 9 時～午後 6 時 ・ 休業日：日曜日・祝日・年末年始			
利用者の状況	・ 対象年齢：18 歳までのこども／保護者 ・ 利用者数：平日 46 人程度／土曜日 16 人程度 ・ 利用条件：特になし			
利用料金等	無料			
施設設備	図書コーナー・学習室・運動場			

イ ヒアリング詳細

① 事業の実施体制・人員の状況

- 職員は、併設する学童保育施設と兼務しているが、児童館利用者は、学童保育のスペースには立ち入ることができないようになっている。
- 通常は、6 人程度で対応し、こどもたちが利用できる部屋ごとに配置し、時間帯で入れ替える形となっている。

② こどもたちの状況

- 学童保育に参加するこどもに誘われるパターン、チラシを見てくるパターンなど、特定のルートに限らず、さまざまなきっかけでこどもたちが来ている。
- 保護者（特に小さな年齢の保護者）には SNS、小学生にはチラシなどのアナログな手段による情報発信をすると、反響が大きい。
- ほとんどが、自転車か歩いてこられる範囲で来ることが多く、送迎されて来ることは、ほとんどない。
- 平日は、夕方の時間帯に、学童保育に参加するこどもに誘われての利用が多いが、長期休業中は、朝からの利用も多い。
- 児童館は、遊びに来る場所と思っているこどもが多く、自習をするといった使い方は、高学年で数名程度である。
- こどもは、遊びをとおして交わると、一番身近なことなので、一番仲良くなれる。
あえてスタッフが何もせず、自由に遊んでいいよと声掛けをすると、お兄ちゃん世代が手伝いに来たりすることもある。

- 大型ブロックを導入した際、異年齢でチーム分けして、作品を作るような取組をしたときも、こどもたちの間で交流ができていた。
- 就学前の幼児も利用は可能であるが、50人ほどの小学生が過ごすなかで、発育状況や遊び方が違うことに伴う事故等の危険性も否定できない。その影響もあるのか、就学前の幼児向けの活動も展開しているが、なかなか集まらない。
- 18歳まで受入れ自体は可能であるが、高校生くらいになるとほぼ来なくなる。中学生がたまに来るが、児童館近辺に住んでいたりと、利用経験のある生徒が来ているような印象である。
- 児童館では、いろいろな経験をしてもらえたらと思い、こどもたちの関心のあるような活動を毎月しており、自由参加でイベントに入ってもらえるような取組をしている。
- この夏については、猛暑の影響もあり、イベントは屋内で実施し、屋外の活動は、朝・夕それぞれ30分ほどしかできなかった。

③ こどもたちとのかかわり方

- 職員も含め、こどもたちのほとんどが顔見知りのような状況である。
- 基本的には、自由にこどもたちを遊ばせるように対応している。
- こどもたちにとって、その子にあった居場所は、それぞれであることから、大人は、それを見極める力が必要。こどもの特性に合っていることを上手に促したり、見極めながら声をかけたりしていくと、自分なりに居場所を作っていけると思われる。
- 大人たちが、あれしなさい、これしなさいというよりも、こども自身が見つけていくことが一番いい。それを見つけてやすい環境を提供していくことが大切と考えている。
- スタッフがあえて、何もしないこともあるし、困っていそうな子を見つけて、声をかけることもある。スタッフが、そのような状況を見つける力を育むことを大切にしている。
- 高学年は、体格の差があるため、声かけをして事故防止に努めている。
- 発達障がいのあるこどもが来たときは、近くの小学校の児童の場合、連携をして、その児童の状況の把握に努めているほか、障がいがある原因でトラブルになる前に、声をかけてサポートすることが多い。
- 学校の決まりをこどもたちが守れるよう、運営上配慮している部分もある。
- 開館時間は、午後6時までであるが、午後5時には帰るようにこどもには伝えている。これは、学校の決まりで、午後6時までに家に帰ることになっているが、途中で遊んで帰ったりすると、午後6時までに間に合わないこともあるためである。
- 学校の決まりで、長期休業中は午前10時までは家庭学習の時間となっているため、早くから児童館に来ること自体は問題ないのだが、利用時間は、原則午前10時から正午までと呼びかけている。正午までとしているのは、昼食を食べることが重要であると考えているためである。

④ 他の組織等とのかかわり

- 学区内の小学校長に、児童館の運営委員会に加わっていただいている。
- イベントが多く開催される夏休み等に、小学校でチラシを配布している。
- その他、近隣の図書館・公共施設等にもチラシを配布している。
- 併設されている学童保育のスタッフの募集については、近隣のコミュニティセンターに協力を依頼し、回覧板で募集の周知をするなどした。
- 隣接しているこども園の園児と児童館に来る児童とで、毎年3月下旬に、交流会を開催している。これから小学校に上がる園児が、交流会を通じて、児童館を利用している小学生と顔見知りになることで、就学後、「あのお兄ちゃん見たことある、お姉ちゃん見たことある。」と、ちょっと心に余裕ができる。1年生になったときは、不安で仕方ない状況であるが、知っている人が上級生にいと、心強さが違うというところもあるので、毎年交流会を実施している。

⑤ こどもたちの声・変化

- こどもたちは、友達が好きだろうと感じる。
- その場所にいるこどもたちの人数が多ければ多いほど、自分と気の合う友達が見つかる可能性が高まるが、こどもの人数が少ない施設で気の合う友達を見つけるのは難しい。
- 学童保育を併設していることで、いろいろな友達がいて、気の合う友達と遊べる、いろいろなおもちゃがあつて、自分好みの遊びができるような状況にあるように思う。こどもにとっての選択肢を増やした上で、その選択自体はこどもに任せるということが重要である。

⑥ 運営上の課題・行政への意見

- 多くの人員が必要な、午後3時から午後6時までの時間帯のスタッフ募集をしても、労働時間が8時間もなく3時間程度で、かつ午後6時までとなると、こどもの迎えに間に合わなかったり、「延長保育の費用」と「3時間分の給料」との割が合わないことも多いことから、採用が難しい状況にある。
- 一方で、夏休みは日中の勤務となり、小学生が多く来るような状況で、負担も大きいことから、できる限り、スタッフの負担を減らすように努めている。
- 採用に当たっては、有資格者であることよりも、まずは、こどもが好きな方に来ていただき、将来的に資格を有していただけるとよい。
- 公立の児童育成クラブや児童館では、内部の人事異動により、人材の配置が柔軟に行えるが、民間はそのような対応が難しいため、人材のあっせんなどがあるとよい。
- 児童館の補助金は、活動補助であるため、イベントなどプログラム単位で、開催に要する直接の経費しか受けられない。プログラム実施のための事前準備（例：イモの収穫のための草抜き・防護柵の設置、熱中症対策など）に要する経費への手当てがない点が厳しい状況。

- 設備面では、おもちゃなどがないと、こどもたちも行きづらい。おもちゃは、自分に合った遊びをみつけ、その中で友達作りができるツールであるので、各活動の予算の中で購入している。
- 大型遊具などを導入して、当児童館ならではの体験ができるようなものがあると、魅力の一つになると思うが、現状の補助の中での対応は難しい。大型ブロックを、こどもの未来応援基金を活用して整備できたことは、良かったと感じている。
- 安全対策に求められる水準は、以前よりも高まっている。切り傷や擦り傷程度の軽いケガもないように工夫したりしている。こどもたちが、ちょっとした軽いケガをすることによって、それが危険だと肌でわかってもらえるという側面もあるのだが、保護者の視点からすると、そういうわけにもいかないのが実際のところである。

(3) C地域コミュニティセンター

ア 調査先の概要

設置年月	平成 15 年（2003 年） 8 月			
人員体制（人）	常勤	非常勤	ボランティア	計
	0	4	0	4
開設時間	・午前 9 時～午後 10 時 ・休業日：日曜日・祝日・年末年始・夏季休業			
利用者の状況	・対象年齢：特になし ・利用者数：平日 45 人程度／土曜日 50 人程度 ・利用条件：特になし			
利用料金等	施設使用料は有料（その他は講座等の内容による）			
施設設備	ホール・会議室・調理室・和室			

イ ヒアリング詳細

① 事業の実施体制・人員の状況

- 運営については、運営協議会が運営管理を行っているが、事務の大部分は、事務長以下の非常勤職員により担っている。
- 非常勤職員は、地域の人から採用している。

② こどもたちの状況

- 日常的に利用するこどものほとんどは、書道や空手などの講座参加者の小学生である。
- 中学生・高校生は、ほとんど来ないが、ヒップホップダンスの講座には来ている印象がある。
- こどもたちは、午後 4 時頃から午後 8 時頃までに来ることが多く、午後 5 時～午後 6 時にピークを迎える。
- 講座を受講せず、単に施設で時間を過ごすような目的で来るこどもは見受けられない。
- クーリングシェルターとしての役割も担っているが、それを目的としてこどもたちが来るようなことはなかった。
- 当センターの主催行事として、スーパーボールすくいや、かき氷や綿菓子なども楽しめるイベント（以下、「コミュニティセンターイベント」という。）を毎年企画している。令和 6 年度（2024 年度）については、こどもたちが 280 人（＋保護者が 160 人）ほど参加する一大行事となった。各地区の子ども会が運営するゲームなどのコーナーに参加し、楽しんでもらえたようである。
- 当センターを利用して、こども食堂も開催されている。こども食堂開催時には、おおよそ 70～80 人ぐらいの親子が車で来るため、貸室の調整を行うなど、事前準備に協力している。

③ こどもたちとのかかわり方

- 事務局の職員が、直接こどもたちと関わるような接点は限られている状況である。
- 地域コミュニティセンターは、こどもだけ／大人だけというような場所ではなく、全員が来るような地域コミュニティの核としての役割が期待されている。
- 地域コミュニティセンターで実施することも向け講座や地域のイベントなどを充実させ、こどもがくるようになれば、大人も来て、高齢者も喜ぶなど、賑わいを見せる。
- そのため、こどもたちが集まるきっかけとなる、子ども会は、重要な組織である。
- 「コミュニティセンターイベント」では、20 万円の費用でイベントを準備し、子ども会の役員には、ボランティアスタッフとして協力してもらい代わりに、弁当やお茶などを提供した。
- きっかけを作る「人、場所、時間」を提供することで、こどもたちも来てもらえると思える。

④ 他の組織等とのかかわり

- 校区自治協議会を母体として、運営協議会が運営されていることから、自治協議会との連携を十分に図るようにしている。
- 「コミュニティセンターイベント」についても、自治協議会を経由して説明し、子ども会役員による各種イベントブースの運営協力を得た。
- 小学校とも連携し、まちづくりセンターの職員からの紹介を受けて学校で授業をしたり、学校行事と重ならないようイベントの日程調整や、チラシの配布に協力してもらったりするような関係を築いている。
- また、小学校では、校長が自治会行事に参加したり、自治協議会にボランティアを依頼したりと、双方が連携して地域活動に関わっている状況である。
- その他、隣接する公共施設の駐車場を、借りるなどのかかわりはある状況である。
- 運営に当たっては、基本的に、個人対個人というかかわり方ではなく、組織対組織というかかわり方としている。これは、組織として関わることで、役職の中で業務が引き継がれていくことを期待しているからである。個人同士のかかわりでは、好き嫌いの感情が入り、円滑に進まないこともある。

⑤ こどもたちの声・変化

- 学校で授業をすると、みんな挙手し、挨拶もできる元気なこどもたちが、多い印象である。
- 今年の1月から2月にかけて、全利用者に対してアンケートをとったが、そのほとんどが肯定的な意見であった。

⑥ 運営上の課題・行政への意見

- こどもたちの居場所として、施設を自由に開放できると良いと思う。こどもたちに開放していることを周知すれば、こどもたちも遊びに来ると思う。
- 一方で、施設を自由に開放できるようにするための電気代・冷暖房代・清掃費・人件費といったコストを現在の運営資金から捻出するのは難しいため、今後施設を開放するためには、市で開放に必要な費用を工面していただく必要がある。
- また、開放事業を実施するに当たっては、事故等が起きた際の責任についても無視できない。
- スタッフは、少ない人数で運営しているため、スタッフ同士の連携が取れるような人が良いのだが、良い人材が簡単には見つからない状況である。
- 施設についても、同種の施設が 80 以上市内にはあることから、順に修繕を行っているが、追い付いていない状況である。
- 地域活動では、自治協議会や子ども会の活動が活発であることが重要であると考える。
- 「学校を一步出れば、地域の役割」という役割分担が大切である。
- 子ども会活動は、PTA活動と似たような問題があると思われるが、子ども会活動を活性化させれば、こどもが付いてくるし、子ども会を元気づけたいという思いがある。
- 地域の活動を活発にさせるためには、研修の開催も必要であろう。
- どの地域コミュニティセンターも、思いの大小や大変さの違いはあれど、同じように、地域のコミュニティの核を担う思いはあるのではないかと。

(4) Dフリースクール

ア 調査先の概要

設置年月	令和3年（2021年）8月			
人員体制（人）	常勤	非常勤	ボランティア	計
	2	0	10	12
スタッフの資格保有状況	教員免許			
開設時間	・平日：午前10時～午後7時 ・土曜日：午前10時～午後4時（月1回） ・休業日：日曜日等			
利用者の状況	・対象年齢：小学生・中学生・家族 ・利用者数：平日 8人程度／土曜日 11人程度 ・利用条件：特になし			
利用料金等	・フルタイムスクール（午前10時～）：1か月あたり 30,000 円 ・アフタースクール（午後2時～）：1か月あたり 25,000 円 （その他、施設設備使用料として1年あたり 20,000 円）			
施設設備	ホール・会議室・談話室・調理室・パソコン室			

イ ヒアリング詳細

① 事業の実施体制・人員の状況

- 令和5年度（2023年度）までは、午後5時から午後9時までとしていたが、令和6年度（2024年度）から体制を変更し、現在のように、日中（午前10時から午後7時まで）に開設することとした。
- 当スクールは、代表者が、大学在学中にボランティア活動の一環で立ち上げたことに由来しているため、現在でも、高校生・大学生のボランティアの参加が多く、主に平日夕方の時間帯、大学生の場合は、日中の授業がない時間帯などに来ることが多い。

② こどもたちの状況

- スクールソーシャルワーカーからの紹介、ホームページやリビングくまもとなど広報媒体での周知などが、当スクールを知るきっかけとなっている。
- 現在通っているこどもは、近隣ではなく、北区・東区のこどもで、大半は中学生である。なお、北区・東区に対しては、当スクールからの送迎サービスを実施している。
- こどもたちは、学校に通えていないこどもを対象とした、午前10時からの「フルタイムスクール」（以下、「フルタイム」という。）と、学校に通えてはいるが、生活リズムが整っていないこどもを対象とした、午後2時からの「アフタースクール」（以下、「アフター」という。）という2つの区分のうちの、いずれかを選択して参加する。

- 令和5年度（2023年度）までは、夕方の時間帯のみに開設していたが、その当時の参加者の半数は、令和6年度（2024年度）からフルタイムに移行した。
- 土曜日については、自由参加の日として、学校外の活動として、羽を伸ばして戻ってくるような子どもたちも多くいる。
- フルタイムの場合、午前10時に来て、30分程度基礎学習の時間として勉強した後、自身で活動内容を決め、施設を自由に利用できる。午前10時から午後7時までの活動とし、昼食・夕食を調理して共に食べるという経験は、日々の生活を大切に考えているためである。
- こどもを午後7時まで預かることで、保護者が働こうとする意欲を持つきっかけとなり、不登校の保護者に多く見られると思われる離職も防げると考えている。また、こどもだけでなく、保護者にとっても、外とのつながりの中で、生き生きとする機会となっているように見受けられる。
- こどもたちは、一人で遊べるようなゲームをしたりするのではなく、トランプやモルックなど、複数の仲間と遊べるゲームをしていることが多い。心のどこかで、学校に行けていない自分を責めており、人とのつながりを大切にしたいこどもたちは、誰かと一緒にいたいという気持ちが強い。人とふれあったり、仲間と一緒に喜んだりしている姿を見ると、こどもたちは、つながりを求めているのではないかと感じる。
- 夕食は当スクール内でつくって全員で食べる。ここで食べた上で自宅でもさらに食べるこどももいるが、自宅では食べられないがここでは食べられるというようなこどももいる。

③ こどもたちとのかかわり方

- 当スクールに來ているこどもたちは、学校側では出席扱いとなっている。
- こどもとのコミュニケーションで重要なことは、目を見て、耳で聞いて、体で感じて、寄り添うことであると考えている。
- また、ボランティアの大学生・高校生は、こどもたちとフラットに関われる友達のような存在として、遊びなどに参加している。
- ここで育ったこどもたちが、将来誰かのために何かができるような、そのような連鎖が生み出されていくと、より豊かな社会になると思い、こどもたちとのかかわりを持っている。

④ 他の組織等とのかかわり

- スクールソーシャルワーカーや学校との連絡については、基本的に保護者を經由する。これは、こどもが中心にいて、学校・保護者・私たちが手を取り、支えていくイメージであり、保護者と学校のかかわりがなくなると、こどもの選択肢を減らすことになり、影響があると考えているからである。

- 不登校当事者の保護者でつくられた団体「らしさ」からは、保護者のピアサポートで協力を受けている。
- フリースクールの団体である「子どもの学びを支える熊本県民の会」では、フリースクール間での情報共有を行うことが多い。
- 学校側との連携では、施設に來ているこどもたちは学校側では出席扱いとなっており、協力関係にある状況であるが、直接スクールソーシャルワーカーとの関係は築けていない状況にある。
- 児童養護施設とかかわりのあるこどもについては、養護施設とも連携している。

⑤ こどもたちの声・変化

- 下の年齢のこどもへのかかわり方をスタッフが中学生に見せると、その中学生は、スタッフがいないときに、同じようにして下の年齢のこどもの世話をするという様子が見受けられる。こどもたちは、そうした経験をとおして、任せてもらえたという気持ちになり、自信につながっているようである。
- 同一施設内で、当フリースクールのほかに、プログラミング・サッカー・英会話・ダンスといった習い事教室も開催されている。フリースクールのこどもたちは、習い事に通うこどもとは、最初は関わりたくないという気持ちもあるようだったが、徐々に会話をするように変化した。
- イベントで、関係団体や運営委員会など、大人とコミュニケーションをとる機会もあったが、怖がらず、一緒にご飯をたべるようになるまで、活動に関わっていった。
- ここが安心な場所であると感じ、通っているこどもは、ここが自分の居場所であるというような気持ちになっているようである。

⑥ 運営上の課題・行政への意見

- 現在の収入の大部分は利用料金であるが、その利用料金は「他のフリースクールの利用料金」や「経済的に苦しい家庭でも支払いができる水準」等を考慮して決定したものである。そのため、事業全体では、利用料金を2倍以上にしてようやく収支が均衡するような状況である。
- こどもたちが作る料理の食材も、限られた予算の中で、こどもたち自身がやりくりをするようにしていることから、予算が充実するようになれば、食材の購入費に充てていきたい。また、施設設備の修繕費や、限られた人員で広報活動に取り組むことが難しいことから、広く周知するための広告宣伝費に充てていきたいと考えている。
- 全てのこどもたちが、安心して幸せだと思えることがゴールと考える。学校の役割が肥大化している中で、学校が居場所にならないこどもたちが出てきているように思える。そのこどもたちに、必要な場所、必要なものを提供できるとよい。
- 活動の支援は、近所の人でもやってみようと思え、できるような補助制度があると望ましいと考える。

- 不登校者には、依存できる先が少ないため、依存先の選択肢が増えていくことが望ましい。当スクールに限らず、他のところであっても、そのこどもが幸せであるならば、依存先はどこでもよいと考えている。
- スクールソーシャルワーカーを始めとした関係機関の情報共有の場をつくることで、既存の資源を十分に活用できるのではないかと考える。個別のケースの議論は難しいが、どのようなこどものニーズがあるのか、それぞれどのような状況なのか、ということを経験できるだけでも、対処方法を検討できるのではないかと考える。
- 保護者とのかかわりの中では、保護者が、当スクールの説明を何度も聞きに来るなど、こどものために行動しても、こどもが外に出ようとはせず疲弊している様子が見受けられたり、保護者自身が自分のことを責めたりして、支援機関の情報を見ても、相談など、次の行動を起こすことができない状況がある。

(5) E こども食堂

ア 調査先の概要

設置年月	令和3年(2021年)6月			
人員体制(人)	常勤	非常勤	ボランティア	計
	0	0	3	3
スタッフの資格保有状況	教員免許・保育士・社会福祉士・心理関係資格			
開設時間	・週2回開催 平日の場合は午後4時～午後6時(冬季は午後5時) 土曜の場合は正午～午後2時 (食事提供は月1回)(開催曜日は、週ごとに変更)			
利用者の状況	・対象年齢：特になし ・利用者数：平日 23 人程度／土曜日 40 人程度 ・利用条件：特になし			
利用料金等	無料(大人のみ100円以上の寄付協力を依頼)			
施設設備	フリースペース(学習・喫食用)・調理スペース			

イ ヒアリング詳細

① 事業の実施体制・人員の状況

- こども食堂を開設したきっかけは、気軽に悩みを話せたり、愚痴が言えたりするような場を作るのに当たって、助成や寄附が最も得やすい形態が「こども食堂」という仕組みであったことである。
- 立ち上げ当初は、地域で子育てが終わった方3人に協力してもらい、事業を始めた。現在は、ボランティアが活動日に2名以上いれば、始めるようにしている。
- ボランティアについては、多い日には10人以上が従事している。高校のボランティア部や部活を引退した高校生などが、当カフェの活動を見付けて参加してくれるようになった。現在では、上記以外の近隣の高校のボランティア部や、駅周辺の就労移行支援事業所に通われている方にもボランティアに加わってもらっている。
- 学生ボランティアの場合には、理念やこどもたちとの接し方を伝える研修を必ず事前に30分程度設けているが、研修の内容を理解し、積極的に行動してくれている。
- ボランティアとして、単発でも関わることで、地域に戻ったときに、気にかけてもらえるようになればとの思いも持っている。
- ボランティアへの謝礼は、1人・1回あたり500円程度で、学習支援の場合は、1人・1回あたり1,000円程度である。

② こどもたちの状況

- インスタグラムや LINE による情報発信を見て来ることも多いが、公園での口コミなども来訪のきっかけとなっている。区役所で配布される、こども食堂の一覧を見て、遠方から来るような方もいる状況である。
- 参加者の大半は小学生であるが、中学生世代も見受けられる。
- 平日は、近隣の小学校から来ることが多いが、土曜日は、遠方からも来ることが多く、食堂から離れた地域の小学校に通うこどもがいる家庭の利用もある。
- 学校の門限があるため、その時間にはこどもたちを帰すようにしている。中学生は、それよりも遅い時間に来ることもある。
- 学校の授業時間によって、こどもたちの滞在時間は変わるが、冬時間の場合は、家に帰って、来るというだけで終わってしまうため、支援物資の受領や幼稚園に通うこどもと親という利用者もあり、開所時間をオーバーして対応することもある。
- 開催は週 2 回であるが、開催する曜日を変えることで、特定の曜日に行けないこどもたちでも、来られるようにしている。
- 自転車で 2～5 人のグループで来ることが多いが、1 人で来るこどもも多く、会話の輪に自然と入れるように、声掛けなどの工夫をしている。
- 平日は、学習支援をすることが多く、達成感を得てもらうことを狙いとして、1 学年下のプリントをすることを基本としている。学力が厳しいと見受けられる場合は、教科や学年をなどプリントの種類を変えながら、本人の特徴・特質を見極めていくような状況である。
- 平日については、おにぎりやスープ、フードバンクからの支援でもらったお菓子等を提供している。
- 月 1 回は食事を提供するが、あくまで、一緒に集まって話せるということが大事で、食事の提供は、ツールであるという認識である。食事は 70 食分を用意するため、午前 7 時 30 分ごろから準備を始め、午前 10 時にはボランティアが来て活動が始まる。基本的に事前予約制であり、その場でのイートインとしているが、経済的に厳しい世帯にはテイクアウトも認めている。
- 定例的にイベントを実施することもあり、その際には、地域住民などが 100 人近く来場する。近辺では、お祭りが少ないため、イベントをやることで事業自体の認知度を向上させており、現在では、地域を巻き込んだ一大イベントとして根付いている。
- イベント自体は、無料で開催していることもあり、孫を連れてくるなど、世代間交流のきっかけともなっているようである。また、イベントを地域ぐるみで開催することにより、「こども食堂は経済困窮世帯が利用するところ」という偏見の目を払拭することにもつながっている。

③ こどもたちとのかかわり方

- 目標にしているのは、こどもたちが SOS を出せること、そして、信頼できる大人になるということである。
- こどもたちとの会話の中では、学校で怒られたというエピソードも多いので、こどもを褒めるチャンスをつくるようにして、褒めるように意識している。また、学校で怒られている分、ここでは極力禁止事項は設けたくないと考えており、「ダメ」と直接的に伝えるのではなく、表現を変えて伝える工夫をしている。
- プリントなどをしている際は、苦手意識をなくすように、声掛けをするようにしている。
- 活動の様子は、インスタグラムなど SNS で発信するが、こどもの顔が映らないような配慮をしている。しかし、こどもたちはポーズを取ったりして映り込もうとするなど、楽しんでいるようである。
- 一時は、こどもの利用者が多過ぎた時期もあり、こどもたちの様子を十分に見守ることができなかった。今の利用者数は適度であり、比較的落ち着いて見守ることができると感じている。

④ 他の組織等とのかかわり

- 隣家のこどもたちも参加していることもあり、周辺住民の理解は得られていると考えている。
- 地域の自治会長に、事業の内容を回覧板で周知してもらったり、ささえりあ（地域包括支援センター）の方が、民生委員経験者を連れてきて支援を申し出てもらったこともあった。
- 地域住民からは野菜など食品の提供を受けたり、ボランティアとして下処理に協力してもらったりすることもある。
- 区内の他のこども食堂に対して、市の事業で研修会を 4 回開催し、こどもの声の拾い方や、保健師など行政機関とのつなぎ方などをアドバイスした。このような取り組みは、全区に拡大してもよいと思う。
- 市の事業を、かつて受けていたこともあった。この事業は、地域と学校との連携を、こども食堂を拠点として図るものである。事業では、こどもの権利サポートセンターに、こどもたちの話の中から、学校の状況で気になったことを報告するという取り組みをしていた。こどもの権利サポートセンターが間に入っていたことで、連携がスムーズにできたと感じ、取り組んでよかったと考えている。
- まずは、地域にしっかり根差した活動が必要と考えている。その上で、学校とのかかわりができるものと考えている。そのため、これまでは、地域での活動を優先してきたが、定着してきたこともあり、学校への挨拶の段階になったと考えている。市の事業を受けたことで、学校もこの場所を知っていると思われるので、学校からの信頼も得られる段階になったのではないかと考えている。

⑤ こどもたちの声・変化

- 令和5年（2023年）までは、週1回の開催であったが、こどもたちからもっと開いてほしいとの声があったため、週2回開くこととした。
- 引きこもりのこどもが、ギターを演奏するライブイベントを開催したときには、学校の先生も来てくれた。
- こどもに声をかけると、いろいろな思い、ニーズをくみ取れる。ここが外とつながっているのもあり、声を拾える良さがあると感じている。

⑥ 運営上の課題・行政への意見

- 放課後、こどもたちが帰る時間に毎日開けて、学校の話等で励ましてもらったり、アドバイスしてもらえたりすることで、元気になって、ちょっと気が楽になってもらえるような場所は、絶対あった方がいい。
- 食事がない場所のみの提供という選択肢もあったが、食事があることで助かる人も多く、こども食堂という形でないと、物資の提供の前提となる寄附・フードバンクからの支援なども受けられない。お米なども、食堂をやっているということで提供を受けられる。
- 現物の支援も助かる一方で、加工の手間や置き場所などの負担がどうしても生じてしまう。その一方で、金銭での支援であれば自由度は高い。
- ニーズに合った支援は重要で、JAの支援は役に立つことが多いが、フードバンクからの支援は市販品でニーズに合わないものも届く場合があるため、賞味期限が切れたものなど、利用者の意向と合わず食堂側で処分が必要だったりする場合もある。
- 助成金を得るための、申請・報告の負担は大きくなっており、どのような助成を確保できるかということを調べるのにも時間がかかるような状況である。また、申請を出しても、内容の部分で却下されることもあり、そのようなときには、申請をすることをためらったりすることもある。
- 高校生が、自腹で交通費をかけてボランティアに来るような状況を見て、ボランティアへの謝礼が出せるような助成を選んでいる。ある助成では、既存のボランティアが無償でやっていた場合には、人件費として謝礼を支払えないこととなっており、「奉仕の搾取」のような状態が発生している。
- 企業の助成については、多くが1回5万円から10万円で、大きな額ではない。そうした中で、一部企業では30万円という大きな額をもらえて、事業運営の助けになっている。
- 熊本市のこどもの未来応援基金も活用している。この助成は、これまで不採用とされたことがなく、書類を適切に記入すれば助成してくれることもあり、予算として見通しを立てやすい。可能であれば、こどもの未来応援基金を基本として、それだけで運営ができることが理想ではある。
- 各種の助成等が全て単年度主義となっており、翌年度以降の継続的な収入が見込めないため、長期的な経営ビジョンを描けないことが大きな課題である。こどもたちからは、

「この後継者は誰？」と聞かれて、「いないよ」という話をしたりすることもある。継続的な収入が得られることで、事業を安定して続けられると、後を引き継いでくれる人が現れるかもしれないが、現状は、いろいろなものを犠牲にして、この取組をできる人がどれだけいるかというと、そう多くはないように思える。

- 学校との連携を図るにしても、平日の日中に行くしかないが、現状は、その時間は食堂を開設する方向でやっている。
- 安定して事業を続けられるような仕組みがないと、疲弊して、辞める人が出てきてしまい、ニーズがあっても、できない状況になってしまう。

(6) F プレイパーク

ア 調査先の概要

設置年月	平成 11 年（1999 年）11 月			
人員体制（人）	常勤	非常勤	ボランティア	計
	0	0	6	6
スタッフの資格保有状況	教員免許			
開設時間	・開催日：奇数月第3土曜日 午前10時～午後3時 （その他の時間は、プレイリーダー不在ではあるが遊ぶことは可能）			
利用者の状況	・対象年齢：主に小学生とその家族 ・利用者数：土曜日 50～60 人程度 ・利用条件：特になし			
利用料金等	無料			
施設設備	遊び場・調理スペース・小屋			

イ ヒアリング詳細

① 事業の実施体制・人員の状況

- 市からプレイパーク開設についてのオファーがあったことが、開設のきっかけである。
当時、IPAくまもとが、江津湖で行っていた「おもしろ村」の取組を知り、そのノウハウを聞いて始めた。
- 当プレイパークの開催地は、600 坪ある自己所有地であり、こどものために有効に活用できると感じた。現在、地目は公園となっているため、固定資産税は免除されている状況である。
- ボランティアは、開設当初から協力いただいている地域の方で、いわゆるプレイリーダーの役割を果たしている。ボランティアの男女比は半々で、男性、は主に道具の使い方を教えたり遊び方の見本を見せたり、女性は、豚汁など食べ物を提供するに当たっての調理を行うなどの役割を担っている。
- 地域内では、新しくこども食堂が動き出しており、その活動には、当プレイパークのボランティアもかかわっている。こども食堂では、プレイパーク活動にはかかわっていない、若いお母さん世代もかかわっているようである。

② こどもたちの状況

- 開催日に合わせて、近くの小学校にチラシを配布し、参加を呼び掛けている。
- 開催当初は、150 人ほど来ていたこともあるが、一時期は、参加者数も減少した。最近では、周辺の宅地開発が急速に進み、児童数が増加している影響もあるのか、50 人から 60 人ほどのこどもが、入れ代わり立ち代わりくるようになった。

- こどもは、5歳ぐらいから来るようになり、小学校低学年までは親が連れてくることが多い。小学校高学年になると、自分で来るようになるが、中学生になると、部活動の影響もあるからか、来なくなる印象がある。
- 来場者の多くは、これまでに参加した経験があるこどもたちで、遊び方も大体わかっている。
- 準備としては、大工道具やハンモック、スラックライン、スコープを出す程度である。
- こどもたちは、トンカチでの釘打ちや、火を使った遊びなどをすると、夢中になって遊んでいる。慣れていないこどもたちは、自宅からゲームをもってきて、プレイパークで遊ぶという姿も見られる。
- 活動がないときでも、敷地内のクヌギの木にクワガタムシを捕まえるためのトラップが仕掛けられていることもあり、活動日以外もこどもたちはプレイパーク内で自由に楽しんでいるようである。
- 季節行事としては、夏は、そうめん流し、冬は、どんどや・たき火をやっている。また、正月には、ぜんざいを提供している。

③ こどもたちとのかかわり方

- こどもたちに遊び方を教えるというよりも、自分もこどもたちと一緒に楽しんでいるというような感じである。
- プレイパークで遊ぶ以上、こどもたちに多少のけが程度の危険性があるのは、やむを得ない。小さなけがの経験がないと、大人になって、大きなけがをすることもある。
- こどもたちには、日常的に火を扱う経験がないため、プレイパークにおいて、火を扱う経験することは、とても重要である。そのため、安全に留意した上で、火を使った料理を提供するほか、火で遊ぶ経験をできるようにしている。

④ 他の組織等とのかかわり

- 当プレイパークは、プレイリーダーの研修会場として使用されており、10数人程度に研修を実施することがある。当初は、講師の所属する大学の学生が多かったが、講師が大学を離れたこともあり、現在は、大人が多い印象。将来的に自分でプレイパークを開催したいという人も何人かいた。
- 熊本市に隣接する町の人から、古民家と土地があり、プレイパークを作りたいというような相談を受けることもある。
- 市内のプレイパーク運営者同士の会議が、市主催で年1回開催され、情報交換を行っている。
- 火が使える場所が限られていることから、当プレイパーク内で、近くの保育園2園が、年2回ほど焼き芋をしている。

- 立ち上げ当初から、近所付き合いが深い中で開設したため、特に、近隣住民からの苦情はこれまで来ていない。地域での活動をするに当たっては、近所付き合いが、特に、重要と思う。

⑤ こどもたちの声・変化

- 昔は、よく物を壊したり、けんかもするようなこどもが多かったが、最近のこどもは、おとなしくなったようで、あまりけんかをする事もない。
- 男女比は、開設当初は、周辺に男兄弟が多かった影響からか、男性の比率が高かったが、現状は、半々である。
- 長年続けていることもあり、こどものときに当プレイパークで遊んでいた親が、自分の子を連れてくるような事例も増えてきた。

⑥ 運営上の課題・行政への意見

- 準備・運営に当たっての負担は、草刈り程度という認識。豚汁などは、自腹で材料費を負担しているが、大して負担には感じていない。準備・運営が大変であれば、続けることができない。苦勞せずに続けられていること、やらないと悲しむこどもがいるという思いもあり、やることに意義を感じ、今日まで続けている。
- 活動経費についても、食材に経費を当てることはできないが、今のところ、市の助成で十分に賄えている状況にある。そのため、自分が活動を続けられるうちは、続けていくつもりである。
- 自分の後継者が、活動を継続していくためには、プレイパークとなっている現在の自己所有地を、市が買い取り、地域に運営を任せていくような仕組みがよいと感じる。自己所有地のままでは、相続が発生したときに、自分の子など、相続人にとって、この土地が負担になってしまう。また、市が運営すると、いろいろな決まりや禁止事項ができてしまい、プレイパークの面白みが薄れてしまう。
- プレイパークに関する会議に出席すると、活動するメンバーの世代交代も進みつつある。また、プレイパークの活動自体に理解を示す、若い保護者も多い。
- 運営を始めるに当たっては、協力してくれる人をどう見つけるかが大切である。
- 児童育成クラブの地域版として、地域の大人たちがかわって、プレイパークで遊ぶ時間を設けても面白いと思う。

(7) G学習塾

ア 調査先の概要

設置年月	平成 25 年（2013 年）12 月			
人員体制（人）	常勤	非常勤	ボランティア	計
	1	3	0	4
スタッフの資格保有状況	教員免許			
開設時間	・週 2 回開催 月：午後 2 時～午後 8 時 木：午後 2 時 30 分～午後 8 時			
利用者の状況	・対象年齢：主に小中学生 ・利用者数：40 人程度 ・利用条件：特になし			
利用料金等	1 教科・1 か月あたり 7,150 円（小学生） 8,250 円（中学生）			
施設設備	学習室			

イ ヒアリング詳細

① 事業の実施体制・人員の状況

- もともと、別の場所で学習塾の指導補助員をやっていたこともあり、運営側に携わることになった。
- 人員体制としては、主婦アルバイトが 2 名、学生アルバイトが 1 名いるが、現状の受講者数に比して、やや少ない印象がある。
- 最近では、求人を出しても、あまりこども自体には関心がなく、単にお金を稼ぐためのアルバイトと割り切って応募してくる人が多いように感じる。教室経営においては、個々のこどもに関心を持ち、こどものことを見守ることができる人材がそろっているかが重要である。こどもたちも、その点は感じているようで、こどもに関心を持っているスタッフになつく傾向がある。

② こどもたちの状況

- 通塾を始めるきっかけとしては、こども自身が希望する場合は半分、親がこどもに通塾をすすめる場合は半分で、小学校低学年から入ることが多い。
- 基本的には、週 2 回、1 回につき 1 時間程度、教室でプリントを解く形で学習をする。
- こどもたちは、学校の一斉下校の時間に合わせてくることが多くなった。現在は、一斉下校が、月曜日は午後 2 時、木曜日は午後 4 時のため、この時間に集中する状況である。
- 学校の決まりもあり、こどもたち同士での交流の機会も限られていることから、塾に来たときには、こどもたちはとてもはしゃいでいるような状況である。

- こどもたちは、解いているプリントが、自分の学年よりも上の学年向けの内容であると自信や達成感を感じるようである。また、こどもたち自身が気づかなかったようなことを、他のこどもや保護者から評価してもらえると、達成感を感じるようである。
- 当塾を辞める時期としては、小学6年生・中学2年生の終わりが多く、中学校進学や受験対策などがその理由であることが多い。不登校などで、学校の学習ができていないようなこどもは、個別指導塾に入るという理由で辞めることもある。
- こどもが辞める理由には、このほかにも年齢が上がり、友人関係が変化したことによるものもある。
- 当塾を辞めて、別の進学塾に行く理由は、自習室に行きたいようである（当塾には自習室がない）。友達がいて、一緒に自習ができて、近くにコンビニがあつて、目的は友達とのコミュニケーションにあるように思う。自習は理由の一つに過ぎないようである。

③ こどもたちとのかかわり方

- 基本的には、大人はプリント教材をとおしてコミュニケーションをとり、指導・フォローする体制である。
- 声掛けも大事であるが、その前段として、こどもの様子をどれだけ観察できているかが重要である。
- こどもの個々の特徴を教えると、すぐに、こどもの特徴をつかみ、見守ることができるスタッフもいれば、そうでないスタッフもいる。
- 採点など、教科指導が長けている指導者でも、こどもの様子が観察できていないと、なかなかこどもも定着していかない印象である。
- 学習障がい疑われるこどもがいたとき、検査などで障がいの状況があきらかになると、さまざまな対策もできるが、保護者に検査を拒まれたりすると、対応が難しいことがある。

④ 他の組織等とのかかわり

- 教室責任者同士のネットワークで、障がいに適した支援を学ぶ学習会に、参加する機会もある。
- 当塾は、フランチャイズ形式であり、基本的には、運営責任者は、一定の裁量をもって経営することが可能である。過去には、英会話教室として空き教室を貸すようなことも想定していたが、空き教室を開放するに当たっては、教室内にある個人情報類や、管理者の配置、教室の賃借契約等のハードルがあり、実現しなかった。

⑤ こどもたちの声・変化

- こどもが、学校の様子を話すことは少なくなってきた。他のこどもに聞かれないように、他のこどもがいない時間帯であれば、話してくれるような状況である。
- テストの休み時間も、以前は、ふだんかかわりのないこども同士で話すことも多かったが、最近は、そのような傾向はあまり見られない。

- 興味があることについての会話が少なくなっている印象で、何に興味を持っているか、自分でもわかっていないようである。
- 小学校高学年になると、宿泊学習や修学旅行、LINE のやりとりなど、友達関係が変化していく。それにあわせて、時間帯をずらして、他のこどもがあまりこない遅い時間に来るこどもたちも中にはいる。
- 学生アルバイトの状況も変化している。働いて給料を得る場所という認識を持っているのか、以前ほど、こどもたちとのかかわりを持たなくなったり、学生アルバイト同士で助け合ったり、情報交換をするようなこともしなくなった。

⑥ 運営上の課題・行政への意見

- 学校が放課後、月に 1 回 1 時間程度でも、家に帰らなくても遊べるようにしてくれると、遊ぶ環境も変わってくるのではないかと。また、児童育成クラブは、学校に 1 つしかなく、選べる状況にはないことから、複数から選べるようになると、こどもたちも、苦手な人とかかわることを我慢しなくてもよくなるのではないかと。放課後の環境を充実させるためにも、地域の自治会やボランティアの方などの力を借りて、拡充できるとよいと思う。
- 隣町に住んでいる友人は、孫が通う別の町の小学校のボランティアに入り、結果として孫が通う小学校の活動にも積極的にかかわるようになっていた。そのようなかかわり方もあるのではないかと。
- こどもが友達関係でうまくいかない原因としては、自分の思いをうまく伝えられていないような印象がある。その原因としては、近隣の学校でトラブルが発生し、学校の中でコミュニケーションがとりづらい状況になったこともあると思う。こどもたちの中でも、積極的に人と話したいと思うこどもと、話すことが難しいこどもがいる。そうした中で、学校以外で、こども自身が意見を言えるような場があるとよいのではないかと。
- お仕着せで、場をつないでも、こどもが遠慮してしまって、集まらないかもしれない。
- 現状は、あまりこどもの実態を把握していない人たちが、どうにかしたくて工夫しているが、実際の現場と結びついていないような印象がある。ただ、そこを解消するためのとりかかりが難しいとも思う。
- 運営資金は、日本政策金融公庫を利用し確保している。スタッフの質次第で経営環境は変わってくるが、質の高いスタッフを採用し、スタッフが定着するまでには時間を要する。それまでの期間の資金繰りが円滑にできるよう、低金利で一時的な借入れができるような制度があると、経営も安定すると思う。

(8) Hパソコン教室

ア 調査先の概要

設置年月	令和2年(2020年)6月			
人員体制(人)	常勤	非常勤	ボランティア	計
	2	0	0	2
スタッフの資格保有状況	ワークガイダンス講習講師育成講座 修了			
開設時間	・地域の学習教室開催日程 月・火・木・金 午後4時～午後8時／土 午前10時～午後2時30分 ※このほかに、通常の講座受講者も受入(休業日:水・日・祝)			
利用者の状況	・対象年齢:小学生・中学生 ・利用者数:平日 2人程度／土曜日 7人程度 ・利用条件:地域の学習教室の利用要件を満たす方			
利用料金等	地域の学習教室:1回につき100円 (その他検定受験料は実費(2,500円程度))			
施設設備	パソコン室			

イ ヒアリング詳細

① 事業の実施体制・人員の状況

- 教室自体は10年以上前から熊本市外の自宅で運営していたが、熊本市内への転居に伴い、令和2年(2020年)に夫婦で開業。夫は、主に職業訓練の講師として活動し、妻が、教室の運営をしている。
- パソコン・プログラミング教室は、通常週1回1時間で、月4回の受講で7,700円の受講料を設定している。また、別途、熊本県ひとり親家庭福祉協議会の「地域の学習教室」として、同様のパソコン・プログラミング教室を、1回100円の料金で実施している。カリキュラムの内容は同じだが、後者は協議会からつながれたひとり親世帯のこども等を対象として、低料金で実施している。なお、「地域の学習教室」については、開業当初に紹介を受け、開講した。教材費などは、協議会から支出される助成を利用している。
- 受講登録者は10人いて、うち6～7人がふだんから受講している。

② こどもたちの状況

- 通うこどもたちは、近隣の小学校の児童が多い。
- 「地域の学習教室」に通うきっかけは、協議会からの案内が主だが、LINEでひとり親世帯の支援団体からの案内を見てきたという事例もある。一般の受講の場合は、前を通りがかってというようなパターンなど、看板を見て入る方が多い。
- 保護者としては、こどもに何かさせたい、自分で何かできた体験を与えたい、YouTubeでプログラミングの動画を見て、まねて取り組んでいることもあり、自分で考えて、プロ

プログラミングに取り組むことができるのかが、不安であるというきっかけで、訪れることが多い。

- 小学校3年生ぐらいから始めて、平日よりは土曜日に参加するこどもが多い。
- こどもたちのつまづくポイントは、ひとりひとりが違うため、練習問題を増やしたり、難易度の高い問題を増やすなど、バリエーションに富んだ問題を用意して、講座に参加してもらっている。
- パソコンを触ること自体は、慣れている印象だが、思考が求められる時は、普通の勉強と同様に考える力が重要なため、こどもたちは、しっかりと課題に向き合っている印象である。
- 講座が終わると、そのまま帰ることが多いが、時々ゲームの話などで盛り上がることもある。学校での話、先生の愚痴はよく聞く。こどもたち自身が話しかけてくることが多い。
- パソコンを使うため、息抜きのように取り組んでいることもあり、課題に飽きると、ゲームをしてよいかというときもある。そのほかの場面でも、ゲームの話題を持ち出すこどもは多い。
- 基本的には、同一曜日の同一時間に同じメンバーが参加するため、そのメンバーでコミュニケーションがなされる。
- 友達を連れてきても、入会につながることは少ない。習い事だらけで、時間がないためである。また、一時利用もほとんどない。
- 入会すると長く続けている印象がある。土曜日とか平日に親が不在時、この教室にいてほしいという、親の思いもあると思うが、辞めずに続いている。
- 現在、5～6年生から始めたこどもたちが、継続して中学生になったような状況。
- やめるきっかけとしては、パソコンが苦手、中学校に進学して部活動が忙しくなったという理由が多い。

③ こどもたちとのかかわり方

- 「地域の学習教室」は、事実上ボランティアとしてやっているが、通常のプログラミング教室受講者と同じ教材で、同じ内容を指導している。両方で教材と内容を変えるのも、運営上の負荷がかかるためである。また、こどもたちからしたら、両者に差をつける理由もないため、差をつけていないのが現状。
- こどもたちは、会話の中では、将来どのようにになりたいのかという話はあまりしない。自分の好きなことは、よく話してくれる印象である。また、本心は、親や家族よりも、むしろパソコン教室のスタッフのような、利害関係が存在しない人にこそ話すのかもしれないと感じることも多い。

④ 他の組織等とのかかわり

- 協議会とは、年1回、「地域の学習教室」に関連して、勉強会が開催され、他団体とはその場で交流がある。
- 協議会でも、「地域の学習教室」事業で、学習面を伸ばすべきか、こどもの居場所としての教室運営を行うべきかについて、その優先順位が定まっていないような印象がある
- 教室間のかかわりはないが、終了後に別の地域の学習教室に通うこどももいる。

⑤ こどもたちの声・変化

- 課題が分からないうちは、ホワイトボードに図を描いて課題を理解しようとしたり、おしゃべりなどもするが、分かりだすと、黙々と課題に取り組むようになる。
- また、こどもの性格によって、交流の生まれ方が異なる印象である。

⑥ 運営上の課題・行政への意見

- 月謝の料金形態が異なるため、「地域の学習教室」と通常の教室は、時間を分けて運営している。「地域の学習教室」利用者は専用の月謝袋により1回100円の利用料の受渡しをしているが、通常の受講者は口座振替で対応しているため、月謝袋の受渡しが気にならないか心配になり、速やかに処理してわからないように返している。
- 「地域の学習教室」は、基本的には、申出に基づいて受講者登録しているため、金銭的に困っていないように見える世帯でも「地域の学習教室」受講者として登録していたり、逆に、通常の受講者として月謝を払っている方にも、ひとり親世帯がいたりする。
- 経済的に困っている家庭に対して「地域の学習教室」の存在を、伝えられれば良いと考えているが、「地域の学習教室」を積極的に案内して、その受講者の割合が高まると、受講料収入の減少につながるため、経営という側面では、積極的に勧めづらい。今のところは、ホームページでの案内となっている。
- 現状の運営体制では、時間枠を増やすということは難しく、あくまで既存の枠の中であれば、参加人数が多少増えても対応できると思われる。
- 市とのやり取りや学校とのやり取りはないため、スクールソーシャルワーカーやケースワーカーの方から、この事業が紹介されれば良いと思う。
- プログラミングを学んでいくと、家でもやりたいと高い意欲を持つこどももいるが、家庭の経済的事情等で、プログラミング用のパソコンが、用意できないという世帯もある。こどもたちの力を伸ばす機会が、確保できていないと思うときもある。
- そもそも、協議会の存在自体を知らない方も多いように思う。また、協議会からの助成についても、人数区分によって助成段階が決まっているようであるが、詳細についてはあまり分かっていない状況ではある。
- 「地域の学習教室」の取組の情報を、支援を必要とする人にピンポイントで届けられたり、SNSでの発信や、市電の停留所へのポスター掲出等、公的な場所で目の付くところで発信できると良いと思う。

○ボランティアワークとして、大した収入にはならないが、「地域の学習教室」は続けていきたいと考えている。

(9) I 通信制高等学校サポート校

ア 調査先の概要

設置年月	令和2年（2020年）4月			
人員体制（人）	常勤	非常勤	ボランティア	計
	8	5	0	13
スタッフの資格保有状況	教員免許・心理カウンセラー・心理関係資格・救急救命講習受講者・放課後児童支援員・子育て支援員			
運営協力団体	プロeスポーツチーム：大会運営時の連携 専門学校：模擬授業等の実施			
開設時間	・平日：午前10時から午後5時まで ・休業日：土・日・祝日 （イベント等で、土曜日等に開設する場合もあり。）			
利用者の状況	・対象年齢：中学校卒業生（一部イベントは、小学生も対象） ・利用者数：在籍者数は140人程度 ・利用条件：中学校卒業生（サポート校）			
利用料金等	個別対応（中学生向けイベント等は対象者無料）			
施設設備	教室・フリースペース・eスポーツスタジアム等			

イ ヒアリング詳細

① 事業の実施体制・人員の状況

- 当初は、市内中心部の電停近くにあったが、令和6年（2024年）4月に現在地に移転した。
- 県外にある通信制高等学校の卒業を支援する、サポート校であり、半数のスタッフは「教務」として、高校の教員免許を有したり、塾での指導経験がある。その経験を生かして、通信制高校の卒業に必要なレポートの提出を、教科指導の面からサポートしている。
- 残りの半数は、専門学校や中学校を訪問したり、こどもたちの面談に対応する職員である。

② こどもたちの状況

- 開業当初は、15名程度の生徒であったが、年々増えてきており、令和6年度（2024年度）は140名ほどが在籍している。
- 生徒が入学する経路としては、2つある。1つは、中学校時代に不登校の経験を有している場合であり、大半はこのパターンである。もう1つは、高校生で途中から入ってくる転入生である。私立／公立全日制の学校に通っていたが、学校で授業の出席日数が足りない、大きなトラブルが起きた、友達関係がうまくいかないというこどもは、当校に見学に来て、面接をして入学する。

- 例外的ではあるが、最終学歴が、中学校卒業や高校中退である方が、看護師資格の取得の条件となっている高校卒業の資格を得るために、通学している事例もある。
- 通学は、9割が自転車や電車など、一人で通学している。通学区域については、市内に限らず、県北地域を中心に、市外からも通学する生徒も一定数いる。
- 午前10時にオープンするが、午前9時に登校する生徒もいる。個人によって、滞在時間は異なるが、平均して2時間から3時間程度を過ごしている。通常は、午後5時で生徒が下校し、スタッフは校務をする。
- おおよそ3分の1が、週5日登校し、後は、週2日／週1日という事例が多い。
- 週5日の通学の場合でも、授業を自由に選択できることから、空き時間があり、その時間は、自由に過ごしている。空き時間には、生徒はフリースペースで過ごすことも多いが、空き教室などで静かに過ごすことも多い。
- 授業を自由に選択できることにより、同年齢の交流が少ないことから、同じ学年での交流を深めるために、バーベキューイベントなどイベントを、学年別に開催することがある。
- 3か月に1回程度、土曜日・日曜日に、保護者会と合わせて、心理学に関する講座を開催し、親子ワークで、ふだん家では話せないような会話をする機会を設けている。
- 進路の相談もあるが、日常的には、友達とのトラブルへの対応であったり、送迎されてきた車への迎えをしたりと、生徒の様々な求めに対応している。
- 進路相談は、大学・専門学校・就職と担当を分けて行っている。
- 無料の学習講座は、高校では、自由な髪形にしたいなどと考えている、中学校には、行くことはできない子どもたちが来るようになり、当サポート校への入学に繋がった事例もある。
- 無料の学習講座は、当初、10月から2月までの期間で実施していた。参加者からは「なぜ早くからしないのか。それまで暇だったのに」「やっと友達ができたのに」という意見を受けて、令和6年度（2024年度）からは5月から前倒しして実施することとした。
- こどもが、楽しいと感じてくれるような講座を実施しており、eスポーツに触れられる、コミュニケーションゲームもできるということなどを知って、中学生が入学してくる。

③ こどもたちとのかかわり方

- サポート校の理念として、「こどものための居場所であること」が一番にある。それがあって初めて、単位取得であったり、人との関係づくり、解釈力などを身に着け、好きなことを、好きなだけやれたりする環境が整うものと考えている。
- 面談では、卒業に向けた話題も3割程度するが、主な内容としては、人との関係づくりやこれまでの出来事を振り返り、自身にとっての意味を考えるような内容のカウンセリングが7割程度になる。カウンセリングは、1時間程度で行うが、複数回になることが通例である。

- サポート校のことを知ってもらい、来てもらえれば、通常の学校のように学習中心ではなく、このような居場所としての学校もあるのかという雰囲気を理解してもらえることが多い。
- 生徒が、下校する午後5時以降しか来られない生徒もいるため、それに合わせて対応することもある。
- 基本的には、通学ができることを前提として受け入れているが、入院が必要だったり、県外在住者だったりする場合は、在宅という選択を取っている生徒も一部いる。
- 学習会では、勉強が得意な子と不得意な子がいるが、いずれも受け入れる雰囲気を作っている。
- 生徒の求めに応じて寄り添っていくと、様々な形に広がっていったということが正直なところではある。

④ 他の組織等とのかかわり

- 無料学習会は、中学校にチラシを配布し、これをきっかけに、先生方が紹介し、保護者と一緒に来ることが多い。
- 中学校への訪問に当たっては、教員の手間を取らないようにチラシの配布方法を工夫するような形にするなど、配慮をしているが、話ができる時間はごくわずかなことや、受付で止められることもある。卒業生の報告という形をとると、話を聞いてくれる場合が多い。
- 無料の学習講座の参加については、中学校の校長の判断により、レポートの提出等は必要であったが、参加する生徒について、学習講座への参加をもって出席扱いとしてくれた。そのような形で学校の出席として認められるのであれば、毎週実施できるとよりこどものためにはよいとは考えている。
- 児童相談所とのやり取りはあり、担当の方と連絡を取ることもある。児童養護施設から通う生徒もいれば、途中から施設を利用する生徒もいるなど、いろいろな関係がある。
- 特別支援学級の教員とのやり取りもあり、特別支援学校への進学ではなく、通信制高校を進路の選択肢として、発達障がいや知的障がいなどがあるこどもが当校を選ぶ事例も多い。
- 部活動では、大会出場に当たり、全日制高校のバレー部の顧問の先生に協力してもらい、練習試合を組んでもらえたりした。
- 某企業には、プロeスポーツチームがあるが、当校内スペースで大会を行いたいという話があり、大会運営に生徒がかかわったという事例がある。
- 某専門学校では、高校生向けの授業もやってくれるなど、専門学校の中に連携しやすい学校がいくつかある。卒業生の面倒も見てくれている専門学校とは、濃い付き合いがあるが、(専門学校側から)当校卒業生の近況報告として、頑張っている姿や、辞めそうなので、当校から声掛けをしてほしいというような話があるなど、連絡を取り合っている。

⑤ こどもたちの声・変化

- 入学時に面談をして、好きなことを深く聞くようにしている。こどもの興味があることをしっかりと聞き取って、同じ趣味を持つ他の生徒とつなぐのが、先生たちの役目で、それにより仲良くなってくる。
- 生徒会活動や部活動、修学旅行の行き先も、生徒自身が決めるという取組の中で、横のつながりができていく。
- 進学を目指している生徒は、無料学習会にボランティアで入り、中学生と1対1で関わることもある。その中で、自らの不登校経験を中学生に話すこともあり、参加した中学生にとっては、希望の光になるようである。
- スポーツの特待生として、他の高校に入学した運動能力の高い生徒も、けがや部活内のトラブルによりやめてしまい、通信制高校に転入する場合もある。そうした生徒にとって、部活動は活躍の場となっている。

⑥ 運営上の課題・行政への意見

- 無料の学習講座では、全体の状況を見つつも、個別の学習支援をする必要があるため、誰にでも任せられるものではない。在籍している生徒を、大事にしないといけないため、現状の開催回数が限度である。
- 無料の学習講座では、プリント教材も参加するこどもたちの学力に合わせて用意している。これまで、学習塾の講師として勤務していたこともあり、そのときに使用していた教材などが古くなってきていることもあることから、消耗品の支援もあるのであれば有り難い。
- サポート校を対象とした支援の実施は難しいとは思いますが、放課後デイサービスなど、別の制度を活用して、資金を確保していきたいと考えている。
- 児童育成クラブの運営や地域ボランティアによるサポートなど、他事業についても検討したが、放課後デイサービスが助成も受けられて、やりたいことができるように思われる。学習障がいなど、支援を要するこどももいるが、放課後デイサービスは生活支援も含めて実施できることから、そのこどもにあった内容でサービスを提供できるのではないかと考えている。
- 放課後デイサービスにより、他の通信制等の学校に通う生徒や、学校に行っていないこどもたちを受け入れて、楽しいことをしてもらえたらよいと考えている。
- 通信制高校の場合、高体連などに登録している学校がほとんどなく、サポート校が積極的にかかわらない限り、大会出場の機会がなく、交流の機会が全日制に比べると限られた状況である。
- サポート校も、自分に合う場所に転学しやすくなると良いと考えているが、そもそも、サポート校同士のつながりが無い状況である。各学校間の連携という観点では、校長会がなかったり、民営企業であるためライバル校という捉え方もなされている状況で、合

同説明会でしか、各学校は集まらない状況である。例えば、スポーツ大会を開催するに当たって、体育館の使用料が、無料であるだけでも、交流が進むように思う。

- 各々のサポート校は、母体となる通信制高校や運営する法人の状況により変化するため、一概にどのようになればよいかというのは言えないが、通信制高校の場合は、そもそも活躍の場・発表の場が限られるため、そのような場があるとよい。
- そうした行事があることで、生徒自身が目標を立てて、頑張ることができると思われる。

第3章 先進事例ヒアリング調査結果

第3章 先進事例ヒアリング調査結果

1 調査概要

(1) 調査の目的

こどもの居場所をめぐる課題等の解決に成功している他自治体の事例を調査し、その要点を整理することで、熊本市におけるこどもの居場所に関する政策等を検討する際の参考情報とすることを目的とする。

(2) 調査概要

ア 調査対象

こども及び保護者アンケート及び施設等運営者ヒアリングの調査結果を踏まえ、熊本市の参考となりうると思われる、以下の6事例を選定した。

図表 3-1-1 調査先一覧

調査事例	事例の概要	所在
トワイライトスクール・ルーム	市内の全ての市立小学校で実施する全児童を対象とした放課後活動（月～土、休日等除く）	名古屋市
みんなの校庭プロジェクト	放課後の指定曜日・時間帯の運動場を学校管理外として開放	川崎市
中高生の居場所づくりモデル事業	児童館の開館時間を延長し、中高生世代専用時間帯として実施している居場所づくり事業の拡充	名古屋市
文京区青少年プラザ「b-lab」	中高生世代専用の新規に設置された居場所	文京区
川崎市ふれあい館 桜本こども文化センター	日本人と在日外国人との交流、異年齢の交流が生まれる施設	川崎市
川崎市子ども夢パーク	不登校児童・生徒の居場所とプレーパークが併設された施設	川崎市

イ 調査方法

各事例につき1時間程度、対面によるヒアリングを実施。

ウ 調査日程

令和6年（2024年）10月24日（木）、29日（火）、30日（水）、11月1日（金）

2 ヒアリング調査結果

(1) トワイライトスクール・ルーム（愛知県名古屋市の）

事業開始年	・トワイライトスクール 平成9年（1997年）10月 ・トワイライトルーム 平成25年（2013年）4月				
実施場所	・トワイライトスクール 市立小学校 206校 ・トワイライトルーム 市立小学校 54校 計260校（全市立小学校）				
過去5年度の 参加申込数(人)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
	58,286	48,723	47,357	46,259	49,605
1日・1校 あたり参加者数	37.8	24.4	27.6	30.9	36.7
事業費・予算	令和6年度予算 33億9,643万円（令和5年度予算 33億1,644万円） ・補助金等 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金（放課後子供教室） 放課後児童健全育成事業費等補助金				
事業実施形態	業務委託 ※公募によるプロポーザルを実施し、受託者を決定（令和6年度現在4者）。				
人員体制	・トワイライトスクール 1校当たり：運営指導者1人、補助員1人（参加児童数が多い場合等） 地域協力員（参加児童数に応じて配置） ・トワイライトルーム 1校当たり：運営指導者1人、子ども指導員2人 地域協力員（参加児童数に応じて配置）				
開設時間	・トワイライトスクール ※いずれも、休日・年末年始等を除く 授業実施日：授業終了後～午後6時 長期休業中の平日：午前9時～午後6時 土曜日：午前9時～午後6時 ・トワイライトルーム ※いずれも、休日・年末年始等を除く 授業実施日：授業終了後～午後5時（選択事業 午後7時まで可） 長期休業中の平日：午前8時～午後5時（選択事業 午後7時まで可） 土曜日：午前9時～午後5時（選択事業 午後6時まで可）				
利用料金	・トワイライトスクール 無料（保険料等は実費（年400円程度）） ・トワイライトルーム 利用時間 ～午後5時 無料（保険料等は実費（年400円程度）） ～午後6時 1,500円／月（おやつ代相当額） ～午後7時 6,500円／月（おやつ代含む） ※一時利用の場合は、1,000円／回 ※減免制度あり				
施設設備	設置されている小学校内の余裕教室 トワイライトスクールは1～2室 トワイライトルームは2室				

ア 事業の概要

① 事業の実施体制

- 名古屋市での小学生の児童を対象とした放課後施策は、学校施設を活用した「小学校施設を活用した放課後施策」と、学校外の民間施設である「留守家庭児童育成会」等を主として利用する「留守家庭児童健全育成事業」の2つが行われている。
トワイライトスクール（以下、「スクール」という。）・トワイライトルーム（以下、「ルーム」という。）（以下、両事業を区別しないときは、総称して「トワイライト」という。）は、「小学校施設を活用した放課後施策」として、260校ある市立小学校の全てで、いずれかが実施されている。
- スクールは、市内206の市立小学校で、放課後子供教室事業として実施している。
- ルームは、市内54の市立小学校で、放課後子供教室事業に加えて、放課後児童クラブ事業（一体型）として実施している。
- トワイライトは、原則、実施校に在籍する児童又は当該小学校区に在住する小学1年生から6年生までを対象としている。そのため、地域に住む私立小学校等に通学する児童も利用は可能であるが、実績としてはごくわずかである。
- ルームは、午後5時までは、上記条件を満たした児童であれば参加できる。午後5時から午後7時までの時間帯の利用（選択事業）を希望する児童は、就労等で保護者が家庭にいないことなどにより、子育てへの援助を希望する家庭の児童という要件を満たす必要がある。
- 上記のほかに、スクールとルームの違いとして、スクールは、体験活動等の参加を通じて自主性や社会性、創造性を育む社会教育事業であり、ルームは、スクールのそれらの要素に加えて、おやつの時間が設けられるなど、放課後児童クラブの機能である生活の場としての機能を有している点が異なる。
- 長期休業中の平日は、スクールが、午前9時に開設されているのに対し、ルームは、就労支援の観点もあるため、午前8時から開設している。
- 人員体制として、スクールは、指導者1名と補助員1名（参加児童数が多い場合等）を配置している。ルームは、指導者1名と子ども指導員2名を配置している。いずれも運営事業者のスタッフのほか、地域協力員に来てもらっており、参加児童数に応じて従事する人数は異なる。
- スクールとルームでは、配置人員などの体制の違いもあり、1か所当たりの経費は、スクールが約1,100万円に対し、ルームは約2,200万円となっている。
- 運営に当たっては、学校ごとに、学校の教員や地域住民等で構成される運営連絡会を開催し、こどもたちも参加して意見交換を行っている。
- 活動報告について、月に1回、実施事業の案内（「トワイライトたより」）を利用者等に配布することとしている。

② 実施に至るまでの経緯・現在までの取組

- 学校の余裕教室の利活用の観点から、平成 9 年（1997 年）に、市の外郭団体である名古屋市教育スポーツ振興事業団（現：名古屋市教育スポーツ協会）に運営を委託する形で、2 校でスクールが開始した。
- スクール実施当初は、教育委員会の社会教育事業として事業を展開してきたが、就労支援としてこどもを預かる場の役割が大きくなり、平成 21 年（2009 年）に教育委員会から市長部局の子ども青少年局へ事業が移管され、教育委員会業務の補助執行に変更された。
- 市長部局への移管後の平成 22 年度（2010 年度）以降は、プロポーザル方式による委託業者の選定に変更したほか、平成 25 年度（2013 年度）にはスクールの全校設置が完了、あわせてルームが開始されるなど、現在の事業体制が確立した。
- 新型コロナウイルス感染症の影響が強くあった時期では、学校の休校時においても、トワイライトは実施していた。

イ 利用の状況

① 利用者像

- 利用者の 9 割は、小学校 1 年生～3 年生で、4 年生以上が 1 割ほどである。利用率に大きな差がある背景には、小学校での部活動が 4 年生から開始されることなどが考えられている。
- 下校時や長期休業中は、原則保護者の送迎を必要としている。一部で、児童の学年に応じて一人で来ることを認めているほか、時間帯や学年に応じて、一人で帰ることを認めるなど、各トワイライトにおいて状況に応じ判断し対応している。
- 利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響が強くあった時期は低調であったが、令和 6 年度（2024 年度）については、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度（2019 年度）を上回る見通しである。
- 市が令和 5 年度（2023 年度）に実施した満足度調査では、こども・保護者の 8 割以上が満足しているとの結果であった。

② 活動・取組の様子

- スクールとルームでは、過ごし方自体は大きく変わらず、活動は、学習タイム・自由遊び・体験活動の 3 つに区分される。
- 放課後にこどもたちは、学校内にあるトワイライト専用室に行き、30 分程度宿題や読書をする学習タイムを過ごす。その後、自由遊びの時間に移り、地域のボランティアである地域協力員などと将棋や折り紙などをしながら一緒に過ごしている。
- ルームのみ、選択時間帯の利用児童に対して、おやつを提供している。

図表 3-2-1 活動の様子



出所：名古屋市（名古屋市ホームページ）

- 体験活動は、月に12回以上実施することとしている。運営事業者の特色を発揮した体験活動もあり、例えば、地域のプロスポーツチーム（中日ドラゴンズ・名古屋グランパスエイト）と連携したスポーツ教室は、その代表例である。
- 各トワイライトにおける体験活動の実施に向けた準備・調整にも負担があることから、市側で、社会貢献事業の一環として意欲ある民間事業者と連携し、各トワイライトで、体験活動を実施する公民連携事業の推進も図っている。
- 近年は、こどもの意見を反映させた事業運営を行うことを、公募において提案する事業者もあり、こどもの意見を踏まえた活動も展開されている。

③ 運営スタッフのかかわり

- トワイライトは、開設時の経緯から、教員経験者が活動の中核を担ってきた。
- 学生ボランティアとして、高校生や大学生も参加している。大学によっては、ボランティア活動することで単位が認定される場合もある。また、トワイライトでボランティア等の活動をした者には、名古屋市の教員採用試験において加点評価するという特例により、ボランティア等への参加を促す取組も行っている。

ウ 運営の課題・方向性

- 名古屋市では、令和4年度（2022年度）に「小学校年齢期における放課後施策の新たな方向性」を取りまとめ、トワイライトを含めた放課後施策について、量的拡充及び質の確保に向けた新たな取組を推進している。
- 市全体の児童数は減少している一方で、トワイライトの利用者数は、増加していることもあり、活動スペース不足の問題が生じたり、体験活動を、更に充実させることが難しいようなトワイライトもある。
- 異学年の年齢のこどもと遊ぶことも重要視しており、事業者選定の際に、異学年との交流等を評価するようにしている。しかしながら、参加者の学年が低学年に集中している状況もあり、十分な成果が上がっている状況ではない。
- スクールの運営について、受入れ時間を長くすることを求める市民からの意見（長期休業中のスクールの受入れを、（ルームと同様の）午前8時からに早めてほしい等）もある

ことから、受入れ時間が長いルームへの移行により、市民ニーズに対応する方針で現在進めている。

- 通所可能な範囲に、利用できる留守家庭児童育成会のない学区及び待機児童が発生しているなど利用ニーズの高い学区からルームへ移行することとしている。
- スクールからルームへの移行に当たっては、スクールのときと比べ、資格の必要な子ども指導員等スタッフを配置する必要があるが、人材の確保が困難な状況にある。

(2) みんなの校庭プロジェクト（神奈川県川崎市）

事業開始年	令和4年（2022年）
事業費・予算	令和6年度予算 442万円 ・補助金等 なし
事業実施形態	市（地域教育推進課）が主体となり、学校・放課後児童クラブ等と連携
人員体制	スタッフ等の配置なし
開設時間	各小学校で定められたルールに従って運営
利用料金	無料
施設設備	各小学校の運動場等（使用可能な設備等は学校ごとに異なる）

ア 事業の概要

① 事業の実施体制

- 「公園のように校庭で自由に遊ぶ」を基本理念に、放課後の小学校の校庭を、こどもたちが自由に遊べる場所にする取組である。
- 校庭の開放については、「場」の開放として位置付け、「学校管理下ではない」という整理のもと、公園と同じように利用することを前提に、利用は各家庭での判断に委ねられている。校庭内の設備の整備不良によるけがの発生など、施設・設備そのものに瑕疵があった場合は、学校側の責任となるが、走っているときに、転んでけがをした場合などは、公園と同様、自己責任となる。
- 学校から帰宅せずに、そのまま校庭で遊ぶ場合は、ピロティなどの所定のランドセル置き場にランドセルを置いた時点から、学校の管理下から外れることとしている。
- けがなどの困りごとについても、原則各家庭で、対応することとしているが、大人の助けが必要な場合については、小学校に併設されている放課後児童クラブ（川崎市では「わくわくプラザ」という。）のスタッフが、対応することとしている。スタッフは「公園にいる近所の大人」と似たような位置付けであり、こどもたちに対する管理責任はなく、困ったときに声をかけてくれたら初動対応するというスタンスである。
- 運営面では、各学校単位でこどもたちを中心としてルール作りを行い、周知もこどもたちが中心となって行うこととした。このルール作りは、学校の教員が授業の中で行うだけでなく、教育委員会事務局で勤務する経験豊富な教員（指導主事）も関わっている。
- 共通して決めなければならないルール項目としては、開放する曜日・時間・対象学年で、その他の項目については、各学校の実情に合わせて設定している。
- 使用するボール等は、既にあるボール等を活用することとしているが、必要に応じて、1校につき4万円程度で準備できるよう予算措置をしている。

- 事業の実施に向けて、新規に条例・規則を設けてはいない。学校長は、施設管理者として通常の施設管理を行うほか、開放用の遊具（ボール等）は、事業を担当する教育委員会の地域教育推進課がサポートする体制をとっている。

② 実施に至るまでの経緯・現在までの取組

- 川崎市幸区は、都市化が進展していることもあり、ボール遊びができる広い公園が限られている状況であった。一部の学校では、校長の判断により放課後の校庭を開放する取組もしていたが、学校管理下となることから安全性を重視し、使い方の制約が大きくなる傾向があり、公園で遊ぶ以上に制約の多いような学校もあった。
- 上記のような背景もあり、幸区で、市長と市民とが直接対話をする「車座集会」で、子どもたちからボール遊びができる公園の増設を求める意見が出されたことを受けて、小学校の校庭の利活用を検討することができないかという議論が挙がったことから、自由にボール遊び等ができる公園を、校庭で実現するという形で制度設計が進められていった。
- 小学生のニーズを把握するためにアンケートを行ったところ、半数以上の児童から放課後の校庭遊びのニーズがあった。
- 事業の制度設計を進める中で、中学校での開放も検討したが、部活動でグラウンドが利用されていること、また、中学生からは、「自由なボール遊び」ではなく、バスケットボールやサッカーなど「特定のスポーツ競技」に取り組みたいという意見が多く、部活動でそれらのニーズに応えることができることから、中学校では、取組を行わないこととなった。
- 令和5年度（2023年度）まではモデル的試行しながら順次実施し、令和6年度（2024年度）中に全小学校で実施する方向で、現在取組を進めている。
- 事業の周知は、市の広報紙である「市政だより」で特集記事を掲載したほか、教育委員会の広報紙で複数回特集記事の掲載を行った。また、PTAに対しても、市・各区の連絡協議会で説明会を実施した。さらに、実施直前には、各学校から一斉配信メールなどで保護者向けへの周知も図った。

図表 3-2-2 「みんなの校庭プロジェクト」を紹介した広報紙



出所：川崎市（かわさき市政だより 2023 年 11 月号）

イ 利用の状況

① 利用者像

- 利用できる学年は、学校ごとのルールで決まるが、大半の学校は、小学校 3 年生以上としている。理由としては、1・2 年生は下校時間が早い関係もあり、放課後すぐに校庭で遊ぼうとしても、高学年の授業があるために利用できないこと、わくわくプラザ（放課後児童クラブ）の利用者も多い年代でもあることによる。

② 活動・取組の様子

- 校庭開放のルール作りでは、児童から「校庭でゲームをしたり、お菓子を食べたりしてもよいのではないか」という意見が挙がることなどを危惧していたが、実際のところは、大人が事前に想定していた以上に、みんなが楽しく遊ぶためのしっかりとしたルールがこども側から提案され、「ランドセルを学年ごとに整理して置こう」、「ボール遊びと鬼ごっこはエリアを分けよう」など、事業実施に向けた建設的な意見が多く挙がった。
- ルールの周知に当たっては、ポスターや昼休みの校内放送、学習者用端末を活用し紹介動画を作成するなどの児童が率先して行う取組が、委員会活動などを中心に進められていった。

図表 3-2-3 校庭開放のルール作りの様子



出所：川崎市（川崎市ホームページ）

- 自分たちで決めたルールということもあるのか、例えば、指導者がいない中で、終了時間を知らせるチャイムが鳴らなくとも、終了時間になると、自発的に自分たちが使っていない道具も片付けをして帰る姿が見られ、自分たちの居場所を、自分たちで守る意識があるようである。
- 大規模校では、校庭の安全管理の観点から、学年によって、校庭で休み時間中に遊べる曜日が限定されている。この事業では、指定の日時であれば自由に遊べることから、子どもたちに好評なようである。
- これまで制約の多い中で子どもたちが遊んでいたこともあり、放課後にボールを蹴って遊ぶという経験がない子どももいる状況にあった。本事業で、ボールを思いきり蹴っても良い、サッカーもできるというような状況が生まれ、それが子どもたちの間で広がっていくことで、参加者数も伸びているような印象がある。
- 子どもたちのけがは、一定数発生しているものの、病院での手当てが必要な事態は、半年間で5件にも満たない状況である。学校管理下ではないと整理しているため、学校の保険による対応は行わないが、市で、こどもの医療費の助成を行っていることもあり、けがによる大きなトラブルは発生していない状況である。
- 校庭開放を実施した結果、子どもたちが学校でボール遊びをするようになり、自然と校庭と公園での遊び方の棲み分けが進んだことから、こどもの公園での、トラブルや利用マナーに対する苦情に、学校が対応する事例が少なくなった。

図表 3-2-4 活動の様子



出所：川崎市（川崎市ホームページ）

③ 運営スタッフのかかわり

- 大きなけがなど、大人の助けが必要なトラブルがあった際に、わくわくプラザ（放課後児童クラブ）のスタッフが、身近な大人という役割として、こどもの声に応じて初動対応を行う業務を、令和6年度（2024年度）からは、指定管理業務の中に含めている。

ウ 運営の課題・方向性

- 本事業の開始の経緯として、市長との車座集会での発言をきっかけとしていることから、当初は、区役所が主体となって校庭の利活用を進めていた。しかし、区役所が主体となると、イベント的要素が強くなってしまい、日常の居場所とは異なる様相となっていた。後に、教育委員会内に、学校と地域との連携を図ることに主眼を置いた部署が設置され、取組が進んでいった。
- 事業の実施には、学校など様々な関係者の理解が必要である。理解を得るために、関係者に対して、複数回の説明の機会を設けるなど、苦勞する部分も多くあった。
- 川崎市では、「子どもの権利に関する条例」を制定していることもあり、権利に関する授業を行うこととしている。今回のこども主体のルール作りでは、教員が関わることになっているが、この経験もあり、主権者教育の一つとしてルール作りを位置付け、取り組みを進めてもらえているところが大きい。
- 一方で、こどもだけでルールを決めていくと、例えば、「校庭で利用できるボールは、一度に〇個までとする」というように、大人たちが想定する以上に、厳しいルールを設定する状況が見られた。そうした場合には、片付けのルールを考えてみてはどうかなど、本来の事業趣旨である「公園のように校庭で自由に遊ぶ」を踏まえたアドバイスをこどもたちにするようにしている。
- 校庭開放を始めとして、学校施設を活用した様々な取り組みを実施することで、学校を核として、地域ぐるみでこどもの育ちを見守り、支えていくことを目標としている。

(3) 中高生の居場所づくりモデル事業（愛知県名古屋市）

事業開始年	令和5年（2023年）				
実施場所	・モデル事業：緑児童館（モデル館）1館 ・通常事業：各児童館（行政区ごとに設置）15館 計16館				
過去5年度の 延べ利用者数(人) (令和4年度は参考)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
				4,123	7,581
うちモデル館				486	2,310
事業費・予算	令和6年度予算 モデル館のみ800万円（令和5年度予算 300万円） （※その他の児童館については、指定管理料内で実施。） ・補助金等 なし				
事業実施形態	指定管理（指定管理業務の1つとして実施）				
人員体制	・モデル館（緑児童館） - 専任スタッフ：週5日・1日7.5時間勤務 1名 - 専任スタッフ：週3日・1日4時間勤務 2名				
開設時間	・モデル館（緑児童館） - 週3回（木・金・土） 午後5時～午後8時（中高生専用時間帯） （参考）その他の児童館 - 週1回 午後5時～午後8時（中高生専用時間帯） ※中高生は、上記時間帯に限らず、通常開館時も利用可能。				
利用料金	無料				
施設設備	児童館の既存設備（体育室・図書室等）を使用				

ア 事業の概要

① 事業の実施体制

- モデル館を除く全ての児童館で、週1回、モデル館である緑児童館では、週3回、夜間に中・高校生世代の居場所として、専用時間帯を設けている。
- 専用時間帯の実施曜日・時間は、各館で設定しており、曜日は地域の実情等も踏まえながら、時間は概ね午後5時から午後8時までで設定している。
- モデル館では、週3回の開館に対応するための人件費を加算し、無線LAN環境の整備、中・高校生世代向けの備品の購入等ができるよう予算を確保した。
- 職員の体制について、モデル館では、放課後から閉館まで関われるよう、4時間の勤務をするスタッフを開催日に合わせて2名配置している。また、中・高校生世代と日常的にかかわりが持てるよう、1日7.5時間・週5日勤務の中・高校生世代とのかかわり方に知見を有した専任スタッフを児童館職員として配置している。

- 専任スタッフの要件として、特定の資格の取得は求めているが、中・高校生世代とのかかわり方に知見を有した者を配置するよう業務仕様に含めているほか、中・高校生世代のかかわり方に資する研修を、事業者が受講することを求めている。

② 実施に至るまでの経緯・現在までの取組

- 名古屋市では、子育て家庭や小学生の居場所として、児童館の利用が定着していたものの、中・高校生世代の利用が少ない状況が見られた。前述のトワイライトスクール・トワイライトルーム等の取組により、小学生の放課後の居場所が整いつつある中で、中・高校生世代の居場所が少ないという課題感もあったことから、平成 24 年度（2012 年度）から、仕様書に、中・高校生世代の居場所づくりに関する内容を盛り込むような対応を行っていた。
- 通常の開館時間では午後 5 時で児童館は閉館するため、中学生・高校生が下校後に利用すると 1 時間も利用できない状況であったことから専用の時間を設けることとなった。新型コロナウイルス感染症の影響が出る前は、館別での実績にばらつきがあったものの、小学生時代に児童館の利用経験がある者を中心に、中・高校生世代の利用も徐々に増えている状況にあった。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、児童館全体の利用者数が減少し、児童館の利用経験がない中・高校生世代のこどもが増えた。中・高校生世代の児童館の利用者数が伸び悩みを見せていたこと、そして中・高校生世代の居場所の少なさによる社会的課題が見えてきたことから、令和 5 年度（2023 年度）から、モデル館において事業を拡充してきたところである。

イ 利用の状況

① 利用者像

- 利用者の多くは中学生であり、高校生の利用は少ない状況で、多くは周辺の学校等から徒歩・自転車で訪れる。専用時間でない午後 5 時以前も、中・高校生世代のこどもたちは利用できることから、午後 5 時前から利用を始めるこどももいる。
- モデル館以外の週 1 回の特定の曜日のみの開催では、その曜日の都合が悪いこどもたちが来られないということもあり、モデル館では曜日を増やして対応している。その影響もあるようで、1 回あたりの利用者数も増えてきている。市の SNS などの広報活動を契機に来る事例よりも、友達を連れ合ってくることが多い印象である。

② 活動・取組の様子

- 中・高校生世代のこどもたちの過ごし方としては、運動が一番人気で、体育室で運動する姿がよく見られる。また、飲食もニーズが高く、こどもたちが簡単な調理をして食べるなどして過ごしている。学校の試験期間になると勉強をするこどもも増える。

図表 3-2-5 緑児童館の体育室の様子



出所：名古屋市（名古屋市公式 note）

- モデル館である緑児童館では、無線LAN環境を整備している。スマートフォンを利用して動画を再生しながらダンスの練習をするほか、勉強をするときにも活用するなど、幅広く無線LANが活用されている状況がある。
- 中・高校生世代のこどもは、自分たちだけの居場所が欲しいと考えているようである。夜間の児童館が中・高校生世代専用の居場所になり、様々な居室もあるため、自分たちの居心地のいい場所で過ごしている。
- これまで利用してこなかったこどもたちも、一度児童館を利用し、児童館職員とのかかわりを通すと、この場所を居場所と思うようになるようである。

③ 運営スタッフのかかわり

- 児童館は児童福祉施設として、こどもたちの様子を見ながら、抱えている課題や悩みに気づき、他の機関と連携を図る福祉的な役割も担うものと名古屋市では位置付けている。
- 小学生と比べ、中・高校生世代の悩みは多様であり、かかわり方も難しいことから、中・高校生世代のこどもたちとのかかわり方について、知識を持ったスタッフが常に配置され、かかわりが持てることが望ましいということが令和5年度（2023年度）の取組で明らかになった。

図表 3-2-6 こどもたちの活動にスタッフがかかわる様子



出所：名古屋市（名古屋市公式 note）

- 取組を続けている中で、こどもから悩みを相談され、専門機関につながった事例もあった。同じ職員がいることが安心感となるのか、いつでも来られるという児童館の特性もあることから、モデル館のような取組を広げていく必要性を感じている。

ウ 運営の課題・方向性

- 児童館は0歳から18歳未満までのこどもが利用でき、1つの施設で、こどもが未就学の状況から、小学生、中学生と成長していく過程に関わることができるため、居場所として最適な施設であるとは考えるが、児童館という名称では、「小学生までのイメージがある」という声も多く、中・高校生世代の利用につながらない状況がある。
- 夜間の実施日数を増やす際には、職員の人員確保などが課題として挙げられた。
- 利用者からは、毎日の実施や、時間帯問わず利用したいという声が寄せられている。児童館の施設規模では、利用者が20人ぐらいであれば問題ないが、30人を超えてくると、スタッフの管理も難しくなることから、利用者数の増加と施設の受入れ体制のバランスは課題となっている。
- 現状は、本事業の趣旨と合致した補助制度がないこともあり、市予算のみで、事業運営をしている。中・高校生世代のこどもたちのニーズに応えるための取組として、国等の補助制度が活用できると、より事業を推進できるのではないかと考えている。
- 今後、児童館の改修・改築が進められていく中で、中・高校生世代専用のスペースや、調理・飲食のスペース、体育室の整備など、中・高校生世代のニーズも踏まえた施設に改めていきたいと考えている。
- その他、設備について、無線LAN環境は子育て世代の保護者などのニーズもあることから、今回の事業に限らず推進していきたいと考えている。

(4) 文京区青少年プラザ「b-lab」(東京都文京区)

事業開始年月	平成 27 年 (2015 年) 4 月				
過去 5 年度の 延べ利用者数(人)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	令和 3 年度 (2021 年度)	令和 4 年度 (2022 年度)	令和 5 年度 (2023 年度)
	23, 817	12, 239	15, 234	24, 454	30, 552
事業費・予算	令和 6 年度予算 約 6, 984 万円 ・補助金等 なし				
事業実施形態	業務委託 (受託者 認定特定非営利活動法人カタリバ)				
人員体制	約 40 人 (常勤スタッフ 9 人、非常勤スタッフ 8 人、 インターン 5 人、ボランティア 20 人程度)				
開設時間	午前 9 時～午後 9 時 (中学生は～午後 8 時) ※年末年始等除く				
利用料金	無料 (一般貸出対象施設で、中学生・高校生世代以外は有料)				
施設設備	ホール・音楽スタジオ 2 室・プレイヤード・フリースペース (併設の教育センターとの共用) 研修室・軽運動室				

ア 施設の概要

① 施設の運営体制

- 「中高生の秘密基地」をコンセプトに、中学生・高校生が、各種スペースを利用できる。
- 中学生・高校生が、施設を利用したイベントを開催するほか、運営にも携わるなど、施設の活動全般にわたって、中学生・高校生が、主体となった活動の場を提供している。
- 施設の利用に当たっては、区内在住・在学・在勤の中学生・高校生世代のこどもたちとしており、利用者登録を行い、登録カードを用いた入退館管理が行われている。
- 一部施設 (ホール・音楽スタジオ) の利用については、事前説明を受けるほか、高額な備品を扱うため、損傷等万が一の対応として保護者の同意を得ることが条件となっている。ただし、ホールは、備品を使用しない、予約なしでの当日利用に限り、保護者同意を不要としている。

図表 3-2-7 利用申請が必要な施設 [(左) ホール・(右) 音楽スタジオ]



- ホール・音楽スタジオは、有料で、一般の区民等にも条件付での貸出を行っている。一般利用者の予約受付開始は、中学生・高校生世代よりも遅く、一般利用できる時間帯に制限があるなど、一般利用者よりも中学生・高校生世代を優先している。
- こどもたちが利用するゲーム機やパソコンなども、区の備品として整備をしている。
- 広報活動としては、中学生・高校生向けのイベント案内を毎月、広報誌を年2回発行しているほか、区内の中学校・高校の教職員向けの広報紙も隔月で発行している。

② 開設に至るまでの経緯・現在までの取組

- 平成13年度（2001年度）当時、少年非行が社会問題化したことを背景に、文京区青少年問題協議会で「青少年の居場所検討部会」が開催され、こどもたちにおける居場所の重要性について、報告書が取りまとめられたほか、平成16年度（2004年度）には、同協議会で策定された青少年育成プランにおいて、居場所の設置が必要であることが示された。
- 設置に適切な場所がない等の理由により、直ちに設置が進められなかったが、平成19年度（2007年度）以降、教員研修や不登校児童・生徒の支援など教育相談を行っていた旧教育センターと高齢者や障がい者の支援を行っていた、旧福祉センターの老朽化の進行に伴う建て替え構想が契機となり、設置に向けた動きを見せることとなる。旧教育センターに、旧福祉センターの障がいのあるこどもに対応する部門を移管し、一体の施設として新設する計画としたところ、青少年プラザの設置ができる程度の床面積を、確保できる見通しが立ったことから、平成21年度（2009年度）には、青少年育成プランに示された居場所として、同施設に青少年プラザの併設が計画されるようになった。
- 平成22年度（2010年度）以降、青少年プラザの設置に向け、区立中学校や区内の高等学校の生徒へのアンケート、パブリックコメント、地域住民説明会の開催などを実施した。
- 平成25年度（2013年度）には、公募型プロポーザル方式により、現在まで運営を担っている運営事業者を選定。平成27年度（2015年度）の開館までの約1年間で、事業の運営に向けて、先進的な取り組みを行っていた杉並区で研修を受けたほか、施設愛称の「b-lab」の決定など中学生・高校生が参画する、現在の運営体制の基盤を確立した。
- 平成27年（2015年）4月の開館以降、中学生・高校生のための施設ということが広く認知され、利用者も増加傾向にある。
- 以前は、設備の利用料について、中学生・高校生世代の利用であっても有料であったが、中学生・高校生世代からの意見を受け、無料にしたという経緯がある。

イ 利用の状況

① 利用者像

- 文京区のこどもの特色としては、入学試験を必要とする国立・私立中学校が多いこともあり、進学への意欲が高い子どもたちが多いことが挙げられる。一方で、来館者の属性としては、昔から地域に住み、区立中学校に進学するこどもの来館もあるなど、来館する子どもたちの状況は多様である。
- 利用者の構成は、中学生と高校生が、それぞれ半数程度である。また、中学生の大半は、文京区内在住者であるが、高校生の大半は、文京区内の学校に通う通学者である。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前は、高校生の利用が7割であったが、利用制限により利用が途切れてしまったこと、身近な公共施設として近隣の中学生が積極的に利用するようになったことで、現状のような比率となったと推測している。
- 支援が必要なこどもの来館は多くはない。来館しても、他の利用者とともに過ごすことができている。会話をする中で、必要に応じて、文京区と連携して対応をしたり、隣接する教育センターと連携したりして対応を進めていくことが多い。
- 利用を始めるきっかけは、気になっていたもので、ふらっと立ち寄ってみたというケースは少ない。当初から特定の設備等を利用する目的があって来訪するパターンが多い印象である。

中学生の場合は、「卓球ができる」、「Wi-Fiのアクセスポイントがある」という断片的な情報で、友達に誘われて来ることが多い。高校生の場合は、「音楽スタジオでバンドの練習をしたい」、「ダンスの練習でホールを利用したい」などの特定の明確な目的があり、無料で使える施設であることもあって来ることが多い。

図表 3-2-8 b-lab 内の施設 [(左) プレイヤード・(右) 軽運動室]



- 休日は正午過ぎぐらいから来館者が来る。中学生の利用は午後8時までとなっているため、高校生だけが過ごせる午後9時までの時間帯は、高校生同士で会話を楽しむような姿が見られる。

- 利用の登録状況で見ると、毎年度 5,000 人ほどから始まり、年度末までに 1,000 人が新規登録して 6,000 人ほどとなり、高校 3 年生が利用できなくなる 3 月末で 1,000 人程度減るというような推移を見せている。
- 1 日当たりの利用者数は、平日は 40 人～60 人、休日は 100 人ほど、多い日は 150 人ほどである。

② 活動・取組の様子

- こどもたちに対しては、施設利用を契機に、「居場所」、「キッカケ」、「ステージ」という 3 つのコンセプトを踏まえた取組をしている。
- 「居場所」としては、こどもたちが、施設で出会ったスタッフや同世代の友人などと、かかわりをもつことができるよう、スタッフの声掛けなど、様々なサポートを行っている。
- 「キッカケ」を生み出す取組として、イベントの開催に力を入れている。週に 5 回～6 回、音楽や運動、料理、勉強、トークなど多種多様なイベントを実施している。イベントを開催することで、学校が異なるが同じ興味を持つこどもたちが会話するきっかけになり、新しいことを始めるきっかけになっている。

図表 3-2-9 イベント開催の告知掲示板



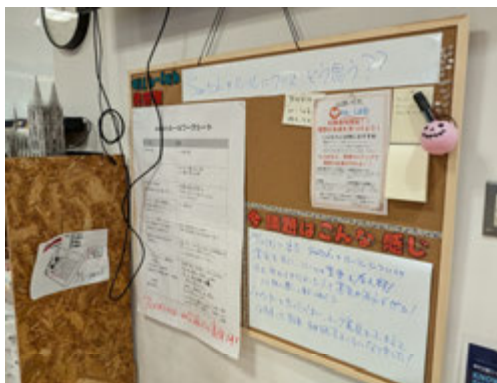
- イベントなどをとおして、新たに興味があるものに出会ったこどもたちは、イベントを運営してみたいと考えたり、サークル活動で、同じ関心を有しているこどもが集まって活動をしたり、施設の運営に関わっていこうとするようになる。そうした思いを実現する場を「ステージ」といい、施設の様々な活動に関わっていくようになる。
- イベントは、中学生・高校生のこどもたちも、自主的に立ち上げることができる（自主企画イベント）。企画書の提出をし、承認されたものは、1 開催につき 2,000 円の予算の中で開催をし、その振り返りを行う。企画書の提出段階からスタッフがこどもたちと伴走する形で支援をしている。
- スタッフは、こどもたちがやりたいと思った気持ちを察したら、すぐにイベントの実施に向けてサポートをするようにしている。

- 施設の運営に当たっては、中学生・高校生世代のこどもたちの複数人がユース館長になり、スタッフと一緒にルールを考えたり、備品の要望などを取りまとめたりする役割を担うようになる。
- ユース館長を中心に、サークル活動などの発表会を、年3回（春・夏・冬）実施している。

③ 運営スタッフのかかわり

- スタッフとこどもたちの間では、敬語を使うことはなく、あだ名で呼び合うような文化がある。
- 運営に当たっては、「ナナメの関係」を重要な考え方としている。保護者や学校の教員を縦（上）に、友達との関係を横に配したとき、ユースワーカーであるスタッフは、斜め上方向に関係が位置づいているとするものである。
- ユースワーカーは、友達のような親近感はあるつつも、年上の先輩としての距離感を保って、親や先生との縦の関係と友達との横の関係の間を行くような「ナナメの関係」から、かかわりを持つような関係として位置付けている。
- ユースワーカーは、友達のような親近感はあるつつも、年上の先輩としての距離感を保って、「ナナメ」から、かかわりを持つような関係として位置付けている。
- こどもたちの居場所となるよう、スタッフとのつながりや、他の利用者とのつながりを生み出すため、声の掛け方や空気感の作り方を工夫している。スタッフからは、こどもたちに対して、この施設を単に使うだけでなく、スタッフと一緒に施設づくりに関わってほしいこと、この施設は、利用するこどもたちの一人一人の考えや思いが反映される場所であるということを伝えるようにしている。

図表 3-2-10 備品（Nintendo Switch）の利用ルール改正についての意見を求める掲示



- 進学校のこどもたちは、自習スペースを求めてやってくることが多く、受付後、すぐに自習室に向かうため、そのわずかな時間でできる限りコミュニケーションをとるように工夫している。
- こどもたちが、自由に過ごせるようボードゲームやゲーム機なども導入している。ゲームソフトは、複数のこどもたちが遊べる内容のものを選定している。これらの備品類の

導入に当たっては、こどもたちの意見を、できるだけ取り入れられるよう、掲示を使って意見を求めるなどの対応をしている。

- こどもたちとのかかわりの中で、ボランティアの役割は大きく、常勤職員が館の運営など事務に対応するなかで、ボランティアは、その間にも、こどもたちとのかかわりを持ち続ける役割を担っている。社会人がおよそ3分の1である。また、中学生・高校生時代に利用していたこどもたちが、大学進学などを契機に、インターンやボランティアなどの形で事業運営に関わることもある。
- ボランティアは、半年での入れ替えを原則としている。これは、様々な大人とナナメの関係が築けるようにするという配慮によるものである。

ウ 運営の課題・方向性

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた利用者数の減少等により、こどもたちに対する施設理念の継承が難しい状況もあり、こどもたちと一緒に作っていく場所ではなく、こどもが単に使う場所という認識が、こどもたちの間で強まった時期があった。
- 夏休み期間等は、音楽スタジオの利用予約が取りづらい状況である。また、談話スペースにも限りがあることから、併設されている施設の利用も検討したが、諸条件が整わず、利用できない状況である。

図表 3-2-11 中高生談話スペース



- 施設が区の東端にあることもあり、アクセスが難しいこどもたちも多い。現在、区の西部にあった区施設の跡地に、新たな青少年プラザの建設が決定され、現在、中学生・高校生のほか、将来、青少年プラザを利用する小学生の意見を取り入れた施設づくりの検討が進められている。

図表 3-2-12 新施設についての意見聴取の様子



(5) 川崎市ふれあい館・桜本こども文化センター（神奈川県川崎市）

事業開始年	昭和 63 年（1988 年）				
過去 5 年度の 延べ利用者数(人)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	令和 3 年度 (2021 年度)	令和 4 年度 (2022 年度)	令和 5 年度 (2023 年度)
	62,643	27,385	30,652	35,715	43,349
事業費・予算	令和 5 年度指定管理料 約 1 億 3,536 万円 ・補助金等 なし				
事業実施形態	指定管理（指定管理者 社会福祉法人青丘社）				
人員体制	15 人（平成 30 年度（2018 年度））				
開館時間	午前 9 時 30 分～午後 9 時（日・祝は ～午後 6 時）※年末年始等除く				
利用料金	無料				
施設設備	ホール・文化交流室・遊戯室・会議室・資料室・キッズスペース・フリースペース				

ア 施設の概要

① 施設の運営体制

- 川崎市では、中学校区の範囲を基本に、児童館（こども文化センター）を設置しており、桜本こども文化センターも桜本地区の児童館として運営されている。
- 併設されている「ふれあい館」は、社会教育施設としての位置づけであり、桜本地区の歴史的経緯から、在日韓国・朝鮮人をはじめとする在日外国人と日本人とが、年齢に関係なく交流し、共に生きる地域づくりを企図して設置された施設である。
- 運営は、社会福祉法人青丘社である。こども向けの講座として韓国の舞踊を学ぶ教室などがあるほか、大人向けの講座として、外国人向けの日本語学習講座などを実施している。これまでの地域での取組の経緯もあり、川崎市の様々な事業を実施する拠点としてもふれあい館は機能している。
- こどもの居場所づくりでは、小学生・中学生・高校生とそれぞれの年代にあった居場所づくりを進め、そのなかで、例えば、高校生が小学生・中学生の学習支援のアルバイトを行うような取組も推進している。

② 開設に至るまでの経緯・現在までの取組

- 桜本地区が位置する川崎市川崎区は、臨海部に大規模な工場群を有する工業地帯であることから、その住民の多くは工場に関係する労働者である。労働需要の高まりを受け、戦前には沖縄県出身者が、戦後は朝鮮半島出身者、高度経済成長期には東北地方出身者、1990 年代以降はフィリピンなど様々な国・地域からの移住者が集まる地域である。

- 社会福祉法人青丘社は、在日韓国・朝鮮人のためのキリスト教団体「在日大韓基督教会」を母体としており、保育園や学童保育など、在日韓国・朝鮮人をはじめとする地域住民の福祉の向上のための取組を、桜本地区で行ってきた団体である。
- 1980年代に外国につながる子どもたちに向け、川崎市が「在日外国人教育基本方針」を制定した。その理念を踏まえ、川崎市と在日韓国・朝鮮人との歴史的なかかわりをたどることができる資料館と、桜本地区になかった児童館の機能を併せ持つ施設として、ふれあい館の整備が進められることとなった。

図表 3-2-13 在日韓国・朝鮮人との歴史的なかかわりが分かる蔵書



イ 利用の状況

① 利用者像

- 地域に住む子どもたちの約3割は、外国にルーツがある印象がある。
- 利用者の大半は小学生である。夜間の時間帯に、中学生・高校生向けの事業を実施していることもあり、それに合わせて中学生・高校生が来館することが多い。子どもたちの来館のきっかけは、口コミが大半である。
- 中学生・高校生の利用者は、小学生のときに利用した経験がある子どもが大半を占めるが、中学生向けの事業や、高校での取組により、中学生・高校生になってから新規に来館する子どもも多い。
- 学習支援等、福祉的な支援を受ける子どもたちは、近隣の福祉事務所、スクールソーシャルワーカーやカウンセラー、児童相談所から紹介される事例が大半である。

② 活動・取組の様子

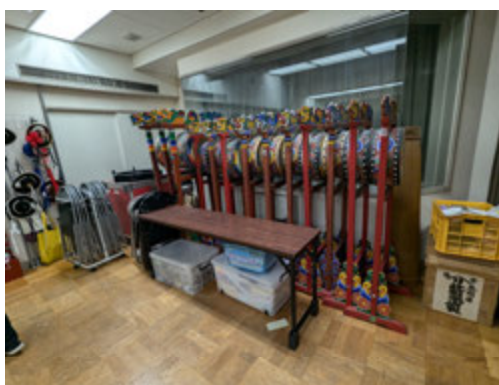
- ふれあい館では、様々な年代の、様々なルーツの子どもたちが、混ざり合って過ごしている。中学生がホールでボール遊びをしていると、小学生の子どもたちが利用できなくなって困ってしまっているような状況もあるが、小学生のけんかの仲裁に、中学生や高校生が入り、仲良くなれるよう手伝う姿も見られる。

図表 3-2-14 ふれあい館の設備 [(左) ホール (右) 自習・学習支援等を行う会議室]



- 発達のスピードの差によって、同学年のこどもとは関係を築きづらいこどもも、いろいろな年代のこどもと関わる機会があることで、安心して過ごせるような状況も見受けられる。
- こどもたちは、国籍やルーツ別にグループをつくるようなことはせず、こどもたちの間での仲の良さに応じてグループをつくっている。ふれあい館の近隣には公園があるが、遊ぶ場所を、公園とふれあい館とで使い分けているようであることを踏まえると、こどもの居場所として、複数の場所の選択肢がある状況が望ましいように見受けられる。
- 在日韓国・朝鮮人に対する差別が激しい状況が過去にはあったが、学校での出前授業や、ふれあい館での活動をとおして、こどもたちが文化を理解することで、親など大人たちも変化し、理解が深まっていったと考えている。
- 桜本地区では、地域住民との共生が進み、地域にある商店街の秋祭りで、日本人のこどもたちを中心に、朝鮮半島の衣装を着てパレードを行っている。また、移住者の多国籍化を受け、フィリピンにルーツがある人が韓国由来の太鼓を演奏したり、ブラジルにルーツがある人が韓国の民族衣装を着たりするなど、多様な文化を認め合う環境が醸成されている。

図表 3-2-15 ふれあい館の設備 [文化交流室内にある韓国由来の太鼓]



- 不登校や引きこもりのこどもたちが、ふれあい館で学習支援を受けることで、高校生になったときに、学習支援をする側として、小学生・中学生のこどもとかかわるようになるなど、ふれあい館での経験をとおして、変化していく姿も見られる。

③ 運営スタッフのかかわり

- 現在、市立の定時制高校に、スタッフが出向き、学校内のフリースペースを利用して飲み物などを提供する、高校生の居場所づくり（高校内居場所カフェ）に取り組んでいる。
この事業では、教育と福祉との連携に力を入れており、生活保護世帯の生徒から同意を得た上で、家庭や学校・福祉事務所と連携して、生徒の個別支援の会議を持つような取組や、保健師や助産師・心理職との相談ができる相談カフェの実施、さらには、要保護児童対策地域協議会の枠組みとは異なるが、教員が生徒の情報を匿名化し、その情報を基に、学校、区の社会福祉担当で生徒支援をするような取組をしている。

ウ 運営の課題・方向性

- 高校生年代、ハイティーンのこどもの居場所づくりを、一つの施設だけで行うには難しさがある。高校生世代への具体的な取り組みが少ない状況であることから、広がりを見せていくとよいと考えている。
- 施設だけがあっても、ハイティーンのこどもが急に来ることは考えづらい。様々な取組をすることで人が集まる印象がある。どのような形であれば来てもらえるか、考えていかなければならないと感じている。
- 様々な境遇のこどもたちを受け入れる居場所をつくっても、全員が同じように受け入れられるかという点で難しい。例えば、外国にルーツを持つこどもでも、日本で生まれ育ち、第一言語が日本語のこどももいれば、来日したばかりで、日本語の理解が難しいこどももいる。学校では、同じ立場や境遇の人と関わることは難しくても、ふれあい館での日本語教室などをおとしてかかわりが持てると、安心して過ごせるようになっている。同じ施設でも、ニーズに分けて対応することが必要ではないかと考えている。

(6) 川崎市子ども夢パーク（神奈川県川崎市）

開設年	平成 15 年（2003 年）				
過去 5 年度の 延べ利用者数(人)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	令和 3 年度 (2021 年度)	令和 4 年度 (2022 年度)	令和 5 年度 (2023 年度)
	88,963	53,717	60,674	68,309	72,052
事業費・予算	令和 5 年度指定管理料 約 8,055 万円 ・補助金等 なし				
事業実施形態	指定管理（委託先 川崎市子ども夢パーク共同運営事業体） ※公募によるプロポーザルを実施し、受託者を決定。				
人員体制	・子ども夢パーク 11 名（うち 2 名はアルバイト） ・フリースペースえん 17 名（うち 10 名は非常勤）				
開設時間	午前 9 時～午後 9 時 ※毎月第 3 火曜日、臨時施設点検日、年末年始等除く				
利用料金	無料				
施設設備	プレーパーク・スタジオ・乳幼児用室・フリースペース・屋根付きスポーツ エリア・交流スペース・創作スペース（半屋外）・屋上広場・ログハウス等				

ア 施設の概要

① 施設の運営体制

- 市内の工場跡地に、「子どもの権利に関する条例」の理念の具現化を図る施設として、平成 15 年（2003 年）に開設されたプレーパークである。

図表 3-2-16 子ども夢パーク内の広場



- 施設は、「遊ぶ」、「学ぶ」、「ケア」をこどもの育ちの 3 要素として、その理念に合わせて各種設備が整備されている。施設内には、不登校児童・生徒のためのフリースペース（フリースクール）を設けている。また、青少年の非行が 2000 年代に相次いだ社会背景もあり、中学生・高校生向けの設備として、全天候型の運動設備や音楽スタジオなども取り入れられている。

図表 3-2-17 中学生・高校生向けの設備として設置された施設
〔左〕全天候広場“たいよう”（右）スタジオ〕



- 施設の運営は「川崎市子ども夢パーク共同運営事業体」で、公益財団法人川崎市生涯学習財団と特定非営利活動法人フリースペースたまりばの2者による共同運営事業体で運営されている。生涯学習財団からのスタッフは3名であり、その他はフリースペースたまりばのスタッフで構成されている。
- 併設のフリースペースでは、会費は無料で、障がいの種類や非行の背景などに関わらず、様々な子どもたちを受け入れている。中学校卒業後、高校に進学した子どもなども利用することができる。
- フリースペースについては、広報活動として相談会や説明会を開催している。

② 開設に至るまでの経緯・現在までの取組

- 川崎市では、平成10年（1998年）から「子どもの権利に関する条例」の策定に向けて、子どもたちとともに200回以上の会議と集会を経て、条例案を策定した。平成12年（2000年）に市議会で条例案が可決し、平成13年（2001年）に施行された。
- 「子どもの権利に関する条例」では、「子どもの居場所」について定めた条文が設けられた。同条例では、「ありのままの自分であること」、「休息して自分を取り戻すこと」、「自由に遊び、若しくは活動すること又は安心して人間関係をつくり合うことができる場所」を「居場所」と定義し、市の努力義務に、「居場所の確保及びその存続」が定められた。

図表 3-2-18 子ども夢パーク内にある「子どもの権利に関する条例」の掲示



- 同条例の理念を具現化することを目指し、「子ども夢パーク」の設置に向けて、平成 13 年（2001 年）から、こども主体のワークショップを開催し、施設の整備方針を検討したほか、平成 14 年（2002 年）には、公募により参加したこどもも含めた運営準備会を開催し、運営体制についての検討を進めていった。
- 「子ども夢パーク」の設置が検討されるのと同時期に、不登校児童・生徒のための居場所を確保できないかという市での議論もあったことから、同様に不登校児童・生徒、その保護者からの意見を聴取し、学校教育以外での学習権の保障という観点から、「子ども夢パーク」内に学校復帰を前提としない、不登校児童・生徒のフリースペースを併設する方針で進められていった。
- 「子ども夢パーク」の利用者数としては、令和 6 年（2024 年）4 月に開設以来の総利用者数が、150 万人を超える実績となっている。

イ 利用の状況

① 利用者像

- 中学生・高校生よりも、小学生と乳幼児親子の利用者が多い。中学生・高校生向けの設備は用意されているものの、多くは、部活動に参加するために通いづらいことや、音楽スタジオが市内各所に設置されるなど、設置時よりも、中学生・高校生向けの居場所が多様になったことが要因と推測している。
- プレーパークを利用するこどもたちの多くは、平日は、自転車で、休日は、市外からの人も電車で来ることが多い。火曜日の夕方は、利用者が最も少ない時間帯である。
- 夜の時間帯は、小学生は、午後 6 時までに家に帰ることが学校の決まりであることから、中学生・高校生の利用が多くなる。バスケットボールを楽しんだり、エントランスで友達との会話を楽しんだりする姿がよく見られる。

② 活動・取組の様子

- 平日の日中は不登校児童・生徒を対象としたフリースペースの利用者が中心で、放課後の時間帯からは、一般のプレーパーク利用者が、フリースペースの利用者と一緒になりながら、プレーパークでの時間を過ごす。
- こどもたちは、好きなだけ穴を掘ったり、工具を使って木を切ったり、火や水を使ったりするなど、様々な遊びを自由に楽しんでいる。また、こどもたちは、雨天でも外に出て、服に泥をつけながらも遊んでいる。

図表 3-2-19 火を自由に利用することができるエリア（たき火エリア）



- 開設当初は、なにをして遊んでもよいということで、近隣から苦情を受けるようなこどもたちの行動も見受けられたが、現在は、そのような行動をするこどもはいなくなってきた。また、施設設置時から地域と細やかな意見交換会を行うほか、運営に関する会議（つくりつづける会）にも地域住民が加わることで、施設への理解を深めてもらうようにしている。
- フリースペースが、プレーパークに併設されていることで、学校での生活が難しいこどもも、こどもらしい、自由な動きができ、そのこどもが持つ力を発見しやすくなる。また、学校に通っているこどもたちと夕方の時間に混ざり合うことで、こどもたちが、外に出やすくなり、社会へとつながるきっかけとなっている。
- フリースペースを利用した児童・生徒の大半は、プレーパークで様々なこどもたちと関わり合う中で「こんな私でもだいじょうぶ」という経験を重ねることで、高校進学することを強く勧めてはいないにもかかわらず、大半が高校に進学するようになる。

③ 運営スタッフのかかわり

- 保護者など大人に対して「大人の良かれは、子どもの迷惑！」を合言葉に、何もしないことの保障、いたいようにいられる場としている。園内の「こどもゆめ横丁」のイベント会場では、「大人は立ち入り禁止」、「大人は手と口を出さずに、そっと見守って」などの立て看板等が随所に掲示されており、こどもたちだけの聖域として守られている。

図表 3-2-20 大人はこどもたちの活動を見守るよう求める掲示



- 最近のこどもたちは、けがや失敗を恐れて、挑戦しようとしにくい様子も見受けられる。プレーパークは、失敗の体験をとおして、できないことを受け入れる力を身に着けることを目指すべく「安心して失敗できる環境」としている。
- プレーパークでは、危険をリスクとハザードという2つに分類し、管理している。リスクは、道具の使用方法を誤ったことによるけがなど、こどもでも予見可能な危険を指し、事前・事後の指導はするが、あらかじめ取り除くことはしないようにしている。ハザードは、遊具等の不具合など、こどもでは予見が困難な危険を指し、これについては、毎日朝・夕の2回点検をすることで取り除くほか、こどもたちがつくった工作物のように、大人が手を出して対処することが望ましくないものは、「ここに釘が出ているから、気をつけてね」など、危険があることをテープに書いて、工作物に貼ることで、こどもたちに注意喚起するようにしている。
- けが自体は、一定数発生しているが、これまでに訴訟となるような事案は、発生していない。

ウ 運営の課題・方向性

- 今のこどもたちは、まき割りをしたり、マッチと新聞から火をつけたりするような経験をしていないことが多い。このことは、例えば、災害時における炊き出しなどに、こどもたちが関わるができないことにつながると考えている。
- 単に遊具だけがあるような公園ではなく、市が主体となってプレーパークを運営することで、水や火が自由に使え、こどもの変化に気付けるスタッフが配置されていることで、こどもが発するSOSのサインを受け止め、各種機関と連携することができるようになる。多様なこどもたちの学びと育ちを応援する一つ的手段として、有用であると考えている。
- フリースペースに通うこどもたちの状況を見ていると、こどもたちが学校に適応できていないのではなく、学校教育が、こどもたちに適応できていないという状況が見受けられる。社会や環境から、一人一人の背景やニーズに合わせた、多様な学びと育ちを保障する環境づくりが重要であると考えている。
- プレーパークの設置を求める運動は、全国各地で広がっているが、設置に向けた動きにまでは波及をしていない。その理由としては、行政がこどもの遊び場を整備するというだけでは、予算を確保できないことにあると考えている。子ども夢パークも、フリースペースとプレーパークを併せ持った施設にすることで、フリースペースと合わせて予算の確保ができていく状況である。
- スタッフ間の情報共有と研修の機会は重要であるが、施設開館時間が、既に条例で定められていることもあるため、開館時間を月に2回短縮して、研修の時間を確保している。現状の人員体制では、やや少ない印象があることから、充実させていきたいと考えている。

3 その他の先進事例について

(1) 中高生・若者の居場所づくり

ア 中高生の居場所づくり事業補助金・設立支援（福岡県福岡市）

あらまし	地域で中高生・若者の居場所づくりを行う団体に助成するとともに、居場所の開設を支援
内 容	・開設経費補助金（上限 10 万円）、事業経費補助金（開設頻度等に応じて最大 30 万円） ・「若者の居場所づくりハンドブック」の提供、「中高生の居場所づくり相談窓口」の設置など、施設運営者に向けたサポート体制を拡充

図表 3-3-1 「若者の居場所づくりハンドブック」

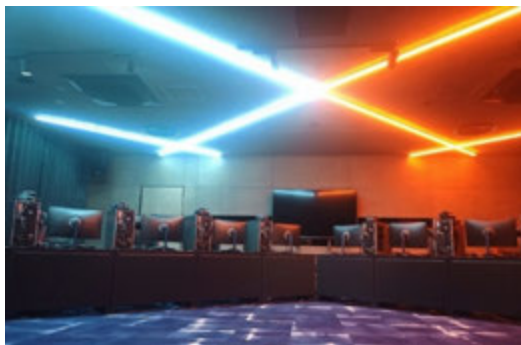


出所：福岡市 ホームページ

イ 徳島県青少年センター（徳島県）

あらまし	青少年センターを、徳島駅前に移転し、新たな若者向け機能を盛り込むことで、若者のニーズに沿った居場所として再生
内 容	・若者の往来が多い駅前ビルの百貨店撤退後の空きスペースに移転 ・「e スポーツ」などができるデジタルスタジオを、都道府県立で初設置 ・フィットネス室やダンス室などのスポーツ施設のほか、無料で利用可能な自習室・シェアリビングも設置

図表 3-3-2 「e スポーツ」ができるデジタルスタジオ



出所：徳島県ホームページ

(2) 身近な場所の居場所、移動式の居場所など、アクセス性に優れた居場所づくり

ア どこでもこどもカフェ（千葉県千葉市）

あらまし	地域の身近な施設で、指定の講習を受けた「信頼できる大人」とともに、こどもたちが自由に過ごせる空間の提供
内 容	・市民ボランティア団体等が主催するこどもの居場所「どこでもこどもカフェ」を市内 30 か所で開催 ・こどもたちが自由に過ごす場の提供を主としており、飲食物の提供を必須要件に設定していない

図表 3-3-3 各地のカフェ開催時の様子



出所：千葉市 ホームページ

イ YOUTH STAND（京都府京都市）

あらまし	ユースセンターが存在しない地域などをカバーするため、キッチンカーを活用した移動型のユースセンターを展開
内 容	・飲食事業者と連携し、軽食を販売するとともに、ユースセンターを使う若者も運営に参加 ・令和 5 年（2023 年）9 月～令和 6 年（2024 年）3 月に、計 13 回開催し、延べ 2,967 人が参加

図表 3-3-4 キッチンカー「YOUTH STAND」



出所：（公財）京都市ユースサービス協会 ホームページ

(3) 既存施設を活用した居場所づくり

ア Kawasaki 教室シェアリング（神奈川県川崎市）

あらまし	校庭、体育館及び特別教室等の学校施設を市民に開放する「学校施設有効活用事業」において、利用頻度が低い特別教室等を、さらに、地域住民に有効活用してもらうためのプロジェクト
内 容	・地域住民を中心とした学校施設開放運営委員会が、開放施設の運営を担う ・多様な主体や地域のボランティア等と連携・協働しながら、学校施設を利用した講座やワークショップ、イベント等の様々な取組を実施

図表 3-3-5 小学生向け体験講座の様子



出所：「かわさき市政だより」2023年11月号

イ 向島ユースセンター（京都府京都市）

あらまし	市営住宅の空き住戸を活かした若者の居場所づくり
内 容	・(公財)京都市ユースサービス協会と連携し、若者の自主活動の支援や相談機能等を有した若者の居場所として、市営住宅の空き住戸に「向島ユースセンター」を開設 ・活動概要は、「若者が安心安全で自由に過ごすことのできる場の運営」、「若者食堂の運営」、「若者の自主活動支援」、「各種相談窓口機能」、「地域イベントへの参加など、若者の社会参加・参画事業」、「子ども食堂との協働など、地域連携事業」など

図表 3-3-6 向島ユースセンターの館内案内図



出所：(公財)京都市ユースサービス協会 ホームページ

(4)「こどもの意見」を運営に取り入れた居場所づくり

ア 「子ども委員会」による児童館の運営（東京都町田市）

あらまし	各児童館(子どもセンター)に、こどものみで構成される「子ども委員会」を設置し、児童館の運営にこどもが参画
内 容	・小3～18歳までのこどもが、月2回の「子ども委員会」を開催 ・「子ども委員会」の代表者であるこどもが、地域住民等の大人も参加する「子どもセンター運営委員会」に委員として参加し、センターの運営や利用ルール等に関する意見交換を実施

図表 3-3-7 「子ども委員会」の様子



出所：まちだ子育てサイト

イ 高校生世代の居場所づくり事業（東京都港区）

あらまし	高校生世代に対する家庭・学校以外の第三の居場所新設に向けた検討
内 容	・令和5年（2023年）3月に「港区高校生世代実態調査」、同年12月に高校生世代との意見交換会を実施 ・これらの結果を踏まえ、児童館や子ども中高生プラザの高校生世代の活用促進と、新たな居場所の整備に向けた検討を進める

図表 3-3-8 高校生世代との意見交換会の様子



出所：港区 ホームページ

(5) 「こども食堂」の設置や運営支援に関する取組

ア 子どもの笑顔 はぐくみプロジェクト（滋賀県）

あらまし	社会福祉協議会と県が連携し、「遊べる・学べる淡海子ども食堂」として、県内約 300 の全小学校区において、1 つ以上のこども食堂の開設を目指す
内 容	・ 開設までの流れや留意点をまとめたパンフレットの作成等による活動ノウハウの共有や活動助成を社会福祉協議会が行うなど、民間主体で展開 ・ 現在、県内 224 か所に設置済（令和 6 年（2024 年）12 月 31 日現在）

図表 3-3-9 遊べる・学べる淡海子ども食堂ガイドブック



出所：滋賀県社会福祉協議会 ホームページ

イ 郵便局と連携した「こども食堂」への支援（鳥取県鳥取市）

あらまし	地域食堂（こども食堂）への支援のため、食品の寄付を受け付けるためのフードボックスを郵便局内に設置
内 容	・ 市・周辺地域の多くの郵便局（開始時 55 局）で食品の寄付を受付 ・ 令和 6 年度（2024 年度）から、寄付された食品の保管・配送時における課題解決に向けた協議体を設置

図表 3-3-10 郵便局内に設置されたフードボックス



出所：鳥取市 ホームページ

(6) 夏休み等の長期休暇中の居場所づくり

ア 休日子どもサポート事業（愛媛県・愛媛県松山市）

あらまし	夏休み等の長期休暇や農繁期に、家庭で保護者が不在となるこどもの居場所づくりとして、「休日子どもカレッジ」と「休日子どもクラブ」を実施
内 容	・【休日子どもカレッジ】大学と連携し、大学ならではの多様な学びや遊び、企業見学などの社会教育プログラムを提供 ・【休日子どもクラブ】地域や地元企業と連携し、こどもの居場所づくりや、企業見学などの社会教育プログラムを提供

図表 3-3-11 休日子どもカレッジ



出所：まちのがっこう ホームページ

イ かいごTERAKOYA事業（静岡県浜松市）

あらまし	市内7か所の介護施設において、夏休み期間中に、介護職員のこどもや近隣の小学生を預かるサービスを提供
内 容	・預かるこどもの募集は各受入れ介護施設が、大学生・高校生等学生ボランティアの募集や謝礼の支払い等は、市委託事業者が実施 ・ボランティア参加者の約9割が、介護職への関心を高めるという効果も

図表 3-3-12 かいごTERAKOYAレポート



出所：浜松市 ホームページ

(7) 仮想空間・オンライン等の新しいスタイルの居場所づくり

ア おいでよ きもちかたりあう広場（福岡県）

あらまし	孤独感や生きづらさを抱える若者向けのメタバース空間を利用した居場所
内 容	・不登校やひきこもり対策に限定せず、孤独感や生きづらさを抱える若者を対象とするメタバースを活用した全国初の取組 ・参加者は、アバターを操作し、他の参加者らとチャットで話す。相談員と精神保健福祉士もアバターで参加し、参加者らのやりとりを見守る

図表 3-3-13 おいでよ きもちかたりあう広場



出所：福岡県 ホームページ

イ 複数の自治体と連携したオンラインの居場所（全国の複数の自治体）

あらまし	全国各地の自治体と NPO 法人が連携し、オンライン上で、困難を抱えた子どもたちがつながる仕組み
内 容	・小学生から高校生の、経済困窮、ヤングケアラー、不登校、発達障害、外国ルーツ等の困難を抱えた子どもが対象 ・「地域」の居場所だけではつながることができない子どもたちを、「オンライン」でつなぎ、そこから再び「地域」につないでいく

図表 3-3-14 オンラインでの親子説明会の様子



出所：認定 NPO 法人カタリバ ホームページ

第4章 調査結果のまとめと今後の方向性

第4章 調査結果のまとめと今後の方向性

1 調査結果のまとめ（こども及び保護者）

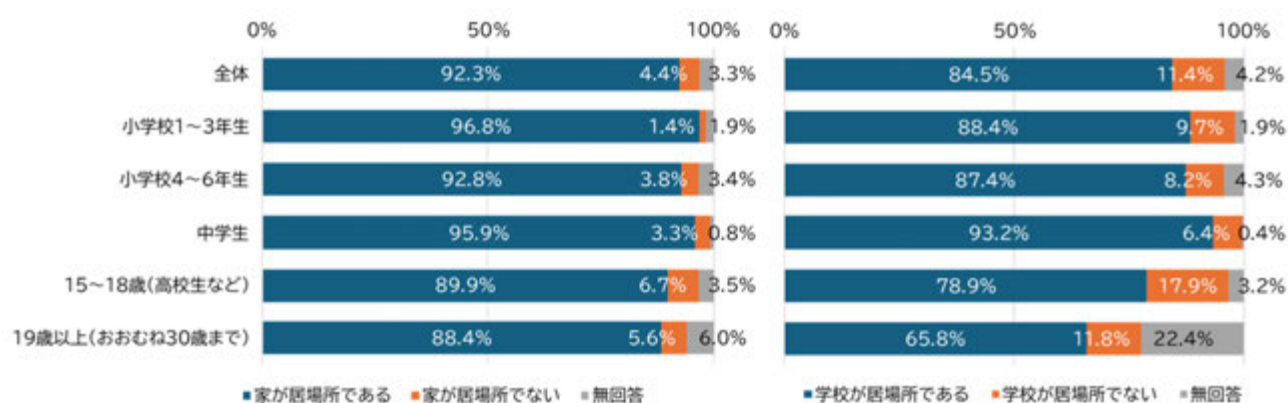
（1）こどもの居場所の現状

ア 家や学校を居場所と感じていないこどもが一定数いる

こどもへのアンケート調査で、4.4%のこどもが「家が居場所でない」と感じていることが分かった（図表 4-1-1 左側）。また、「学校が居場所でない」と感じているこどもは、11.4%に達し、家よりも学校を居場所でないと感じるこどもの割合が高いことが分かった（図表 4-1-1 右側）。

年代別でみると、家や学校が「居場所でない」と回答した割合は、中学生以下と15～18歳とでおよそ倍の開きがあり、特に15～18歳の高校生世代に、家や学校を居場所と感じていない層が多いことが確認できた。

図表 4-1-1 こどもへのアンケート調査「家・学校は居場所か」

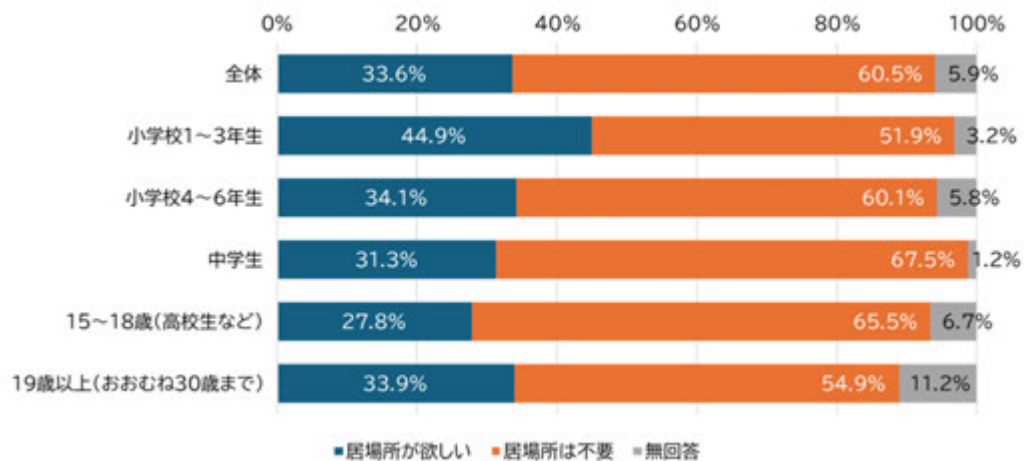


イ 家・学校・職場以外の第三の居場所を求めるニーズは全世代で一定数存在する

家・学校・職場が居場所となっている場合でも、約3分の1のこどもが家・学校・職場以外の「居場所が欲しい」と回答していることから、第三の居場所を提供する必要性が浮き彫りになっている（図表 4-1-2）。

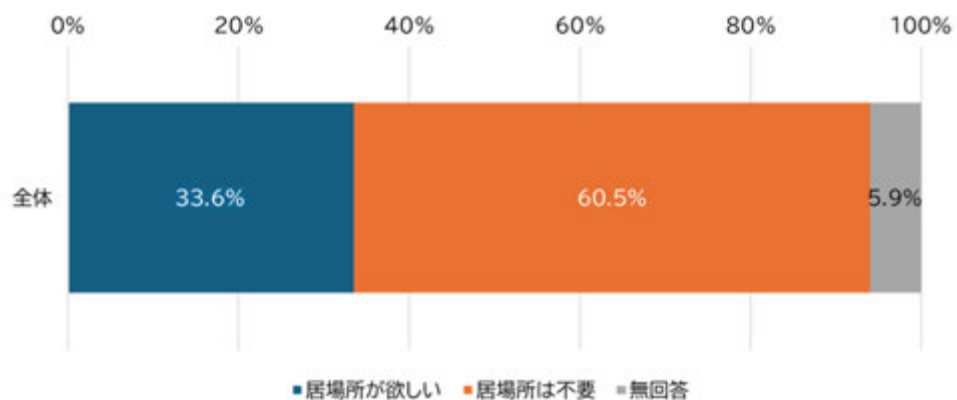
年齢別でみると、家・学校・職場以外の「居場所が欲しい」と回答した割合は、「小学校1～3年生」が44.9%と最も高く、「15～18歳」までは減少し、「19歳以上」で増加に転じる傾向が見られた。第三の居場所に対するニーズは、自由に使える余暇時間の多寡によって変わるため、年代間で若干の差はあるものの、全年代において、一定以上のニーズが存在することが確認できた。

図表 4-1-2 こどもへのアンケート調査「家・学校・職場以外の居場所がほしいか」

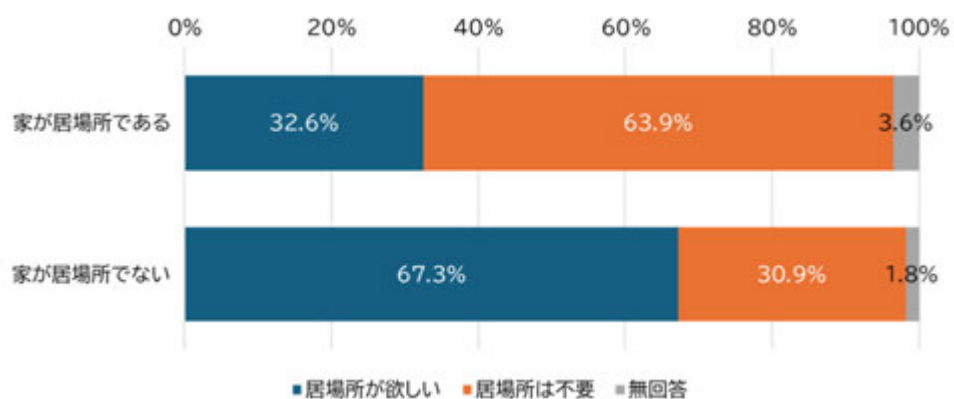


また、家や学校が居場所でないと感じているこどもほど、第三の居場所を強く求めている事実も明らかになった。

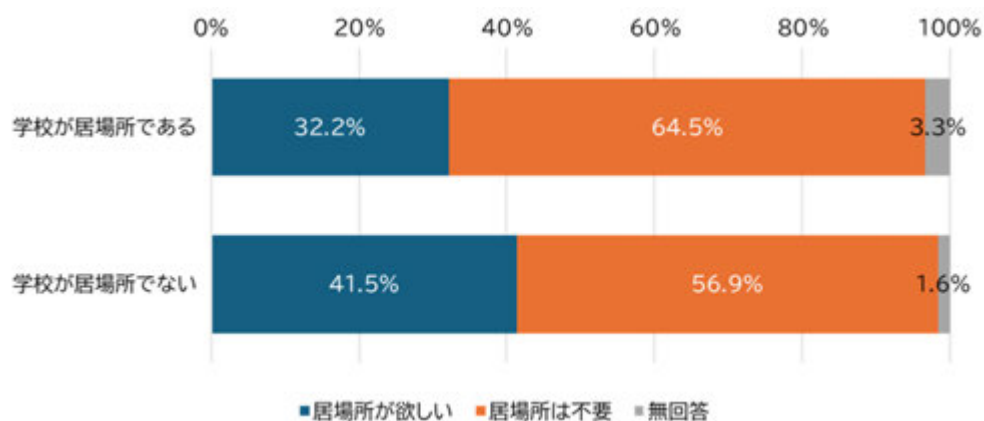
図表 4-1-3 こどもへのアンケート調査「家・学校・職場以外の居場所がほしいか」



図表 4-1-4 家が居場所でないと感じ、居場所がほしいと回答した人数

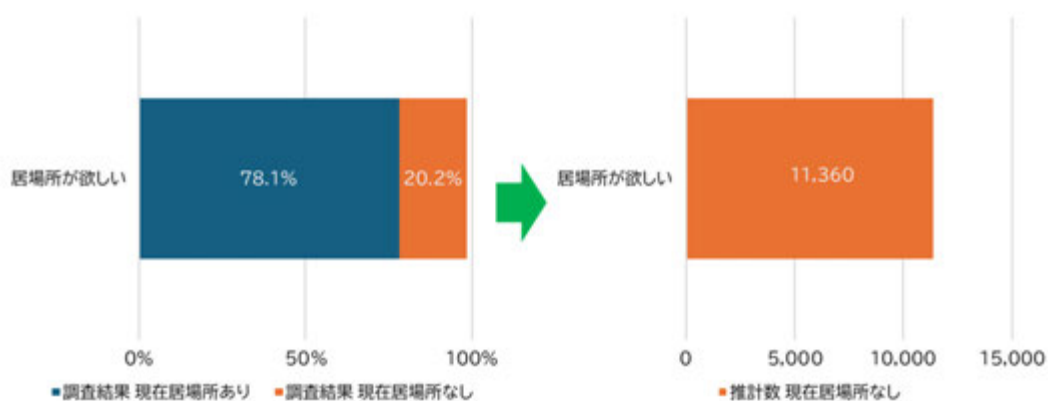


図表 4-1-5 学校が居場所でないとはなし、居場所がほしいと回答した人数



なお、第三の居場所を求めているにもかかわらず、居場所がないこどもが2割程度いた（図表 4-1-6）。このこどもの人数を、熊本市人口統計表（令和6年（2024年）11月1日現在）を基に推計したところ、11,360人となった。

図表 4-1-6 「居場所を求めているこどもの居場所の有無」と「居場所がないこどもの推計人数」



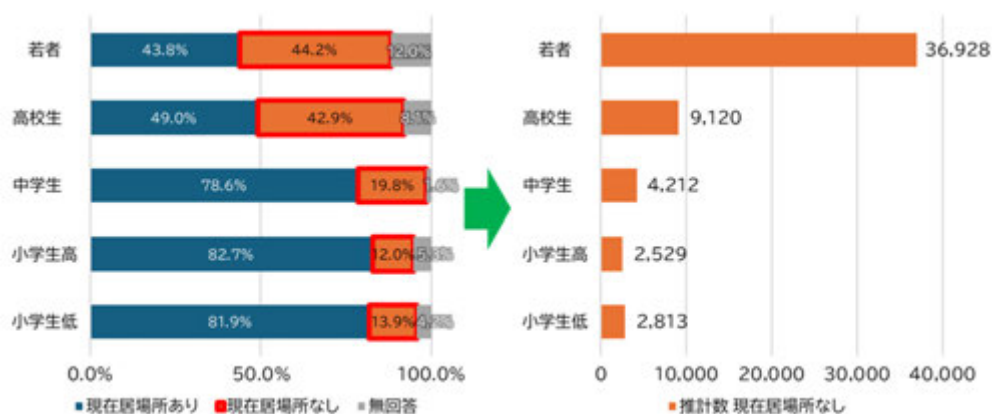
ウ 15 歳以上のこどもに特化した居場所が不足している可能性

第三の居場所がない割合は、中学生以下と 15 歳以上とで二極化し、15 歳以上のこどもの約 4 割に居場所がないことが分かった（図表 4－1－7 左側）。「家・学校・職場以外の居場所の必要性を感じていない」ことや、「居場所の情報がない」ことなどが、居場所がない理由として挙げられているが、「居場所の情報がない」ことの背景には、15 歳以上に居場所を提供することを目的とした施設やサービスが少ないことが可能性として考えられる。

施設等運営者に実施した書面ヒアリング調査結果でも、15 歳以上が利用できる施設が、中学生以下と比べ、少ない傾向が見られた（図表 4－1－8）。この施設等運営者向けの書面ヒアリング調査は、児童育成クラブ、小中学生向け学習塾、児童館・児童室、プレイパーク、放課後学習教室などの、15 歳以上が利用できない（あまり利用しない）施設が回答数の約半数を占めているため、この集計結果をもってただちに「15 歳以上の居場所が不足している」と結論づけることはできないが、15 歳以上に特化した居場所が少ない可能性は念頭に置いておく必要がある。

また、熊本市人口統計表を基に、人数を推計したところ、36,928 人の若者が、第三の居場所を持つことができていないと考えられ、最も少ない小学生高学年の約 14 倍の人数となった（図表 4－1－7 右側）。

図表 4－1－7 「居場所の有無」と「居場所がないこどもの推計人数」



図表 4－1－8 施設等運営者への書面ヒアリング調査 提供サービスの対象年代

提供サービス	該当総数	小1～3	小4～6	中学生	15～18歳	19歳以上
年代別総件数	518	62.0%	61.4%	43.4%	37.1%	25.1%
活動場所の提供	167	87.4%	82.6%	39.5%	32.9%	25.1%
教育・学びの提供	266	79.3%	80.8%	67.3%	56.4%	35.3%
運動・スポーツの提供	93	77.4%	75.3%	51.6%	43.0%	36.6%
遊びの提供	173	87.9%	82.1%	28.3%	23.1%	17.9%
交流の機会の提供	113	84.1%	82.3%	58.4%	46.0%	32.7%
飲食物の提供	107	90.7%	84.1%	38.3%	31.8%	18.7%
相談	66	75.8%	78.8%	62.1%	43.9%	25.8%
イベント等の開催	80	90.0%	91.3%	75.0%	66.3%	51.3%
フリーWi-Fi環境の提供	49	87.8%	89.8%	81.6%	71.4%	59.2%
その他	15	93.3%	93.3%	86.7%	73.3%	46.7%

※ ■ピンク：50%以上／■水色：50%未満

エ 居場所がない理由

第三の居場所がない理由として、「家・学校・職場以外に必要と感じない」、居場所の「情報がない、存在を知らない」、「お金がかかる」、「やるが多すぎて時間がない」、「住んでいる地域にないため、遠くて自分で行けない・行くのに時間がかかる」、「利用できる日・時間帯が合わない」などが挙げられた（図表 4-1-9）。

自宅等から距離が近いこと、無料又は低料金で利用できること、好きな曜日や時間帯に利用できること、心理的抵抗感を感じることなく気軽に利用できることなど、こどもの居場所づくりにおいては、こどもがいつでも気軽に利用できるといった「アクセス性」を備えることが重要であり、これらのアクセス性不良は、こどもが、居場所を見つけることの阻害要因となりうる。

また、居場所の「情報がない、存在を知らない」には、①「（居場所はあるが）情報発信力が弱いため、こどもや保護者に情報が届いていない」、②「そもそも居場所の数自体が少ない」という2つの背景が考えられる。

図表 4-1-9 居場所を持たない理由

	全体		小1～3		小4～6		中学生		15～18歳		19歳以上	
《行きたい場所はあるが》やるが多すぎて時間がない	76	21.5%	7	23.3%	4	16.0%	17	35.4%	24	16.2%	24	23.3%
《行きたい場所はあるが》住んでいる地域にないため、遠くて自分で行けない・行くのに時間がかかる	68	19.2%	8	26.7%	10	40.0%	10	20.8%	23	15.5%	17	16.5%
《行きたい場所はあるが》お金がかかる	80	22.6%	8	26.7%	3	12.0%	11	22.9%	31	20.9%	27	26.2%
《行きたい・居たいと思う》そのような場所の情報がない、存在を知らない	101	28.5%	4	13.3%	5	20.0%	16	33.3%	40	27.0%	36	35.0%
《行きたい場所はあるが》利用できる日・時間帯が合わない	32	9.0%	4	13.3%	5	20.0%	7	14.6%	7	4.7%	9	8.7%
家・学校・職場以外に必要と感じない	101	28.5%	10	33.3%	5	20.0%	9	18.8%	48	32.4%	29	28.2%

※上位3つ：■オレンジ1位／■水色2位／■ピンク3位

（２）こどもが居場所に求めていること

こどもが居場所に求めていることについて、本調査で得られた結果を世代ごとにまとめたものが以下の内容である。

ア 小学生

小学生が居場所に求める機能で最も多かったのは「好きなことをして自由に過ごせる」ことであった。また、居場所に望むことについて尋ねた設問でも「自分の好きなことや、興味のあることをしたい」という回答が最も多くなっており、小学生の世代ではこどもの自主性が尊重され、かつ、自由度が高い居場所が求められていることが分かった。

その他、居場所に求める機能で回答が多かった項目として、「いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる」「いつでも行きたいときに行ける」などが挙げられていた。また、居場所に望むことでも、「自分の知らないことや新しいことに取り組んでみたい」という希望が多く、小学生にとって居場所は新しい出会いや挑戦のきっかけとなる場所であることや、友人と交流をする場所として利用できることが求められている。さらに、小学生は行動範囲が限られていることから、それらのサービスが地理的に近く、また、費用負担も少ない形で提供されることも要件となる。

イ 中学生

中学生が居場所に求める機能として最も多かったのは、小学生と同様に「好きなことをして自由に過ごせる」ことであった。また、居場所に望むことについても、「自分の好きなことや興味のあることをしたい」という回答が最多となり、小学生と中学生では、居場所に求めることに共通点が多いと考えられる。

一方で、「いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる」「いつでも行きたいときに行ける」といった項目への回答割合は、小学生よりも中学生で高くなっている。このことから、中学生の世代では、居場所に対して自由度や自主性の尊重だけでなく、友人や新しい人々との交流の場としての機能をより強く求めている可能性がある。

中学生世代にとっては、好きなことを楽しめる自由な空間であると同時に、仲間との交流や新しいつながりを築ける場としての居場所の役割が求められている。

ウ 15～18 歳

15～18 歳のこどもが居場所に求める機能で最も多かったのは、「いつでも行きたいときに行ける」ことであった。また、家・学校・職場以外に居場所がない理由を尋ねた設問では、「やるが多すぎて時間がない」「お金がかかる」といった回答が多く見られ、時間的制約や費用負担が居場所利用の障壁となっている可能性が示唆された。

小・中学生と同様に、「好きなことをして自由に過ごせる」という回答割合も高く、自主性が尊重され、自由度の高い居場所へのニーズが引き続き見られる。

しかし、15～18歳の年齢層では、「ありのままでいられる、自分を否定されない」「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」ことへの要望が目立ち、年齢が上がるにつれて、居場所に求める機能が、よりアイデンティティの確立や心の安定など、精神面に寄与するものへとシフトしていると考えられる。

これらの結果から、15～18歳が求める居場所とは、自由に利用できるアクセス性の高さに加え、費用面での負担が少なく、個人の自主性が尊重される空間であると考えられる。また、学業や部活動、アルバイトなど、多忙な日常の中で利用可能な柔軟な環境の提供が重要である。

エ 19歳以上

19歳以上の世代が居場所に求める機能として最も多かったのは、小・中学生と同様に、「好きなことをして自由に過ごせる」ことであった。また、居場所に望むことについても、「自分の好きなことや興味のあることをしたい」という回答が最多であり、この点において、小・中学生と共通するニーズが見られる。

さらに、15～18歳と同様に、「ありのままでいられる、自分を否定されない」「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」ことへの要望も多く挙げられた。このことから、19歳以上の世代でも、自分らしさを保ちながら過ごせる居場所の必要性が伺えた。19歳以上の世代にとって理想的な居場所とは、自主性が尊重され、興味や関心に基づいて活動ができる場所であると同時に、個が尊重され、心理的に安静でいられる空間であると考えられる。

図表 4-1-10 こどもが居場所に求めること

	近距離	安価	自由	出会い	ひとり	ありのまま
小学生	○	○	○	○		
中学生	○	○	○			
高校生		○	○		○	○
若者			○		○	○

前述のとおり、年代ごとに居場所に求める条件が異なることから、こどもの年代ごとのニーズに即した居場所の整備が必要と考えられる。

また、保護者は、こどもの居場所に対し、近い場所にあることでこどもが通いやすかったり、信頼できるスタッフがいることでの安心感がある居場所を求めている。また、費用面でも無料または安価な場所を求めている。

(3) 居場所を利用することによる効果

こどもが居場所を利用することによる効果として、こども・保護者へ実施したアンケート調査では、「楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった」等のこどもの精神面の安定や、「初めて知ったことや、興味を持ったこと、好きになったことがあった」、「新たな友達や信頼できる大人ができた」等の新たな分野・人との出会い、「以前より、人と関わるのが好きになった」、「自分の気持ちや考えを積極的に伝えるようになった」等のこどもの精神面の成長などが、こどもと保護者の双方から挙げられた（図表 4-1-11、図表 4-1-12）。

図表 4-1-11 こどもアンケート調査「居場所を利用することによって変わったこと」

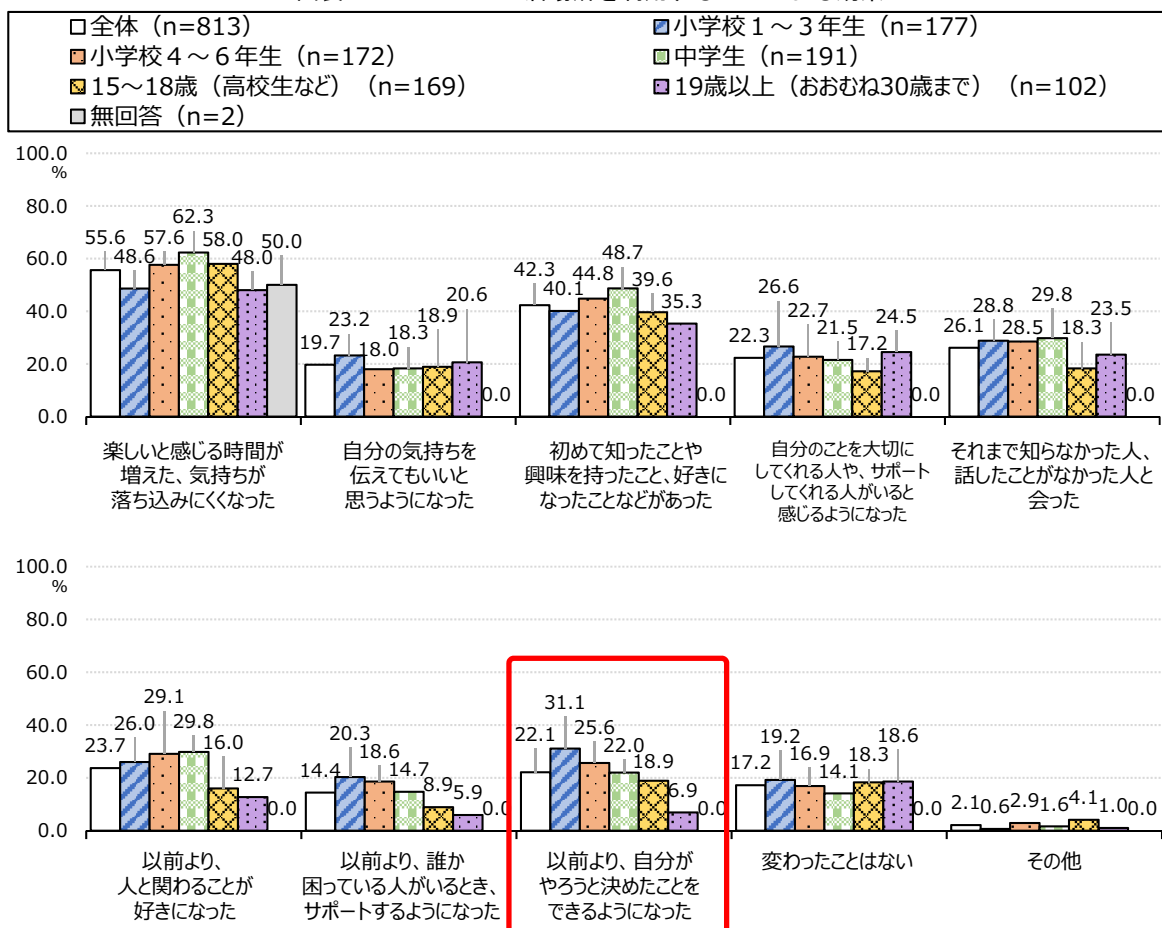
楽しいと感じる時間が増えた、 気持ちが落ち込みにくくなった	① 452	55.6%
初めて知ったことや、興味を持ったこと、 好きになったことなどがあった	② 344	42.3%
それまで知らなかった人、 話したことがなかった人と会った	③ 212	26.1%
以前より、人と関わるのが好きになった	④ 193	23.7%
自分のことを大切にしてくれる人や サポートしてくれる人がいると感じるようになった	⑤ 181	22.3%
以前より、自分がやろうと決めたことを できるようになった	180	22.1%
自分の気持ちを伝えてもいいと思うようになった	160	19.7%
変わったことはない	140	17.2%
以前より、誰か困っている人がいるとき、 サポートするようになった	117	14.4%
その他	17	2.1%

図表 4-1-12 保護者アンケート調査「居場所を利用するようになってこどもに起きた変化」

新しいことに興味を持ち、好きなことや趣味ができた	① 259	46.2%
新たな友達や信頼できる大人ができた	② 209	37.3%
笑顔が増え、気持ちが落ち込みにくくなった	③ 175	31.2%
自分の気持ちや考えを積極的に伝えるようになった	④ 161	28.7%
変化はない	⑤ 122	21.7%
以前より、自分がやろうと決めたことをできるようになった	109	19.4%
他人の立場や気持ちを 思いやることができるようになった	106	18.9%
以前より、人と関わるのが好きになった	85	15.2%
以前より、誰か困っている人がいるとき、 サポートするようになった	75	13.4%
その他	5	0.9%

また、小学生では、「以前より、自分がやろうと決めたことをできるようになった」が、他の年代よりも高く表れており（図表 4-1-13）、こどもの成長過程において、良い影響を与えていることが分かった。

図表 4-1-13 居場所を利用することによる効果



2 調査結果のまとめ（施設等運営者）

（１）施設等運営者が抱えている課題

ア 経営資源に関すること

施設等運営者への調査において、いわゆる「ヒト（人材確保・育成）」、「モノ（活動場所・設備）」、「カネ（活動資金）」の３つの経営資源に対する不足感を訴える施設等運営者が多く見られた（図表 4－2－1）。

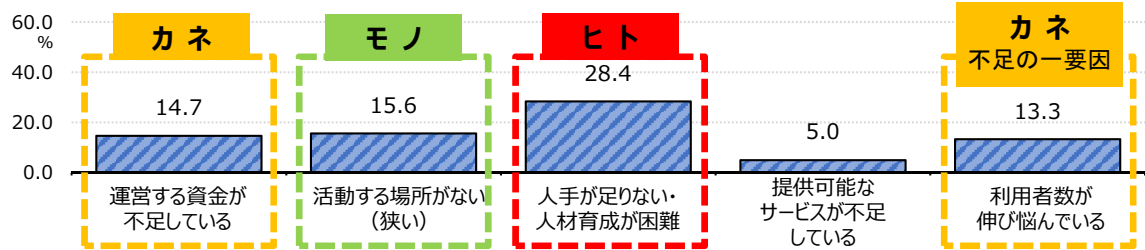
「ヒト（人材確保、人材育成）」は、公営と民営の違いなど、施設等の運営体制や形態の別を問わず、多くの施設等運営者から共通して挙げられた課題である。一部の施設等の運営者で、こどもの利用者数に応じた適正な人手が確保できず、十分な見守り等ができていないケースが見られた。ボランティアやアルバイトを積極的に活用することで、人手不足を解消している運営者もあったが、事業の継続性、サービスの質の担保やモチベーションの維持などを懸念する声もあった。特に小規模な運営者など、常勤スタッフの採用が困難なケースも多く、人材の斡旋などを望む声も聞かれた。

次に、「モノ（活動場所・設備）」は、児童育成クラブ、児童館・児童室、図書館のような、特定の建物・設備の中で多くのこどもたちが活動している施設等から、その不足感を訴える声が聞かれた。児童育成クラブから「利用する児童数が増加しているが、それに見合った部屋（学校の教室）を借りることが難しい場合がある」といった意見や、児童館から「こどもの利用者数を増やすため、大型の遊具やおもちゃなどの魅力的な設備が欲しい」といった意見などが挙げられた。

最後に、「カネ（活動資金）」は、こども食堂やフリースクールなどの民間団体から、その不足感を訴える声が多く聞かれた。一部の運営者において活動資金として活用している助成金等について、基本的に単年度のものであるため、次年度以降の資金繰りの見込みがたてにくいことや、支出項目に制限があることから、必要な経費に活用できないなど、助成金制度そのものが有する問題点を提起した運営者もあった。また、スタッフの資格取得や研修受講の支援をしたいが、資金不足のため実施できていないなどのケースも見られた。多くのこどもの利用を促すためには、無料又は低料金でのサービス提供が求められるため、高額な利用料を設定することは難しく、「利用者の確保」と「活動資金の確保」の狭間で悩んでいる運営者の声が聞かれた。

こどもの居場所の運営者は、比較的小規模であるため、「やりたいと思っていることが、できていない」、「事業承継が難しい」など、経営資源の不足が事業運営の足かせとなっている事実が浮かび上がった形となった。

図表 4-2-1 施設等運営者への書面ヒアリング調査「施設等運営者が抱えている課題」



イ 個別支援・連携に関すること

多人数のこどもたちが活動する児童育成クラブやこども食堂などにおいて、支援が必要なこどもを個別に支援することの難しさが課題として多く挙げられており、一部の施設等運営者からは、専門機関の連絡先がわからない、専門スタッフがいらないため対応が難しいなどといった声も聞かれた（図表 4-2-2）。

また、一部のコミュニティセンターやこども食堂などで、地域や学校と連携し、多くの地域住民やこどもたちが参加するイベントを定期的に行っている事例が見られる一方で、学校やスクールソーシャルワーカーとの更なる連携強化の必要性を指摘する意見もあった。

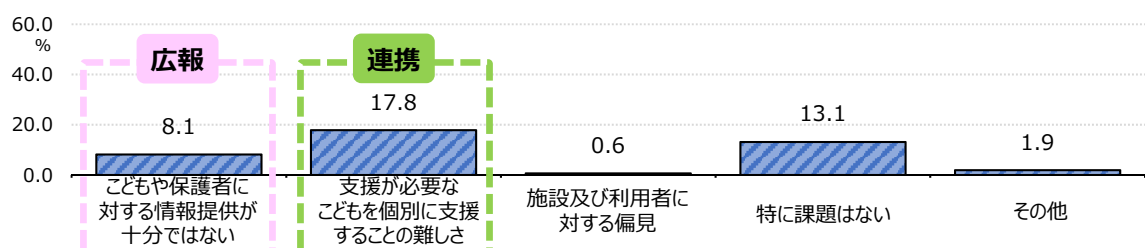
複数の施設等運営者から、こどもを適切な支援につなげるための関係機関・団体との連携体制の強化、より良い運営に向けた意見交換等を行うための同業者とのネットワーク化などを求める声があがっており、これらの連携強化、ネットワーク化については、行政の主導に期待する声が多く聞かれた。

ウ 情報発信に関すること

居場所に関する情報発信は、チラシを学校や公共施設等で配布したり、保護者向けに SNS を活用するなど、各施設等運営者が工夫して発信することで、利用者の確保につなげている。しかし、個々の施設等運営者による、単発的な情報発信となっているケースが多いことから、情報発信の手段と情報が届く範囲が限定的であることに加え、受信側（こども・保護者）にとっては、居場所情報の包括的な収集が難しいという課題がある。

こどもへのアンケート調査で、居場所がない理由として、「居場所の情報がない」が最多となったことから、情報発信力はこどもが居場所を見つけるための重要な要素と考えられる。

図表 4-2-2 施設等運営者への書面ヒアリング調査「施設等運営者が抱えている課題」



エ こども・保護者の状況

こどもと接する機会が多い施設等運営者から、日頃のこどもの様子や、こどもが好むこと、保護者の状況などを聞くことができた。

① こども

- ・こどもは、友達とのつながりやコミュニケーションを重視し、友達と話したり、行動を共にすることを好む傾向がある。
- ・こどもは、遊びを通して交わると、最も仲良くなれる。
- ・こどもの利用者数が多いと、その中から気が合う友達が見つかる可能性も上がるが、こどもの利用者数が少ない施設で、気が合う友達を見つけることは難しい。など

② 保護者

- ・不登校のこどもを抱え、何とかこどもを外の世界に出そうと疲弊する保護者や、「不登校の要因は自分にある」と自分を責めてしまい、支援に頼ろうとしない保護者がいる。など

オ こどもの居場所に対する考え方や思い

多くの施設等運営者から、こどもの居場所に対する考え方や思いなどを聞くことができた。

- ・こどもに合った居場所はそれぞれであることから、その子の特性に合っていることをそつと促したり、声掛けしていくと、自分なりの居場所を作ることができる。
- ・居場所は、こども自身が見つけていくことが望ましいため、こどもにとっての選択肢を増やした上で、その選択はこども自身に任せるという姿勢が重要である。
- ・コミュニティセンターは多世代の地域住民を対象とするが、こどもが来るようになれば、大人も来て、高齢者も喜ぶなど、地域に賑わいが生まれる。
- ・学校の役割が肥大化するなかで、学校が居場所にならないこどもがいる。そのようなこどもたちに、必要な場所、必要なものを提供できると良い。不登校者には依存できる先が少ないため、依存先の選択肢が増えていくことが望ましい。
- ・月に1回、こどもに食事を提供しているが、一緒に集まって話すということが大事で、食事はそのためのツールにすぎない。放課後、こどもが立ち寄って、いろんな話をしたり、まわりから励ましてもらったりすることで、気が楽になったり、元気になるような居場所はあった方が良い。など

上記のとおり、多くの施設等運営者から、こどもの居場所の存在意義に関する肯定的な意見を聞くことができ、こどもの居場所の重要性を認識することができた。

（２）行政機関等に対する要望等

（１）で挙げた課題に対する支援を望む声が多く聞かれた（図表 ４－２－３）。

前述のとおり、施設等運営者には、経営基盤が脆弱な運営者も多いため、より良い居場所づくりを進めるための「経済的支援」、「人的支援」、「広報体制や連携体制の強化」などを望む声があった。

図表 ４－２－３ 施設等運営者への書面ヒアリング調査「行政等への要望」

主な内容	件数
経済的支援に関する意見	① 23
こどもに向けた経済的支援（通塾補助の実施 等）	5
事業者に向けた経済的支援（事業運営補助金の実施 等）	14
市予算におけるこども向け予算の拡充	4
人材の確保・育成に関する意見	② 22
支援員等の人材の確保	15
待遇の改善・研修の充実	7
広報活動に関する意見	③ 9
団体等が実施する広報活動への協力	5
児童・生徒が求めるものの情報発信	4
施設の設備に関する意見	④ 8
施設設備の更新・修繕・拡張	8
運営の効率化に関する意見	5
児童育成クラブにおける受入れ上限の設定	3
書類作成等の効率化	2
こどもの居場所関係団体との連携に関する意見	5
他団体との連携	3
事業をする上での相談対応	2
こども政策全般の強化を求める意見	5

3 熊本市における「こどもの居場所」のあるべき姿

これまでの調査結果を踏まえ、本調査研究においては、以下の全ての項目を満たした施設等を「こどもの居場所」のあるべき姿とする。

ただし、その場所が居場所となるか否かは、最終的にこども自身の主観により決定されるため、全ての施設等に以下の項目を強いるものではない。

全ての前提：こども自身の主体性・意思にもとづくこと^(※1)

- 1 こどもの利用・訪問の動機となりうるような、こどもに支持される「こども向け設備・サービス等」が提供されていること。
- 2 こどもが好きな過ごし方をするための選択肢(自由度)があり、その選択がこども本人の意思に委ねられていること。
- 3 こどもが利用しやすい「5つのアクセス性」^(※2)を有していること。
- 4 「こども・若者の居場所づくりに関して大切にしたい視点」^(※3)のいずれかを有していること。
- 5 専門知識を持つスタッフの配置、事故や犯罪被害に対する防止策など、こどもの安全を確保するための措置がとられていること。
- 6 こどもを適切な支援につないだり、より良い運営に向けた情報交換等を行うための、関係機関・団体との連携体制が整っていること。
- 7 地域コミュニティのハブとしての機能を、一定程度有しており、地域を巻き込んだ活動・見守り等が、展開できること。
- 8 人材確保や資金調達等の面で安定した経営基盤を有しており、事業の継続性に問題がないこと。

(※1) 「こども自身の主体性・意思にもとづくこと」が大原則ではあるが、特に、こどもが幼い時期などは、保護者の意向に対する配慮も必要。

(※2) 「5つのアクセス性」とは

居場所情報に対するアクセス性	効果的な媒体・手段・頻度による居場所情報の発信がなされており、こども・保護者が情報をキャッチしやすいこと
距離的アクセス性	自宅や学校等の生活拠点から、こどもの年齢に応じた移動手段で、こども一人でも通える距離にあること
経済的アクセス性	経済的な負担感を感じたり、利用頻度を抑制する必要がない、低料金又は無料での提供がなされていること
時間的アクセス性	こどもの都合や意思に合わせて、いつでも好きな曜日・時間帯に利用できること
精神的アクセス性	利用に際して、他人の目を気にしたり、心理的抵抗感を感じることなく、気軽に利用できる雰囲気有していること

(※3)「こども・若者の居場所づくりにおいて大切にしたい視点」

● こども・若者の居場所づくりにおいて大切にしたい視点



- 居場所づくりにおいて重要なことは、こども・若者の主体性の尊重である。
- その場を居場所と感ずるかどうかなどは、本人が決めることである。
- そうした観点から、こども・若者の声（視点）を軸に「居たい・行きたい・やってみたい」の3つの視点で整理した。

* こども・若者の声には相互に矛盾するものもあるが、多様な居場所づくりにおいてそれぞれ尊重したい視点であるため、そのまま記載した。居場所が求められる根拠として受け止められることを願う。

“居たい”	“行きたい”	“やってみたい”
- 居ることの意味を問われないこと - 信頼できる人、味方になってくれる人がいること - 過ごし方を選べること - ありのまま、素のままでいられること - 誰かとつながれること - 気の合う人がいること - 安心・安全な場であること - くつろげる環境が整っていること - 居ただけ居られること - 訪れてほしいときに、訪れてくれる人がいること - 誰かとコミュニケーションできること - 話を聞いてくれること - 別の目的をもった人がいても、同じ空間にいられること - 一人で居ても気にならないこと	- 自分を受け入れてくれる誰かがいること - 身近にあること - 気軽に行ける、一人でも行けること - お金がかからずに行けること - 誰でも行けること - 行きかけがあること (必要に応じて、こども・若者へアプローチで関わること) - 自分と同じ境遇や立場の人がいること - いつでも行けること (こども・若者自身が居場所に行く時間を返せること)	- いろんな人と出会えること - 好きなこと、やりたいことができること - 自分の意見を言える、聞いてもらえること (自分の意見が反映されること) - 一緒に学ぶ人、 学びをサポートしてくれる人がいること - いろんな機会があること (興味や希望に沿ったイベントがあること) - 未来や道路を考えるきっかけがあること - あこがれを抱ける人がいること - 新しいことを学べること - 自分の役割があること

出所：「こどもの居場所づくりに関する調査研究」報告書概要
(令和5年(2023年)3月 内閣官房こども家庭庁設立準備室)

4 調査研究委員会における委員の意見

本調査研究においては、計3回の委員会を開催したが、委員会で委員から出された主な意見をまとめたものが次の表である（図表 4-4-1）。

委員からは、こどもの居場所に対する選択肢に関すること、既存施設の活用に関すること、助成制度に関すること、人材確保・人材育成に関することなどについて、意見が出た。

図表 4-4-1 委員の意見

項目	内容
選択肢を増やす	年代に応じた居場所と多世代交流できる居場所など、どちらか一方のみではなく、こどもたちが居場所に対し、複数の選択肢を持てるようにすることが重要である。
ニーズに合った居場所の整備	家庭環境やジェンダー等の悩みや葛藤を抱えたこどもたちの内実にあった居場所を整備する必要がある。
	年齢層に合わせた居場所が必要だと考える。特に思春期世代・若年層などの特定の年齢層に向けた居場所づくりが必要ではないか。
	好きな過ごし方の選択の中に「何もしない自由の保障」も考慮する必要がある。
	いつでも利用でき、こどもを温かく見守る大人がいる常設の場所があるとよい。
	こどもが運営に関わる等、こどもの主体性を尊重した居場所づくりが必要である。
既存施設の活用	学校は、こどもが居場所に求める要素（自由・チャレンジ・相談しやすい、近距離・価格・信頼）を全て満たしている施設のため、人的資源を学校に確保し、学校に教育的機能だけでなく、福祉的な機能などを取り入れていくことが考えられる。
	学校施設の活用には、制約が多くあることから、行政と民間が共同で利用できる仕組みづくりがあってもよい。
	担当のコーディネーターを配置し、学校施設を利用するが、教員は居場所の運営を行わない仕組みづくりができるとよいのではないか。
	学校が取り組むこと、学校管理下外で取り組むこと等、分けて行えるようシステム化することが理想的である。
	学校施設を活用する際の課題がいろいろと想定されるため、モデル校を選定し、モデル事業として実施していく中で解決していくという考えも必要ではないか。
	熊本市では、コミュニティ・スクールの取組が進められていることから、こどもの居場所づくりについても併せて検討されることを期待したい。
	学校の活用については、学校に行きたくないこどもたちもいることから、学校以外の施設の活用も検討する。
	図書館や公民館などのルールについて、制約を少なくして利用しやすくすることも1つのアイデアとしてあると思う。
運営体制	居場所づくりに関わる人が、ボランティアではなく、（一定の収入を得られる）仕事としてできるような仕組みづくりが必要である。
	持続可能な取組にしていくためには、行政が全てを予算化して行う体制ではなく、民間と連携しながらの取組でやる方が望ましい。

項目	内容
助成制度の見直し	単年度での助成ではなく、複数年度で活用できる仕組みをつくる。
人材確保・ 人材育成	「出口対策」（困難を抱えているこどもが別の支援機関等へ移ること）として居場所に関わるスタッフ向けの研修を行う。スタッフの質の向上はこどもたちの安心の担保にもつながる。
	プレイリーダーやユースワーカーなど、こどもの居場所に関わる人たちの育成についてもこれから重要な要素と思われる。
	こどもたちが、居場所にいる大人と関わることで、自分自身の目標を見つけたり、将来、大人になった時に居場所の運営に関わったりすることも期待できる。

5 現状の課題に対応する方向性

(1) 現状の課題

本調査研究では、「こども及び保護者アンケート調査」、「施設等運営者ヒアリング調査」を通じて、こども及び保護者のニーズや居場所の実態、施設等が抱える課題等について探ってきたが、今後こどもの居場所づくりを進めるうえで、優先的に対応すべき課題として、以下の4点を挙げたい。

ア 全ての年代のこどもがいつでも居場所を利用できる環境が必要である

家・学校・職場以外の第三の居場所の存在は、こどもの心身の健康や成長にとって非常に重要な役割を果たしていることが判明した一方で、第三の居場所を有していないこどもが全世代で一定数存在しており、特に15歳以上の若者についてはその割合が高い結果となった。また、家や学校が居場所ではないこどもにとっては、安全安心な環境の中で自分らしく過ごすことができる唯一無二の居場所として欠かせないものである。

こどもの健やかな成長を促していくためにも、全ての年代のこどもがいつでも居場所を利用できる環境が求められる。

イ 既存の居場所の持続可能な運営の継続が必要である

こどもの居場所は、施設等運営者の「こどもに対する想いや志」によって支えられている状況も少なくないため、施設等の形態によって様々であるが、人材や活動資金の不足など、何かしら運営上の課題を抱えた施設が多いことが確認できた。

アでも記載のとおり、こどもの健やかな成長を促していくためには、こどもがいつでも居場所を利用できる環境が必要であり、既存のこどもの居場所の持続可能な運営の継続が求められる。

ウ 支援が必要なこどもを適切な支援につなげる必要がある

第三の居場所を利用するこどもの中には、生活困窮、虐待、いじめ、非行などの問題を抱えているケースが存在し、児童相談所や学校、警察といった専門機関と連携を図りながら対応している施設等運営者がいる一方で、一部の施設等運営者からは支援が必要なこどもの対応に困難さを抱えている状況が見られた。

支援を要するこどもの心身の安定をはかり、健やかな成長を促していくためにも、できるだけ早期に適切な支援につなげていくことが求められる。

エ 居場所に関する情報を子どもや保護者に届ける必要がある

子どもが第三の居場所を持てない理由として、「居場所の情報がない」がどの年代においても高い結果となった。また、広報面での課題を抱えている施設等運営者も多く、子どもや保護者に対する情報提供が十分にできていない状況も見られた。

情報に対するアクセス性は、子どもが居場所を利用するための重要な要件の一つであり、子どもや保護者に対して、居場所に関する情報をしっかりと届けることが求められる。

（２）取組の方向性

こどもや若者が、いつでも安心して過ごすことができる家や学校・職場以外の第三の居場所を持ち、様々な年代・境遇のこどもや若者、大人たちとの交流の中で、一人でも何もしないことも含め、やりたいことが自由にできたり、様々な学びや多様な体験活動、外遊びの機会に触れることは、自己肯定感や自己有用感を高め、身体的・精神的・社会的に将来にわたって健やかに成長することにつながり、こどもの権利を擁護する観点からも、非常に重要なことである。

熊本市においても、今後、第三の居場所づくりの充実を図っていくことが重要であり、本調査結果及び調査研究委員会の委員意見を踏まえ、こどもの居場所が抱える現状の課題に対する取組の方向性について、次のとおりまとめることとし、今後は、これらを踏まえた具体的な取組の検討を進めていくことが望ましい。なお、取組の検討に当たっては、行政のみならず官民が連携し、互いの知識やノウハウ、リソースを共有しながら持続可能な仕組みを構築していくことが重要である。

ア 年代ごとに求められる要件やニーズを踏まえた新たな居場所づくり

距離や費用、過ごし方など、それぞれの年代のこどもによって、求められる要件やニーズを踏まえた多様な居場所づくりに取り組むことが必要である。特に、居場所不足が懸念される15歳以上の若者の居場所づくりに向けて、早急な検討が求められる。

居場所づくりに当たっては、近くにあること、無料・安価に利用できること、安全性が確保されていることなど、前記3の「こども居場所」のあるべき姿でまとめた、こどもや保護者が、居場所に求める要件をできるだけ満たすことが重要であるとともに、こどもの居場所となるか否かは、こども自身の主体性や意思にもとづくものであることから、こどもが居場所の活動内容や運営に主体的に参加するといった視点も大切である。

また、こどもにとっての居場所は、環境の変化や成長・発達等に応じて変化しやすいものであることから、様々な形態で多数存在し、常に複数の選択肢を持てる状態が望ましい。そのため、地域に点在する既存の公共施設や民間の店舗等を活用し、多様な機能を持たせた居場所づくりを進めていくことが効果的であると考えられる。

具体的には、公民館や児童館などの公共施設における自習スペースの設置や対象年齢・開所時間の拡大、民間施設を活用した若者向けフリースペースの設置などの取組が考えられる。

イ 既存の居場所の運営支援

図書館や公民館、こども食堂、フリースクールなど、既に、こどもの居場所としての役割を担っている公共施設や団体・企業等の継続的な運営及び取組の更なる充実に向けて、行政における取組の充実・改善に取り組むとともに、各団体・企業等に対しても、運営費や人材の確保支援、広報支援など、状況に応じた必要な支援を行うことが必要である。

公共施設における取組の充実・改善に当たっては、こどものニーズに応じた環境整備に加え、ルールやサービス内容の見直しなどが考えられる。また、各団体・企業等の支援に当たっては、行政の支援制度の見直しや民間企業・団体が提供する支援制度の情報収集・提供、地域住民や高校生、大学生等との協働によるサポート体制の構築、こどもの育成方法や支援方法をはじめ、居場所運営に必要となる資金調達や財務管理等の知識を得るための研修機会の提供、団体情報の発信などの広報支援等が考えられる。

ウ 居場所運営者の人材育成、関係機関との連携強化

こどもが、安心して居場所で過ごせるように、また、専門の支援が必要なこどもが適切な支援に早期につながるように、居場所運営者のスキルアップを図るとともに、こどもの居場所を運営する公共施設や団体・企業等と教育・医療・福祉などの関係機関が連携し、包括的な支援体制の構築に向けて取り組むことが重要である。

まずは、連携先となる関係機関の情報を整理し、こどもの居場所運営者へ共有するとともに、こどもの居場所を運営する団体・企業同士が、それぞれが持っている知識やノウハウを共有し、情報交換や相互支援ができる関係づくりを行うことが望ましい。その際、地域によって特性や課題は様々であることから、行政区や小中学校区といったエリアを絞ったネットワークづくりの視点も必要である。

エ こどもの居場所情報の収集・発信

多様な形態で運営されているこどもの居場所に関する情報を収集し、こどもや保護者、こどもの居場所関係者に広く発信することが必要である。

情報を収集する際は、市ホームページ等で広く呼びかけるとともに、こどもや保護者、こども食堂ネットワーク団体、子育て応援団体などの関係機関等への聞き取りやアンケート調査などにより、あまり認識されていない居場所の情報把握にも努めることが重要である。

また、情報を発信する際は、利用者視点に立ち、聞き取りやアンケート調査等の結果を踏まえ、こどもが、情報受信しやすい広報媒体・手段等を用いるとともに、エリア・場所や費用、内容等を分かりやすく整理した情報を提供することで、こどもが、求める要件を満たした居場所を容易に探すことができる工夫が必要である。

調査研究委員会名簿

調査研究委員会名簿

委員長	山城 千秋	熊本大学大学院教育学研究科 教授
委 員	河崎 一衣	株式会社パブリックビジネスジャパン 取締役副代表 (城南児童館指定管理者)
	初瀬 基樹	I P A くまもと 代表 (おもしろ村 村長)
	古田 翔太郎	北部高校生ボランティアサークル「わいわいHVC」 副代表
	山下 祈恵	特定非営利活動法人トナリビト 代表理事
	吉村 千恵	特定非営利活動法人熊本YWCA 尚綱大学 尚綱大学短期大学部 総合生活学科 講師
	宮津 光太郎	熊本市教育委員会事務局学校教育部総合支援課 指導主事 (教育ICTを活用したオンライン学習支援 フレンドリーオンライン担当)
	那須 光也	熊本市こども局こども育成部こども政策課 課長
	廣澤 英治	一般財団法人地方自治研究機構 常務理事
事務局	佐藤 貴哉	熊本市こども局こども育成部こども政策課 副課長
	西尾 晃一	熊本市こども局こども育成部こども政策課 主幹
	安部 華南子	熊本市こども局こども育成部こども政策課 主事
	今村 真二	一般財団法人地方自治研究機構 主任研究員
	尾野 千明	一般財団法人地方自治研究機構 研究員

基礎調査機関

宮野 英樹	公益財団法人地方経済総合研究所 事業連携部 部長
松永 雄亮	公益財団法人地方経済総合研究所 総合調査部 部付部長
前田 和則	公益財団法人地方経済総合研究所 事業連携部 特別研究員
大久保 裕真	公益財団法人地方経済総合研究所 総合調査部 研究員

参考 1 こども及び保護者アンケート調査票

参考1 こども及び保護者アンケート調査票

1 こども向けアンケート

(1) 回答者の属性

小学生・中学生向け		高校生世代～29 歳の方向け											
あなたの性別をお答えください。 S A <table border="1"> <tr><td>男</td></tr> <tr><td>女</td></tr> <tr><td>その他</td></tr> <tr><td>答えたくない</td></tr> </table>		男	女	その他	答えたくない	あなたの性別をお答えください。 S A <table border="1"> <tr><td>男性</td></tr> <tr><td>女性</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td></tr> <tr><td>答えたくない</td></tr> </table>		男性	女性	どちらともいえない	答えたくない		
男													
女													
その他													
答えたくない													
男性													
女性													
どちらともいえない													
答えたくない													
あなたは何年生ですか。 S A <table border="1"> <tr><td>小学校 1～3 年生</td></tr> <tr><td>小学校 4～6 年生</td></tr> <tr><td>中学生</td></tr> <tr><td>(回答項目なし)</td></tr> <tr><td>(回答項目なし)</td></tr> </table>		小学校 1～3 年生	小学校 4～6 年生	中学生	(回答項目なし)	(回答項目なし)	あなたの年齢をお答えください。 S A <table border="1"> <tr><td>(回答項目なし)</td></tr> <tr><td>(回答項目なし)</td></tr> <tr><td>(回答項目なし)</td></tr> <tr><td>15～18 歳 (高校生など)</td></tr> <tr><td>19 歳以上 (おおむね 30 歳まで)</td></tr> </table>		(回答項目なし)	(回答項目なし)	(回答項目なし)	15～18 歳 (高校生など)	19 歳以上 (おおむね 30 歳まで)
小学校 1～3 年生													
小学校 4～6 年生													
中学生													
(回答項目なし)													
(回答項目なし)													
(回答項目なし)													
(回答項目なし)													
(回答項目なし)													
15～18 歳 (高校生など)													
19 歳以上 (おおむね 30 歳まで)													
あなたが今、住んでいる区はどこですか。 熊本市中央区手取本町のときは【中央区】を選びます。 S A <table border="1"> <tr><td>中央区 (ちゅうおうく)・東区 (ひがしく)・ 西区 (にしく)・南区 (みなみく)・北区 (きたく)</td></tr> </table>		中央区 (ちゅうおうく)・東区 (ひがしく)・ 西区 (にしく)・南区 (みなみく)・北区 (きたく)	あなたが現在お住まいの区はどこですか。 熊本市中央区手取本町の場合は【中央区】を選びます。 S A <table border="1"> <tr><td>中央区・東区・西区・南区・北区</td></tr> </table>		中央区・東区・西区・南区・北区								
中央区 (ちゅうおうく)・東区 (ひがしく)・ 西区 (にしく)・南区 (みなみく)・北区 (きたく)													
中央区・東区・西区・南区・北区													
あなたが今、住んでいる小学校区はどこですか。 わからないときは、近くの小学校を選んでください。 S A <table border="1"> <tr><td>各区で五十音順に表示。 (例) 中央区の場合 出水 (いずみ)～本荘 (ほんじょう)</td></tr> </table>		各区で五十音順に表示。 (例) 中央区の場合 出水 (いずみ)～本荘 (ほんじょう)	あなたが現在お住まいの小学校区はどこですか。 わからないときは、お住まいの近くの小学校を選択してください。 S A <table border="1"> <tr><td>各区で五十音順に表示。 (例) 東区の場合 帯山西 (おびやまにし)～若葉 (わかば)</td></tr> </table>		各区で五十音順に表示。 (例) 東区の場合 帯山西 (おびやまにし)～若葉 (わかば)								
各区で五十音順に表示。 (例) 中央区の場合 出水 (いずみ)～本荘 (ほんじょう)													
各区で五十音順に表示。 (例) 東区の場合 帯山西 (おびやまにし)～若葉 (わかば)													

(2) 家・学校・職場について

小学生・中学生向け		高校生世代～29 歳の方向け	
あなたは、 <u>家（今、住んでいる場所）</u> が好きですか。		あなたにとって、 <u>家（普段寝起きをしている場所）</u> は「ここに居たい」と感じる居場所になっていますか。	
S A	はい	S A	はい
	いいえ		いいえ
あなたは、 <u>学校（授業や部活、クラブ活動）</u> が好きですか。		あなたにとって、 <u>学校（授業や部活、クラブ活動）</u> は「ここに居たい」と感じる居場所になっていますか。	
S A	はい	S A	はい
	いいえ		いいえ
	げんざい がっこう じゅぎょう ぶかつ かつどう す 現在、学校には登校していない		現在、学校には通っていない
(質問項目なし)		あなたにとって、 <u>職場（勤務先のオフィス・店舗、アルバイト先など）</u> は「ここに居たい」と感じる居場所になっていますか。	
(回答項目なし)		S A	はい
(回答項目なし)			いいえ
(回答項目なし)			現在、働いていない

(3) 家・学校・職場以外の居場所について

小学生・中学生向け		高校生世代～29 歳の方向け	
あなたは、 <u>家（今、住んでいる場所）</u> や <u>学校（授業や部活、クラブ活動）</u> の <u>他に</u> 、好きな場所がほしいですか。 【例：友達の家、習い事、公園、図書館、お店、オンラインの場所など】		あなたは、 <u>家（普段寝起きをしている場所）</u> や <u>学校（授業や部活、クラブ活動）</u> 、 <u>職場（勤務先のオフィス・店舗、アルバイト先など）</u> の <u>以外に</u> 、「ここに居たい」と感じる居場所がほしいですか。 【例：友達の家、習い事、公園、図書館、お店、オンライン空間など】	
S A	はい (↓ 下の質問にも答えてください)	S A	はい (↓ 下の質問にもお答えください)
	いいえ		女性
↑ <u>上の質問で「はい」と答えた人は</u> <u>答えてください。</u>		↑ <u>上の質問で「はい」と答えた方は</u> <u>お答えください。</u>	
あなたは、 <u>家（今、住んでいる場所）</u> や <u>学校（授業や部活、クラブ活動）</u> の <u>他に</u> 、好きな場所がほしいのはなぜですか。自由に書いてください。		家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）、職場（勤務先のオフィス・店舗、アルバイト先など） <u>以外に</u> 、「ここに居たい」と感じる居場所がほしい理由を書いてください。自由に記入してください。	
F A	(自由記述)	F A	(自由記述)

いえ いま す ばしょ がっこう じゅぎょう ぶかつ 家（今、住んでいる場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）の他に、好きな場所がありますか。 【例：友達の家、習い事、公園、図書館、お店、オンラインの場所など】		あなたは、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）、職場（勤務先のオフィス・店舗、アルバイト先など）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がありますか。 【例：友達の家、習い事、公園、図書館、お店、オンライン空間など】	
S A	ある	〔(4) 居場所の実態 アへ〕	
	ない	〔(4) 居場所の実態 イへ〕	

(4) 居場所の実態

ア 「居場所あり」回答者における居場所の状況

小学生・中学生向け		高校生世代～29 歳の方向け	
いえ いま す ばしょ がっこう じゅぎょう ぶかつ 家（今、住んでいる場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）の他に、好きな場所があると答えた人に聞きます。		家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）、職場（勤務先のオフィス・店舗、アルバイト先など）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所があると答えられた方に伺います。	
す おも ばしょ ばしょ 好きだと思う場所はどこな場所ですか。 （チェックはいくつでも）		その居場所はどこな場所ですか？ （チェックはいくつでも）	
MA	おじいちゃん、おばあちゃんの家・親戚の家	MA	祖父母・親戚の家
	友達の家		友達の家
	児童育成クラブ		（回答項目なし）
	習い事、スポーツクラブ、塾		習い事（スポーツクラブ等も含む）や塾などの場所
	学校の教室の他の場所（保健室、図書室など）		学校の教室以外の場所（保健室、図書室、校内カフェ等）
	フリースクール		フリースクール
	図書館や公民館、児童館、こども文化会館、美術館		図書館や公民館、児童館、こども文化会館、美術館
	公園や自然の中で遊べる場所		公園や自然の中で遊べる場所
	地域の人が開いている遊びの場所（プレイパークなど）		地域の人が開いている遊びの場所（プレイパークなど）
	（回答項目なし）		娯楽施設（ゲームセンター、カラオケボックス、パチンコ店など）
ショッピングセンター（ゆめタウン・イオンなど）やファストフードなどのお店		ショッピングセンター（ゆめタウン・イオンなど）やファストフード・レストランなどのお店	

(回答項目なし)		行きつけの居酒屋やバー、スナックなどの飲酒ができるお店	
ちゅうしんしがいち なみきざか かみとおり しもとおり しんしがい 中心市街地（並木坂・上通・下通・新市街アーケードなど）		中心市街地（並木坂・上通・下通・新市街アーケードなど）	
むりょう べんきょう み ばしょ たべもの 無料で勉強を見てくれる場所や、食べ物を むりょう やす た ばしょ 無料が安く食べることができる場所 (こども食堂や地域食堂など)		無料で勉強を見てくれる場所や、食事や軽食を無料が安く食べることができる場所 (こども食堂や地域食堂など)	
なや そうだん 悩みごとの相談にのったり、サポートしてくれる場所（電話やオンラインを含む）		悩みごとの相談にのったり、サポートしてくれる場所（電話やオンラインを含む）	
こどもだけで自由に利用できる施設(ユースセンターなど)		こども（自分）だけで自由に利用できる施設(ユースセンターなど)	
オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）		オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）	
その他 (↓下にその場所を書いてください)		その他 (↓下の自由記入欄にお答えください)	
↑上で「その他」を選んだ人は、どこか自由に書いてください。		↑上の回答で「その他」を選ばれた方は、どこか自由に書いてください。	
F A	(自由記述)	F A	(自由記述)
その場所は、どのような場所ですか。 (チェックはいくつでも)		その場所は、どのような場所ですか。 (チェックはいくつでも)	
MA	いつでも行きたいときに行ける	MA	いつでも行きたいときに行ける
	ひとりで過ごせたり、何もせずのんびりできる		一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる
	ありのままでいられる、自分を否定されない		ありのままでいられる、自分を否定されない
	好きなことをして自由に過ごせる		好きなことをして自由に過ごせる
	自分の意見や希望を受け入れてもらえる		自分の意見や希望を受け入れてもらえる
	新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる		新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる
	悩みごとの相談にのってもらったり、一緒に遊んでくれる大人がいる		悩みごとの相談にのってもらったり、一緒に遊んでくれたりする大人がいる
	いろんな人と出会える、友達と一緒に過ごせる		いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる
その他 (↓下にどのような場所かを書いてください)		その他 (↓下の自由記入欄にお答えください)	
↑上で「その他」を選んだ人は、どのようなところか自由に書いてください。		↑上の回答で「その他」を選ばれた方は、どのような場所か自由に書いてください。	
F A	(自由記述)	F A	(自由記述)

その場所に行くようになって、変わったことがありますか。 (チェックはいくつでも)		その場所に行くようになって、変わったことがありますか。 (チェックはいくつでも)	
MA	楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった	MA	楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった
	自分の気持ち (したいことや嫌なことなど) を伝えてもいいと思うようになった		自分の気持ち (したいことや嫌なことなど) を伝えてもいいと思うようになった
	初めて知ったことや、興味をもったこと、好きになったことなどがあった		初めて知ったことや、興味を持ったこと、好きになったことなどがあった
	自分のことを大切にしてくれる人やサポートしてくれる人がいると感じるようになった		自分のことを大切にしてくれる人やサポートしてくれる人がいると感じるようになった
	それまで知らなかった人、話したことがなかった人と会った		それまで知らなかった人、話したことがなかった人と会った
	前より、人と会ったり、話したりすることが好きになった		以前より、人と関わるのが好きになった
	前より、誰か困っている人がいるとき、サポートするようになった		以前より、誰か困っている人がいるとき、サポートするようになった
	前より、自分がやろうと決めたことをできるようになった		以前より、自分がやろうと決めたことをできるようになった
	変わったことはない		変わったことはない
	その他 (↓下に変ったことを書いてください)		その他 (↓下の自由記入欄にお答えください)
↑ 上で「その他」を選んだ人は、変わったことを自由に書いてください。		↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、どのように変化したか自由に書いてください。	
FA	(自由記述)	FA	(自由記述)
あなたが、居場所でやってみたいことや、もっとこうだったらいいのと思うことはありますか。 (チェックはいくつでも)		あなたが、居場所でやってみたいことや、もっとこうだったらいいのと思うことはありますか。 (チェックはいくつでも)	
MA	自分が好きなことや、興味があることをしたい (本・漫画やゲーム、プログラムなど)	MA	自分が好きなことや、興味があることをしたい (本・漫画やゲーム、プログラミングなど)
	自分が知らないことや新しいことをしたい		自分が知らないことや新しいことに取り組んでみたい
	あまり大人から構わないでほしい		あまり大人の方から構わないでほしい
	話したいときに、自分の話を聞いてほしい		話したいときに、自分の話を聞いてほしい
	困っていることや悩みごとを話したときに、味方になってほしい		困っていることや悩みごとを話したときに、味方になってほしい
	大人に、こども (自分たち) がどうしたいかを聞いてほしい		大人に、こども (自分たち) がどうしたいかを聞いてほしい

おとな 大人に、こども（自分たち）がしたいことを おうえん 応援してほしい い 行きやすくなってほしい（お金がかからない なが あ きんじょ 長い、長く開いている、近所にある） とく 特にない た その他 （↓下（した）に自由に書いてください）	大人に、こども（自分たち）が取り組んでみ たいことを応援してほしい 通いやすくなってほしい（お金がかからない 長い、長く開いている、近所にある） 特にない その他 （↓下の自由記入欄にお答えください）
↑ 上で「その他」を選んだ人は、自由に書いてくだ さい。 F A （自由記述）	↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、自由に書 いてください。 F A （自由記述）

イ 「居場所なし」回答者における居場所の状況

小学生・中学生向け	高校生世代～29 歳の方向け
いえ いま す 家（今、住んでいる場所）や学校（授業や部活、ク らぶ活動）の他に、好きな場所がないと答えた人に聞 きます。	家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、 クラブ活動）、職場（勤務先のオフィス・店舗、アル バイト先など）以外に、「ここに居たい」と感じる居 場所がないと答えられた方に伺います。
いえ いま す 家（今、住んでいる場所）や学校（授業や部活、ク らぶ活動）の他に、好きな場所がないのは、なぜです か。 （チェックはいくつでも）	家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、 クラブ活動）、職場（勤務先のオフィス・店舗、アル バイト先など）以外に、「ここに居たい」と感じる場 所がない理由は、なぜですか。 （チェックはいくつでも）
MA （行きたい場所はあるが）やるが多すぎ て時間がない （行きたい場所はあるが）住んでいる地域に ないため、遠くて自分で行けない・行くのに 時間がかかる （行きたい場所はあるが）お金がかかる パソコンやスマホなどの道具がない、 W i - F i などの環境がない （行きたい・好きだと思う）そのような場所 の情報がない、存在を知らない （行きたい場所はあるが）どのように過ごす ことができるのかなど内容がわからない （行きたい場所はあるが）利用できる日・ 時間が合わない 安心できる人、知っている人がいない 嫌いな人がいる・知っている人がいるから行 きたくない	MA （行きたい場所はあるが）やるが多すぎ て時間がない （行きたい場所はあるが）住んでいる地域に ないため、遠くて自分で行けない・行くのに 時間がかかる （行きたい場所はあるが）お金がかかる パソコンやスマホなどの道具がない、Wi-Fi などの設備がない （行きたい・居たいと思う）そのような場所 の情報がない、存在を知らない （行きたい場所はあるが）どのように過ごす ことができるのかなど内容がわからない （行きたい場所はあるが）利用できる日・時 間帯が合わない 安心できる人、知っている人がいない 嫌いな人がいる・知っている人がいるから行 きたくない

家族や保護者が、行くのをよく思わない	家族や保護者が、行くのをよく思わない
家（今、住んでいる場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）、職場（勤務先のオフィス・店舗、アルバイト先など）以外に必要と感じない	家（普段寝起きしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）、職場（勤務先のオフィス・店舗、アルバイト先など）以外に必要と感じない
その他（↓下に理由を自由に書いてください）	その他（↓下の自由記入欄にお答えください）
↑上で「その他」を選んだ人は、理由を自由に書いてください。	↑上の回答で「その他」を選ばれた方は、理由を自由に書いてください。
FA （自由記述）	FA （自由記述）

（５）過去の居場所の有無

小学生・中学生向け	高校生世代～29 歳の方向け
（質問項目なし）	あなたは、<u>小学生から中学生の頃</u>、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がありましたか。 【例：友達の家、習い事、公園、図書館、お店、オンライン空間など】
（回答項目なし）	SA あった [(5)過去の居場所の有無 アへ]
（回答項目なし）	なかった [(5)過去の居場所の有無 イへ]

ア 「過去に居場所あり」回答者における居場所の状況

小学生・中学生向け	高校生世代～29 歳の方向け
（質問項目なし）	<u>小学生から中学生の頃</u>、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所が<u>あった</u>と答えられた方に伺います。
（回答項目なし）	その居場所はどんな場所でしたか？（チェックはいくつでも）
（回答項目なし）	MA 祖父母・親戚の家
（回答項目なし）	友達の家
（回答項目なし）	児童育成クラブ
（回答項目なし）	習い事（スポーツクラブ等も含む）や塾などの場所
（回答項目なし）	学校の教室以外の場所（保健室、図書室、校内カフェ等）
（回答項目なし）	フリースクール
（回答項目なし）	図書館や公民館、児童館、こども文化会館、美術館

	(回答項目なし)	公園や自然の中で遊べる場所
	(回答項目なし)	地域の人が開いている遊びの場所(プレイパークなど)
	(回答項目なし)	ショッピングセンター(ゆめタウン・イオンなど)やファストフード・レストランなどのお店
	(回答項目なし)	中心市街地(並木坂・上通・下通・新市街アーケードなど)
	(回答項目なし)	無料で勉強を見てくれる場所や、食事や軽食を無料か安く食べることができる場所(こども食堂や地域食堂など)
	(回答項目なし)	悩みごとの相談にのったり、サポートしてくれる場所(電話やオンラインを含む)
	(回答項目なし)	こどもだけで自由に利用できる施設(ユースセンターなど)
	(回答項目なし)	オンライン空間(SNS、オンラインゲームなど)
	(回答項目なし)	その他(↓下の自由記入欄にお答えください)
(質問項目なし)		↑上の回答で「その他」を選ばれた方は、どこか自由に書いてください。
	(回答項目なし)	(自由記述)
(質問項目なし)		その場所は、どのような場所でしたか。(チェックはいくつでも)
	(回答項目なし)	MA いつでも行きたいときに行けた
	(回答項目なし)	一人で過ごせたり、何もせずのんびりできた
	(回答項目なし)	ありのままでいられた、自分を否定されなかった
	(回答項目なし)	好きなことをして自由に過ごせた
	(回答項目なし)	自分の意見や希望を受け入れてもらえた
	(回答項目なし)	新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできた
	(回答項目なし)	悩みごとの相談にのってもらったり、一緒に遊んでくれる大人がいた
	(回答項目なし)	いろんな人と出会えた、友人と一緒に過ごせた
	(回答項目なし)	その他(↓下の自由記入欄にお答えください)
(質問項目なし)		↑上の回答で「その他」を選ばれた方は、どのような場所か自由に書いてください。
	(回答項目なし)	FA (自由記述)
(質問項目なし)		当時、その場所に行くようになって、変わったことがありましたか。(チェックはいくつでも)
	(回答項目なし)	MA 楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった
	(回答項目なし)	自分の気持ち(したいことや嫌なことなど)を伝えてもいいと思うようになった

	(回答項目なし)		初めて知ったことや、興味をもったこと、好きになったことなどがあった
	(回答項目なし)		自分のことを大切にしてくれる人やサポートしてくれる人がいると感じるようになった
	(回答項目なし)		それまで知らなかった人、話したことがなかった人と会った
	(回答項目なし)		以前より、人と関わるのが好きになった
	(回答項目なし)		以前より、誰か困っている人がいるとき、サポートするようになった
	(回答項目なし)		以前より、自分がやろうと決めたことをできるようになった
	(回答項目なし)		変わったことはない
	(回答項目なし)		その他 (↓下の自由記入欄にお答えください)
	(質問項目なし)		↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、どのように変化したか自由に書いてください。
	(回答項目なし)	F A	(自由記述)

イ 「過去に居場所なし」回答者における居場所の状況

小学生・中学生向け		高校生世代～29 歳の方向け	
			小学生から中学生の頃、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所が <u>なかった</u> と答えられた方に伺います。
	(質問項目なし)		当時、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる場所がなかった理由は、なぜですか。 (チェックはいくつでも)
	(回答項目なし)	MA	(行きたい場所はあったが) やることが多すぎて時間がなかった
	(回答項目なし)		(行きたい場所はあったが) 住んでいる地域にないため、遠くて自分で行けなかった・行くのに時間がかかった
	(回答項目なし)		(行きたい場所はあったが) お金がかかった
	(回答項目なし)		パソコンやスマホなどの道具がなかった、Wi-Fi などの設備がなかった
	(回答項目なし)		(行きたい・居たいと思う) そのような場所の情報がなかった、存在を知らなかった
	(回答項目なし)		(行きたい場所はあったが) どのように過ごすことができるのかなど内容がわからなかった

	(回答項目なし)	(行きたい場所はあったが) 利用できる日・時間帯が合わなかった
	(回答項目なし)	安心できる人、知っている人がいなかった
	(回答項目なし)	嫌いな人がいた・知っている人がいたから行きたくなかった
	(回答項目なし)	家族や保護者が、行くのをよく思わなかった
	(回答項目なし)	家(普段寝起きをしている場所)や学校(授業や部活、クラブ活動)以外に必要と感じなかった
	(回答項目なし)	その他 (↓ 下の自由記入欄にお答えください)
(質問項目なし)		↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、その理由を自由に書いてください。
	(回答項目なし)	F A 自由記述

(6) 夏休み等の長期休暇中の居場所

小学生・中学生向け		高校生世代～29 歳の方向け	
「ウ 家・学校・職場について」 あなたは、<u>学校(授業や部活、クラブ活動)</u>が好きですか。 「はい」か「いいえ」を回答した者のみ対象 (学校に通っていない者は対象外)		「ウ 家・学校・職場について」 あなたにとって、<u>学校(授業や部活、クラブ活動)</u>は「ここに居たい」と感じる居場所になっていますか。 「はい」か「いいえ」を回答した者のみ対象 (学校に通っていない者は対象外)	
あなたは、夏休み等の長い休みの時、どこで過ごすことが多いですか。 (チェックはいくつでも)		あなたは、夏休み等の長期休暇の際、どこで過ごすことが多いですか？ (チェックはいくつでも)	
MA	自分の家(自分の部屋)	MA	自分の家(自分の部屋)
	おじいちゃん、おばあちゃんの家・親戚の家		祖父母・親戚の家
	友達の家		友達の家
	児童育成クラブ		(回答項目なし)
	習い事、スポーツクラブ、塾		習い事(スポーツクラブ等含む)や塾などの場所
	学校の教室の他の場所(グラウンド、プールなど)		学校の教室以外の場所(グラウンド、プールなど)
	フリースクール		フリースクール
	図書館や公民館、児童館、こども文化会館、美術館		図書館や公民館、児童館、こども文化会館、美術館

こうえん しぜん なか あそ ばしょ 公園や自然の中で遊べる場所	公園や自然の中で遊べる場所
ちいき ひと ひら あそ ばしょ 地域の人が開いている遊びの場所(プレイパークなど)	地域の人が開いている遊びの場所(プレイパークなど)
(回答項目なし)	娯楽施設(ゲームセンター、カラオケボックス、パチンコ店など)
ショッピングセンター(ゆめタウン・イオンなど)やファストフードなどのお店	ショッピングセンター(ゆめタウン・イオンなど)やファストフード・レストランなどのお店
(回答項目なし)	行きつけの居酒屋やバー、スナックなどの飲酒ができる店
ちゅうしんしがいち なみさざか かみとおり しもとおり しんしがい 中心市街地(並木坂・上通・下通・新市街アーケードなど)	中心市街地(並木坂・上通・下通・新市街アーケードなど)
むりょう べんきょう み ばしょ たべもの 無料で勉強を見てくれる場所や、食べ物を無料で安く食べることができる場所 (こども食堂や地域食堂など)	無料で勉強を見てくれる場所や、食事や軽食を無料で安く食べることができる場所 (こども食堂や地域食堂など)
なや そうだん 悩みごとの相談にのったり、サポートしてくれる場所(電話やオンラインを含む)	悩みごとの相談にのったり、サポートしてくれる場所(電話やオンラインを含む)
こどもだけで自由に利用できるように施設(ユースセンターなど)	こども(自分)だけで自由に利用できる施設(ユースセンターなど)
オンライン空間(SNS、オンラインゲームなど)	オンライン空間(SNS、オンラインゲームなど)
その他 (↓下にその場所を書いてください)	その他 (↓下の自由記入欄にお答えください)
↑ 上で「その他」を選んだ人は、どこか自由に書いてください。	↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、どのような場所か自由に書いてください。
F A (自由記述)	F A (自由記述)

(7) 今後の居場所づくりに対する要望等

小学生・中学生向け	高校生世代～29 歳の方向け
あなたは、どのような場所であれば行ってみたいと思いますか。 (チェックはいくつでも)	あなたは、どのような場所であれば行ってみたいと思いますか。 (チェックはいくつでも)
MA	MA
いつでも行きたいときに行ける	いつでも行きたいときに行ける
一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる	一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる
ありのままでいられる、自分を否定されない	ありのままでいられる、自分を否定されない
好きなことをして自由に過ごせる	好きなことをして自由に過ごせる
自分の意見や希望を受け入れてもらえる	自分の意見や希望を受け入れてもらえる

あたらし 新しいことを学べたり、やりたいことにチ ャレンジできる なや 悩みごとの相談にのってもらったり、一緒 に遊んでくれる大人がいる ひと いろいろな人と出会える、友達と一緒に過 ごせる とく 特に行ってみたいとは思わない た その他（↓下に自由に書いてください）	新しいことを学べたり、やりたいことにチ ャレンジできる 悩みごとの相談にのってもらったり、一緒 に遊んでくれたりする大人がいる いろいろな人と出会える、友人と一緒に過 ごせる 特に行ってみたいとは思わない その他（↓ 下の自由記入欄にお答えくださ い）
↑ 上で「その他」を選んだ人は、自由に書いてくだ さい。 F A （自由記述）	↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、自由に書 いてください。 F A （自由記述）
「こんな場所があったらいいな」「いつも行っている 場所がこんな風になったらいいな」など、家や学校 以外の場所のことで伝えたいことがあったら、自由 に書いてください。 F A （自由記述）	居場所に関する意見や要望などがありましたら、自 由に記入してください。 F A （自由記述）

2 保護者向けアンケート

(1) 回答者の属性

あなたがお住まいの区を選んでください。	
S A	中央区・東区・西区・南区・北区
あなたがお住まいの小学校区を選んでください。	
S A	各区で五十音順に表示。 (例) 西区の場合 池田 (いけだ) ～芳野 (よしの)
あなたの就業状況を選んでください。	
S A	企業・団体の役員
	正規社員・正規職員 (正規雇用)
	契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等 (非正規雇用)
	自営業・自由業・フリーランス
	専業主婦・主夫
	その他の仕事
	学生
	働いていない
あなたの年代を次の中から選んでください。	
S A	20 代以下
	30 代
	40 代
	50 代
	60 代
	70 代以上
封筒の宛名に記載された方 (以下、「調査対象のお子さん」と表記します。) から見たあなたの関係を選んでください。	
S A	父
	母
	祖父
	祖母
	その他
「調査対象のお子さん」の学年を選んでください。	
S A	小学校 1 ～ 3 年生
	小学校 4 ～ 6 年生
	中学生
「調査対象のお子さん」から見た場合のきょうだいの人数を教えてください。	
S A	兄の人数 (0 人 (兄はいない)、1 人、2 人、3 人、4 人、5 人以上)
	姉の人数 (0 人 (姉はいない)、1 人、2 人、3 人、4 人、5 人以上)
	弟の人数 (0 人 (弟はいない)、1 人、2 人、3 人、4 人、5 人以上)
	妹の人数 (0 人 (妹はいない)、1 人、2 人、3 人、4 人、5 人以上)
「調査対象のお子さん」と同居している方を選んでください。(チェックはいくつでも)	
M A	あなた
	あなたの配偶者

	祖父
	祖母
	兄
	姉
	弟
	妹
	その他の親族
	親族以外の同居者

(2) 家・学校について

「調査対象のお子さん」にとって、家（普段寝起きをしている場所）は「ここに居たい」と感じる居場所になっていると思いますか。	
S A	はい
	いいえ（↓下の質問にもお答えください）
	わからない
↑上の質問で「いいえ」と答えられた方 「調査対象のお子さん」にとって、家が「ここに居たい」と感じる場所になっていないと思われる理由は何ですか。（自由記述）	
F A	（自由記述）
「調査対象のお子さん」にとって、学校（授業や部活、クラブ活動）は「ここに居たい」と感じる居場所になっていると思いますか。	
S A	はい
	いいえ（↓下の質問にもお答えください）
	わからない
↑上の質問で「いいえ」と答えられた方 「調査対象のお子さん」にとって、学校が「ここに居たい」と感じる場所になっていないと思われる理由は何ですか。（自由記述）	
F A	（自由記述）
「調査対象のお子さん」にとって、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所があると思いますか。 【例：友達の家、習い事、公園、図書館、お店、オンライン空間など】	
S A	ある [エ こどもの居場所の実態へ]
	ない [(4) こどもの居場所に求めたいものへ]
	わからない [(4) こどもの居場所に求めたいものへ]

(3) こどもの居場所の実態

「調査対象のお子さん」が、家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外に、「ここに居たい」と感じる居場所があると思うと答えられた方に伺います。	
その居場所はどういうところですか。（チェックはいくつでも）	
M A	祖父母・親戚の家
	友達の家
	児童育成クラブ
	習い事（スポーツクラブ等も含む）や塾などの場所

	学校の教室以外の場所（保健室、図書室、校内カフェ等）
	フリースクール
	図書館や公民館、児童館、こども文化会館、美術館
	公園や自然の中で遊べる場所
	地域の人が開いている遊びの場所（プレイパークなど）
	ショッピングセンター（ゆめタウン・イオンなど）やファストフードなどのお店
	中心市街地（並木坂・上通・下通・新市街アーケードなど）
	無料で勉強を見てくれる場所や、食事や軽食を無料か安く食べることができる場所（こども食堂や地域食堂など）
	悩みごとの相談にのったり、サポートしてくれる場所（電話やオンラインを含む）
	こどもだけで自由に利用できる施設（ユースセンターなど）
	オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）
	その他（↓下の自由記入欄にお答えください）
↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、自由に書いてください。	
FA	（自由記述）
その居場所で「調査対象のお子さん」が過ごすようになって、「調査対象のお子さん」にどのような変化がありましたか。（チェックはいくつでも）	
MA	笑顔が増え、気持ちが落ち込みにくくなった
	自分の気持ちや考えを積極的に伝えるようになった
	新しいことに興味を持ち、好きなことや趣味ができた
	他人の立場や気持ちを思いやることができるようになった
	新たな友達や信頼できる大人ができた
	以前より、人と関わるのが好きになった
	以前より、誰か困っている人がいるとき、サポートするようになった
	以前より、自分がやろうと決めたことをできるようになった
	特に変化はない
その他（↓ 下の自由記入欄にお答えください）	
↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、自由に書いてください。	
FA	（自由記述）

（４）こどもの居場所に求めたいもの

保護者の立場から「調査対象のお子さん」が利用する居場所に求めたい条件を教えてください。（チェックは <u>3つ</u> まで）	
MA	家や学校の近くなどの近場にあること
	資格保有者などの信頼できる運営スタッフがいること
	無料又は低価格で利用できること
	平日（月曜日～金曜日）の日中の時間帯に利用できること
	平日の夕方や夜間の時間帯に利用できること
	休日（土曜日・日曜日・祝日）に利用できること
	公的な機関（市役所や県庁）が運営していること
	仮想空間やSNSなどのオンラインで参加できること

	こどもだけで利用できること
	送迎サービスがあること
	その他 (↓ 下の自由記入欄にお答えください)
↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、どのような条件がよいか自由に書いてください。	
F A	(自由記述)
保護者の立場から、「調査対象のお子さん」が利用する居場所には、どのような要素があると良いと思いますか。(チェックは <u>3つ</u> まで)	
M A	こどもが一人でも過ごすことができる
	こどもどうしで関わり合うことができる
	こどもと保護者が一緒に過ごすことができる
	こどもと高齢者や大学生など多世代の交流ができる
	ルールや決まりごとが少なく自由に過ごすことができる
	こどもの好きなことや興味のあることができる
	こどもが知らないことや新しいことなど、関心がなかったことに取り組むことができる
	こどもの困りごとや相談に応じたり、話し相手になってくれたりしてくれる
	森や川、海など、自然の中で遊ぶことができる
	食事が提供され、食べることができる
	勉強を教えてくれたり、自習ができたりする
	その他 (↓ 下の自由記入欄にお答えください)
	↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、どのような要素があるとよいか自由に書いてください。
F A	(自由記述)

(5) 夏休み等の長期休暇中のこどもの居場所の現状と希望

「調査対象のお子さん」は、夏休みなどの長期休暇のときは、 <u>どのようなところで過ごす</u> ことが多いですか。(チェックはいくつでも)	
M A	自分の家 (自分の部屋)
	祖父母・親戚の家
	友達の家
	児童育成クラブ
	習い事 (スポーツクラブ等含む) や塾などの場所
	学校の教室以外の場所 (グラウンド、プールなど)
	フリースクール
	図書館や公民館、児童館、こども文化会館、美術館
	公園や自然の中で遊べる場所
	地域の人が開いている遊びの場所 (プレイパークなど)
	ショッピングセンター (ゆめタウン・イオンなど) やファストフードなどのお店
	中心市街地 (並木坂・上通・下通・新市街アーケードなど)
	無料で勉強を見てくれる場所や、食事や軽食を無料か安く食べることができる場所 (こども食堂や地域食堂など)
	悩みごとの相談にのったり、サポートしてくれる場所 (電話やオンラインを含む)
	こどもだけで自由に利用できる施設 (ユースセンターなど)

	オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）
	詳しくは知らない
	その他（↓ 下の自由記入欄にお答えください）
↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、現状、どこを居場所としているのかお分かりになる範囲で自由に書いてください。	
F A	（自由記述）
保護者の立場から、「調査対象のお子さん」が夏休みなどの長期休暇中、どのような居場所で <u>過ごしてほしい</u> と思いますか。 （チェックはいくつでも）	
M A	自分の家（自分の部屋）
	祖父母・親戚の家
	友達の家
	児童育成クラブ
	習い事（スポーツクラブ等含む）や塾などの場所
	学校の教室以外の場所（グラウンド、プールなど）
	フリースクール
	図書館や公民館、児童館、こども文化会館、美術館
	公園や自然の中で遊べる場所
	地域の人が開いている遊びの場所（プレイパークなど）
	ショッピングセンター（ゆめタウン・イオンなど）やファストフードなどのお店
	中心市街地（並木坂・上通・下通・新市街アーケードなど）
	無料で勉強を見てくれる場所や、食事や軽食を無料か安く食べることができる場所（こども食堂や地域食堂など）
	悩みごとの相談にのったり、サポートしてくれる場所（電話やオンラインを含む）
	こどもだけで自由に利用できる施設（ユースセンターなど）
	オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）
	どこでも構わない（こどもにお任せ）
その他（↓ 下の自由記入欄にお答えください）	
↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、どこを居場所として過ごしてほしいか自由に書いてください。	
F A	（自由記述）

（6）今後のこどもの居場所づくりに対する要望等

「こどもの居場所」について、保護者の立場から、このような居場所を作って欲しい、既存の居場所のここを改善してほしいなど、ご意見をなんでもご自由にお書きください。	
F A	（自由記述）

参考 2 施設等運営者ヒアリング調査票

参考2 施設等運営者ヒアリング調査票

1 施設等の概況

貴施設・団体の形態をお答えください。《必須》	
SA	以下から1つを選択。 児童育成クラブ、児童館・図書室、こども文化会館、公共図書館（図書室含む）、 公設公民館（分館含む）、地域コミュニティセンター、教育支援センター、 放課後学習教室（放課後子供教室）、博物館・美術館、フリースクール、こども食堂、 プレイパーク、学習塾（小・中学生向け）、学習塾（高校生向け）、 文化系習い事教室（語学・書道・そろばん・音楽・パソコン等）、 体育系習い事教室（水泳・体操・球技・武道・ダンス等）、児童福祉施設・団体、その他
子ども（小学生から30歳未満までの方）が貴施設・団体を利用・参加されていますか。《必須》	
SA	子ども（小学生から30歳未満までの方）が利用・参加している
	子ども（小学生から30歳未満までの方）は（ほとんど）利用・参加していない [アンケート終了]

（1）施設等の形態・従事者数・スタッフの保有資格

貴施設・団体の開設（設立）年月をお答えください。 不明な場合は、回答不要です。	
SA	年（1955年（昭和30年）以前～2024年（令和6年）のうち1つ選択）
	月（1月～12月のうち1つ選択）
貴施設・団体を運営するスタッフの人数をお答えください。	
FA	常勤（人数を入力）
	非常勤（人数を入力）
	ボランティア（人数を入力）
スタッフの中で、次の資格を有している方がいれば、その資格にチェックマークを付けてください。 （チェックはいくつでも） 一人で下にある複数の資格を有する場合は、該当する資格をすべて選択してください。 （例：保健師の方の場合は、保健師・看護師の他、そのほか該当する資格を選択します。） 教員免許の更新講習を受けていない場合など、休眠状態の場合でも資格を有しているものとします。	
MA	教員免許
	保育士
	看護師
	保健師
	放課後児童支援員
	調理師
	救命講習修了証
	子育て支援員
	社会福祉士
	心理に関する資格（公認心理師、臨床心理士等）
	キャリアコンサルタント
	その他
	資格を保有しているスタッフはいない

↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、どのような資格を有しているか教えてください。	
F A	(自由記述)
子どもたち（小学生から 30 歳未満までの方）からの人間関係や生活環境等の相談や支援に対応するスタッフはいますか。	
S A	いる
	いない
↑ 上の回答で「いる」を選ばれた方は、子どもたちの相談や支援に対応するスタッフの人数を教えてください。	
F A	相談や支援に対応するスタッフ（人数を入力）

(2) 利用できる時間

ここでは、子ども（小学生から 30 歳未満までの方）が貴施設・団体を利用できる曜日と時間帯についてお尋ねします。	
■ 各曜日ごとに利用できるかどうかを選択し、時間を 24 時間制で入力してください。 ■ 第 1 土曜日・第 3 日曜日など、ある特定の週の特定の曜日にしか利用できない場合は、該当の曜日に入力の上、詳細を下段の「その他開催日程（自由記述欄）」に入力してください。 （例：第 1 土曜日のみ開催の場合、土曜日の欄に「利用可」と選択し、利用時間を入力の上、「その他の開催日程」欄に「第 1 土曜日のみ」と入力します。） ■ 祝日のみ開催している場合や毎月「20 日」「30 日」、「8 のつく日」のように特定の条件の日など、曜日に関係のない条件で開催している場合は、「その他の開催日程（自由記述欄）」に開催日程のあらましを入力してください。	
月曜日～日曜日	
S A	利用可
	利用不可
F A	利用時間（開始時間を入力）～（終了時間を入力）
その他の開催日程（自由記述欄）	
F A	(自由記述)

(3) 利用可能施設・サービス

ここでは、貴施設内の状況についてお尋ねします。	
貴施設で子どもたちが利用できるスペースをすべて選択してください。 施設を借りて運営している団体は、団体として利用しているスペースをすべて選択してください。 （チェックはいくつでも） （例：飲食店を子ども食堂として利用し、子どもが調理にも参加する場合は「調理活動スペース」「飲食スペース」を選択してください。）	
M A	学習室・自習室
	図書室
	パソコン・I T 室
	屋内運動スペース
	屋外運動スペース
	ダンススタジオ
	音楽活動スペース
	文化活動スペース
	調理活動スペース
	飲食スペース

	交流スペース
	休憩スペース
	その他（↓ 下の入力欄に詳細を御記載ください。）
↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、どのようなスペースかを具体的に教えてください。	
F A	（自由記述）
貴施設がこどもたちに提供しているサービスをすべて選択してください。 施設を借りて運営している団体は、借りた施設で団体としてこどもたちに提供しているサービスをお答えください。 （チェックはいくつでも）	
M A	活動場所の提供
	教育・学びの提供
	運動・スポーツの提供
	遊びの提供
	交流の機会の提供
	飲食物の提供
	相談
	イベント等の開催（↓ 下の質問にもお答えください。）
	フリーWi-Fi 環境の提供
	その他（↓ 下の入力欄に詳細を御記載ください。）
↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、こどもたちに提供しているサービスを具体的に教えてください。	
F A	（自由記述）
↑ 上の回答で「イベント等の開催」を選ばれた方は、そのイベントの内容を具体的に教えてください。	
F A	（自由記述）
貴施設・団体でこどもたちは何をして過ごしていますか。（チェックはいくつでも）	
M A	勉強・学習
	遊び
	運動・スポーツ
	音楽
	飲食
	同世代の交流（仲間づくり）
	家族・親族間の交流
	多世代交流
	心身のケア・リハビリ
	その他（↓ 下の入力欄に詳細を御記載ください。）
↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、何をしているか、分かる範囲で具体的に教えてください。	
F A	（自由記述）

(4) 利用対象者

ここでは、施設の利用状況や利用料金などをお尋ねします。	
貴施設・団体を利用できる方をすべて選んでください。(チェックはいくつでも)	
M A	【こども】小学校1～3年生
	【こども】小学校4～6年生
	【こども】中学生
	【こども】15歳～18歳(高校生世代など)
	【こども】19歳以上(おおむね30歳未満まで)
	こどもに同伴する大人(こどもの家族)
	こどもに同伴する大人(こどもの家族以外)
	その他(↓ 下の入力欄に詳細を御記載ください。)
↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、どのような方を対象としているか教えてください。	
F A	(自由記述)
↑ 上で【こども】と書かれた欄にチェックマークを付した方は、こどもの利用形態をお答えください。	
S A	1人で利用
	複数人で利用
	1人でも複数人でも構わない
どのような状況のこどもが貴施設・団体を利用できますか。(チェックはいくつでも)	
M A	制限なし(誰でも利用可)
	学校生活に課題(不登校、いじめ等)を抱えたこども
	家庭生活に課題(虐待、DV等)を抱えたこども
	経済的に困窮している家庭のこども
	身体障がいのあるこども
	知的障がいのあるこども
	発達障がいのあるこども
	精神障がいのあるこども
	LGBTQ+のこども
	外国籍のこども
	その他(↓ 下の入力欄に詳細を御記載ください。)
↑ 上の回答で「その他」を選ばれた方は、どのような方を対象としているか教えてください。	
F A	(自由記述)

(5) 利用者数の状況

【小学校1～3年生】1日あたりの利用者数を教えてください。(おおよその人数で構いません。) (半角数字で入力)	
F A	平日 (利用者数)
	土・日・祝 (利用者数)
【小学校4～6年生】1日あたりの利用者数を教えてください。(おおよその人数で構いません。) (半角数字で入力)	
F A	平日 (利用者数)
	土・日・祝 (利用者数)
【中学生】1日あたりの利用者数を教えてください。(おおよその人数で構いません。) (半角数字で入力)	
F A	平日 (利用者数)
	土・日・祝 (利用者数)
【15歳～18歳 (高校生世代)】1日あたりの利用者数を教えてください。(おおよその人数で構いません。) (半角数字で入力)	
F A	平日 (利用者数)
	休日 (利用者数)
【19歳～30歳未満】1日あたりの利用者数を教えてください。(おおよその人数で構いません。) (半角数字で入力)	
F A	平日 (利用者数)
	休日 (利用者数)
貴施設・団体では、同時に最大何人までこどもの受入れが可能ですか。おおよその人数を教えてください。 (半角数字で入力)	
F A	(最大利用者数)
【小学校1～3年生】貴施設・団体を利用する際の料金の有無について教えてください。	
S A	無料
	有料
	その他
【小学校1～3年生】金額や料金体系などの詳細について教えてください。	
F A	(自由記述)
【小学校4～6年生】貴施設・団体を利用する際の料金の有無について教えてください。	
S A	無料
	有料
	その他
【小学校4～6年生】金額や料金体系などの詳細について教えてください。	
F A	(自由記述)
【中学生】貴施設・団体を利用する際の料金の有無について教えてください。	
S A	無料
	有料
	その他
【中学生】金額や料金体系などの詳細について教えてください。	
F A	(自由記述)
【15歳～18歳 (高校生世代)】貴施設・団体を利用する際の料金の有無について教えてください。	

S A	無料
	有料
	その他
【15 歳～18 歳（高校生世代）】金額や料金体系などの詳細について教えてください。	
F A	（自由記述）
【19 歳～30 歳未満】貴施設・団体を利用する際の料金の有無について教えてください。	
S A	無料
	有料
	その他
【19 歳～30 歳未満】金額や料金体系などの詳細について教えてください。	
F A	（自由記述）

（６）外国籍のこどもへの支援状況

「１ 施設等の概況 （４）利用対象者」の「どのような状況のこどもが貴施設・団体を利用できますか。」で「 <u>外国籍のこども</u> 」と回答した施設を対象。	
ここでは、 <u>外国籍のこども</u> を利用者として受け入れている施設・団体の皆様に、状況をお伺いします。	
どの国や地域とゆかりがある方が利用されていますか。お分かりになる範囲で選択してください。（チェックはいくつでも）	
M A	中国
	台湾
	ベトナム
	フィリピン
	朝鮮・韓国
	ネパール
	その他の国等（↓ 下の入力欄に詳細を御記載ください。）
↑ 上の回答で「その他の国等」を選ばれた方は、お分かりになる範囲で国名等を教えてください。	
F A	（自由記述）
利用者全体のうち外国にゆかりがある方が占める割合を選択してください。	
S A	3 割以下
	4 ～ 6 割程度
	7 割以上
外国にゆかりがある方に向けて、何らかの配慮をしていますか。 外国語を使用するだけでなく、「やさしい日本語」を使用するなどの取組や文化・宗教・食事への配慮等も含みます。	
S A	はい（↓ 下の入力欄に詳細を御記載ください。）
	いいえ
外国にゆかりがある方に向けた配慮について、どのようなことを実施しているか、具体的に教えてください。	
F A	（自由記述）

(7) 自施設における他団体の利用状況

「1 施設等の概況」の「貴施設・団体の形態をお答えください。」で以下の回答した施設を対象。 児童館・図書室、こども文化会館、公共図書館（図書室含む）、公設公民館（分館含む）、 地域コミュニティセンター、博物館・美術館、フリースクール、プレイパーク、 児童福祉施設・団体	
施設を有している方に伺います。	
貴施設内において、他団体による「こどもの居場所」関連の取組は実施されていますか。	
S A	実施されている（↓ 下の入力欄に詳細を御記載ください。）
	実施されていない
	分からない
↑ 上の回答で「実施されている」を選ばれた方は、どのような団体が、どのような取組を実施していますか。（分かる範囲の記載で結構です。）	
F A	（自由記述）

2 施設等運営者が抱える課題について

ここでは、運営の状況や課題についてお尋ねします。	
貴施設・団体の運営にあたって、連携・協力をしている企業・団体等がありますか。 （例）活動費用の助成団体・活動に必要な場所・物品の提供団体	
S A	ある（↓ 下の入力欄に詳細を御記載ください。）
	ない
↑ 上の回答で「ある」を選ばれた方は、その企業・団体の概要（名称等）と連携・協力の内容（具体的内容等）を教えてください。	
F A	（自由記述）
貴施設・団体の運営にあたって、課題と感じていることはありますか。 （チェックはいくつでも）	
M A	運営する資金が不足している
	活動する場所がない（狭い）
	人手が足りない・人材育成が困難
	提供可能なサービスが不足している
	利用者数が伸び悩んでいる
	こどもや保護者に対する情報提供が十分ではない
	支援が必要なこどもを個別に支援することの難しさ
	施設及び利用者に対する偏見
	特に課題はない
	その他
↑ 上の回答で「特に課題はない」以外を選ばれた方は、運営上の課題を具体的に教えてください。	
F A	（自由記述）
↑ 上の回答で「特に課題はない」以外を選ばれた方は、上記の課題を解決するために必要なことや、行政機関に求めたい支援・要望等をなんでも御自由にお書きください。	
F A	（自由記述）
貴施設・団体に参加するこどもたちのことで、学校や児童相談所、警察など、行政機関とやりとりをしたことや、その必要性を感じたことはありますか。	
S A	ある（↓ 下の入力欄に詳細を御記載ください。）
	ない

↑ 上の回答で「ある」を選ばれた方は、どのようなときに、どのような機関とやりとりをしましたか。または、どのような機関とのやりとりの必要性を感じましたか。 可能な範囲で教えてください。	
F A	(自由記述)
「こどもの居場所」づくりや、こどもを取り巻く環境をより良くするために、必要だと思うことを自由に記載してください。	
F A	(自由記述)

参考3 小中学生の声

～市長とドンドン語ろう！（9/28）実施～

参考3 小中学生の声～市長とドンドン語ろう！（9/28）実施～

1 実施概要

- (1) 日程 令和6年（2024年）9月28日（土）午後3時から午後4時30分まで
- (2) 場所 熊本市現代美術館 アートラボマーケット
- (3) 参加者 市内所在の小学校・中学校に通学する児童・生徒16名及び熊本市長ほか

2 参加したこどもの声

問1.放課後や学校が休みの日に、どんなところで遊んだり、過ごしたりしていますか？

小学生	中学生
● 家でゆっくりしている。 ● 児童館(暑いから) ● グリーンコープがやっている「田崎げんきもりもりハウス」 ● ショッピングモール ● 友達の家 ● 公園 ● 放課後は、帰る時に友だちと話して帰ることはあるけど、帰ってから遊びに出かけることはない。 ● 休みの日はきょうだいや家族と出かけたり、たまに図書館にいったり児童館にいったりします。 ● 児童育成クラブ ● 近くの公園 ● 平日は習い事がなければ夕食までを宿題の時間としている。 ● 夏は暑すぎたので、家の涼しいところでゲームが多かったです。 ● 県立図書館や公民館の学習スペースで勉強しています。本も借りれるので行くのが大好きです。	● 家の中や塾。カフェ。 ● 放課後は友達と教室で話したりする。 ● 休みは友達の家で動画撮ったりする。 ● 今年の夏は特に暑くて公園にいけませんでした。公園は沢山あります。家でオンラインゲームや携帯で友達とつながりながら遊びます。 ● 友達が家にきたり友達の家遊びに行ったりします。でも気を使うので何回かです。 ● 友達の家、サクラマチや下通りアーケード、県立体育館の卓球、 ● 放課後は部活後家でのおんぎん絵を描いて、休みの日は電車に乗ったり待ちに出掛けたり友達と遊んだりしています。 ● 基本的に学校が終われば帰宅。その後は塾等。 ● 2年生までは部活がありました。 ● 休みの日は自宅で過ごす。その時にSNS等オンラインで友達と繋がり話をしながらゲームなどをする。 ● たまに外で友達と遊ぶ時はバスに乗り、下通りやアミュプラザ等へ。

1

問2.あなたの家の近くや熊本市内にこんな所があったらいいと思う遊び場や居場所を教えてください。また、その理由も教えてください。(小学生)

● いろんな人と交流しながら、いっしょにしゅくだいをしながら、たくさん遊ぶ場所 ● おやつが食べれるところ。 ● いろんなゲームができるところ。 ● 学校の体育館を開放 ● 暑い日や雨の日でも遊べる大きな屋根がある屋外施設 ● カードゲームやテーブルゲームなどが楽しめる児童館みたいな場所 ● 駄菓子屋さん ● 昔の遊びなどを教えてもらえる場所 ● 友達と宿題が出来る場所 ● 年中開いているアイススケート場 暑くても涼しく遊べる。 ● 遊具が沢山ある公園、色々な遊びができるから、体を沢山動かせると思うから。 ● 室内で、歌ったり踊ったりできる場所 ● いちばん近い公園は、狭くて人通りが少ないので、遊んだことがない。公園がほしい。公園はアスレチックが多めだけど、小さい子も遊べる遊具があれば妹たちも遊べる。	● お店は便利でたくさんあるのに、児童館や図書館は車でしか行けなくて遠い。日吉か日吉東が向山に児童館や図書館があったらうれしい。 ● 育成クラブの中に学習スペースが欲しいです ● 自学ができるフリースペース ● 外国から来た方と交流できる場所。 ● 歩いて行ける範囲に図書館や児童館がほしいです。 ● 夏場でも熱中症にならずに過ごせる場所。 ● 保護者がいなくても気軽に集まれるような読書や勉強スペースが欲しい。 ● たくさんの友達と遊んだり勉強するスペースがほしい ● 友達同士で行ける、楽しく勉強出来る所 ● 図書館、近くにあるようで遠い。 ● こども食堂も小学校区にはない。 ● 図書館や公民館は、バスや送迎でないと行けません。 ● コミセンや、学校など、徒歩圏内で勉強が出来るスペースがあれば嬉しいです。 ● 市内の公園ではボール遊びができなく、遊びたくても遊べない。 ● 漫画のある図書館
---	---

2

問2.あなたの家の近くや熊本市内にこんな所があったらいいと思う遊び場や居場所を教えてください。また、その理由も教えてください。(中学生)

- まず、サクラマチやゆめタウンのような商業施設などを増やしてほしいです。スポーツができるような大きい施設なども欲しいです。また、福岡にあるような施設(ららぽーとのような複合施設)を参考にし、考えてほしいです。
- 小さい頃、スケートボードで遊べる場所が欲しかったです。スケートボードのレッスンに通っていましたが、スケートボードの練習場もなく、レッスンの場所も遠くて通うことが出来なかったです。
- こども文化会館のように一つの建物に勉強や宿題に集中する階、友達とお喋りやボードゲームとかで遊べるリラックス階、友達とローラースケートとか卓球とかできる屋上などが一つになった、建物が欲しいです。おやつとかも食べれるところがいいです。

- 勉強する場所がないので個室のスペースが欲しい。暑い夏に過ごせる場所が家や塾意外になかった。
- 科学館が好きで、熊本市にないので科学館が欲しい。中学校になると児童館が使えなくなるので中学生向けのスペースを作してほしい。夏は猛暑が続いているので、スケートリンクなどの、涼しく遊べる場所を作してほしい。
- 熊本市内に図書館ではなく塾の自習室のフリースペース版のような場所がほしいです。
- 学校が終わった後、勉強出来るところが欲しい。
- 学校近くの市の施設には学習スペースが無く、小さい図書館では勉強はしてはいけないとなっていて困っているため。

3

問3. 遊び場や居場所が、どのような場所だったら利用したいと思いますか？(左:小学生、右:中学生)

小学生

- 自由に遊べる
- ゆっくり勉強できる。教えてくれる人がいる。
- 屋根がある場所、気候に関係なく遊べる
- 家や学校に近い、学校の校区内
- お金がかからない、低料金
- おじいちゃんなど遊んでくれる人がいる。
- 一人でも行ける、安心して遊べる
- 優しい見守りの人がいる所
- 図書館の学習スペースに飲み物が安くて飲める場所が欲しい。
- 学校の校区内
- 低料金で小学生だけで行ける距離。
- 自転車で行ける範囲で費用は無料なら理想
- 公園で自由にボール遊びができる。色んな年齢の人と交流できる

中学生

- 渋滞解消。また、一極集中ではなく、どの区にもなにかしら設置してほしいです。
- 冷暖房完備、お金がかからない、漫画が読める。
- 勉強にしても、遊びにしても、友達と過ごせる自由な空間を利用したいです。お腹が空いた時にお小遣いで食べ物を買えるお店があると嬉しいです。
- くまはくミュージアムパスで利用できると嬉しいです。
- 友達と自転車に乗って行ける範囲がいいです。
- 校区内に欲しいです。
- 大人数でも利用できる。
- お金がかからなくて気軽に利用できる施設
- 学校から近く、屋内で友達とゆっくり話が出来るようなスペースがあると良い。

4

問4. その他、遊び場や居場所について市長にお話したいことを書いてください。(小学生)

- 学校でも遊ぶ場所や時間がもっとほしい！！
- 宿題は家でしないといけないもの？(学校でやって帰りたい)
- アイススケート場の開いている期間が短いのか
- 父も日吉で育って、昔は神社で遊んだり、そのまわりで虫をつかまえたり木の実を拾ったりしていたそうです。でも今はそういう遊び場もないので、せめて遊具のある公園が近くにあってほしいなと思います。
- 小1の妹は、隣の家の友だちと仲良くなったけど、近くに遊ぶ場所がなくて家の玄関の前で座って遊んでいるそうなのでちょっとかわいそう。
- 育成クラブが4年生までなので、5年生からの過ごし方について、迷っています。
- 旅行者だけでなく、外国から来ている学生や働いている方も増えているので、交流できるイベントがたくさんあるとうれしいです。
- 夏休みは暑くて外遊びができないので過ごし方に困りました。

- 親が仕事をしてる家庭が多いので、子どもだけで家で遊ぶことはできないので、夏休みの平日は家の中で過ごす時間が多かったです。
- 学校での部活がなく、放課後にチームスポーツで集まれる友達はいいいのですが、それ以外の児童も集まれる場所があれば自立に繋がるので検討して頂きたい。
- 色んな経験や体験が出来るスペースがあればいいなと思います。
- 今、少子高齢化が進んでいるけど、それに逆らって、子どもが楽しいと思えて、気軽に行くことのできる施設や場所を増やしてほしいです。
- 学校でも熱中症警戒アラートや雨天時により遊べなくなっています。
- 県立図書館は、飲食スペースがあるので、お弁当を持って勉強と読書に行きます。時々、そのマナーを守らない人がいて困ります。公民館にも飲食スペースがあれば、沢山勉強と読書が出来ると思います。
- 公園をボール遊びができるようにしてほしい。

5

問4. その他、遊び場や居場所について市長にお話したいことを書いてください。(中学生)

- 子供同士が集まるということ自体がなくなっている。夏は涼しい場所が欲しい。
- 室内と外での自由空間がほしいです。
- 公園だけだと気温が関係して利用が限られてきます。
- 公園はたくさんありますが、全然人がいない公園をよく見かけます。この公園に室内の建物ができたら、校区内なので小学生の中学生も利用できます。
- 学校の友達の家が遠く、早い時間に帰らないといけないから、公共交通機関を発達させてほしい。

6

こどもの居場所及びその開設等の支援に関する調査研究

—令和7年3月発行—

熊本市こども局こども育成部こども政策課

〒860-0806

熊本県熊本市中央区花畑町9-6 SPring 熊本花畑町2階

電話 096-328-2156

一般財団法人地方自治研究機構

〒104-0061

東京都中央区銀座7-14-16 太陽銀座ビル2階

電話 03-5148-0661（代表）



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。